



第五次総合計画アンケート指標の 平成30年度実績値について

平成30年10月
企画政策部企画課

第1 調査の趣旨

1 調査の趣旨

アンケート調査は、第五次総合計画前期基本計画の計画期間である平成29（2017）年度から平成33（2021）年度の間、毎年度、「市民アンケート」と「幸せ実感モニター」の2つを実施しています。

市民アンケートは、第五次総合計画前期基本計画の基本施策に設定した91のアンケート指標（市民が思う割合）の実績値について把握するために実施するものです。

幸せ実感モニターは、いわゆる定点観測として、市民アンケートに一定期間、継続的に同一者による回答により、行政施策の評価や市民意識の推移とその理由等を詳細に把握するために実施するものです。

アンケート調査で把握したアンケート指標の実績値は、施策ごとに設定している「目指す状態」の達成に向けた主な取組の成果を表すものとして、統計指標とともに進捗度合いをはかるもので、第五次総合計画前期基本計画の進捗管理（行政評価の施策評価）に用います。

2 報告書の位置付けと活用

本報告書は、アンケートの調査分析結果を示すことで、アンケート指標の目標達成に向けて、各担当部局が実施する行政評価の施策評価（一次評価）や、次年度以降の主な取組とその予算編成に利活用できるようにしたものです。

また、各部局において、より詳細な分析等ができるよう、報告書及びアンケート集計データ等を以下に掲載しています。

【掲載場所】

I P K 掲示板 / 公開書庫 / 004:企画政策部 / 1000:企画課 / 共有文書

3 報告書の構成

第1	調査の趣旨	1
第2	調査の概要	2
第3	総括	3
第4	集計結果	
	Ⅰ 環境や体制に関する評価 結果一覧	7
	Ⅱ 回答者自身の実践状況 結果一覧	9
第5	アンケート指標の推移	11
第6	施策別の分析結果	17
第7	傾向と詳細分析	
	Ⅰ 市民満足度の傾向	108
	Ⅱ 市民意識の変化	112
	Ⅲ 市民意識の変化に対する詳細分析	116

第2 調査の概要

1 調査の比較

	市民アンケート	幸せ実感モニター
調査期間	平成30年6月12日(火)～6月26日(火)	平成30年6月12日(火)～7月3日(火)
対象者	長野市内在住の18歳以上の男女5,000人	長野市内在住又は通勤・通学の16歳(平成30年6月1日現在)以上の男女196人
標本の抽出	住民基本台帳(平成30年6月1日現在)からの無作為抽出	平成28年募集による応募者
調査方法	返信用封筒を同封した調査票郵送方式	ながの電子申請への入力方式及び返信用封筒を同封した調査票郵送方式

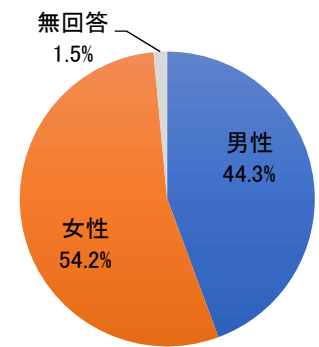
2 調査の結果

	市民アンケート	幸せ実感モニター	合計
回収標本数	2,893 票	149 票	3,042 票
回収率	57.9%	76.0%	58.5%

3 属性に関する結果概要

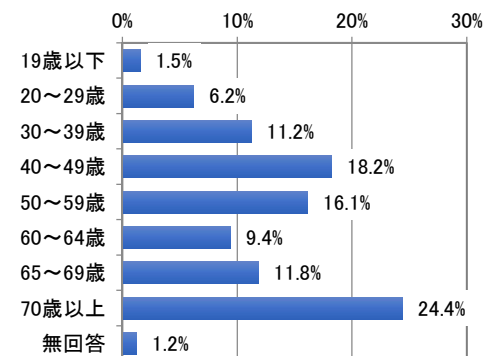
(1) 性別

	市民アンケート		幸せ実感モニター		合計	
	回答(人)	割合(%)	回答(人)	割合(%)	回答(人)	割合(%)
男性	1,286	44.5	63	43.4	1,349	44.3
女性	1,562	54.0	86	56.6	1,648	54.2
無回答	45	1.6	0	0	45	1.5
合計	2,893	100.0	149	100.0	3,042	100.0



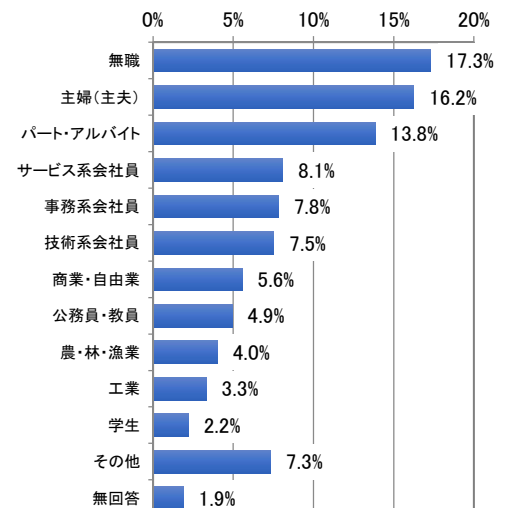
(2) 年齢構成

	市民アンケート		幸せ実感モニター		合計	
	回答(人)	割合(%)	回答(人)	割合(%)	回答(人)	割合(%)
19歳以下	38	1.3	8	5.4	46	1.5
20～29歳	178	6.2	10	6.7	188	6.2
30～39歳	312	10.8	29	19.5	341	11.2
40～49歳	514	17.8	40	26.8	554	18.2
50～59歳	463	16.0	27	18.1	490	16.1
60～64歳	276	9.5	9	6.0	285	9.4
65～69歳	346	12.0	14	9.4	360	11.8
70歳以上	729	25.2	12	7.1	741	24.4
無回答	37	1.3	0	0	37	1.2
合計	2,893	100.0	149	100.0	3,042	100.0



(3) 職業

	市民アンケート		幸せ実感モニター		合計	
	回答(人)	割合(%)	回答(人)	割合(%)	回答(人)	割合(%)
農・林・漁業	122	4.2	0	0.0	122	4.0
工業	97	3.4	4	2.7	101	3.3
商業・自由業	167	5.8	2	1.3	169	5.6
事務系会社員	225	7.8	12	8.1	237	7.8
サービス系会社員	237	8.2	9	6.0	246	8.1
技術系会社員	215	7.4	14	9.4	229	7.5
公務員・教員	142	4.9	8	5.4	150	4.9
主婦(主夫)	465	16.1	29	19.5	494	16.2
パート・アルバイト	396	13.7	25	16.8	421	13.8
学生	60	2.1	7	4.7	67	2.2
無職	507	17.5	19	12.8	526	17.3
その他	203	7.0	20	13.4	223	7.3
無回答	57	2.0	0	0.0	57	1.9
合計	2,893	100.0	149	100.0	3,042	100.0



第3 総括

市民満足度

- ✓平成30年度の環境や体制に関する評価、及び回答者自身の実践状況に係る実績値の上位・下位5項目については、次ページの表のとおりです。

- ✓環境や体制に関する評価を示す指標の「りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である」、「空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている」、「豊かな自然環境が保たれている」が高値を示していることから、豊かな恵みをもたらす本市の自然の魅力等に対する満足度が高くなっています。

- ✓環境や体制に関する評価を示す指標の「市民の声が市政に反映されている」、「不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている」が低値を示していることから、全部局において気軽に相談できる体制づくりや、市民の声の反映状況をわかりやすく伝達していく配慮が必要であると考えられます。

- ✓回答者の実践状況を示す指標の「ごみの分別を徹底している」、「食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している」や、「地元のお店で買い物をするように心がけている」、「地元産の農作物を意識的に買うように心がけている」が高値を示していることから、環境保全や地産地消に対する意識に関連する指標が高くなっています。


- ✓回答者の実践状況を示す指標の「住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している」、「市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している」などの下位5項目については、社会参加の機会が少なくなっていることを示していると考えられます。今後、高齢者の割合が上昇していく中で、高齢者の社会参加の機会を増やしていくことが、将来的なフレイル予防にもつながっていくものと期待できます。


▼環境や体制に関する評価（実績値の上位・下位5項目）

順位	実績値 (H30)	現状値 (H28)	目標	施策コード	指標名
1	85.7	87.8	⇒	6-2-2	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である
2	71.0	74.1	⇒	3-2-2	空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている
3	69.1	73.6	⇒	3-2-1	豊かな自然環境が保たれている
4	61.3	62.7	↗	4-1-2	消防や救急体制が十分に整っている
5	60.3	62.9	↗	2-4-3	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている
5	60.3	66.4	↗	6-1-1 6-1-2	長野市は、魅力的な観光都市である
49	18.4	19.2	↗	1-1-1	市民の声が市政に反映されている
50	17.4	21.7	↗	2-4-2	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている
51	15.5	13.2	↗	6-4-1	仕事を見つけやすい環境が整っている
52	15.4	12.6	↗	5-5-1	国際交流が盛んに行われている
53	11.6	9.4	↗	6-3-3	新たな雇用が生まれている

▼回答者自身の実践状況（実績値の上位・下位5項目）

順位	実績値 (H30)	現状値 (H28)	目標	施策コード	指標名
1	92.5	93.3	⇒	3-1-2	ごみの分別を徹底している
2	87.8	90.4	⇒	4-2-1	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している
3	82.9	81.7	⇒	3-1-2	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している
4	76.3	79.6	⇒	6-3-1 6-3-2	地元のお店で買い物をするように心がけている
5	75.9	80.9	⇒	6-2-2	地元産の農作物を意識的に買うように心がけている
34	23.6	23.2	↗	1-1-2	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している
35	20.8	22.8	↗	5-4-2	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している
36	15.6	19.2	↗	5-2-2	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている
37	10.0	9.8	↗	1-1-1	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている
38	3.9	5.2	↗	5-5-1	国際交流イベントに参加している

※目標は、現状値と比較して計画期間の平均値を5ポイント以上の上昇とする場合 

現状維持（5ポイント未満までの上昇）とする場合  と記載

市民意識の変化

- ✓平成29年度の肯定的回答の実績値と比較して5ポイント以上低下した8指標（うち環境や体制に関する評価2指標、回答者自身の実践状況6指標）については、次ページの表のとおりです。
- ✓環境や体制に関する評価を示す指標の「身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている」は、前年度より大きく低下していますが、前ページ表中の回答者自身の実践状況を示す指標の「ごみの分別を徹底している」などが高値を示していることから、環境に対する関心が非常に高く、自らはごみの分別等を徹底している市民が多いために、身のまわりの取組が不十分であると感じているものと思われます。今後は、ごみの分別や減量化の更なる徹底を進めていく必要があると考えられます。
- ✓回答者の実践状況を示す指標の「野菜や果物づくりなどを楽しんでいる」が低下していることから、これまで野菜や果物づくりなどを楽しんでいた市民が高齢化に伴いやめてしまうことにより、結果的に指標が減少する転換期に差しかかっていると考えられます。今後は、前ページ表中の環境や体制に関する評価が最も高い指標の「りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である」を将来にわたって維持していくため、若い世代へ今まで以上に野菜や果物づくりに身近に触れ合う機会として、農業研修センターや市民農園の更なる利活用を進めていく必要があると考えられます。
- ✓回答者の実践状況を示す指標の「地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している」、「子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている」、「ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている」が低下していることから、地域での支え合いや思いやりの意識が弱くなってきていることを表していると考えられます。今後、少子・高齢化が進行する中で、共助につながる教育・啓発を重点的に取り組んでいくことで、精神的な豊かさや思いやりの醸成を図っていく必要があると考えられます。

▼平成29年度の肯定的回答の実績値と比較して5ポイント以上低下した8指標

順位	増減(a-b)	H30(a)	H29(b)	施策コード	指標名
【環境や体制に関する評価】					
52	-9.6	27.4	37.0	3-1-1	身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている
53	-11.3	47.3	58.6	3-1-2	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている
【回答者自身の実践状況】					
33	-5.2	33.9	39.1	6-1-2	困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている
34	-5.3	41.7	47.0	6-2-1	野菜や果物づくりなどを楽しんでいる
35	-5.4	45.2	50.6	3-2-2	地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している
35	-5.4	42.5	47.9	2-1-1 2-1-2	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている
37	-6.9	49.7	56.6	2-2-2	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている
38	-7.5	48.4	55.9	7-2-1 7-2-2	公共交通を自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている

第4 集計結果

I 環境や体制に関する評価 結果一覧 <割合(%)>

施策コード	指標名	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	分からない	無回答
1-1-1	市民の声が市政に反映されている	1.8	16.6	31.8	19.0	28.1	2.7
1-1-2	住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている	6.5	29.6	24.3	11.3	25.5	2.7
1-2-1	効果的で効率的な行政運営が行われている	2.3	16.3	29.0	13.9	35.4	3.1
1-2-2	市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている	2.3	17.2	30.1	14.4	33.0	3.0
	市の職員に好感が持てる	8.6	36.1	21.5	12.6	18.4	2.8
1-2-3	長野市は近隣市町村と連携し、広域的に発展に向けて取り組んでいる	4.6	22.6	26.1	11.0	33.2	2.6
2-1-1	子どもを産み育てやすい地域である	11.8	43.0	17.6	6.8	17.6	3.2
2-1-2	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育が充実している	11.4	40.7	15.5	4.7	24.8	2.9
2-1-3	子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている	4.8	23.2	22.9	6.6	39.3	3.2
2-2-1	高齢者がボランティアや学習活動など、社会と関わる活動をしやすい環境が整っている	7.1	32.4	26.1	8.3	23.0	3.2
2-2-2	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている	6.0	32.5	30.2	12.1	16.2	3.0
2-3-1	障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている	2.8	19.6	32.2	12.6	29.8	3.0
2-3-2	ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている	8.2	37.8	28.7	15.2	7.4	2.8
2-3-3	生活に困った時に相談できる体制が整っている	3.8	17.9	29.3	14.5	31.4	3.1
2-4-1	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	7.4	35.9	28.9	9.7	15.2	2.8
2-4-2	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている	3.0	14.4	33.9	16.2	29.4	3.2
2-4-3	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	13.9	46.4	18.9	8.0	9.8	3.1
2-5-1	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	4.8	29.4	27.9	12.4	22.6	2.9
2-5-2	性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である	3.5	20.6	31.1	14.0	27.9	2.9
3-1-1	身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	4.6	22.8	34.1	20.8	14.9	2.8
3-1-2	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	10.3	37.0	29.4	11.6	9.2	2.5
3-2-1	豊かな自然環境が保たれている	19.1	50.0	18.3	5.0	4.8	2.7
3-2-2	空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている	18.3	52.7	18.2	5.1	3.2	2.6
4-1-1	災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている	7.1	26.9	29.8	12.7	20.5	2.9
4-1-2	消防や救急体制が十分に整っている	19.1	42.2	17.5	6.1	12.7	2.4
4-2-1	交通マナーが良い地域である	9.2	36.3	31.7	17.7	3.0	2.1
4-2-2	地域で防犯に向けた取組が行われている	9.5	32.6	30.1	11.8	13.5	2.4
4-2-3	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている	6.2	25.8	27.0	11.2	27.0	2.8

I 環境や体制に関する評価 結果一覧 <割合(%)>

施策コード	指標名	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	分からない	無回答
5-1-1	子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている	8.4	30.4	24.4	7.6	26.6	2.5
5-1-2	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている	8.6	31.6	23.0	6.6	27.6	2.5
5-1-3	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている	11.2	38.2	20.4	6.0	21.8	2.4
5-2-1	公民館などで、学びの機会が提供されている	15.3	37.1	19.6	8.4	17.2	2.5
5-2-2	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている	14.3	37.8	20.1	7.8	17.5	2.5
5-3-1	音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている	9.8	30.8	30.3	15.8	11.1	2.2
5-3-2	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている	11.5	37.3	20.0	6.4	22.4	2.3
5-4-1	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	14.6	37.2	26.1	11.5	8.2	2.4
5-4-2	プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている	9.7	28.0	28.2	17.5	14.2	2.3
5-5-1	国際交流が盛んに行われている	2.9	12.5	31.4	24.7	26.4	2.2
6-1-1 6-1-2	長野市は、魅力的な観光都市である	18.7	41.6	26.0	8.6	2.0	3.1
6-1-3	コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている	11.0	35.4	33.1	12.0	5.5	3.0
6-2-1	野菜や果物づくりをしている人が増えている	11.6	28.8	31.1	10.7	14.9	2.9
6-2-2	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である	52.2	33.5	6.5	3.0	2.1	2.6
6-2-3	森林が整備されている地域である	8.3	26.5	29.3	14.5	18.5	2.9
6-3-1 6-3-2	活力のある企業が多い地域である	3.4	20.1	38.6	19.0	16.3	2.7
	市内に个性的で魅力的なお店が増えている	5.9	25.8	35.5	20.1	10.0	2.6
6-3-3	新たな雇用が生まれている	1.2	10.4	38.8	21.8	24.9	2.9
6-4-1	仕事を見つけやすい環境が整っている	1.8	13.7	37.4	23.6	20.7	2.8
6-4-2	市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている	3.5	27.2	35.5	12.4	18.6	2.8
7-1-1	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である	13.4	34.9	28.0	15.8	4.9	3.0
7-1-2	日常生活に必要なインフラが整備されている	12.6	40.0	24.7	10.7	8.6	3.4
7-1-3	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	4.6	25.8	38.6	17.2	10.6	3.1
7-1-4	景観やまちなみが美しい地域である	12.2	42.6	30.4	9.1	2.8	2.9
7-2-1 7-2-2	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	7.4	24.5	33.8	27.4	4.4	2.5

Ⅱ 回答者自身の実践状況 結果一覧

<割合(%)>

施策コード	指標名	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない あまり	当てはまらない	分からない	無回答
1-1-1	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている	2.9	7.1	20.1	63.6	4.1	2.3
1-1-2	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している	8.7	14.9	17.0	54.5	2.5	2.5
2-1-1 2-1-2	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている	11.2	31.3	26.3	21.7	6.7	2.8
2-2-2	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	12.8	36.9	25.4	16.9	5.5	2.6
2-3-1	障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようにしている	18.1	45.2	20.0	9.5	3.9	3.2
2-3-2	ご近所同士で交流をし、困った時にお互いに助け合える関係を築こうとしている	18.8	39.1	23.0	13.7	3.0	2.3
2-4-1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	22.9	37.2	22.1	13.8	1.6	2.4
2-4-2	不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている	24.2	44.8	17.2	9.2	2.3	2.3
2-4-3	かかりつけ医がいる	49.0	25.3	10.3	12.6	0.7	2.1
2-5-1	人権問題について理解を深めようとしている	18.6	35.5	23.8	13.1	6.6	2.4
2-5-2	男女共同参画について理解を深めようとしている	15.5	33.1	24.9	13.9	10.0	2.6
3-1-1	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	13.0	27.9	28.8	24.6	3.2	2.6
3-1-2	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している	35.0	47.9	11.5	3.0	0.7	1.9
	使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる	22.1	41.3	23.6	9.4	1.5	2.2
	ごみの分別を徹底している	60.7	31.8	3.7	1.3	0.5	2.0
3-2-1	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている	15.2	34.3	30.4	13.4	4.2	2.4
3-2-2	地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している	15.2	30.0	25.0	24.5	3.1	2.2
4-1-1	災害に備えて食料や飲料水などを備蓄している	9.0	27.5	29.4	28.8	2.6	2.6
4-1-2	応急手当の仕方を講習会などにより勉強している	8.1	25.5	27.5	33.4	2.7	2.7
4-2-1	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している	43.5	44.3	6.1	2.6	1.3	2.2
4-2-2	犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している	6.5	18.0	26.9	43.2	2.8	2.7
4-2-3	家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている	20.1	34.4	22.6	18.9	1.7	2.2

Ⅱ 回答者自身の実践状況 結果一覧

<割合(%)>

施策コード	指標名	当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない あまり	当てはまらない	分からない	無回答
5-1-3	地域の子どもにあいさつや声かけをしている	27.1	37.6	17.6	13.6	2.0	2.0
5-2-1	公民館などで提供されている学びの場に参加している	8.3	16.9	23.2	46.7	2.5	2.4
5-2-2	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている	3.6	12.0	26.7	50.0	5.1	2.7
5-3-1	音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる	12.1	23.0	27.5	32.6	2.4	2.5
5-3-2	地域の伝統的な行事に参加している	9.8	24.2	24.7	36.8	2.0	2.5
5-4-2	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している	6.4	14.4	22.8	51.6	1.9	2.8
5-5-1	国際交流イベントに参加している	0.8	3.1	16.4	74.0	3.2	2.5
5-5-2	外国の文化や習慣を理解しようと努めている	7.1	22.2	26.5	37.1	4.6	2.4
6-1-1	知人や友人などに地域の魅力を伝えている	8.0	24.3	29.6	32.1	3.4	2.6
6-1-2	困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている	8.1	25.8	28.5	28.5	6.6	2.5
6-2-1	野菜や果物づくりなどを楽しんでいる	20.2	21.5	15.6	38.5	1.8	2.3
6-2-2	地元産の農作物を意識的に買うように心がけている	39.1	36.8	12.6	8.2	1.3	2.1
6-3-1 6-3-2	地元のお店で買い物をするように心がけている	40.4	35.9	12.8	7.9	1.0	2.1
7-1-4	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	30.2	41.5	15.9	8.3	2.1	2.1
7-2-1	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している	13.1	11.1	18.9	53.4	1.5	2.1
	公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	17.8	30.6	26.4	18.0	4.5	2.7

第5 アンケート指標の推移

● : 環境や体制に関する評価 (53項目)	↗ : 現状値と比較して計画期間の平均値を5ポイント以上の上昇
○ : 回答者自身の実践状況 (38項目)	→ : 現状維持(5ポイント未満までの上昇)
■ : 前年度と比較して5ポイント以上の低下	レポ-トあり : 詳細分析あり (116ページ以降)
■ (黄) : 前年度と比較して5ポイント以上の上昇	

施策コード/施策名		肯定的回答割合の合算値(%)							担当部局
区分	指標名	現状値	実績値					平均	目標
		H28	H29	H30	H31	H32	H33		
1-1-1 市民とともにつくる市政の推進		企画政策部							
●	市民の声市政に反映されている	19.2	19.0	18.4				18.7	↗
○	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている	9.8	9.4	10.0				9.7	↗
1-1-2 市民によるまちづくり活動への支援		地域・市民生活部							
●	住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている	36.3	38.0	36.1				37.1	↗
○	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している	23.2	23.5	23.6				23.6	↗
1-2-1 効果的で効率的な行財政運営の推進		総務部、財政部							
●	効果的で効率的な行政運営が行われている	20.4	19.5	18.6				19.1	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
1-2-2 市民の満足が得られる市政の推進		総務部、企画政策部							
●	市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている	20.2	19.2	19.5				19.4	↗
●	市の職員に好感が持てる	45.2	43.4	44.7				44.1	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
1-2-3 地方中核都市としての役割の遂行		企画政策部							
●	長野市は近隣市町村と連携し、広域的に、発展に向けて取り組んでいる	30.9	28.8	27.1				28.0	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援		レポ-トあり こども未来部、保健福祉部							
●	子どもを産み育てやすい地域である	63.9	52.9	54.8				53.9	↗
○	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている	45.3	47.9	42.5				45.2	↗
2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実		レポ-トあり こども未来部、保健福祉部							
●	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育が充実している	57.4	51.5	52.1				51.8	↗
○	[再掲:2-1-1 子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている]	45.3	47.9	42.5				45.2	↗
2-1-3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援		こども未来部、保健福祉部							
●	子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている	32.5	27.8	28.0				27.9	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-

施策コード／施策名		担当部局								
区分	指標名	肯定的回答割合の合算値(%)								
		現状値		実績値					目標	
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	平均		
2-2-1 高齢者の社会参加と生きがいがづくりの推進		保健福祉部								
●	高齢者がボランティアや学習活動など、社会と関わる活動をしやすい環境が整っている	45.0	40.5	39.5					40.0	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2-2-2 高齢者福祉サービスの充実		保健福祉部								
●	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている	49.0	42.4	38.5					40.5	↗
○	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	52.5	56.6	49.7					53.2	↗
2-3-1 障害者(児)福祉の充実		保健福祉部								
●	障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている	26.7	23.4	22.4					22.9	↗
○	障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようにしている	65.2	67.9	63.3					65.6	↗
2-3-2 認め合い、支え合い、活かす合う地域社会の実現		保健福祉部								
●	ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている	49.7	45.0	46.0					45.5	↗
○	ご近所同士で交流をし、困った時お互いに助け合える関係を築こうとしている	55.6	61.3	57.9					59.6	↗
2-3-3 生活の安定と自立への支援		保健福祉部								
●	生活に困った時に相談できる体制が整っている	27.3	23.5	21.7					22.6	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2-4-1 健康の保持・増進の支援		保健福祉部								
●	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	49.5	43.9	43.3					43.6	↗
○	健康づくりに継続的に取り組んでいる	56.8	62.8	60.1					61.5	↗
2-4-2 保健衛生の充実		保健福祉部								
●	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている	21.7	17.8	17.4					17.6	↗
○	不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている	64.8	69.2	69.0					69.1	↗
2-4-3 地域医療体制の充実		保健福祉部								
●	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	62.9	58.4	60.3					59.4	↗
○	かかりつけ医がいる	75.4	73.7	74.3					74.0	↗
2-5-1 人権尊重社会の実現		地域・市民生活部								
●	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	40.7	34.5	34.2					34.4	↗
○	人権問題について理解を深めようとしている	52.4	55.9	54.1					55.0	↗
2-5-2 男女共同参画社会の実現		地域・市民生活部								
●	性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である	29.0	25.5	24.1					24.8	↗
○	男女共同参画について理解を深めようとしている	47.3	50.3	48.6					49.5	↗

施策コード／施策名		担当部局							
区分	指標名	肯定的回答割合の合算値(%)							目標
		現状値	実績値						
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	平均	
3-1-1	低炭素社会の実現	レポートあり							環境部
●	身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	27.4	37.0	27.4				31.2	↗
○	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	43.3	44.0	40.9				42.5	↗
3-1-2	循環型社会の実現	レポートあり							環境部
●	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	50.0	58.6	47.3				53.0	↗
○	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している	81.7	81.0	82.9				82.0	↔
○	使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる	62.6	60.8	63.4				62.1	↗
○	ごみの分別を徹底している	93.3	91.5	92.5				92.0	↔
3-2-1	豊かな自然環境の保全	レポートあり							環境部
●	豊かな自然環境が保たれている	73.6	71.6	69.1				70.4	↔
○	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている	50.2	46.9	49.5				48.2	↗
3-2-2	良好な生活環境の保全	レポートあり							環境部
●	空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている	74.1	71.6	71.0				71.3	↔
○	地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している	48.8	50.6	45.2				47.9	↗
4-1-1	防災・減災対策の推進	レポートあり							総務部
●	災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている	35.5	35.7	34.0				34.9	↗
○	災害に備えて食料や飲料水などを備蓄している	41.1	37.2	36.5				36.9	↗
4-1-2	消防力の充実・強化及び火災予防	レポートあり							消防局
●	消防や救急体制が十分に整っている	62.7	61.8	61.3				61.6	↗
○	応急手当の仕方を講習会などにより勉強している	37.6	34.5	33.6				34.1	↗
4-2-1	交通安全対策の推進	レポートあり							地域・市民生活部
●	交通マナーが良い地域である	44.1	46.2	45.5				45.9	↗
○	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している	90.4	86.7	87.8				87.3	↔
4-2-2	防犯対策の推進	レポートあり							地域・市民生活部
●	地域で防犯に向けた取組が行われている	41.8	44.5	42.1				43.3	↗
○	犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している	27.6	25.9	24.5				25.2	↗
4-2-3	安全な消費生活の確保	レポートあり							地域・市民生活部
●	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている	31.0	32.8	32.0				32.4	↗
○	家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている	60.9	55.7	54.5				55.1	↗

施策コード／施策名		担当部局							
区分	指標名	肯定的回答割合の合算値(%)							
		現状値	実績値						目標
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	
5-1-1 乳幼児期から高等教育までの教育の充実		教育委員会、こども未来部							
●	子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている	41.2	40.1	38.8				39.5	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
5-1-2 子どもに応じた支援の充実		教育委員会、こども未来部							
●	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている	41.0	40.9	40.2				40.6	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
5-1-3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力の向上		教育委員会、こども未来部							
●	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている	49.7	51.4	49.4				50.4	↗
○	地域の子どもにあいさつや声かけをしている	71.2	66.2	64.7				65.5	↗
5-2-1 生涯学習環境の充実		教育委員会							
●	公民館などで、学びの機会が提供されている	52.0	51.3	52.4				51.9	↗
○	公民館などで提供されている学びの場に参加している	26.8	25.7	25.2				25.5	↗
5-2-2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進		教育委員会							
●	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている	50.8	52.0	52.1				52.1	↗
○	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている	19.2	18.1	15.6				16.9	↗
5-3-1 多彩な文化芸術の創造と活動支援		文化スポーツ振興部							
●	音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている	40.7	39.6	40.6				40.1	↗
○	音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる	39.4	37.1	35.1				36.1	↗
5-3-2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進		教育委員会、文化スポーツ振興部							
●	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている	51.0	51.0	48.8				49.9	↗
○	地域の伝統的な行事に参加している	38.5	34.6	34.0				34.3	↗
5-4-1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進		文化スポーツ振興部							
●	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	54.8	52.5	51.8				52.2	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
5-4-2 スポーツを通じた交流拡大の推進		文化スポーツ振興部							
●	プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている	35.1	36.7	37.7				37.2	↗
○	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している	22.8	19.7	20.8				20.3	↗
5-5-1 国際交流活動の推進		企画政策部、教育委員会							
●	国際交流が盛んに行われている	12.6	14.3	15.4				14.9	↗
○	国際交流イベントに参加している	5.2	4.8	3.9				4.4	↗

施策コード／施策名		担当部局							
区分	指標名	肯定的回答割合の合算値(%)							
		現状値	実績値						目標
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	
5-5-2 多文化共生の推進		企画政策部、教育委員会							
●	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
○	外国の文化や習慣を理解しようと努めている	31.0	32.5	29.3				30.9	↗
6-1-1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進		商工観光部							
●	長野市は、魅力的な観光都市である	66.4	64.7	60.3				62.5	↗
○	知人や友人などに地域の魅力を伝えている	36.4	35.8	32.3				34.1	↗
6-1-2 インバウンドの推進		レポートあり 商工観光部							
●	[再掲:6-1-1 長野市は、魅力的な観光都市である]	66.4	64.7	60.3				62.5	↗
○	困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている	34.2	39.1	33.9				36.5	↗
6-1-3 コンベンションの誘致推進		商工観光部							
●	コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている	52.6	45.2	46.4				45.8	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
6-2-1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進		レポートあり 農林部							
●	野菜や果物づくりをしている人が増えている	47.5	45.0	40.4				42.7	↗
○	野菜や果物づくりなどを楽しんでいる	44.0	47.0	41.7				44.4	↗
6-2-2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進		農林部							
●	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である	87.8	86.4	85.7				86.1	↗
○	地元産の農作物を意識的に買うように心がけている	80.9	77.3	75.9				76.6	↗
6-2-3 森林の保全と資源の活用促進		農林部							
●	森林が整備されている地域である	41.1	36.6	34.8				35.7	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
6-3-1 商工業の強化と環境整備の促進		商工観光部							
●	活力のある企業が多い地域である	22.8	21.7	23.5				22.6	↗
●	市内に個性的で魅力的なお店が増えている	30.7	30.7	31.7				31.2	↗
○	地元のお店で買い物をするように心がけている	79.6	77.7	76.3				77.0	↗
6-3-2 地域の特性が光る商工業の推進		商工観光部							
●	[再掲:6-3-1 活力のある企業が多い地域である]	22.8	21.7	23.5				22.6	↗
●	[再掲:6-3-1 市内に個性的で魅力的なお店が増えている]	30.7	30.7	31.7				31.2	↗
○	[再掲:6-3-1 地元のお店で買い物をするように心がけている]	79.6	77.7	76.3				77.0	↗

施策コード／施策名		担当部局								
区分	指標名	肯定的回答割合の合算値(%)								
		現状値	実績値						平均	目標
			H28	H29	H30	H31	H32	H33		
6-3-3 新たな活力につながる産業の創出		商工観光部								
●	新たな雇用が生まれている	9.4	10.8	11.6					11.2	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6-4-1 就労の促進と多様な働き方の支援		商工観光部								
●	仕事を見つけやすい環境が整っている	13.2	12.9	15.5					14.2	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6-4-2 勤労者福祉の推進		商工観光部								
●	市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている	34.4	32.6	30.7					31.7	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-1-1 地域の特性に応じた都市機能の充実		都市整備部								
●	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である	49.4	49.2	48.3					48.8	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-1-2 暮らしを支える生活機能の維持		建設部、上下水道局								
●	日常生活に必要なインフラが整備されている	51.7	53.3	52.6					53.0	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-1-3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進		建設部、都市整備部								
●	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	30.3	30.8	30.4					30.6	↗
○	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-1-4 地域の特色を活かした景観の形成		都市整備部								
●	景観やまちなみが美しい地域である	57.2	55.4	54.8					55.1	→
○	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	73.9	71.6	71.7					71.7	→
7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築		都市整備部								
●	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	35.7	33.9	31.9					32.9	↗
○	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している	26.4	27.2	24.2					25.7	↗
○	公共交通を自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	50.4	55.9	48.4					52.2	↗
7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備		都市整備部								
●	[再掲:7-2-1 公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている]	35.7	33.9	31.9					32.9	↗
○	[再掲:7-2-1 通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している]	26.4	27.2	24.2					25.7	↗
○	[再掲:7-2-1 公共交通を自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている]	50.4	55.9	48.4					52.2	↗

第6 施策別の分析結果


【施策コード／施策名】 1-1-1 市民とともにつくる市政の推進		【担当部局】 企画政策部																					
【区分】	【指標名】																						
●	市民の声が市政に反映されている																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的評価割合</td> <td>19.0%</td> <td>18.4%</td> </tr> <tr> <td>否定的評価割合</td> <td>50.1%</td> <td>50.8%</td> </tr> <tr> <td>評価保留割合</td> <td>29.2%</td> <td>28.1%</td> </tr> </tbody> </table>		平成29年度	平成30年度	肯定的評価割合	19.0%	18.4%	否定的評価割合	50.1%	50.8%	評価保留割合	29.2%	28.1%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値 (H28)</th> <th>目標 (H33)</th> <th>19.2%</th> <th>↑</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">平均値(H29～30)</td> <td colspan="2">18.7%</td> </tr> </tbody> </table>	現状値 (H28)	目標 (H33)	19.2%	↑	平均値(H29～30)		18.7%	
	平成29年度	平成30年度																					
肯定的評価割合	19.0%	18.4%																					
否定的評価割合	50.1%	50.8%																					
評価保留割合	29.2%	28.1%																					
現状値 (H28)	目標 (H33)	19.2%	↑																				
平均値(H29～30)		18.7%																					
<p>【平成30年度結果(年代別)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 肯定的評価割合 ■ 否定的評価割合 ○ 評価保留割合 		<p>【肯定的回答割合の推移】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 肯定的評価割合 																					
【モニターの主な肯定的意見】		【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】																				
<ul style="list-style-type: none"> ✓少しは反映されている ✓幸せ実感モニターの取組がある ✓意見を聞く姿勢は見られる 		19歳以下																					
<ul style="list-style-type: none"> ✓市長の人によると思う。頑張っている人、そうではない人の差がある ✓市民が意見を言える場がある ✓市民の声に耳を傾けようとしていると思う ✓今の市長になってからは市民の声が反映されてきている 		20～29歳																					
<ul style="list-style-type: none"> ✓市長へのはがきなどの制度がある ✓市議会定例会の動画が、ネットで配信されているとの記事を見た。市民が見ているということであれば、有意義な論議ができるし、市民も真剣に市政を考えるいいきっかけになると思う ✓生き活きトークなどにもっといろいろな方の参加があればよい ✓声の便りや目的別のモニターやら意見交換会がある 		30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓市長への手紙は書いてみたいと思うが、どうにも気が引ける 																				
<ul style="list-style-type: none"> ✓市長の姿勢は評価できる ✓それなりに反映している 		40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓観光の地区では反映されているかもしれないが、田舎はされてない ✓市民の声を聞こうとしていないと思う。聞いていれば住みやすい長野市になっているはずである ✓道路の整備に時間がかかっている ✓関心がなく、声を上げる人もあまりいない ✓どんな意見により、どのように反映したのかが全くわからない 																				
<ul style="list-style-type: none"> ✓市の諸々の計画に市民の声を聞くよう行動していることは評価できるが、反映できていないことも多々あり、なぜ反映できないか説明等フィードバックがないことが多い 		50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓興味がなくてわからない ✓反映された記憶がない ✓若い市会議員の誕生により、若い感性を市政に反映してほしい。議員の不祥事をなくしてほしい ✓みどりのハガキに希望を書いても同じ回答のみなので、今では期待していない ✓もっと努力すべきと思う 																				
		60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓市政に参加している感が薄い 																				
		65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓柔軟な発想が少ない ✓市民の声を聴く姿勢はあるが、形式的で官僚的である ✓気軽に意見を出せる体制がない 																				
		70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓情報がなく、反映されているかどうかわからない 																				

【施策コード／施策名】
1-1-1 市民とともに作る市政の推進

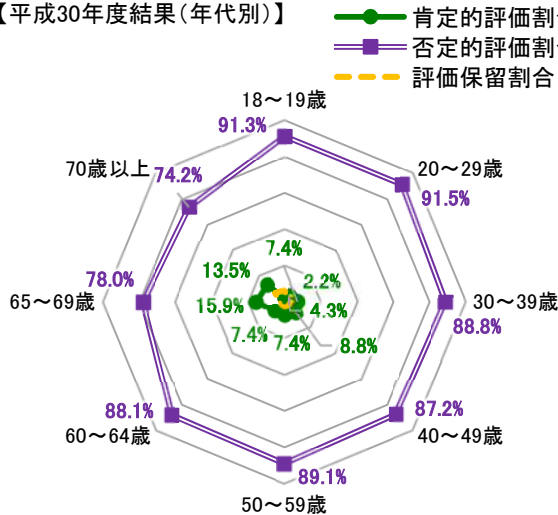
【担当部局】
企画政策部

【区分】 ○ 【指標名】
地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている

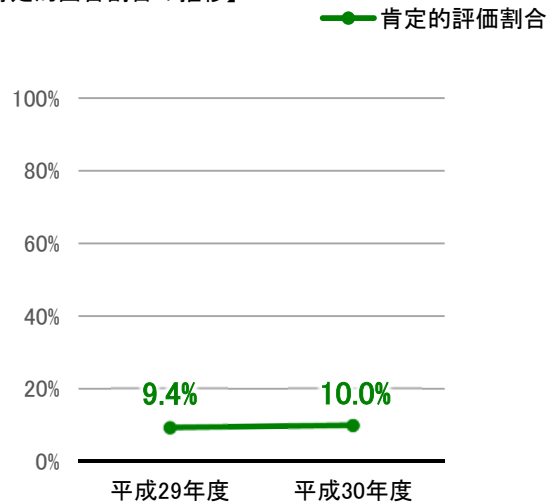
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	9.4%	10.0%
否定的評価割合	80.8%	83.7%
評価保留割合	7.7%	4.1%

現状値 (H28)	目標 (H33)	9.8%	
平均値 (H29～30)		9.7%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓幸せ実感モニターをしている
- ✓幸せ実感モニターをしている
- ✓アンケートなどの機会があれば、参加している
- ✓住民自治協議会等と連携して意見をすることがある
- ✓地域の役員として活動している
- ✓議員に伝えたりはしている
- ✓このアンケートも、そういう意識で参加している
- ✓意見があるときは、提案する
- ✓役員をしているので機会がある
- ✓住民自治協議会では意見や会議に参加し発言している
- ✓大いにやっている
- ✓アンケート調査に参加している
- ✓各種役員で参加している
- ✓地域づくり、まちづくりの先頭に立ち提言をしている
- ✓地域の自治活動役員の一人として、市の施策に積極的に協力しなければと思ひ、機会あるごとに積極的に自分の意見を出してきている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓機会がない
- ✓市役所や自治会のどこに寄せればよいか、気軽に寄せてよいものなのか分からない
- ✓どの窓口に出せばいいのかわからない
- ✓反映されない気がして、諦めている
- ✓アイデアや意見などを寄せたいと思うこともあるが、勇気がなかったり、どうせ変わらないだろうと思ひ諦め、そのままになってしまう
- ✓窓口がわからない
- ✓自治会の役員の時は意見を出したが、役を離れたら意見を寄せる機会がなくなった
- ✓積極的にする機会がない
- ✓時間に余裕がないし、自治会には言える雰囲気がない
- ✓意見を言う場所が分からない
- ✓以前は市のホームページに意見を投稿したこともあったが、何も変わらないのでやめた
- ✓行動したことはない
- ✓どこに寄せていいのかわからない
- ✓参加する機会がほとんどない
- ✓考えが浮かばない
- ✓意見箱の提案をしたが、リアクションがなかった
- ✓提案は受け入れられないから、提案しない
- ✓アイデアがあってもタイミングが合わず面倒になってしまう
- ✓自治会活動が盛んでない
- ✓自治会にはしているが市役所にはしていない
- ✓どこに出せばいいのかわからぬのかの道筋が見えていない
- ✓機会がなく特に行動していない
- ✓関心を持っていない

【施策コード／施策名】
1-1-2 市民によるまちづくり活動への支援

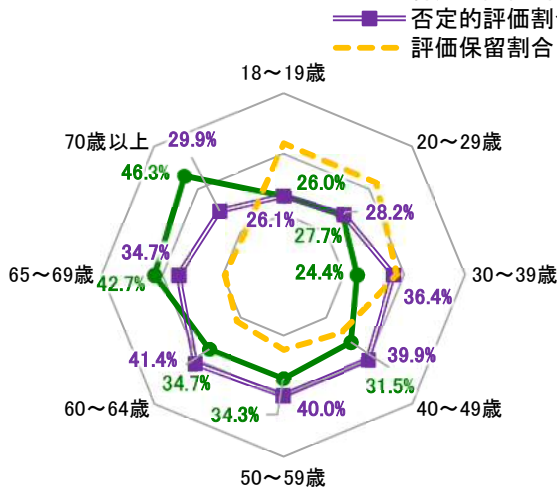
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ● 【指標名】
住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている

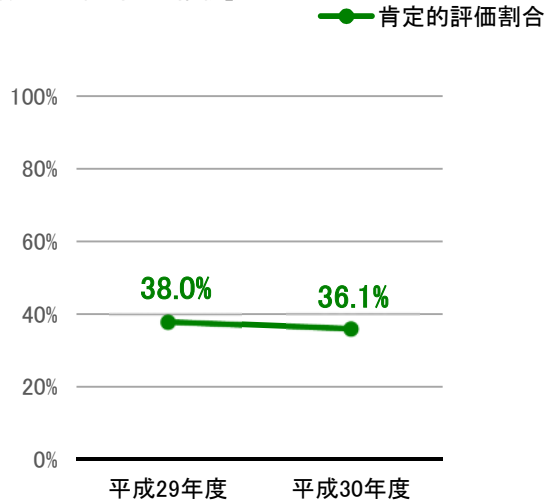
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	38.0%	36.1%
否定的評価割合	34.2%	35.6%
評価保留割合	26.3%	25.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	36.3%	
平均値(H29～30)		37.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓役立っている所とそうでないところがあるように見られる
- ✓区での清掃活動なども多い
- ✓行政がよくやっている
- ✓色々な場面で、活動しているところを見かける
- ✓他都市に比べるとまだまだ力は大きくないと思う
- ✓特に過疎地域の住民自治協議会は頑張っている
- ✓イベント関係にはかなり貢献している
- ✓公園整備等で活動している
- ✓NPO法人は様々な活動をしていると思う
- ✓住民自治協議会はしっかり機能していると思う
- ✓まちづくりに役立っているが負担が大きい
- ✓なかなか率先して行動を起こすことが難しいので、こういったところで取り組んでもらうことはいいと思う
- ✓住民自治協議会発足10年を経て地域の窓口として不可欠な存在となっているが、担い手の不足・高齢化が大きな課題である
- ✓自主的にやっているが、市の下請けが多い
- ✓役立っていると思うが、その恩恵を受けているのは、ほんの一部の人たちに過ぎない

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓形式的になっている
- ✓知らない
- ✓負担ばかりでメリットがない
- ✓危険な道路があると何度も意見しても変わらない
- ✓まちづくりどころか、市民の生活を圧迫していると感じる。もっと公務員の職務としてやるべき時代だと思う。貴重な子育て世代や、身体の鈍った高齢者に任せる量ではない
- ✓住民自治協議会は、ほぼ機能していない
- ✓役員が頑張っているのは知っているが、結果に結び付いてない
- ✓高齢者や一人暮らしの人が増えて町内会の役員選出など無理がでてきている
- ✓動きとその結果が全くわからない
- ✓活動があまり見えない
- ✓やる事が目的化していて、何のためにやっているのかが消えてしまっている
- ✓未だに住民自治協議会を知らない人もいるし、活動内容が見えない
- ✓市の業務の下請け化している
- ✓組織そのものが形骸化している
- ✓住民自治協議会は本当に必要なのか。町単位の方が活動しやすい
- ✓区長会が充実すれば、住民自治協議会は必要があるのだろうか
- ✓組織はいいが、運営や活動が今一つである
- ✓見聞きしない
- ✓あまり広まっていない気がする

【施策コード／施策名】
1-1-2 市民によるまちづくり活動への支援

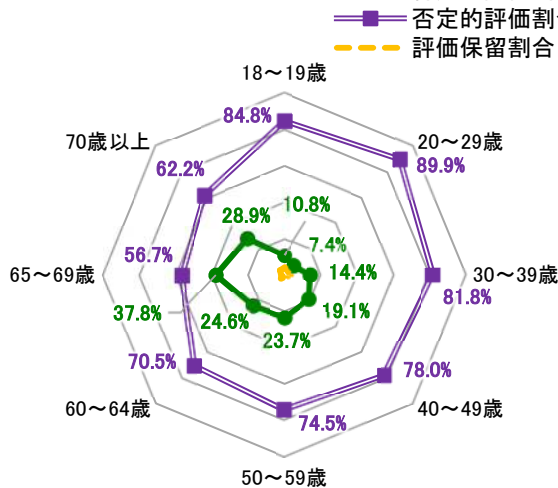
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ○ 【指標名】 住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している

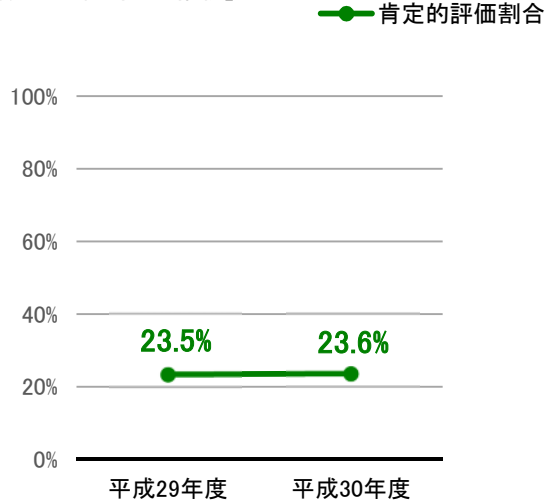
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	23.5%	23.6%
否定的評価割合	68.2%	71.5%
評価保留割合	5.7%	2.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	23.2%	
平均値 (H29～30)		23.6%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓たまに参加している	19歳以下	✓学業が忙しく、参加する時間が取れない ✓機会が少ない
✓幸せ実感モニターをしている	20～29歳	✓情報がない ✓時間が合わない ✓参加したことがない
✓可能な範囲内で参加したいと考えているが、なかなか時間がとれない ✓当番がくればやる ✓福祉推進員に参加している	30～39歳	✓多忙なため 現在参加していない ✓興味関心がない ✓ボランティア活動の有無、スケジュールなどを知る機会がない
✓地域役員として参加している ✓ボランティア活動はできる時に協力していきたい ✓活動には特別なことがない限り必ず参加する ✓今年から地区の役を任せられたので頑張りたい	40～49歳	✓最近仕事で忙しく参加できていない ✓参加することがかなり減った ✓どんなボランティア活動があるかわからない ✓自治会がどのような活動をしているのかよくわからない。他県から来た人はなかなか仲間に入れてもらえないこともある ✓関心がない
✓人と繋がるのが楽しい ✓ゴミ拾い、清掃に参加している ✓住民自治協議会では意見や会議に参加し発言している	50～59歳	✓組長など引き受けているが、高齢化が進む中、旧来どおりの体制、枠組み、活動は見直すべきである ✓スケジュールがあわず参加できない
✓自分の勉強にもなり楽しい ✓行事などには積極的に参加している ✓5年以上区や自治会の役員になっている ✓自治会役員として活動しており、任期後も機会があれば参加したい	60～64歳	✓気持ちはあるが、行動になっていない ✓情報がない
✓役員として取り組んでいる ✓あいさつ運動などに参加している	65～69歳	✓参加していない ✓機会が少ない
	70歳以上	✓農業が忙しく、参加する時間がない ✓関心が持てない

【施策コード／施策名】

【担当部局】

1-2-1 効果的で効率的な行政運営の推進

総務部、財政部

【区分】

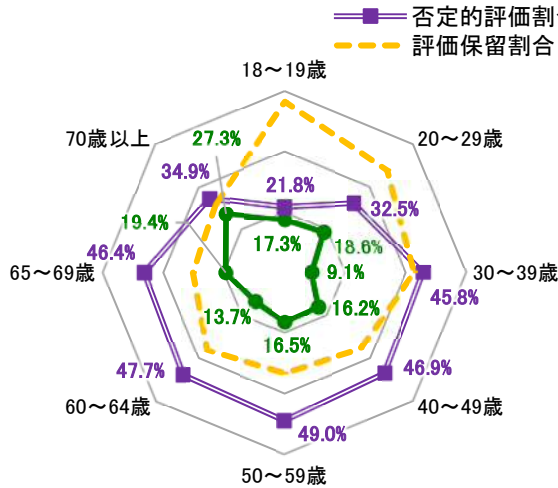
【指標名】

● 効果的で効率的な行政運営が行われている

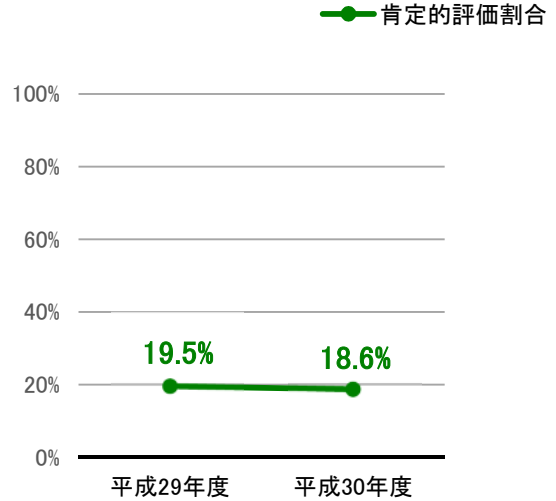
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	19.5%	18.6%
否定的評価割合	43.6%	42.9%
評価保留割合	34.7%	35.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	20.4%	
平均値(H29~30)		19.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ 共感できる
- ✓ 積極的に情報発信している
- ✓ 役所の待ち時間を最小限にする案内がされている
- ✓ 効率はもっと良くできると思う
- ✓ 大きな不満はない
- ✓ 配布物に広告が目立つようになった
- ✓ だいぶ改善されてきているが、計画から実行までの時間が長い
- ✓ 中堅・若手の職員は意欲的で前向きであるが、日常生活支援総合事業に代表されるように、一貫した展望にやや難点あり、もっとスピード感がほしい

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓ もめていることが多い気がする
- ✓ 形式だけになっている
- ✓ 行政運営に効果的や効率性を求め過ぎて、必要なものを切り捨てるのは行政運営として違うと感じる
- ✓ 時間がかかる
- ✓ 無駄が多いと感じる
- ✓ 本当に「市」としてなすべきことを考え、未来思考で選択と集中をもっとしてほしい。そのためには「捨てる」ことも必要で、さらに言えばもっと「人」に投資してほしい
- ✓ 場当たりのである
- ✓ 市民の声が反映されない
- ✓ 横の連携がないため各種申請等、非常に煩わしい。また全てにおいて、時間(自分は1時間いくら税金を給料としてもらっているのか)を意識しているとは思えない
- ✓ 市域が広く地域間格差もあるため効率的とは言いにくい
- ✓ 少なくとも旧市街地の開発は感心しない
- ✓ 非効率なことが多いのが残念である
- ✓ 地域のことは地域へと丸投げしていると、住民自治協議会ごとで格差が生まれてしまう
- ✓ 即時性がないと感じる
- ✓ 縦割り行政の改善がみられない、申請に対しての返答が遅い
- ✓ 行政の効率化のしわ寄せが地域に転嫁されている
- ✓ 文書が専門的でわかりにくい
- ✓ 相変わらず縦割りが予算主義で住民ファーストになっていない
- ✓ バイパス整備などが進んでいない
- ✓ とにかく書類が多い

【施策コード／施策名】
1-2-2 市民の満足が得られる市政の推進

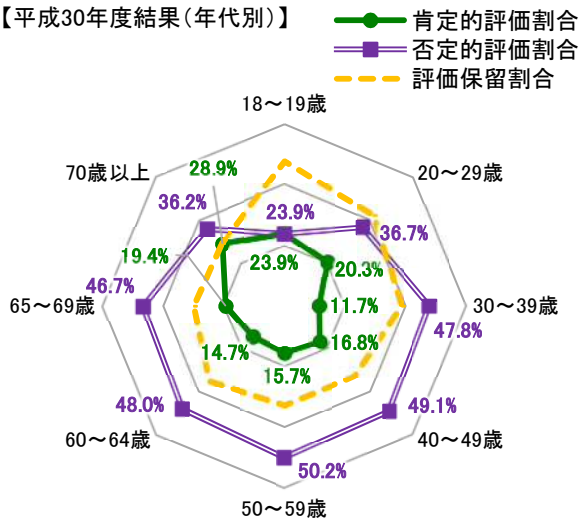
【担当部局】
総務部、企画政策部

【区分】 ● 【指標名】
市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている

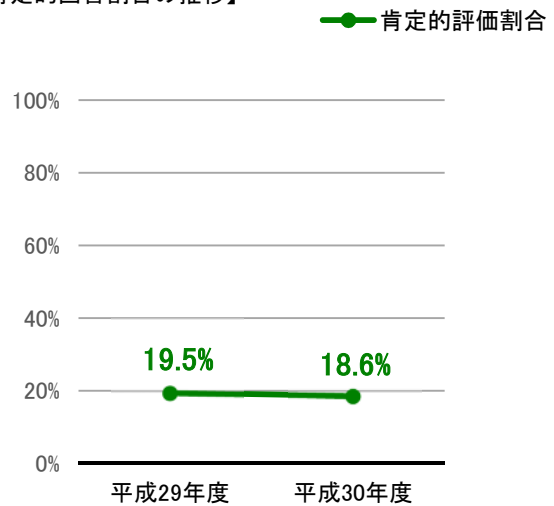
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	19.2%	19.5%
否定的評価割合	46.3%	44.5%
評価保留割合	32.4%	33.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	20.2%	↗
平均値 (H29～30)		19.4%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓市民の声を聴いていると感じる
- ✓アンケートの結果が反映されている
- ✓幸せ実感モニターのような市民の意見を聞く機会がある
- ✓もっと市民の声を気軽に届けられないものだろうかと思う。ツイッターで専用ハッシュタグを付けたら、市職員が閲覧してくれる、ようなシステムはないのだろうか
- ✓市民の意見も取り入れてくれている
- ✓今の市長になってからは市民の声が反映されてきている
- ✓大きな不満は感じない
- ✓施策を通して感じる
- ✓ニーズの把握は以前よりされている
- ✓声の便り等への回答を見ると検討しますとある
- ✓まだ不十分、さらなる取り組みが必要である
- ✓市民ニーズをくみ上げようと努力している
- ✓努力は伺える
- ✓市報や広報の一層の充実を期待したい

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓ニーズに合わないところがあるように見受けられる
- ✓形式だけになっている
- ✓一部の団体の意見が通っているように見える
- ✓公共交通サービスの低下等、ニーズよりも効率性を求める行政運営がされていると感じる
- ✓具体的な例が浮かばない
- ✓反映されているとは思わない
- ✓サンマリーン長野の値段が高すぎるのでできない
- ✓市民のニーズをどれだけ知っているのか疑問である
- ✓市民の意見の状況が広報されていない
- ✓一部の利益団体が優遇されているように思える
- ✓多様なニーズをどう活かしていったらよいか、従来どおりの運営がなされていないか検証してほしい
- ✓もう少し行政を身近に感じたい
- ✓相談窓口がどこか知らないで要望があっても連絡できない
- ✓ニーズを把握する努力の一方で、各地域について市からのビジョン提示に基づいた議論が必要である
- ✓定期的に御用聞き活動をやったほうが良い
- ✓市民のニーズが何で、どのように行政が受け止めているのか良く分からない

【施策コード／施策名】
1-2-2 市民の満足が得られる市政の推進

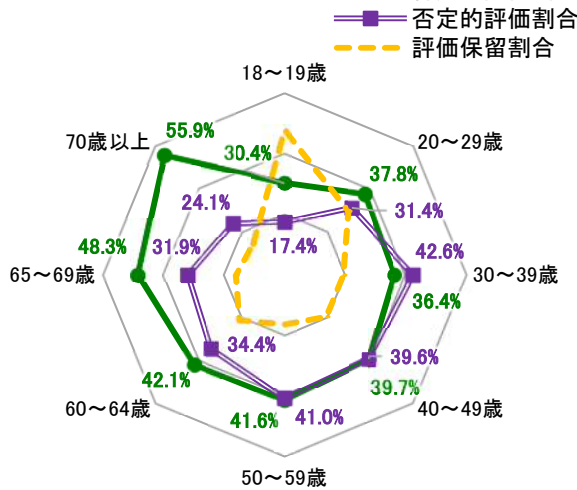
【担当部局】
総務部、企画政策部

【区分】 ● 【指標名】
市の職員に好感が持てる

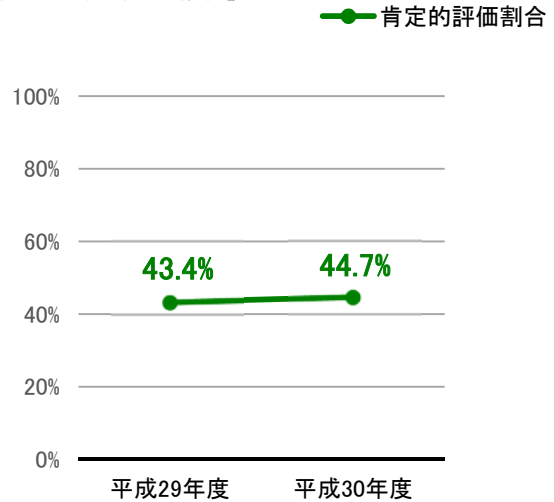
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	43.4%	44.7%
否定的評価割合	36.0%	34.1%
評価保留割合	18.8%	18.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	45.2%	
平均値 (H29～30)		44.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓人による
- ✓対応はしっかりしている
- ✓市役所、支所での対応は親切で丁寧である
- ✓職員一人ひとりは非常に一生懸命に取り組んでいるイメージがある
- ✓職員は皆一生懸命である
- ✓市役所の窓口での対応がとても良い
- ✓市役所の窓口対応がとても親切になった
- ✓不快な対応は経験していない
- ✓少なくとも仕事などで関係のある職員に対しては好感を持っている
- ✓明るい挨拶ができる職員の方が多い
- ✓窓口での対応は丁寧で好感が持てる
- ✓感じの悪い人はいない
- ✓市民に対して対峙する姿勢が気持ち良い
- ✓職員によりばらつきがある
- ✓電話、窓口対応はよいと思う
- ✓市役所に行くと毎回感じが良い
- ✓支所窓口の職員の応接態度は好感が持てる
- ✓多忙な中でも納得するまで真剣に市民対応がきている
- ✓電話や接客対応は非常に良い
- ✓窓口担当者を中心に好感が持てる職員が増えている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓芸術館での対応が悪い
- ✓表面的である
- ✓態度の悪い職員がいる
- ✓市役所関係の職員は誠実そうだが、保育士は忙しすぎて事務的な対応をする人が多い
- ✓たまたま窓口職員の対応が悪かっただけで、全体が悪い印象となっている
- ✓市役所の窓口の方の対応が冷たい
- ✓もう少し人間らしい対応を望む
- ✓よい人と悪い人の差がある
- ✓頑張っている職員もいるが、対応が悪い人が多い
- ✓上から目線の職員が多すぎるので再教育してほしい
- ✓偉そうな態度が感じられる
- ✓中間管理職は口先で住民の味方のようにふるまうが、実行できていない
- ✓担当者の引継ぎに問題がある


【施策コード／施策名】
1-2-3 地方中核都市としての役割の遂行

【担当部局】
企画政策部

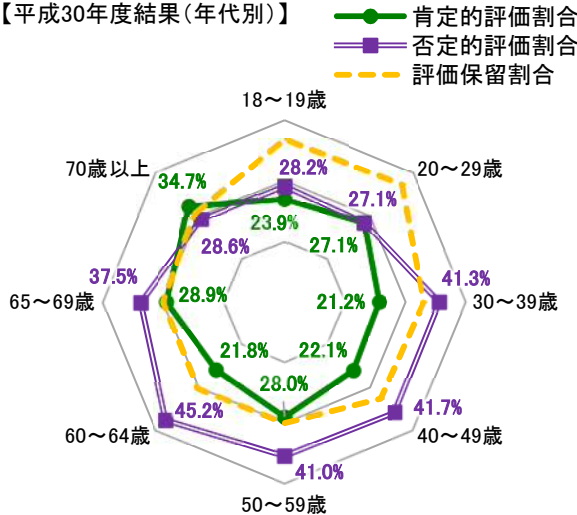
【区分】 【指標名】

● 長野市は近隣市町村と連携し、広域的に発展に向けて取り組んでいる

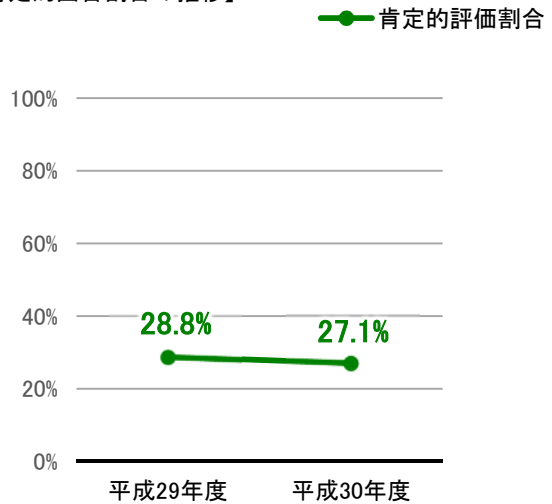
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	28.8%	27.1%
否定的評価割合	36.5%	37.1%
評価保留割合	32.8%	33.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	30.9%	
平均値(H29~30)		28.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓発展的であると感じる

19歳以下

✓ショッピングセンター計画を拒否したり、須坂市のショッピングセンター建設を反対したりと正反対のことをしている

✓連携して取り組んでいると聞いたことがある

20~29歳

✓須坂のイオン出店等、きちんと連携して取り組んでいただきたい

✓広いだけあって連携していると思う
✓図書館が広域で利用できるようになったことが印象強い
✓広報等を見てそのように感じる

30~39歳

✓連携している話題を聞いたことがない
✓長野市は上から目線だと思う
✓長野市の側が受け身の姿勢に見える

✓長野市から近隣市町村へ向かう道路が整備されている
✓テレビやニュースなどで見聞きする
✓具体例は浮かばないが、イメージとして取り組んでいそう
✓上越との連携等、良いことと考える。松本市、安曇野市等とも、特に観光面で連携していけば良いと考える

40~49歳

✓もっと積極的に大型商業施設の誘致をしてほしいのに、あまり乗り気でない

✓須坂市、千曲市のショッピングモールの建設にまで邪魔をし、市民が求めていることを分かっていない

✓取組を知らない

✓近隣市町村が長野市と連携したいと思っていないように思う

✓合併した所には問題が山積みである

✓広域連合などで活動している
✓図書館利用につき、須坂・小布施の方も利用できるようになったという記事を見た
✓中核市なので普通だと思う

50~59歳

✓具体的にわからない

✓観光や災害に対して協力している

60~64歳

✓実感が無い

✓観光面でもっと連携した交通網など考えてほしい
✓色々取り組んでいるがトップダウンでしか動いていないように聞こえてくる

✓災害への対応は良かった
✓市長の記者会見を見た

65~69歳

✓広域事業が取り入れられている

70歳以上

✓リーダーが必要である

✓あまり感じない

【施策コード／施策名】

2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目な支援

【担当部局】


こども未来部、保健福祉部

【区分】

【指標名】

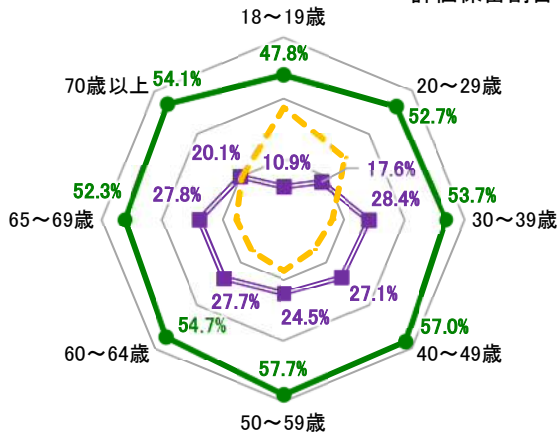
● 子どもを産み育てやすい地域である

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	52.9%	54.8%
否定的評価割合	26.7%	24.4%
評価保留割合	17.9%	17.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	63.9%	
平均値(H29~30)		53.9%	

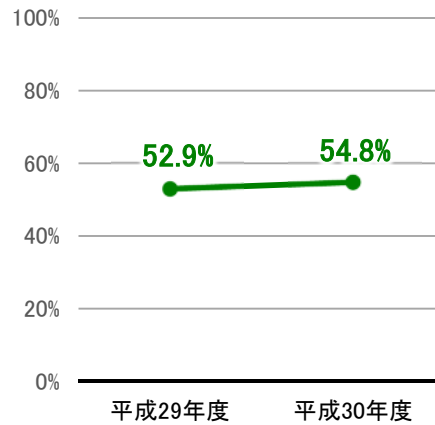
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

- ✓病院が多い
- ✓福祉が充実している
- ✓自然豊かで、支援、教育の体制が整っているように思える
- ✓他市町村に比べると、色々な環境が充実している方だと思う
- ✓公園が多い
- ✓数年前に引っ越してきたが、自然が身近でのびのびと育てられると実感している
- ✓子育て支援センターなどが充実している
- ✓福祉医療など、制度が手厚くなってきた
- ✓産後の予防接種などのシステムが分かりやすい
- ✓保育園探しには困らないが、子供がいる世帯への手当などが不足しており、多子を持ちにくい
- ✓自然が豊かで、相談出来る保健センターなども利用しやすい
- ✓近くに病院や学校など必要な施設が揃っている
- ✓治安が良い
- ✓自然豊かで環境が良い
- ✓保育園、児童センターの待機児童がない
- ✓近所付き合いもまだあり、孤立しないで子育てができる
- ✓同居や持ち家が多く、自然や遊び場も多い
- ✓周産期医療の体制が整っている
- ✓それなりの体制ができていると感じる
- ✓子どもを地域全体で育てていこうという風土がある

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

- ✓多額の費用がかかる
- ✓大学が少ない
- ✓ハイリスク妊婦に対応してくれる産婦人科が少ない
- ✓核家族に優しい制度が少ないように感じる。認定こども園が少ない
- ✓幼児教育に熱心ではない。固定概念が強い人々が多い。車の通りが多く、道も悪く、交通環境が危ない。子どもや大人が自由に集える「場」がない。先端の情報に疎い
- ✓不妊治療を受けているが、病院が少なく選択肢も少ない
- ✓小さい子が室内で遊べる場所が少ない
- ✓発達支援が足りない
- ✓高校生、大学生に対しての支援がない
- ✓学校がなくなっていく
- ✓出産できる病院が減ってきている。子育てに対する援助や支援が不十分である
- ✓松本市に比べれば若干劣るという意見がある
- ✓急に具合が悪くなった時の病院対応や近所で手軽に利用できる公園の荒廃等も散見される
- ✓子育て支援活動や小学校の放課後子どもプラザなど充実してきているが、育てやすい環境かと言えば普通である

【施策コード／施策名】
 2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目な支援
 2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実

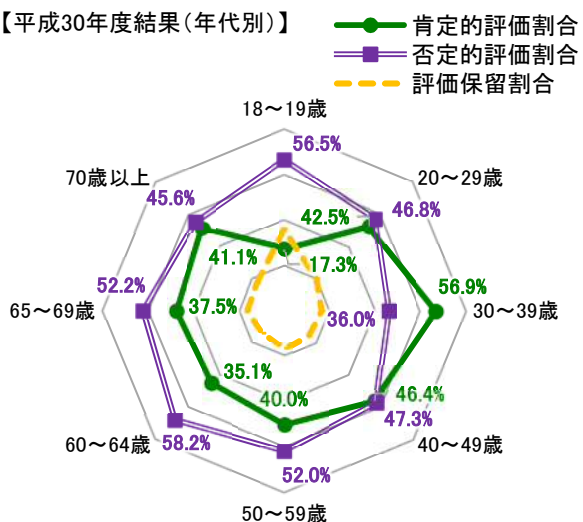
【担当部局】
 こども未来部、保健福祉部

【区分】 ○ 【指標名】
 子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている

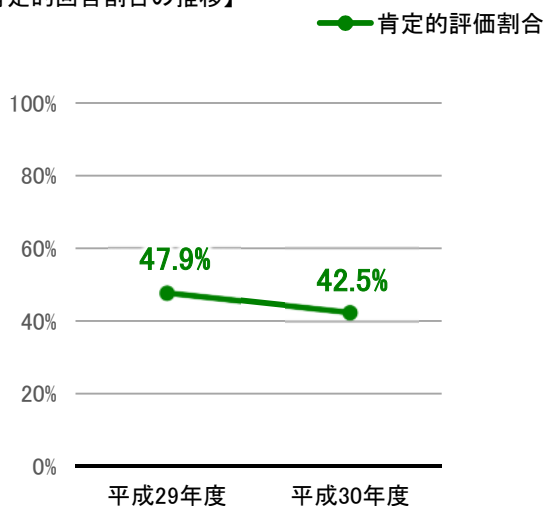
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	47.9%	42.5%
否定的評価割合	40.1%	48.0%
評価保留割合	9.2%	6.7%

現状値 (H28)	目標 (H33)	45.3%	↗
平均値(H29～30)		45.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓小さい子と遊んだりする
- ✓バスや電車で席を譲っている
- ✓必要な時には手助けしようとは思っている
- ✓自分も子育てしているためお互いさまだと思っている
- ✓機会があれば手助けをしている
- ✓自分自身子育て中なので、助けてもらうこともあるし困っていれば手助けすることもある
- ✓同世代の子供達をお互いに助け合って情報交換等もしている
- ✓子どもの送り迎えをはじめ、家事を手伝うようにしている
- ✓PTA、育成会活動に積極的に参加している
- ✓ご近所の小さいお子さんがいるお宅には、積極的に声をかける
- ✓子育てサロンを通して、地域の子育て中のお母さんと交流を持っている
- ✓自分のできる範囲で子育ての協力をしている
- ✓保育園の孫を毎日子守りしている
- ✓子育て中の職員の働きやすい職場環境に留意している
- ✓子育て世代に対し手助けや見守りなどできることはやっている
- ✓孫の面倒を見る
- ✓毎月開催の子育て広場に参加したり、近所の保育園の子どもたちに声掛けをしている
- ✓地域でのボランティア団体の活動に参加している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓関わる機会が少ない
- ✓手助けが必要な場面に遭遇したことがない
- ✓機会がない
- ✓地区行事からしても高齢者用ばかりで、子供に還元されるものは本当に少ない
- ✓核家族に対する支援が少ないし、相談場所も広報不足に感じる
- ✓核家族であり近所との深い付き合いがない
- ✓関心がない
- ✓仕事をしているせいお若いお母さんたちとの交流が少ない
- ✓どう手助けをすればいいかわからない
- ✓機会がない
- ✓見守りはするが、手助けを必要とする事はない
- ✓身近にいない
- ✓見守りはしているつもりだが、手助けなどの程度には難しさもある
- ✓対象が身近に存在しないので不明である

【施策コード／施策名】

2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実

【担当部局】

こども未来部、保健福祉部

【区分】

【指標名】



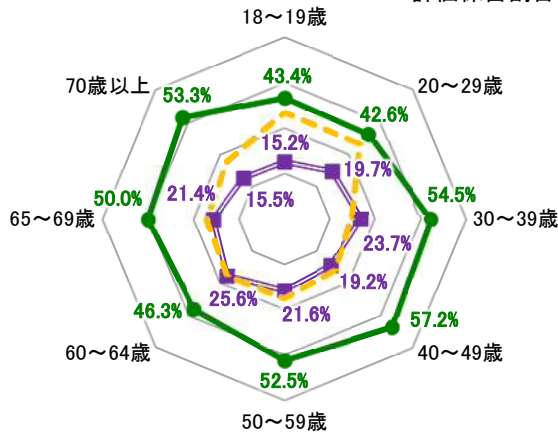
幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育が充実している

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	51.5%	52.1%
否定的評価割合	20.0%	20.2%
評価保留割合	26.3%	24.8%

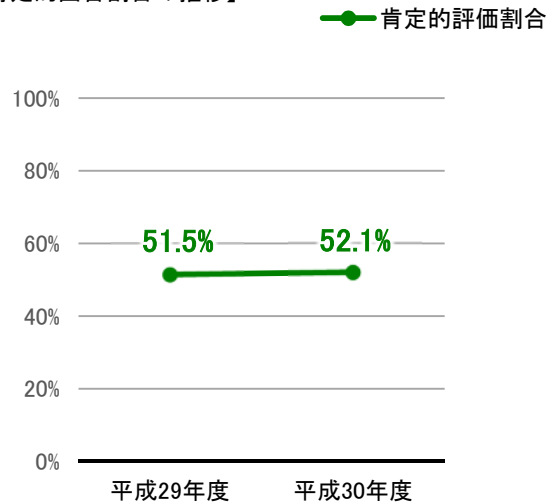
現状値 (H28)	目標 (H33)	57.4%	
平均値(H29~30)		51.8%	

【平成30年度結果(年代別)】

- 肯定的評価割合
- 否定的評価割合
- 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

- ✓待機児童などの話を聞かず、充実した保育が行われている
- ✓近くに幼稚園がある
- ✓施設の数が多い
- ✓在園している園で教育の在り方について、新しい取り組み方を始めている
- ✓預かり時間や、教育内容などが充実している
- ✓待機児童が少なく良い
- ✓市内の便利な地域に多くの保育園がある
- ✓待機児童が少ない
- ✓自然の中での遊びが充実している
- ✓選択肢が多い
- ✓待機児童が少ない
- ✓のびのび遊ばせ、幼稚園では知育的な面、体操、英語など希望に応じ利用できる
- ✓保育施設が充実している
- ✓立地的に選択肢が多い
- ✓近隣に施設がいくつもあり充実している
- ✓不満は聞こえてこない
- ✓幼稚園、保育園が完備されているように思える
- ✓保育園、幼稚園などが充実している
- ✓保育園でも就学のためのことを考えてのカリキュラムである
- ✓待機児童が少なく内容も充実している

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

- ✓幼稚園などが減っていると感じる
- ✓希望する園に入れない
- ✓未満児は空きがない
- ✓担任の数が少ない
- ✓今までお世話になった保育園も民営化しただけでなく、移転して通うに困難な所になってしまっている
- ✓希望の園に入園するのが難しい
- ✓数は足りていると思うが、長野の学力は低いままである
- ✓年々、公立保育園の親子で参加できる行事が減っている
- ✓園によって差がある
- ✓4年生になるとプラザが使えなくなる
- ✓特に充実しているとは思わなく、普通である
- ✓施設で働いている人たちの不満が聞こえてくる
- ✓共働きをせざるを得ない現状では全く不足している
- ✓民間委託された保育園は活動的である
- ✓ハード面では一見充足しているように見えるが規模が小さい、ソフト面では知力・体力・芸術面等個性を伸ばす特徴のある子育て等の充実が望まれる

【施策コード／施策名】
2-1-3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援

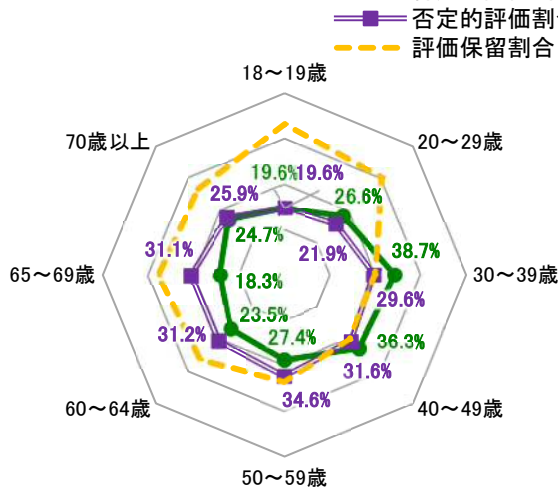
【担当部局】
こども未来部、保健福祉部

【区分】 ● 【指標名】
子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている

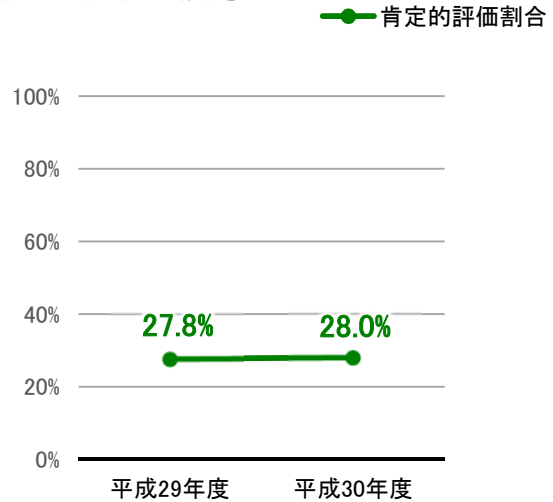
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	27.8%	28.0%
否定的評価割合	31.2%	29.5%
評価保留割合	38.4%	39.3%

現状値 (H28)	目標 (H33)	32.5%	↗
平均値 (H29～30)		27.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓子育てに関する相談の体制はある程度整っている
- ✓整っている方だと思う
- ✓子育て支援の施設や園の先生や保健師などの存在感がある
- ✓子育て支援センターが充実しているので、気軽に相談しやすい
- ✓小さい時はよいと思うが、子供が大きくなるにつれて相談する場所が減る
- ✓保健センターや保健所の職員が気軽に相談できる雰囲気づくりをしてくれている
- ✓窓口などの連絡先が周知されている
- ✓公的体制は知らないが親同士の交流がある
- ✓情報交換の場があったり、サークル活動が活発なように感じる
- ✓ファミリーサポート等がある
- ✓保健所の検診、保育園等で相談ができる
- ✓体制は整っていると思うが、身近で気軽に相談できるかどうか課題である
- ✓もんぜんぶら座のじゃんけんぼんという施設があるのを知っている
- ✓スマートフォンの普及により相談窓口やサイトが増え、相談の機会が多くなった
- ✓保育園、学校共に保護者の悩みを聞き入れてくれたアドバイスしてくれる

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓使っているという人を知らない
- ✓相談だけで解決できると思わない
- ✓一人ひとりに合った対応ができるとは思えない
- ✓どこに相談すればいいのかわからない
- ✓子どもが生まれ、異変を感じたので検診や病院で訴えてもまともに取り合ってもらえなかった。後に発達障害の診断を受けたが、早期発見しても見向きもされなかった
- ✓相談し、市の制度を利用しようとしたが、満杯ですと待っている
- ✓行政はあくまで受け身で、働きかけをしていない
- ✓相談しても事務的な対応をされただけであった
- ✓広く認知されていない
- ✓利用経験がない
- ✓何処に相談してよいか知らない
- ✓相談できる人はいいが相談できない人をどのように引っ張り出せるか交流をもたせられるか課題である
- ✓どこに相談したらいいのかわからない
- ✓相談する手段、窓口がわからない
- ✓体制ができているとは思えない。体制づくりの一つの提案として人生経験豊富な高齢者をうまく利用したらどうかと思う


【施策コード／施策名】
2-2-1 高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進

【担当部局】
保健福祉部

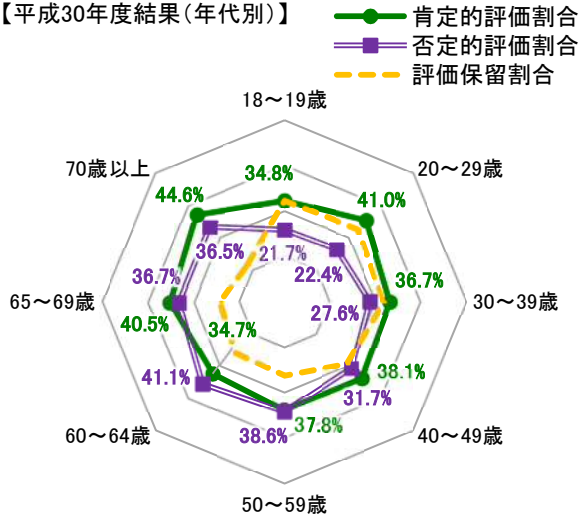
【区分】 【指標名】

● 高齢者がボランティアや学習活動など、社会と関わる活動をしやすい環境が整っている

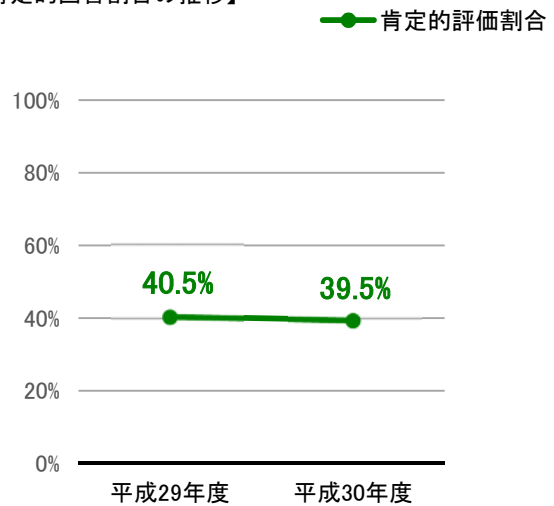
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	40.5%	39.5%
否定的評価割合	33.5%	34.4%
評価保留割合	24.1%	23.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	45.0%	
平均値 (H29～30)		40.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓学校などで、高齢者の方から学んだり、交流したりする機会が設けられている
- ✓シニア大学や地域で実施しているものもある
- ✓地域での活動が盛んである
- ✓公民館などでの催し物が多い
- ✓地域の高齢者の方が交通安全ボランティアや地域の学習活動で活躍されている姿を見る
- ✓地域回覧板で高齢者対象の教室をよく見かける
- ✓実際に活動されている方々が多い
- ✓地域の小学校が積極的に高齢者ボランティアとの関わり(協力)を呼びかけている
- ✓シルバー人材センターが充実している
- ✓公民館活動に参加している人が多いように感じる
- ✓「広報ながの」には、趣味や学習の講座が色々載っている
- ✓地域公民館活動や自治会活動の一環での学びの場が充実している
- ✓参加者は固定化しているが、地域公民館や住民自治協議会の講座が月1回以上はある
- ✓長野市報に情報が多い
- ✓環境はできていると思う
- ✓ボランティアしている人が目立つ
- ✓住民自治協議会中心に各種提案がある
- ✓公民館活動などが活発である
- ✓環境はあるがその様な人材をどう発掘するかが課題といえる
- ✓広報や公民館のイベント情報等で活動的な高齢者にとっては学習活動等活動しやすい環境は整っていると思うが、活動したいという意識はあってもできない方にも目を向けた施策があればもっと良いと思う

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓よくわからない
- ✓あまり盛んに行われているイメージがない
- ✓ハローワークのように、もっと人材マッチングのシステムを積極的に行うべきである
- ✓世代間の交流が少ない
- ✓意識していない中で、情報を目にする機会が少ない
- ✓周囲でそういった活動をしている高齢者がいない
- ✓高齢者活動を支えるサポーターが少ない
- ✓多くの制度や組織はあるが活動しやすくない
- ✓行政として地域に対する踏み込み・支援が不足している
- ✓関わる機会が少ないし、周知もない
- ✓受け入れ体制は不十分である
- ✓各種ボランティア活動があるが男性の参加者が少ない
- ✓地域公民館の老朽化、狭隘化など、物的環境面で問題を抱えているところが多く、早急な対応が必要である

【施策コード／施策名】
2-2-2 高齢者福祉サービスの充実

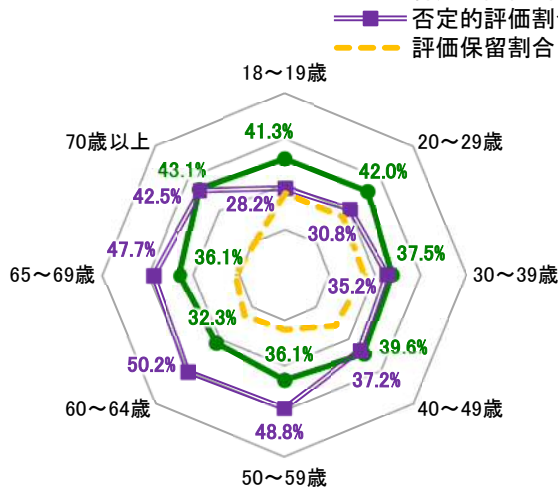
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ● 【指標名】
高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている

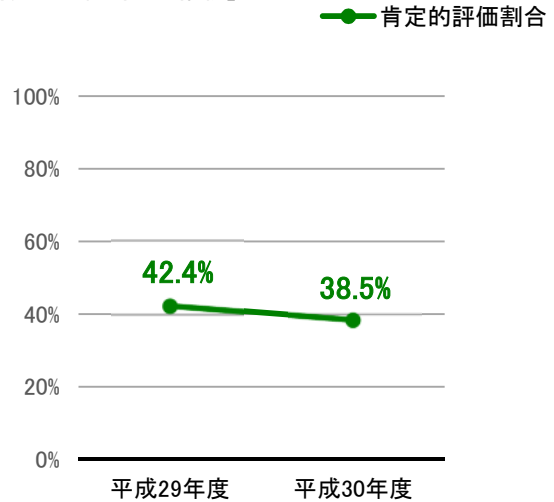
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	42.4%	38.5%
否定的評価割合	40.3%	42.3%
評価保留割合	15.5%	16.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	49.0%	
平均値 (H29～30)		40.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓高齢者にとって生活しやすいと思う
- ✓住み慣れた地域がよりよく安全なまちになっている
- ✓暮らし続ける人が多い
- ✓公民館行事などが多い。近所付き合いも割と密だと思
- ✓回覧板の内容は高齢者の活動が多い
- ✓相応の医療機関があり、交通網も充実している
- ✓高齢者の要望は反映されている
- ✓大きな発展もないので、慣れ親しみやすいと思う
- ✓地域包括センターのサービスは頼れるが、家庭内に対応できるかどうか疑問が残る
- ✓都市部は問題ないと思うが、山間部の状況が分からない
- ✓県営・市営住宅がある
- ✓交通手段など安価で使用できるものがある
- ✓高齢者の交流施設やイベントがある
- ✓元気な高齢者が多い
- ✓環境の変化が少なく 顔見知りの近隣者が多くコミュニケーションがとりやすい
- ✓次第に整ってきていると思う。行政の努力が見られる
- ✓医療機関、デイサービス等が比較的多くみられる
- ✓地域により格差はあるが、自分の地域では環境づくりに努めている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓公共交通などの生活の足が少なく、場所によっては住み続けるのは厳しい
- ✓過疎化が進んでいる地域がある
- ✓バスの本数が少ない地域がある
- ✓介護人材が不足している
- ✓公共交通機関が少ない
- ✓都市計画で移転が必要な場所が増えているように感じる
- ✓自治会の負担が相当大きい。高齢者、子育て世帯も参加せざるを得ない状況で、会議、行事、草刈りなど、月に何回も何回もある
- ✓介護者不足があり、病気後に住み続けるのが難しい
- ✓公共交通が整っていない。道も高齢者に配慮されているとは思えない
- ✓住居を集約することで利便性を上げ効率化を図るべき。今は住み慣れた場所に住まざるを得ないだけで、まとまることへの魅力を生み出す方が良い
- ✓車が必要で郊外から外れると暮らし続けるのは厳しい
- ✓過疎地域で孤立していたり、交通の便が悪い
- ✓交通の便は良いように見えても実際使いにくい(階段がある、本数が少ないなど)
- ✓今後は高齢者が働ける環境の整備が必要である
- ✓近隣との付き合いが希薄である
- ✓高齢者が楽しめる施設が少ない
- ✓家庭環境により異なるので何とも言えないが、安全面と緊急時のフォローが家族とご近所等で助け合えるネットワークづくりができていないように思う

【施策コード／施策名】
2-2-2 高齢者福祉サービスの充実

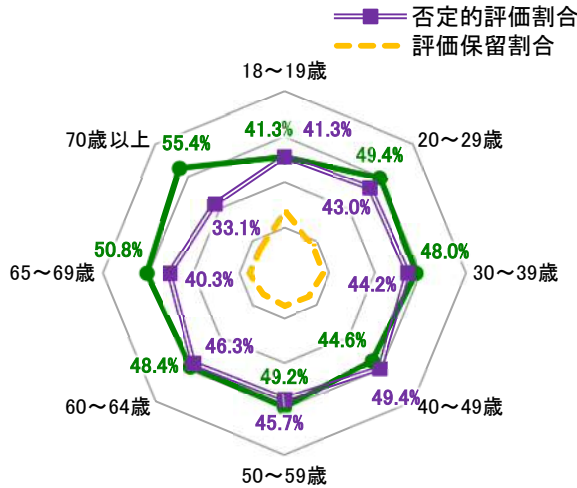
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ○ 【指標名】
ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている

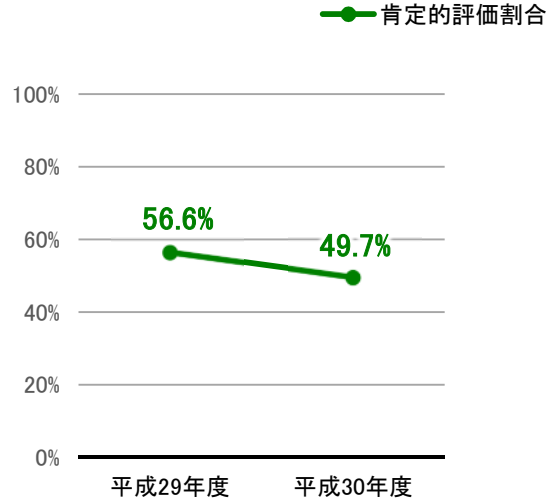
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	56.6%	49.7%
否定的評価割合	34.9%	42.3%
評価保留割合	6.0%	5.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	52.5%	
平均値 (H29～30)		53.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓必要な時には手助けするよう努めている
- ✓先日電車の席を譲った
- ✓必要な時には手助けするよう努めている
- ✓自分の家族も含め必要な時には手助けしている
- ✓雪かきなどは協力している
- ✓将来、自分も助けてもらうことになる
- ✓一人暮らしの高齢者の方にはできるだけ声掛けしたりしている
- ✓声をかけられたときは手助けをしている
- ✓隣組や地域の人と、できる限りコミュニケーションをとっている
- ✓一人暮らしの老人に対して新聞や部屋の明かりを確認したり、進んで声を掛けたりしている
- ✓近所の高齢者への支援は当たり前のこととしている
- ✓近所付き合いが少ない
- ✓福祉活動において心掛けている
- ✓声掛けやあいさつ、ゴミ出し等組で協力している
- ✓福祉の役員をしている
- ✓民生委員としていつも心がけている
- ✓デイサービスでドライバー兼介護の仕事をしているので気になる
- ✓見守り・支え合いを地域に広げる活動に取り組んでいる。またそのために高齢者に対する手助けは当然行っているつもりである
- ✓サロン事業などで話したり聴いたりとか、道でお会いしたら必ず声掛けしている
- ✓お助け隊(ウルトラ隊)を結成して手助けしている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓該当者がいない
- ✓触れ合う機会がない
- ✓近所に高齢者がいるかわからない
- ✓対象者がいない
- ✓声がかかれれば手助けしたい
- ✓自分の親のことで精いっぱいである
- ✓そもそも顔も名前も知らない
- ✓賃貸マンションなので近所付き合いがない
- ✓見守りはするが、手助けを必要とすることはない
- ✓アパートなのでそこまでの付き合いがない
- ✓頼まれたり、お願いされたりすれば協力はするが、自分から積極的に行動はしない
- ✓受け入れてくれる方はしやすいが、拒否する方は困難である

【施策コード／施策名】
2-3-1 障害者(児)福祉の充実

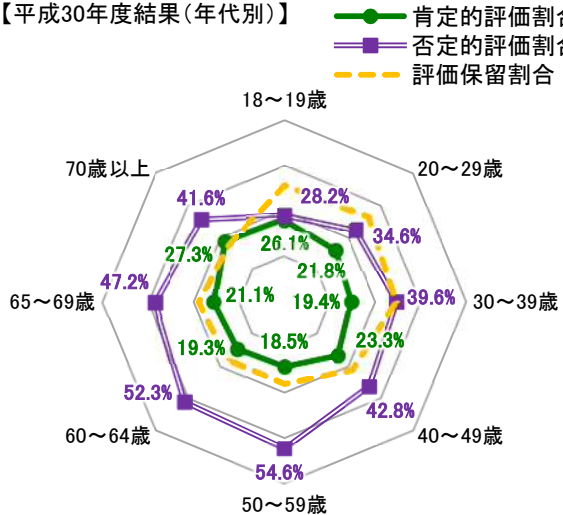
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ● 【指標名】
障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている

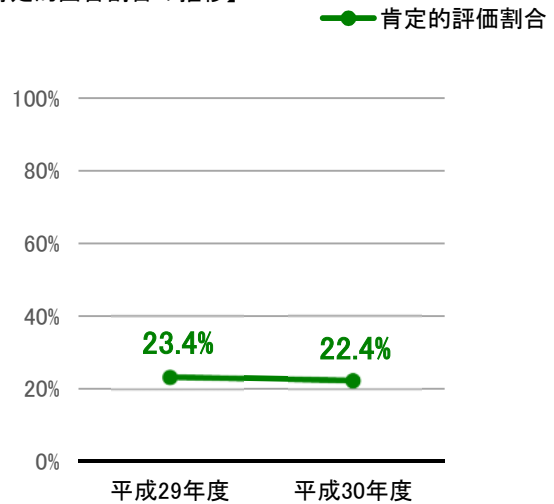
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	23.4%	22.4%
否定的評価割合	45.9%	44.8%
評価保留割合	28.6%	29.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	26.7%	
平均値(H29~30)		22.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

✓バリアフリーが多く見られる
✓障害を持つ人向けのサービスなどが整っているように思う

【年齢区分】

19歳以下

【モニターの主な否定的意見】

✓障害者用の設備が少ない

✓障害者向けのサービスを目にする

20~29歳

✓バリアフリーなど整っていない施設も多い
✓学校も少なく遠くから通わなければならない
✓発達障害の息子がいて、放課後デイなど利用しているが、法人の会費や活動費などがとても高い
✓公共交通が整っていない
✓障害者の方々が社会に出たいと思わせるような施設や指導、相談できる環境が少ない。採用してくれる企業はあっても、そこに行き着くまでのメンタル面や技術面での不安を解消できるともっと環境が整ってくると思う
✓歩道が整備されていない危険な場所が多い

✓駅前などは徐々に環境が整備されてきている
✓ヘルパーなどがある

30~39歳

✓バリアフリーなどのハード面だけでなく職員や店員対応などのソフト面でも整っている
✓就労支援等、ある程度充実していると思われる
✓中心市街地は良いとおもう
✓制度がしっかりしているように感じる
✓障がい者が普通に生活している

40~49歳

✓障がいのある子どもを小学校へ送ってくれるサービスがなかなかない
✓市街地では少しずつ環境が整いはじめているが、郊外では全く環境が悪い
✓車いすで外出するとスロープが設置されていても急角度すぎて利用できない場所が多い
✓障がい者に対する健常者の意識が低い気がする

✓公共施設のバリアフリー化が進んでいる
✓障害者に手厚い制度が多い

50~59歳

✓視覚障害者用の誘導ブロックがはがれている、取れている、割れている道路がある
✓道路状況が悪い。職場が充実していない

✓障害者の支援は充実していると感じる

60~64歳

✓障害者一人ひとりの状況の把握が必要である
✓障害者用トイレの整備が遅れている

✓近くに施設があり、通っている人をよく見るし、元氣そうである

65~69歳

✓周りの理解が十分ではない
✓市営住宅の上階は上り下りに支障がある

✓お互いに気を遣ってくれて助けてくれることがある

70歳以上

✓障害者向けのトイレの少なさや、目が不自由な方のための案内がまだまだ不足していると感じる
✓道路環境が悪く、車いすでの移動が困難に感じられる

【施策コード／施策名】
2-3-1 障害者(児)福祉の充実

【担当部局】
保健福祉部


【区分】

【指標名】

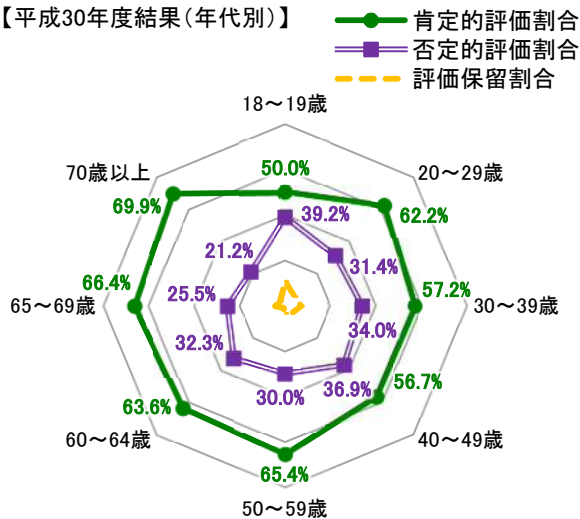
○

障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようになっている

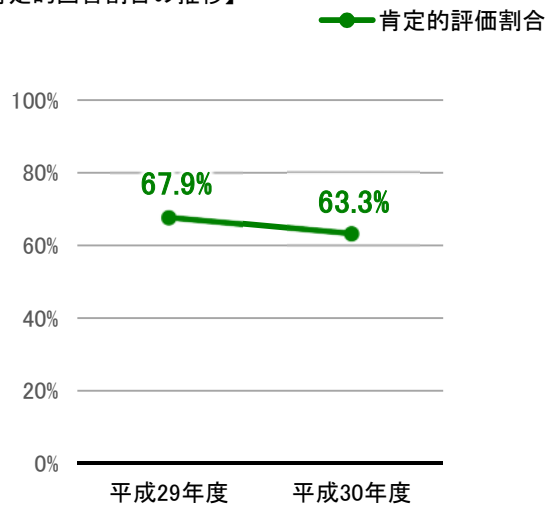
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	67.9%	63.3%
否定的評価割合	24.9%	29.5%
評価保留割合	4.9%	3.9%

現状値 (H28)	目標 (H33)	65.2%	
平均値(H29～30)		65.6%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓気にはかけはするが、手助けが本当に必要か判断できないことが多い
- ✓人として当然のことである
- ✓家族に障がい者がいるので気にかけている
- ✓気にはしているが、出会う場面がない
- ✓将来、自分も助けてもらうことになる
- ✓お互い様だから出来る限りしている
- ✓手助けが必要な時には積極的に声を掛けるようになっている
- ✓多目的トイレの優先、車椅子の手助けなど、様子を見ながら声をかけるようになっている
- ✓車椅子の操作など、危険がないよう気にかけている
- ✓介護士なので、活かせる力は提供したい
- ✓困っているときは声をかけたいと思っている
- ✓障害者の講習会へ参加している
- ✓福祉推進員の役員として心掛けている
- ✓介護士なので、活かせる力は提供したい
- ✓福祉関係の仕事に就いている関係上、自然と目が行く
- ✓声を掛けて、現場まで案内したり、ドアの開閉、安全の確認をしたりしている
- ✓常に気にかけているが、実践に当たってはどの程度対応できるか不安がある
- ✓デイサービスでドライバー兼介護の仕事をしているので気になる
- ✓ご近所には該当する人はいないが、もしあれば気に掛けていると思う。又、街中などでも困っているような人がいれば可能な限り、手助けするように心がけている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓意識がない
- ✓何もしていない
- ✓あまり意識していない
- ✓あまり積極的には声をかけられていない
- ✓障害者の必要な支援は本当に個人差があるので、気にしても仕方ない
- ✓手伝いが不要なのか、手伝って欲しいのかわからない
- ✓手助けをしたいとは思っているが、行動に移す勇気がない
- ✓関心がない
- ✓あまり機会がない
- ✓接し方が予想できるときぐらいしかできない
- ✓逆に迷惑になるので手助けはあまりしない
- ✓見守りはするが、手助けを必要とする事はない
- ✓どう対応すればいいか悩む
- ✓ニーズがあまりない
- ✓気持ちはあっても行動のきっかけがない
- ✓障害がある人も個性ととらえる傾向があるので今の時代は、関係ないように感じている
- ✓気にはしているが、機会が少ない
- ✓対象が身近に存在しない
- ✓声をかけることがためらう

【施策コード／施策名】
2-3-2 認め合い、支え合い、活かす合う地域社会の実現

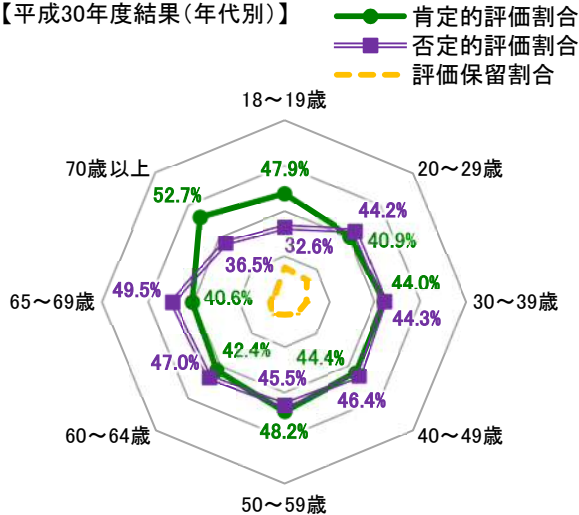
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ● 【指標名】
ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている

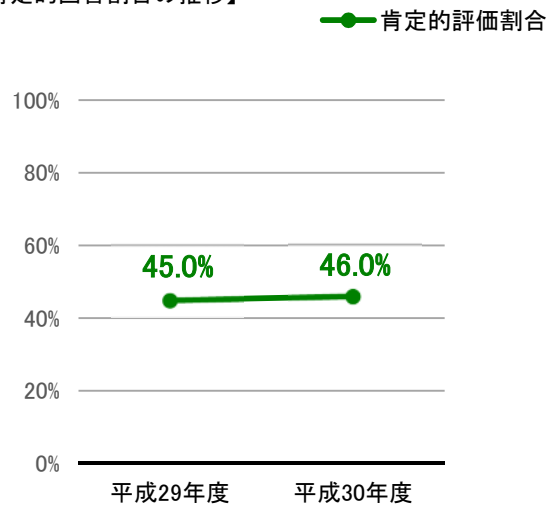
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	45.0%	46.0%
否定的評価割合	45.5%	43.9%
評価保留割合	7.8%	7.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	49.7%	
平均値 (H29～30)		45.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓助けられることが多い ✓近所付き合いで良好な関係を築いている 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓近所の交流があまりない
<ul style="list-style-type: none"> ✓隣近所の人とは接している 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓アパート住まいだが、近所と交流がない ✓関わると余計なことになると思っている
<ul style="list-style-type: none"> ✓普段から近所の方との交流があるのでそう感じる ✓昔ほどふれあいは無くなったがある程度保たれている ✓学校関係などで知り合いが増えると支え合いが多くなったように感じるが、未就園児を抱えていたときはあまり助け合いを感じられなかった ✓挨拶を交わすなど交流がある 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓偏見が多い ✓市街地は人間関係が希薄になりつつあると思う ✓隣近所にどのような人が住んでいるか知らない ✓県営住宅に住んでいるが、欠陥住宅、貧困、高齢化、他国籍などの理由で日々に余裕がなく、他者を気にかける余裕がない ✓冷たい人が多い
<ul style="list-style-type: none"> ✓近所で様々なことを話して、コミュニケーションがとれている ✓困っていたらいつも助け合っている ✓地区、育成会など連携している ✓顔を合わせれば話し、連絡先も知っている ✓かろうじて地域共同体が維持されていると思う 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓街中になるほど隣人との関係が希薄になる ✓隣や近所の人との交流がない ✓住宅が増えたため、新しく来た人がわからない ✓挨拶はするが、交流はない
<ul style="list-style-type: none"> ✓コミュニケーションを密にとっている ✓隣組のイベントがある ✓隣同士ある程度協力している 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓田舎は近所付き合いが密だが、アパートやマンションが多い地域は付き合いがあまりない ✓近所に対してはプライバシーの問題が優先されるのであまり深く関わることができない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ご近所同士の交流を通じてのお互い助け合える体制がある ✓都市部よりはましである 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓アパートなので付き合いがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓深い付き合いはないが声かけがある 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓相互信頼が築かれていないので困難である ✓特に平坦部では人間関係の希薄化が進んでいる ✓近所でも知らない人が多い
<ul style="list-style-type: none"> ✓お助け隊(ウルトラ隊)の結成など地域が動き出している ✓声をかけるとすぐに対応してくれる、気を遣ってくれる近所である ✓近隣の人間関係が深い 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓人との関わりを好まない人が多くなってきている

【施策コード／施策名】
2-3-2 認め合い、支え合い、活かす合う地域社会の実現

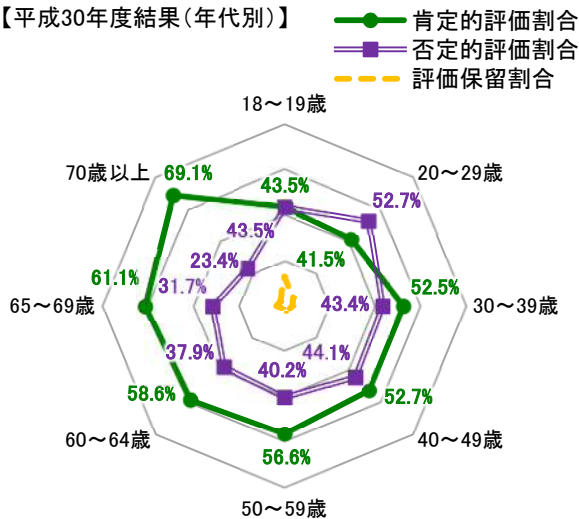
【担当部署】
保健福祉部

【区分】 ○ 【指標名】
ご近所同士で交流をし、困った時にお互いに助け合える関係を築こうとしている

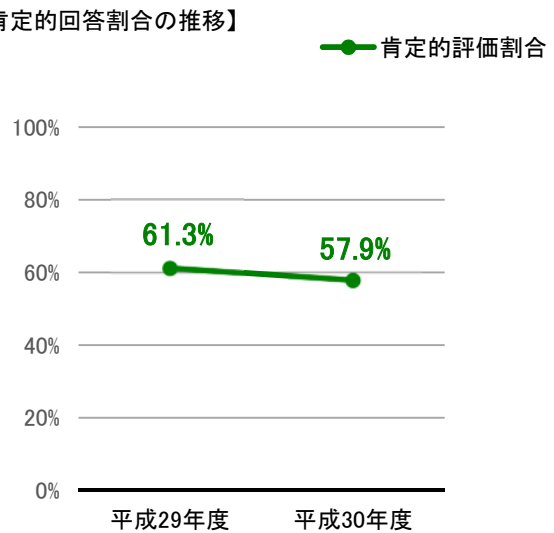
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	61.3%	57.9%
否定的評価割合	31.9%	36.7%
評価保留割合	4.8%	3.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	55.6%	↗
平均値 (H29～30)		59.6%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ご近所同士の関わり合いは大事にしている
- ✓良好な関係を築いている
- ✓積極的に話すようにしている
- ✓挨拶や会話は積極的にして、普段から関わりを持てるようにしている
- ✓ママ友との交流はある
- ✓地域のことなど、話すように心がけている
- ✓隣近所仲良くしている
- ✓声を掛け合ったり、あいさつをしたりしている
- ✓近所付き合いが多い
- ✓福祉活動において心掛けている
- ✓小規模のマンションなので、居住者同士の交流はできている
- ✓助け合いは大事だと常々感じているので心掛けている
- ✓行事には積極的に参加し、交流を深めている
- ✓声掛けあいさつをしている
- ✓地区活動には積極的である
- ✓今まさに地域で取組を進めているところであり、他の行政区に対しても助言や手助けをしていきたい
- ✓近所付き合いが地域福祉の原点と考え、色々な場面で話をするようにしている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓あまり交流することのない近所の人が増えてきた
- ✓アパート暮らしでご近所付き合いは希薄である
- ✓近所の交流がない
- ✓隣近所の人とは挨拶はするが、それ以上の関係性はない
- ✓近所付き合いが少ない
- ✓若い日本人だからなんでもやれといった高齢者が多くて、あまり関わらないようにしている
- ✓一人暮らしのため、恐怖感からできていない
- ✓本当は築きたいがきっかけがない
- ✓近所の交流はするが、助け合えるかどうかはわからない
- ✓関心がない
- ✓近所が信用できず、交流を深めようとしていない
- ✓交流はあるが、あまり立ち入ったことはしない
- ✓最低限の交流はあるが助け合う関係は築けていない
- ✓深い交流をしたくない
- ✓近所付き合いは極力避けている
- ✓アパートなのでそこまでの付き合いがない
- ✓交流は心掛けるも深い関係はできていない
- ✓他人に干渉したくない
- ✓交流があまりない
- ✓思ったことはあるが、実際には全くない

【施策コード／施策名】

2-3-3 生活の安定と自立への支援

【担当部局】


保健福祉部

【区分】

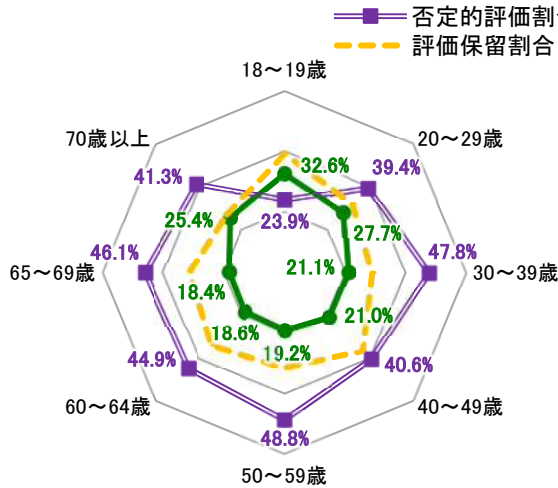
【指標名】

● 生活に困った時に相談できる体制が整っている

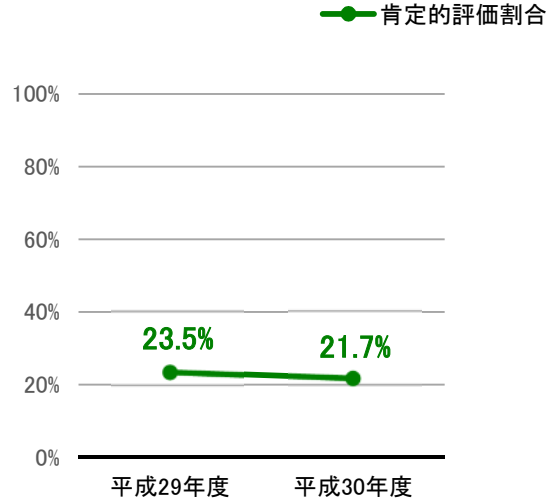
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	23.5%	21.7%
否定的評価割合	44.6%	43.8%
評価保留割合	30.0%	31.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	27.3%	
平均値(H29~30)		22.6%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓どこに相談したらよいか周知されつつある
- ✓窓口ができています
- ✓市役所に相談する人が多い印象がある
- ✓一応相談体制はある
- ✓市報など見ると充実していると思う
- ✓相談できる場所はある
- ✓行政に窓口があることを知っている
- ✓市、県の相談機関がある
- ✓市の広報を通して感じる
- ✓相談窓口は増えたと思うが、たらい回しにされることも多い
- ✓体制は整っているが困窮者がそこにたどり着くまでのつなぎ役(近所、民生委員他)が大事である
- ✓相談を受けて対応してくれる民生児童委員がいる

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓どこに相談するのか知らない
- ✓支援体制がないと思う
- ✓ワンストップで何でも相談できる場所が思い当たらない
- ✓相談するには敷居が高い気がする
- ✓市役所以外の相談窓口があるか分からない
- ✓社会福祉協議会で相談を行っているがとても冷たくあしらわれる
- ✓デリケートな内容だけに、もっと身近に相談できる場所がほしい
- ✓相談できる場所を知らない
- ✓相談窓口の広報が少ない
- ✓なかなか生活苦を他人に相談しにくい
- ✓民生委員は声掛けしているが困窮者がだんだん若くなってきている
- ✓どこに相談していいのかわからない人が多い
- ✓形はあるが親身に対応できるレベルにない
- ✓地域における相談窓口、体制が整っているとは思えない
- ✓昔の近所付き合いが希薄になっている
- ✓社会福祉協議会を中心に取り組んでいるが地域的に相談できる場所がない
- ✓気軽に相談しにくい
- ✓民生委員がどのように機能しているかよくわからない

【施策コード／施策名】
2-4-1 健康の保持・増進の支援

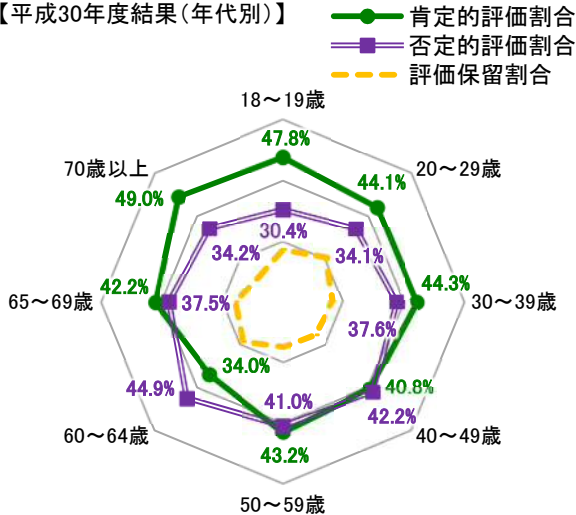
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ● 【指標名】
健康づくりに取り組みやすい環境が整っている

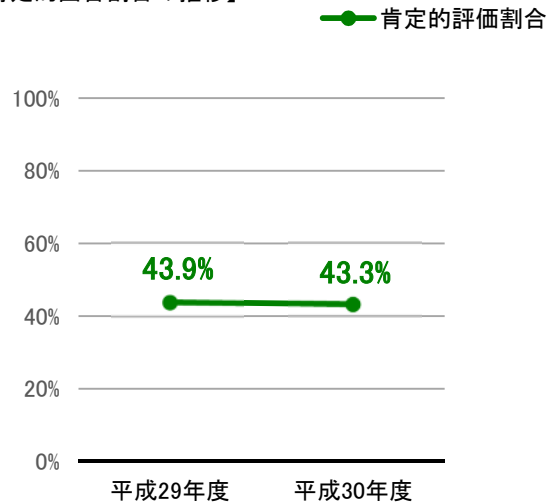
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	43.9%	43.3%
否定的評価割合	37.4%	38.6%
評価保留割合	16.9%	15.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	49.5%	↗
平均値(H29～30)		43.6%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓自然豊かで楽しく健康づくりができる環境だと思う
- ✓ジムや健康志向の食事を提供する店が多くなっている
- ✓カルチャー教室が充実している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳

【モニターの主な否定的意見】

- ✓運動できる場所が少ない
- ✓運動公園のようなものがもっと駅周辺にあればよい

- ✓運動している人をあちこちで見かける
- ✓健康カレンダーがある
- ✓広報や地区の回覧などでよく健康づくりの様々な教室などの呼びかけを目にする
- ✓公園や施設が充実している
- ✓体操教室など参加しやすい教室が身近にある

30～39歳

- ✓健康維持に補助等が少ないように感じる
- ✓大型ジムがオープンしたが、もう少し低価格の所があるとよい(市営のスポーツジムなど)
- ✓公園が多いわりには、運動するコースなどはないので、ランニングコースなどを作ってほしい
- ✓都心に比べ市で運営しているジムが少ない。そのような場所が整ってくると、年齢性別、障害に限らず運動をしたり個人でのトレーニングやリハビリをしたり、コミュニケーションができたりしてくると思う

- ✓体育施設は比較的身近に充実している
- ✓太極拳、ヨガ教室なども多く、広報でも食生活の見直しなど教えてもらえる
- ✓地域で健康診断や健康教室などが計画されている
- ✓大きい公園があり健康志向の人がたくさん集まるので刺激になる

40～49歳

- ✓高齢者向けの地域での取組はあるが、老若男女向けはほぼない
- ✓車社会であるが、仮に自転車や徒歩となると駐輪場もないし歩道の整備も中途半端である
- ✓窓口などのアピールが足りない
- ✓近くに無料や低価格で使える施設がない
- ✓健康診断の自己負担額が高い

- ✓体育施設が多い
- ✓自然環境や公園等の施設はある
- ✓市長が健康長寿に力を注いでいるのが見える
- ✓健康カレンダーが充実している
- ✓新しいサンマリーナも完成し、利用しようと思っいますが、利用料金が少し高いと感じる

50～59歳

- ✓費用がかかる

- ✓健康維持や予防のための講座・講習会が増えた

60～64歳

- ✓無料で気軽に行ける運動施設がない

- ✓各種団体が努力して取り組んでいる

65～69歳

- ✓各種団体が努力して取り組んでいる
- ✓高齢者向けの設備が整っていない

- ✓民間を中心にスポーツジムが増え、また市による運動施設が開設されるなど環境整備が進みつつある

70歳以上


- ✓近くない

【施策コード／施策名】
2-4-1 健康の保持・増進の支援

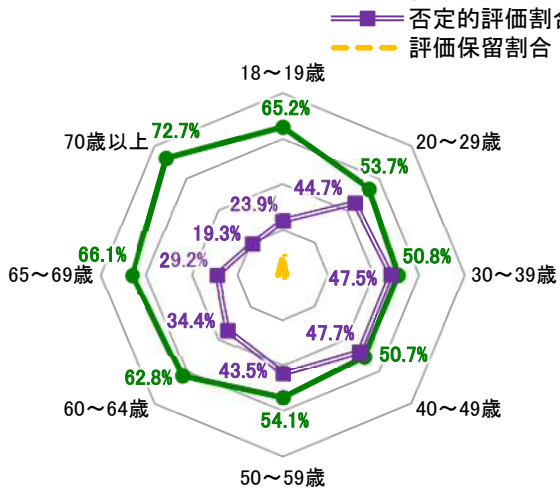
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ○ 【指標名】
健康づくりに継続的に取り組んでいる

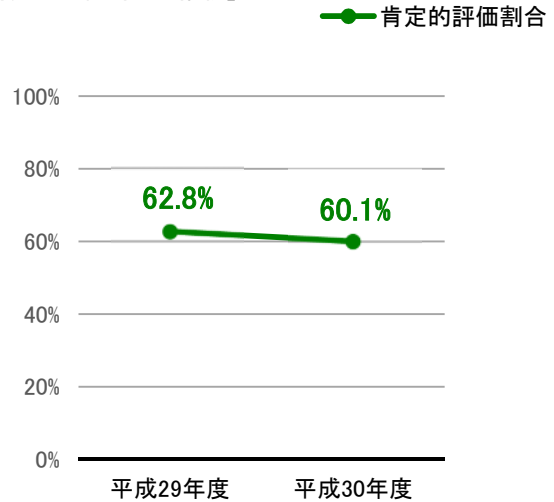
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	62.8%	60.1%
否定的評価割合	32.4%	35.9%
評価保留割合	2.7%	1.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	56.8%	
平均値 (H29～30)		61.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓健康は意識している
- ✓通学にはなるべく自転車を使うようにするなどのことを心掛けている
- ✓電車通勤で乗り換え時間があるときは歩いて帰る
- ✓食事や運動には気を使っている
- ✓子育て中だが、意識的に体を動かしている
- ✓スポーツジムに通っている
- ✓カロリーを意識した食事と適度な運動をしている
- ✓ヨガなどの教室に参加している
- ✓地域でスポーツサークルに入って交流している
- ✓ジムで汗を流すことを習慣にしている、食べ物に気を使っている
- ✓ウォーキングや体作りに日々心がけている
- ✓職場へはお弁当を持参し、野菜果物を多くとり毎日運動している
- ✓自身や子供たちのスポーツ指導に参画している
- ✓車を使用せず、なるべく歩くようにしている
- ✓定期的に運動をしている
- ✓人間ドッグを毎年受診している
- ✓ラジオ体操、健康教室に通っている
- ✓ジムに通って体力を整えている
- ✓毎日のラジオ体操、ウォーキングを欠かさない
- ✓定期的にジムに通って体力作りをしている
- ✓食事や体を動かすことを意識して生活している
- ✓心身の健康が大事であると思い、シニア大学で勉強したり講演会やら音楽鑑賞で向上心と心に潤いを与え、体力面では年齢に応じた太極拳を3年前にはじめたり、とにかく結果は求めずに積極的に行動することに意義を求めて活動している
- ✓積極的に健康塾を開設し、率先垂範し高齢者に喜んでもらっている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓あまり何もやっていない
- ✓あまり運動していない
- ✓仕事が夜勤業務で日々の体力回復で精一杯である
- ✓時間がなくジムを辞めてしまった。安価で24時間やっているような場所が近くにあればいいと思う
- ✓やらなければならないと思うが行動にうつせない
- ✓忙しすぎて時間が取れない
- ✓通勤に自転車を利用している程度で、運動不足気味である
- ✓犬の散歩くらいしかしていない
- ✓現在は取り組んでいないが、定年後は積極的に取り組みたい
- ✓余裕がない
- ✓日々の生活に精いっぱい余裕がない
- ✓年齢からくる不調に対する対応は不十分である
- ✓健康づくりはできていないが、健康的に過ごそうとはしている


【施策コード／施策名】
2-4-2 保健衛生の充実

【担当部局】
保健福祉部

【区分】 【指標名】

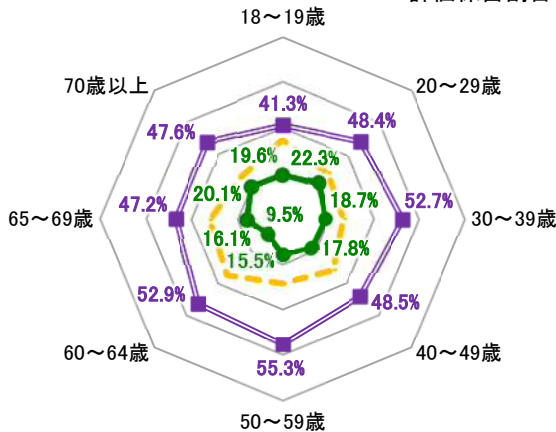
● 不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	17.8%	17.4%
否定的評価割合	51.7%	50.1%
評価保留割合	28.5%	29.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	21.7%	
平均値(H29～30)		17.6%	

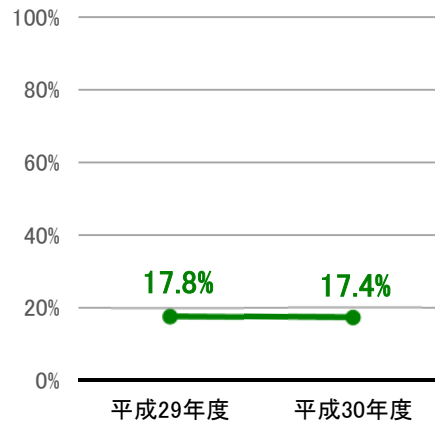
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


<ul style="list-style-type: none"> ✓相談のためのホットラインがある ✓カウンセラーが充実している 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓あまり関わる機会がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓心療内科に通っている 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓相談窓口が相談できる時間にやっていない ✓誰に相談していいかわからない
<ul style="list-style-type: none"> ✓身近な人に相談しにくい内容については、市でも無料相談会など開いているため心強く感じる 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓相談できる窓口が思い当たらない ✓傾聴電話などもあるが、忙しい対応である ✓相談するには勇気がいる ✓信頼できる人がいない ✓心療内科は、本当に予約が取れない。民間や市の相談だと時間的に難しかったりする ✓心療内科以外、どこに相談してよいかわかりにくい。休診日も探さないとわからないのもっと周知してほしい
<ul style="list-style-type: none"> ✓市報など見ると相談できる様々な体制がある ✓周りに友達が沢山いる 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓どんなストレスで、どこへ相談すべきかわからない。指針があってもよいと思う ✓第三者になかなか相談できないし、話しても解決しないとされている ✓不安やストレスくらいでは相談しづらい ✓デリケートな内容だけに、もっと身近に相談できる場所がほしい ✓相談窓口にたどり着くまでに時間がかかる
<ul style="list-style-type: none"> ✓市、県の相談機関がある ✓広報紙に相談窓口の案内がある 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓どこに相談したらいいかわからない ✓相談窓口の広報が少ない ✓相談体制の環境整備に真剣に取り組むべきだと思う
<ul style="list-style-type: none"> ✓公共(役所や保健所)の相談窓口(電話も可)がある。ケアマネジャーが親身に対応してくれる 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓気軽に相談できる優秀な人材がいないように感じる ✓どこに相談すべきかわからない
	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓形はあるが親身に対応できるレベルにない ✓精神的な問題についての対応はまだ不十分である
<ul style="list-style-type: none"> ✓不安がある場合には快くアドバイスをしてくれる 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓全くわからない

【施策コード／施策名】
2-4-2 保健衛生の充実

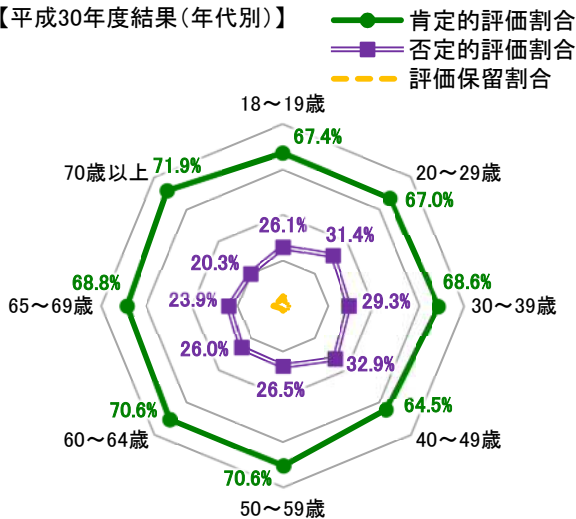
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ○ 【指標名】
不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている

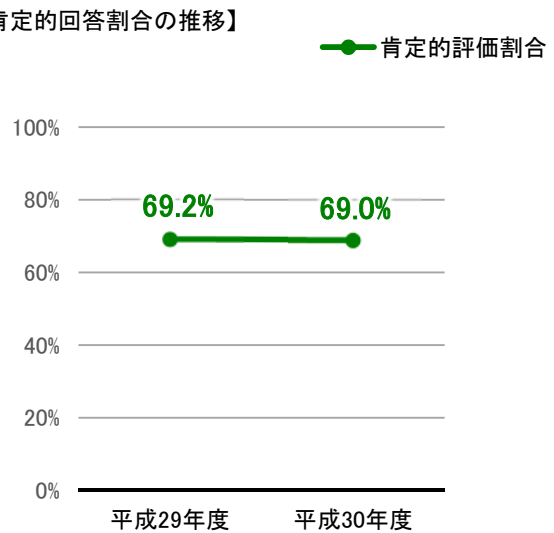
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	69.2%	69.0%
否定的評価割合	25.0%	26.4%
評価保留割合	3.4%	2.3%

現状値 (H28)	目標 (H33)	64.8%	
平均値 (H29～30)		69.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ 周りに相談している
- ✓ 一人で考え込むタイプである
- ✓ 色々な人に相談している
- ✓ 仕事の愚痴は職場の先輩に話している
- ✓ 適宜、ストレスを発散できる環境にある
- ✓ 気持ちを切り替える努力をしている
- ✓ 家族や友人に相談している
- ✓ 前向きに考えている
- ✓ 医療機関を受診している
- ✓ 家族同士でなんでも話せる環境である
- ✓ 定期的に仲間と交流している
- ✓ 趣味などでストレス解消を行っている
- ✓ 友人と定期的に会い、話し合えるような機会を作っている
- ✓ 友人や職場の同僚に相談したり、専門機関とも繋がっている
- ✓ 友達に相談するようにしている
- ✓ ジムに通って整えている
- ✓ ストレスはたまらない性格である
- ✓ 交流の場を大切にしている
- ✓ ストレスを感じない
- ✓ 努力をしているが、なくなるのが現実である
- ✓ ストレスは感じていない
- ✓ 物事を楽天的に考えるようにしている
- ✓ 家族に語り掛けようと努力している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓ 一人で考えるタイプである
- ✓ 人に相談することもありますが、基本的には発散口がない
- ✓ ストレスを感じるまでの悩みや不安などは人に言いつらいことがほとんどなので、抱え込むことが多い
- ✓ 信頼できる相手がいない
- ✓ 吐き出せる場所がない
- ✓ 相談できる場所がないので、自分で何とかしている
- ✓ 一人で考え込んでしまう
- ✓ 深く相談できる相手がいない
- ✓ 他人に相談するという思考回路がない
- ✓ 一人で抱え込むことが多い
- ✓ 他人に話したくない
- ✓ 自分の中で消化している
- ✓ どちらかといえば一人で抱え込んでいる

【施策コード／施策名】
2-4-3 地域医療体制の充実

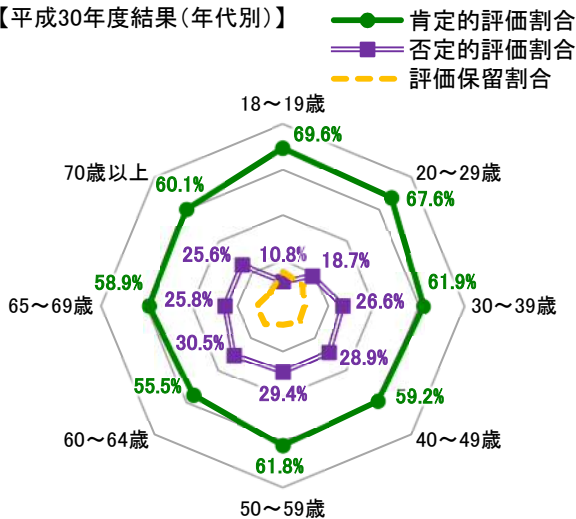
【担当部局】
保健福祉部

【区分】 ● 【指標名】
必要な医療サービスを受けられる体制が整っている

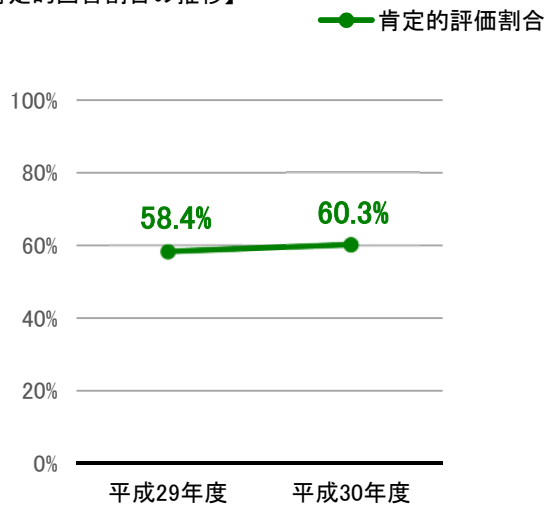
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	58.4%	60.3%
否定的評価割合	28.6%	26.9%
評価保留割合	11.0%	9.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	62.9%	
平均値 (H29～30)		59.4%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓医療施設が身近に多くあり、体制が整っているように思える
- ✓病院が多い
- ✓総合病院が多い
- ✓必要に応じた健康診断の案内や検診のお知らせが来る
- ✓夜間緊急がある
- ✓検診の案内などを多く見る
- ✓市民病院などは緊急でも対応してくれる
- ✓子供の医療費が安価で助かっている
- ✓医療施設の選択の幅は広い
- ✓市街地に住んでいるので、近くに必要サービスが整っている
- ✓個人医院から救急病院まで身近に存在する
- ✓病院が多くあり、夜間診療もされている
- ✓救急や消防も10分位で到着する体制と聞いている
- ✓日赤、厚生連、市民病院などの医療は県下でもトップクラスである
- ✓核となる病院を中心として、かかりつけ医意識も強くできている
- ✓地域内に医院、薬局等が多い
- ✓近隣に総合病院や個人開業医がそろっている
- ✓長野市の医療体制は優れている
- ✓かかりつけ医と大病院の役割が明確になっている
- ✓医療機関の大小はあるものの充足していると思うが、症状に応じた専門分野の医師を選択する情報が不足しているため、医療サービスの一環で情報提供を希望する

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓病院によって設備が違う
- ✓病院は時間がかかるし、医院でも大きい病院に行けと言われる
- ✓子ども医療費の支払い方法がよくない
- ✓特に感じていない
- ✓助成金が少ない
- ✓診療科によって地域に偏っている
- ✓高度な医療施設や専門的な病院が少ない
- ✓大きな病院の初診料付加金負担が重い
- ✓良い病院がない
- ✓総合病院でも、都会のような専門科は限られている
- ✓市民病院があるが交通の便が悪い
- ✓総合病院にかかりたくても、紹介状が必要である
- ✓評判のいい病院は待ち時間が長い
- ✓以前と変化なく個々人の選択肢は限られている
- ✓中心市街地は近隣に医者があるがその他はない

【施策コード／施策名】
2-4-3 地域医療体制の充実

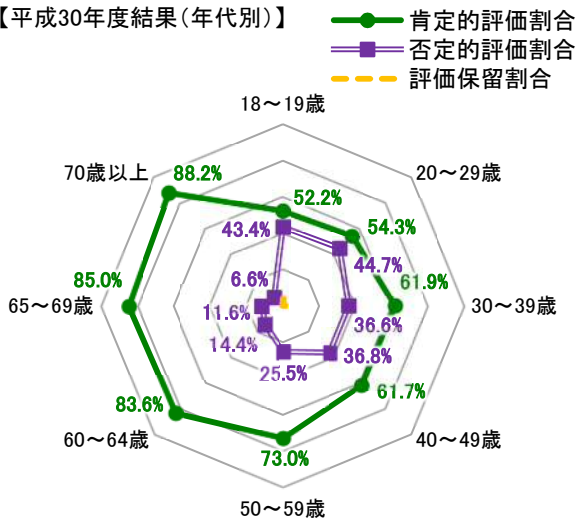
【担当部局】
保健福祉部

【区分】
○ 【指標名】
かかりつけ医がいる

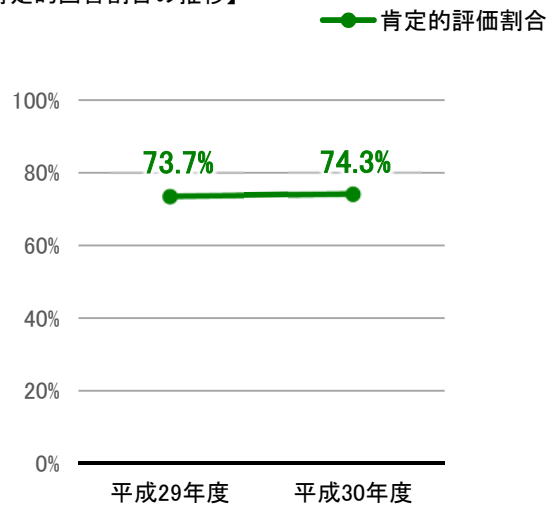
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	73.7%	74.3%
否定的評価割合	22.5%	22.9%
評価保留割合	1.8%	0.7%

現状値 (H28)	目標 (H33)	75.4%	➡
平均値 (H29～30)		74.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓いざというとき素早く対応することができる
- ✓安心できる
- ✓ほとんど病院にいかないが取り敢えずこと決めているところがある
- ✓近所の病院を調べて、よいと思ったところには通う
- ✓家族みんなかかりつけ医をもっている
- ✓定期的に通院している
- ✓持病があるので主治医がいる
- ✓毎年検診も積極的に受けるようにしている
- ✓病気になったときはもちろんだが、歯科なども定期的に健診を受けている
- ✓気になることがあったら相談し、大きな病院を紹介してもらっている
- ✓職場の産業医がいる
- ✓持病があるので、定期的に受診している
- ✓健康管理をしてもらえる
- ✓個人医院を利用している
- ✓信頼できるかかりつけ医がいる
- ✓生活している地域内の病院でお世話になっている
- ✓かかりつけ医院及びかかりつけ薬局もある

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓かかりつけ医はいない
- ✓医者にかかっていない
- ✓あまり病院にかかることがない
- ✓病気にかからない
- ✓どこに行けばよいかわからない
- ✓自宅、勤務先などの都合の良い地区で、都度選択している
- ✓引っ越したので確定していない
- ✓医者にかかる事が少ないし診療項目も有るので、かかりつけ医とまでは行かない
- ✓診療科による
- ✓色々な医療機関を利用しているため、まだかかりつけ医を絞れていない
- ✓受診は年1回くらいである
- ✓忙しすぎて相談時間がとれない
- ✓今のところ大きな病気をしていないこともあり、特にかかりつけ医はいないが、今後検討していきたい(良いかかりつけ医の見分け方などここでレクチャーしてもらえるとありがたい)

【施策コード／施策名】

2-5-1 人権尊重社会の実現

【担当部局】


地域・市民生活部

【区分】

【指標名】

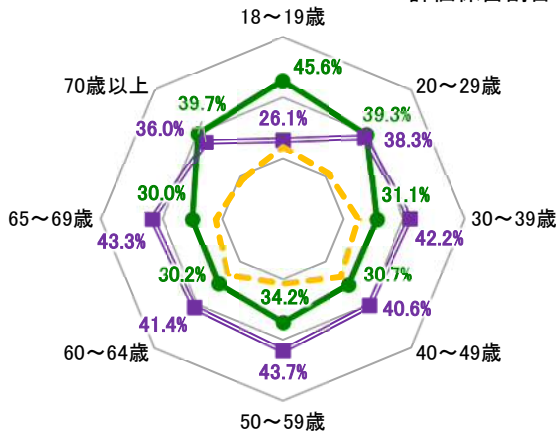
● 互いの個性や立場を尊重し合える地域である

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	34.5%	34.2%
否定的評価割合	40.2%	40.3%
評価保留割合	23.3%	22.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	40.7%	
平均値(H29~30)		34.4%	

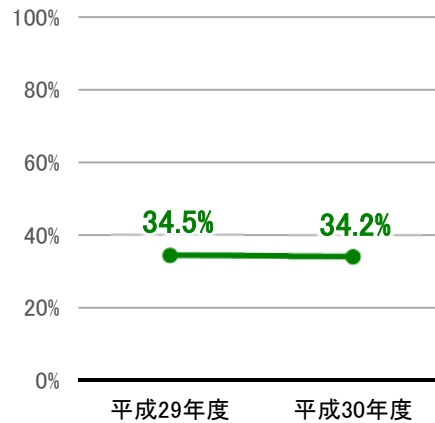
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

- ✓ 他人の個性を尊重するようにと教えられている
- ✓ 互いのことを尊重しあえる環境だと思う
- ✓ 特に個性や立場について何か言われたことはない
- ✓ 障害をかかえた方のイベントなどが開催されている
- ✓ 余計なことを言わない
- ✓ ある程度自由にやっていると思う
- ✓ 市街地には多様な人が暮らしているように思う
- ✓ 大きな問題や事件を耳にしない
- ✓ 交流は多いが押し付けはない
- ✓ 親しくなると良い関係が築ける
- ✓ 個性を否定するような閉鎖的な地域ではないと感じている
- ✓ 人権感覚を大切にしている市だと思う
- ✓ 尊重する機運は高まってきているような気がする
- ✓ 公民館の活動が活発である
- ✓ 市内中心部は良い
- ✓ 地域ではお互いが理解しあっているように感じられる

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上


- ✓ 機会がない
- ✓ 個性的な格好は受け入れられない
- ✓ 個性的な人があまりいない
- ✓ 若い世代は蔑ろにされがち
- ✓ 狭い世界観の中で生きているため開かれていないと感じる場面が多々ある
- ✓ 障害のある子の親ということで、周囲と馴染めないこともある
- ✓ 個性を尊重する風潮はない、やや保守的な地域である
- ✓ 他県や他市町村から来た人には冷たい
- ✓ 地域の絆が希薄になっていると感じる
- ✓ 地域での活動の中心はだいたい決まった人である
- ✓ 年寄りの意見が尊重される地域である
- ✓ 長野の高齢者は、自他を区別したがる傾向があると感じる
- ✓ 発信しているがなかなかむずかしい
- ✓ 差別があると思う
- ✓ 出る杭は打たれる、といったイメージが強い
- ✓ 新興住宅地で近所付き合いがない。他人に干渉しない暗黙のルールがある
- ✓ 引きこもりが多い
- ✓ 互いを尊重というより無関心層が多いと思う
- ✓ 個性を尊重するような風土がまだ醸成されていない

【施策コード／施策名】
2-5-1 人権尊重社会の実現

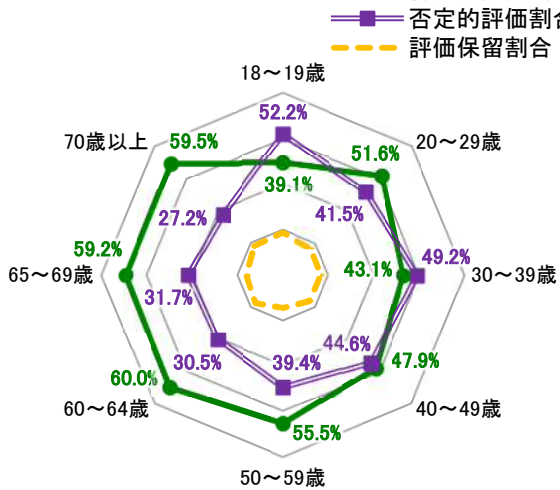
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ○ 【指標名】
人権問題について理解を深めようとしている

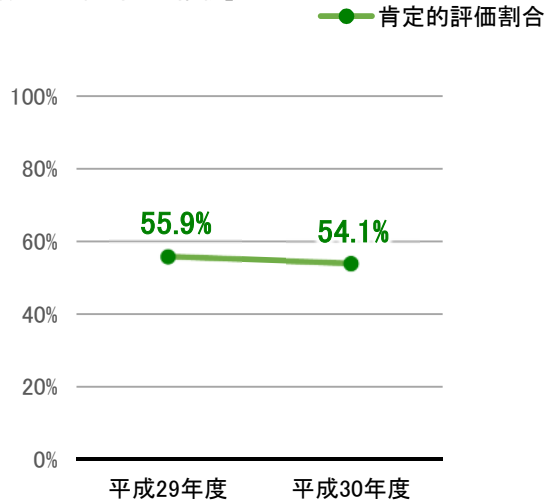
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	55.9%	54.1%
否定的評価割合	32.8%	36.9%
評価保留割合	8.8%	6.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	52.4%	
平均値 (H29～30)		55.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓授業などで人権問題について詳しく学んだ
- ✓人権教育が行われている
- ✓ニュースを見る
- ✓男女、年齢、出身、容姿、学歴、全てにおいて人と比べてるのが嫌いなので、一人の人として人権問題には大変興味があり、理解を深めようとしている
- ✓人として当然だと思う
- ✓人権問題には興味を持ち勉強している
- ✓職場でも人権教育は徹底している
- ✓誰とでも偏見なしに付き合うようにしている
- ✓自分の権利を守るには、他人の権利も守るべきだと思う
- ✓子どもの手本となるように心がけている
- ✓障がい者の親なので学習し伝えている
- ✓勉強会、研修会などに参加している
- ✓最近のニュース等を見て考えることがある
- ✓意識は常に持っている
- ✓人権研修会等に参加している
- ✓高齢になると価値観が変わり今まで見過ごした事が大事に思える
- ✓私自身長野市人権教育指導員として日夜取り組んでいる
- ✓セミナーに参加し、学んだことは文書化し地域の担い手と情報共有している
- ✓人権は生きていくうえで重要なことであるが、理解はしていても実践はまだまだである

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓理解を深めたいと思うが、具体的に行動していない
- ✓講習などあれば聞かすが、自分から調べようとは思わない
- ✓特に考えていない
- ✓積極的には活動していない
- ✓意識して考えていない
- ✓余裕がない
- ✓人権問題意識がない
- ✓機会がない
- ✓講座等に参加していない
- ✓関心がない
- ✓理解を深めようとしていない
- ✓わからない
- ✓深く考えていない
- ✓格差社会における人権を阻害する状況には何らかの改善が必要と感じる

【施策コード／施策名】
2-5-2 男女共同参画社会の実現

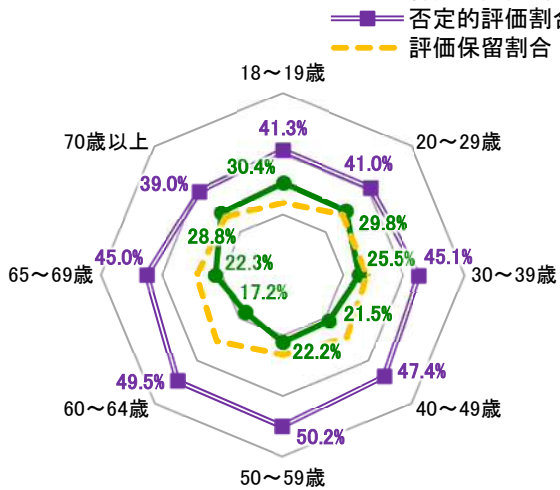
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ● 【指標名】
性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である

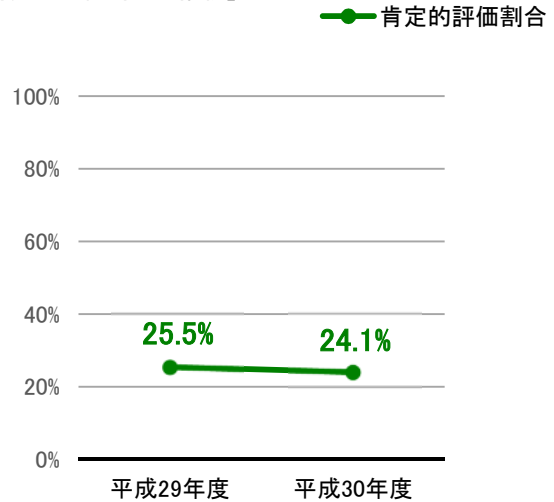
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	25.5%	24.1%
否定的評価割合	44.5%	45.1%
評価保留割合	28.1%	27.9%

現状値 (H28)	目標 (H33)	29.0%	
平均値 (H29～30)		24.8%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓性別による差別などが少ないと感じる
- ✓男女差は少ない
- ✓男女関係なく働いている人が多数いる
- ✓女性ならではの活動場所もある
- ✓男女平等であると感じる
- ✓性別にかかわらず仕事もできている
- ✓やる気さえあれば十分に可能だと思う

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓個性や能力を十分に活かす場がない
- ✓活かしきれていない部分が多くあると思う
- ✓結婚したてや、子どもができた際の働き先がない
- ✓都会に比べると、女性の活躍が少ないように思う
- ✓カルチャー教室や大勢が参加できる講演会、講習会、実演会などが増えたら、もっと夢を叶えたり能力を活かすことができる人が増えると思う
- ✓「女のくせに」というような発言がまだ根深くあると感じる
- ✓女性が働きにできるには、保育園、児童センターなど整備不足を感じる
- ✓以前の職場では女性の管理職が少なく、男性の保育士も圧倒的に少ないと感じる
- ✓男性と女性で待遇に差がある企業が存在する
- ✓まだ出産後の女性が再び活躍できる環境とは言い難い
- ✓田舎の方であったり、閉鎖的な地域の中では昔ながらの男女差を感じることもある
- ✓古い習慣があり男女の差別を感じる
- ✓上に立つ人が意見を聞き入れずモノを言えない地域となっている
- ✓まだまだ女性が自治会の役員となる人が少ないので、女性ならではの能力が発揮されていない
- ✓よそ者に対しては閉鎖的である
- ✓議会の女性の進出が少ない
- ✓地域において活動する女性は多いが、団体の長に就く女性は少なく、いまだ男社会である
- ✓女性の社会進出などまだまだ足りない。地域によっては一昔前の体質が依然としてある
- ✓男女共同参画で呼びかけているが一部に限られている

【施策コード／施策名】
2-5-2 男女共同参画社会の実現

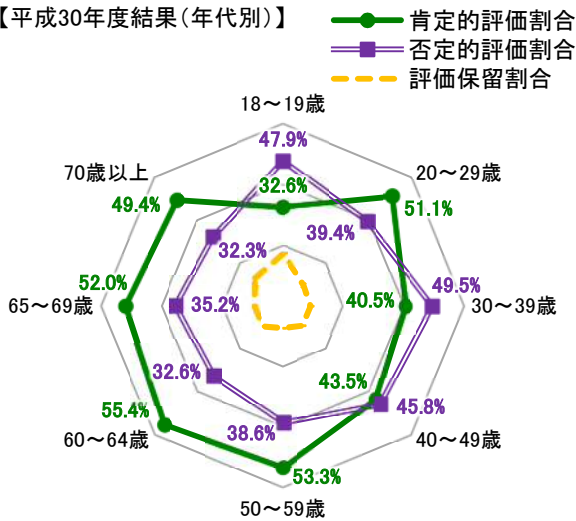
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ○ 【指標名】
男女共同参画について理解を深めようとしている

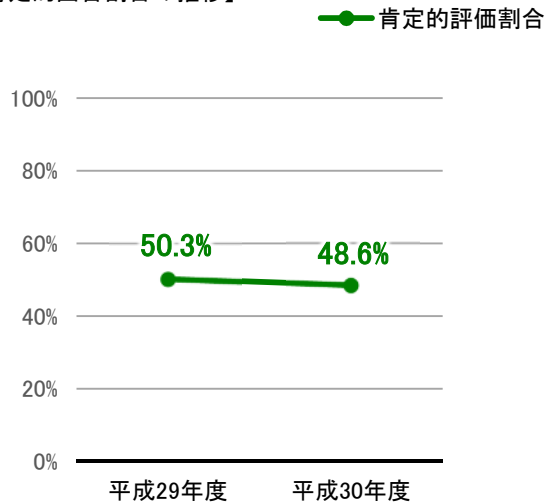
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	50.3%	48.6%
否定的評価割合	36.0%	38.8%
評価保留割合	11.4%	10.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	47.3%	
平均値 (H29～30)		49.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ これからの時代は、共同参画が重要になると考えている
- ✓ ニュースを見る
- ✓ 女性にも頑張れる場が必要である
- ✓ 社会と関わっていく中で理解を深めたい内容なので、情報に敏感でいたいと思っている
- ✓ 男女平等であるが男女差は感じる
- ✓ 学校教育で叩き込まれた
- ✓ 職場での教育が徹底している
- ✓ あまり男女差別の感覚がない
- ✓ 子どもの手本となるように心がけている
- ✓ 努めているが、周囲の偏見は多いと感じる
- ✓ これからは女性の視点が大切だと思う
- ✓ 役員をしているので講演会、セミナーに参加している
- ✓ 今年度も女性リーダー研修に参加している
- ✓ 関心がある
- ✓ 勤務先で関わっている
- ✓ 区の行事に参加するようにしている
- ✓ 関心があるが、現実はなかなか厳しい
- ✓ 男女差別なく地域活動にとりくんでおり、理解を深める必要性は感じたことがない
- ✓ 人権感覚が鈍らないように学習している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓ 特に考えたことはない
- ✓ 理解を深めたいと思うが、具体的に行動していない
- ✓ テレビで情報収集する程度である
- ✓ 機会がない
- ✓ 意識して考えていない
- ✓ 男女差で不満を感じるものがほほないし、お互いできることを、といった風潮が浸透してきた世代と思っている
- ✓ 仕事において男女平等が必ずしも成り立たないと感じている
- ✓ 何も行動できていない
- ✓ 理解を必要以上に深めようとはしていない
- ✓ 特別なことを行っていない
- ✓ 機会がない
- ✓ 女性の登用が少ない
- ✓ 特段のことはしていない
- ✓ 以前は積極的に行っていたが現在は活動していない

【施策コード／施策名】

【担当部局】

3-1-1 低炭素社会の実現

環境部

【区分】

【指標名】



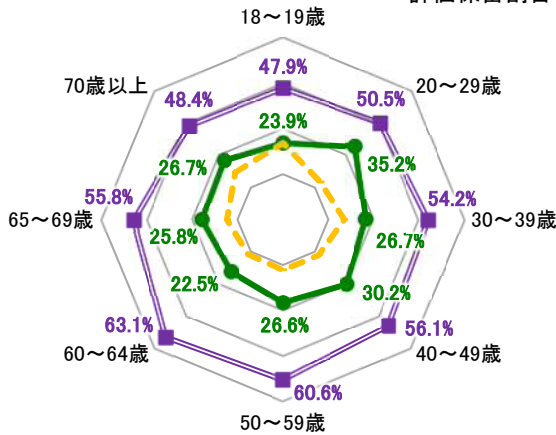
身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	37.0%	27.4%
否定的評価割合	54.6%	54.9%
評価保留割合	5.9%	14.9%

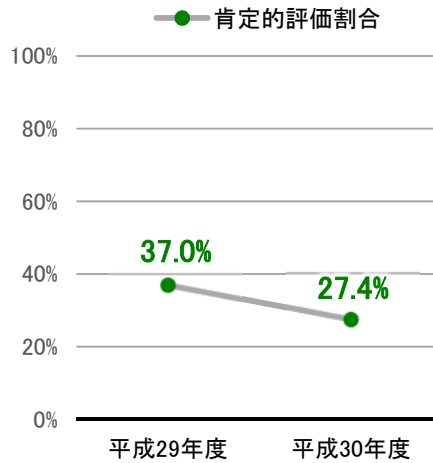
現状値 (H28)	目標 (H33)	27.4%	
平均値(H29~30)		31.2%	

【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
--- 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓太陽光パネル設置工事がすすみ、節電の呼びかけなども行われている

19歳以下

✓短い距離でも車で行く人がいる

✓バス専用レーンを設けるなど、公共交通機関の推進をしている

20~29歳

✓自動車がないと暮らしていけない
✓バスや電車の利用者数が少ないと感じている

✓太陽光発電がある家が多い
✓節電については普段の生活のなかで意識しているが、それ以外の取り組みは特に意識していない

30~39歳

✓自動車がないと生活できない
✓公共交通機関が少ない
✓設備投資にお金がかかり、進まない

✓太陽光パネルが増加している
✓夏場は意識も周知も薄れる傾向にあるが、夏場は努力していると思う

40~49歳

✓介護施設も年中、エアコンを使っており自然エネルギー導入には程遠い
✓つつい自家用車を使ってしまい、なかなか公共交通機関を利用しない

✓太陽光発電やハイブリッド車が増えている
✓ペットボトルや、新聞などのリサイクルは盛んである

50~59歳

✓太陽光利用のみをよく目にする
✓節約としては各自行っているが、温暖化対策としての意識があるかは疑問である

✓太陽光発電利用、車の暖気運転をしない人が増えた

60~64歳

✓自動車を利用しないと移動が難しい

✓新築、改築宅には太陽光発電を備える家庭が多い

65~69歳

✓交通(公共バス等)の利便性がいまひとつである
✓自動車での市内乗り込みが多くみられる

✓意識的に行動しようとしている

70歳以上

✓官公庁はじめ各企業では定量的な削減計画のもと組織的な取り組みをしているが、個人レベルでは意識に差があり取り組みにも個人差がある
✓太陽光発電の導入が少ない、マイカーを複数台所有している家庭が多い

✓公民館などの公共の場で行われている


✓太陽光発電は、少しずつ増加しているが、その他は改善が見られない
✓環境に関する住民意識が高いとは思えないしあまり話題にもならない
✓地域は高齢世帯が多く、再投資が難しい。自動車利用については環境が整わない

【施策コード／施策名】
3-1-1 低炭素社会の実現

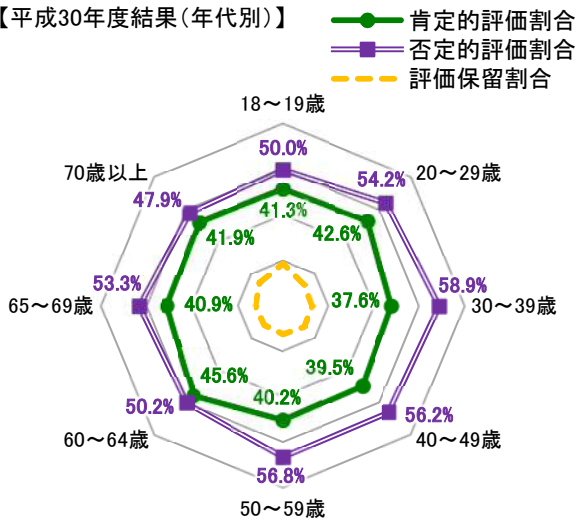
【担当部局】
環境部

【区分】 ○ 【指標名】 太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている

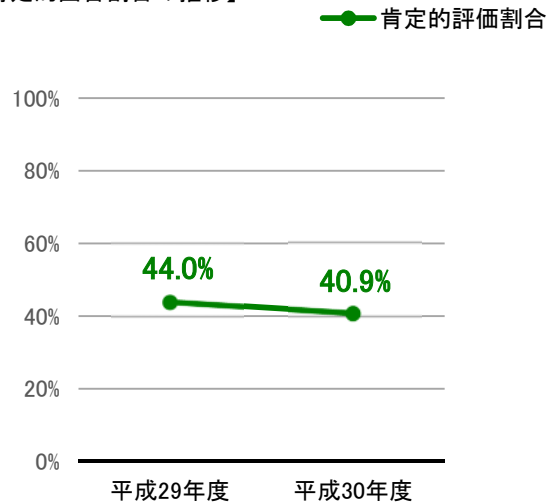
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	44.0%	40.9%
否定的評価割合	50.6%	53.4%
評価保留割合	3.2%	3.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	43.3%	
平均値 (H29～30)		42.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓太陽光利用を行っている
- ✓節電や節水を心がけて生活している
- ✓自動車に乗らない
- ✓車を持たず、自転車などで諸々を済ませている
- ✓バスを利用するように心がけている
- ✓近所はなるべく車を使わないようにしている
- ✓太陽光発電している
- ✓節電、節水などできることを取り組んでいる
- ✓会社がマイカー通勤を原則禁止にしている
- ✓通勤で公共交通機関を利用している
- ✓太陽光発電を利用している
- ✓雨水利用の導入なども実施している
- ✓節電や公共交通機関を利用している
- ✓歩いていかれる場所は、自動車を使わず歩いている
- ✓質素節約を心がけている
- ✓自家用車でなく公共交通機関を利用して通勤している
- ✓節電に心掛けている
- ✓太陽光発電を導入している
- ✓オール電化や排気ガス規制で高燃費化の車(ハイブリット車)の使用等は採用しているが定量的なとらえ方はしていない

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓短い距離でも車で行く人がいる
- ✓環境に悪いとはわかっているが我慢できない
- ✓自動車利用は可能な範囲で控えるようにしているが、十分ではない
- ✓節電のみ実施している
- ✓車がなければ仕事がない、通院もできない。タクシー、公共交通機関は高い
- ✓エコドライブのみ実施している
- ✓やりたい気持ちはあるが行動に結び付かない
- ✓設備投資にお金がかかる
- ✓車がないと生活できない
- ✓温室効果ガスを抑える心がけはしているが、利便性が優先することもある
- ✓特に心がけてはいない
- ✓エコロジーについて理解しきれていない
- ✓どうしても楽な方向に行ってしまう
- ✓自動車を利用せざるをえない
- ✓関心が低い
- ✓特に意識せず問題意識もあまりない

【施策コード／施策名】
3-1-2 循環型社会の実現

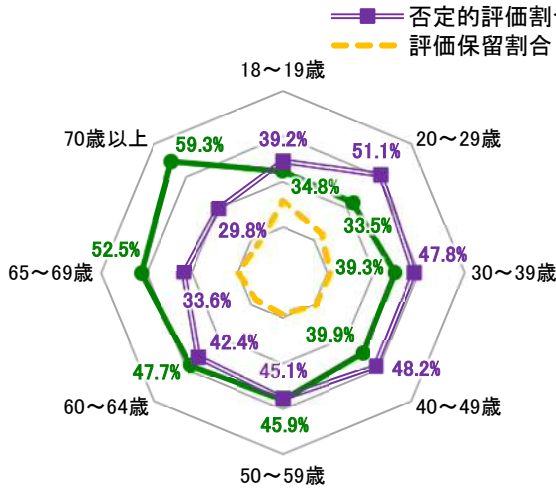
【担当部局】
環境部

【区分】 ● 【指標名】
身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている

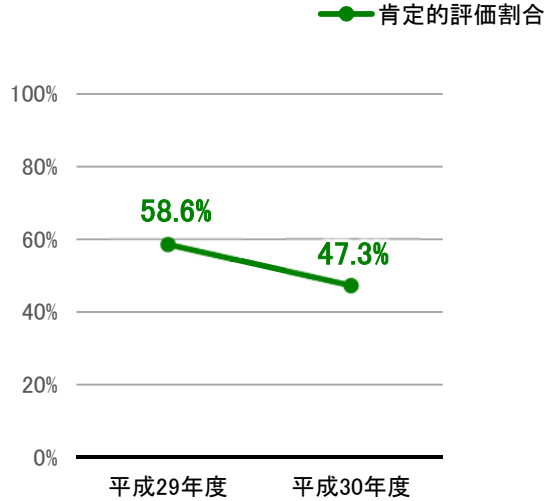
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	58.6%	47.3%
否定的評価割合	37.0%	41.0%
評価保留割合	3.2%	9.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	50.0%	
平均値 (H29～30)		53.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓家で生ごみ処理機を使っている
- ✓資源回収や分別の呼びかけなどが行われている
- ✓使えるものは限界まで使っている
- ✓お店などでリサイクルボックスが設置されている
- ✓過剰包装を控え、分別のしやすいものに変わってきた
- ✓フリマアプリなどが注目され再利用されているが、フリーマーケットが少なく、身近に誰でも参加できるイベントなどを増やしたらもっとゴミは減ると思う
- ✓会社で環境活動(ごみの分別含め)に取り組んでいる
- ✓生ごみは畑の肥料にしている
- ✓サンデーリサイクルなどのリサイクル活動が行われている
- ✓フードバンクなどのニュースをよく見かける
- ✓ゴミステーションの当番があり、地域で見守ったりリサイクル活動に積極的である
- ✓近所の畑でコンポストを設置しているのを見かける
- ✓地域の資源回収に積極的に参加している
- ✓ゴミの分別がルールに沿って自治会ごとに実施されている
- ✓資源回収が進んでいる
- ✓無駄に大量に買うことをしない
- ✓ゴミステーションの管理分別はよく出来ているが、収集の委託業者のマナーは良くない
- ✓スーパーでの資源回収が行われている
- ✓行政のPRや啓発が効果を上げている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

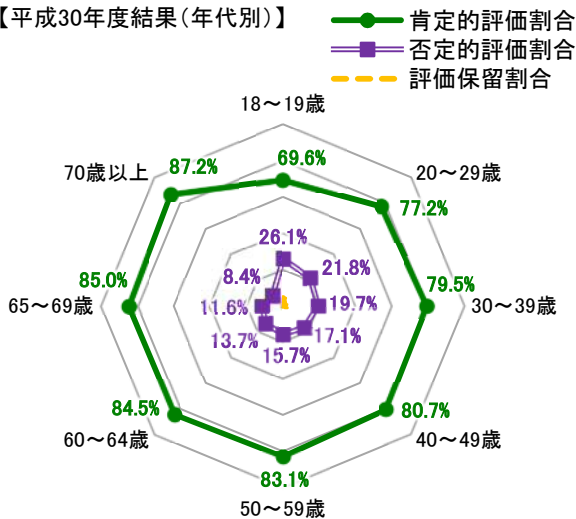
- ✓取組があまり見られない
- ✓過剰包装などはまだ多い
- ✓ゴミ捨てのマナーを守れない人がある
- ✓減らすようにはしているが、市が主体となつての活動は知らない
- ✓少子高齢化の人手不足で、廃品回収の頻度が少なくなった
- ✓給食の残飯が多い
- ✓ゴミは増える一方で、分別のマナーも悪くなった
- ✓ペットボトルなど環境問題につながる素材が減っているとは思えない
- ✓使う側よりも企業(売る側)の努力が必要だと考える
- ✓ゴミステーションはいつもいっぱいである
- ✓食品がまるごと捨てられているのを見かける
- ✓ごみの量が多い
- ✓啓蒙活動すら行われていない
- ✓食品のパッケージなど無駄が多い
- ✓食べ残しが多い
- ✓3010運動など叫ばれているが定着していない
- ✓可燃ゴミの量は減っていない
- ✓ごみ0の掛け声はよく聞くとこであるが、住民の意識はどうかかわからない

【区分】 ○ 【指標名】
食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している

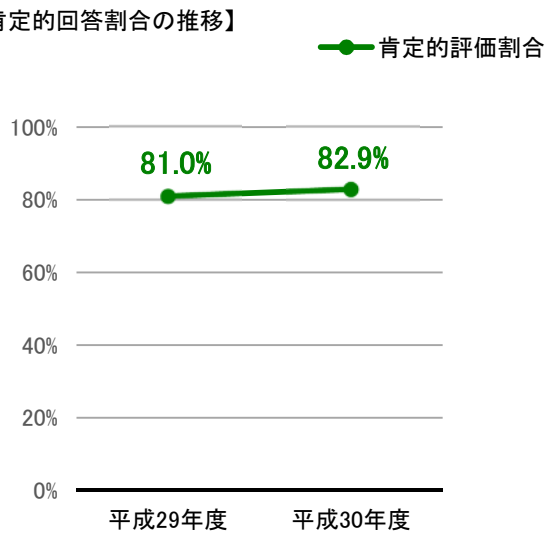
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	81.0%	82.9%
否定的評価割合	16.6%	14.5%
評価保留割合	0.7%	0.7%

現状値 (H28)	目標 (H33)	81.7%	➡
平均値(H29～30)		82.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓出されたものはなるべく食べきる、生ごみは堆肥にするなどのことをしている
- ✓ゴミをできるだけ出さないようにしている
- ✓食べ物を残さない
- ✓ごみを少なくしようと心がけている
- ✓賞味期限切れを起こさないよう気をつけている
- ✓まとめ買いをしないようにしている
- ✓不要なものは譲渡したり、ネットやアプリで販売したりして、できるだけゴミにならないようにしている
- ✓衝動買いや買いためをしないようにしている
- ✓ごみの減量は常に意識している
- ✓無駄な買い物はしないよう心掛けている
- ✓子どもにも食べ残しは良くないと指導している
- ✓野菜くずを家庭菜園へ利用している
- ✓3010運動をやっている
- ✓賞味期限が近づいた物を買うようにしている
- ✓こまめな買い物を心掛けている
- ✓ごみの分別をするように気をつけている
- ✓余分には買わない作らない
- ✓賞味期限に注意を払っている
- ✓分別や減量に気をつけている
- ✓消費期限、賞味期限に注意して無駄を出さないように心がけている
- ✓何でも好き嫌いなく食べる

【年齢区分】


- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

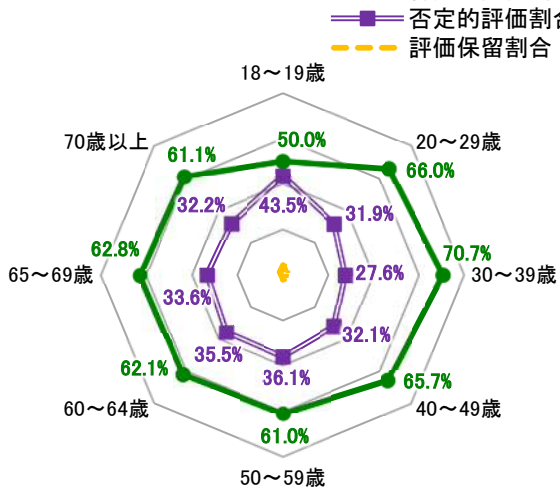
- ✓あまり気にしたことがない
- ✓最低限のことはしているが、それ以上は難しい
- ✓食品ロスが出てしまう
- ✓気を付けているができていない
- ✓生活を変えられない
- ✓普段でぎりぎり、これ以上できない
- ✓心がけてはいるが実際はごみの量は多いと思う
- ✓消費期限が過ぎることが多々ある
- ✓エコロジーについて理解しきれていない
- ✓一回に大量買うため、使い切れないことが多い。割引につられて買ってしまふ
- ✓夫婦二人暮らしで食品の無駄が多い
- ✓残すともったいないと思って食べてはいるが、ごみの節減という意識はあまりない

【区分】 ○ 【指標名】 使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる

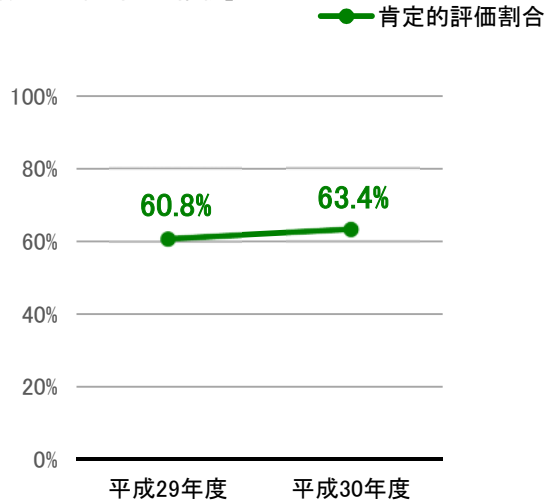
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	60.8%	63.4%
否定的評価割合	34.4%	33.0%
評価保留割合	2.8%	1.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	62.6%	
平均値 (H29～30)		62.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓新品を買う必要が無いものなどは修理したりすることが多い
- ✓再利用を心がけている
- ✓フリーマーケットに出したりしている
- ✓壊れたものはできるだけ修理する
- ✓フリマアプリの利用が増えた
- ✓フリマを活用している
- ✓リサイクルショップを多用している
- ✓子供の服や暫く使ってないものは人にあげている
- ✓リサイクルショップやフリマ、フリマアプリを活用している
- ✓廃材を利用しDIYを実践している
- ✓書籍購入は、ネットで中古の本を買うようにしている
- ✓買ったものは工夫してなるべく長く使うように心がけている
- ✓リユースを心がけている
- ✓使えるものはバザーに提供している
- ✓新しい物は購入せず、今あるもので代用できないかを考えている
- ✓購入の際、必要かどうかを検討している
- ✓使用しないものはリサイクルセンターへ持っていくようにしている
- ✓自分で使わなくなったものを利用してくれそうな方を探して譲っている
- ✓壊れたものはなるべく修理をしようと心がけている
- ✓使えるものは最後まで使うの精神で物を大切に使っている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓あまり取り組んでいない
- ✓譲り先がなく、修理が高つく
- ✓時間と手間が惜しい
- ✓再利用はかかってコストがかかる
- ✓寿命が来れば買い替える
- ✓特に行動していない
- ✓すぐに捨てたいと思う
- ✓手間がかかる
- ✓修理するより買った方が安い
- ✓リサイクルの機会がない
- ✓安全性の観点から、再利用が必要なのか疑問である
- ✓譲り合いはトラブルになる可能性も有るので個人同士では極力しない
- ✓再利用は難しい
- ✓他人が使ったものは使えない
- ✓故障したら買い替えの時代風潮にどうしても流される
- ✓大切に使うように心がけてはいるが、修理とか再利用はあまりしていない

【施策コード／施策名】
3-1-2 循環型社会の実現

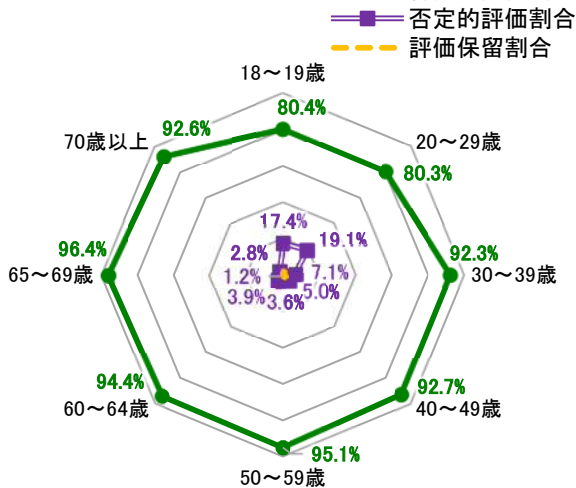
【担当部局】
環境部

【区分】 ○ 【指標名】
ごみの分別を徹底している

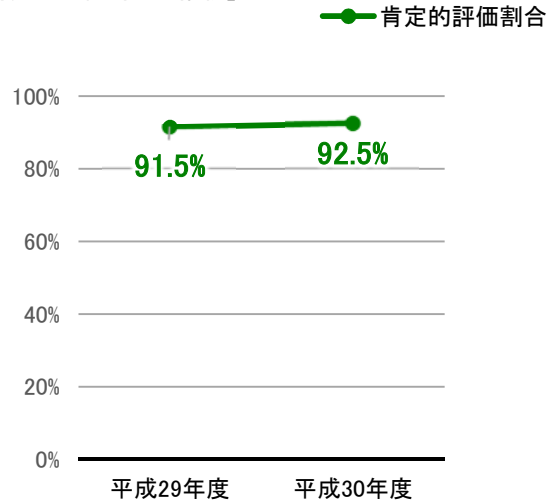
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	91.5%	92.5%
否定的評価割合	6.2%	5.0%
評価保留割合	0.7%	0.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	93.3%	➡
平均値(H29～30)		92.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓小、中学校で分別することの必要性をしっかりと学び、徹底している
- ✓徹底している
- ✓意識している
- ✓決められたことなので、しっかりと行っているが、時々どの分別に当てはまるのかわからないゴミがあるので困る
- ✓分別の判別が難しいときは、必ず調べてから出している
- ✓家庭、会社ともに分別している
- ✓わかる範囲で分別をしている
- ✓ペットボトルや古紙をポイントに交換している
- ✓なるべく資源になるものを分別している
- ✓廃品回収を行っている
- ✓毎月1回しかない資源ごみの日は不便なので、サンデーリサイクルを活用している。
- ✓長野市の決められた通りに分別している
- ✓自分の家から出るゴミはもちろん、地域のゴミ出しもできる限り指導している
- ✓台所以外の各部屋にも全て紙、プラ、可燃のごみ箱を置き徹底している
- ✓ゴミの分別は家族全員で徹底している
- ✓面倒に感じるが、それがゴミを出さない意識になる
- ✓家庭や職場で徹底している
- ✓ゴミ箱がそれぞれ違うので、自ずと分別して出している。資源ごみは、学校やスーパーに持っていき、リサイクルしてもらっている
- ✓きちんと守ることがマナーである
- ✓習慣として定着している
- ✓住んでいる地区は特に厳しく感じる
- ✓常日頃から気を付けている
- ✓長野市のごみ収集カレンダーなどのマニュアルに沿って分別・収集日を守り徹底している
- ✓長野市のごみカレンダーに基づいた分別は実行している

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

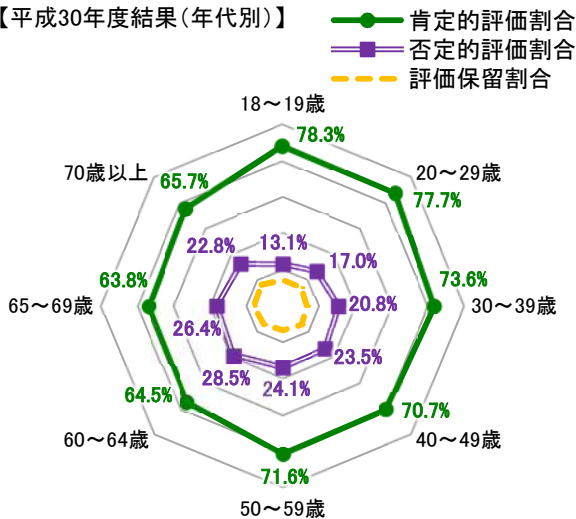
- 19歳以下
- 20～29歳 ✓していない
- 30～39歳
- 40～49歳 ✓心がけてはいるが、完璧ではない
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【区分】 ● 【指標名】
豊かな自然環境が保たれている

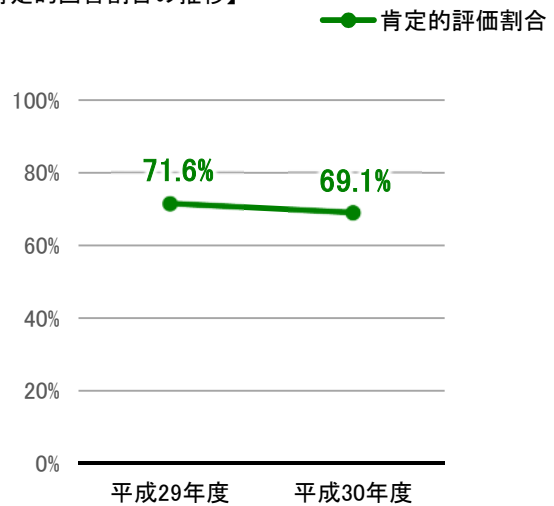
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	71.6%	69.1%
否定的評価割合	24.4%	23.3%
評価保留割合	2.3%	4.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	73.6%	➡
平均値 (H29～30)		70.4%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓自然が身近に残されている
- ✓山に囲まれていて、自然が豊かである
- ✓昔から景色が変わっていない
- ✓山や川は誇れる部分だと思う
- ✓自然は長野の誇りなので頑張っていきたい
- ✓会社の敷地内では環境美化に取り組んでいる
- ✓公園が充実している
- ✓河川清掃、ごみ拾いなどに参加し実感した
- ✓新しい開発もなく、自然が保たれていると思う
- ✓森林整備や、道路脇の樹木など綺麗に整えてある
- ✓水田や果樹畑が自宅の近くにたくさんある
- ✓山などの植樹の活動など聞きやすくなった
- ✓家の周りのほか、周辺地域にも緑が多い
- ✓他地域と比較すればそう言えるが、松が枯れた茶色の山々を見ると心配になる
- ✓長野市は緑も多く、建物を建てるにしても自然を生かした建築が多い
- ✓山はあれど、市街地での緑は、東京とかに比べると少ない
- ✓ペットボトルやマイクロチップが環境へ及ぼしている被害に関して憂う
- ✓街路樹が豊かだが、手入れが行き届いていない
- ✓自然環境だけは豊かだ
- ✓地域で年数回河川の掃除が行われている
- ✓充分すぎると感じる
- ✓市外の緑が多く良い場所だと感じているが、高齢化や過疎化によりどうなっていくのか心配はある
- ✓自然環境を破壊するような開発が少ない

【年齢区分】


- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

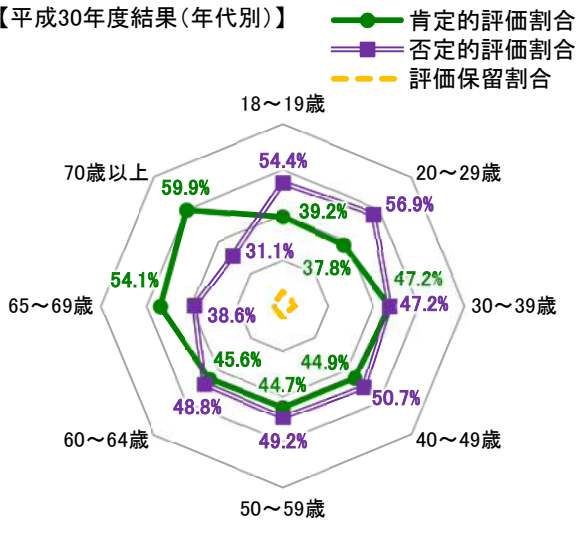
- ✓情報が無い
- ✓道路拡張工事が目立っている
- ✓農作放棄地が自然環境に悪い影響を及ぼしている
- ✓住宅地が増えた
- ✓森林整備されていないところが多い
- ✓浅川ダムなど自然を活かした取り組みが重視されていない
- ✓ポイ捨てが多い
- ✓神社や公園などはよいが、新しく建てた個人宅に庭がほとんどないのが気になる
- ✓外来植物が繁茂しており、本来の姿の緑でなくなっている
- ✓松くい虫の影響で松林が減っている
- ✓自然があるのが当たり前になっていて、それを保つという意識は低いと思う
- ✓保たれているのではなく、ほったらかしになっている所が多い
- ✓自然を学ぶ機会がない
- ✓高齢化等により山林などの整備ができていないため荒れている
- ✓自然保護に基づいた開発が必ずしも進んでいるとは思えない

【区分】 ○ 【指標名】 自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている

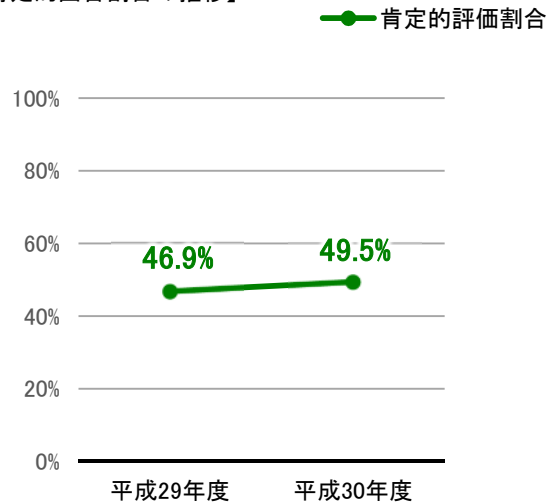
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	46.9%	49.5%
否定的評価割合	45.2%	43.8%
評価保留割合	5.7%	4.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	50.2%	
平均値 (H29～30)		48.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓所属している部活動や農作業を手伝う関係上、自然に触れることが多い
- ✓自然環境を破壊しない生活を意識している
- ✓山に登ったり、自然と触れ合ったりしている
- ✓自然について興味を持ち、環境負荷の少ない暮らしを心掛けている
- ✓自然環境に触れあう機会はたくさんあるが、学ぶ機会がない
- ✓身近な生き物について調べたり子ども向けのイベントなどに参加したりして注意して情報収集をしている
- ✓自然の大切さを子どもに伝えている
- ✓山のイベントや散策に良く行く
- ✓米作りを通じ、自然に触れ合っている
- ✓外来種の植物は外に植えないようにしている
- ✓自宅で花や野菜を育てている
- ✓環境活動に参加している
- ✓自然のふれあいを大切に考えている
- ✓リンゴ栽培を通じて自然を感じている
- ✓地域として懸命に活動に取り組んでいる
- ✓家庭菜園、花の栽培など自然とふれあう喜びを楽しんでいる
- ✓機会を見つけて自然環境を学ぶ催しものに参加している
- ✓シニア大学や地域公民館の各種講座において館外学習などの機会を通して北信地域を中心に自然と触れあい自然環境保全の大切さを学んでいる
- ✓余裕があるときは、カメラ片手に近くの野山に出かけ信州の自然の素晴らしさを満喫している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓していない
- ✓意識していない
- ✓特に興味がない
- ✓学ぶ機会がない
- ✓自然環境等あまり意識はしていない
- ✓考えたことがあまりない
- ✓日々の生活の中で余裕がない
- ✓キャンプなど自然に親しむことはあっても、環境保全はあまり意識していない
- ✓特に意識した暮らしはしていない
- ✓あまり機会がない
- ✓あまり意識していない
- ✓特別意識していない
- ✓自然に親しむことの機会が減少し、かつ自然環境保全までを意識した生活を送っているとは必ずしもいえない

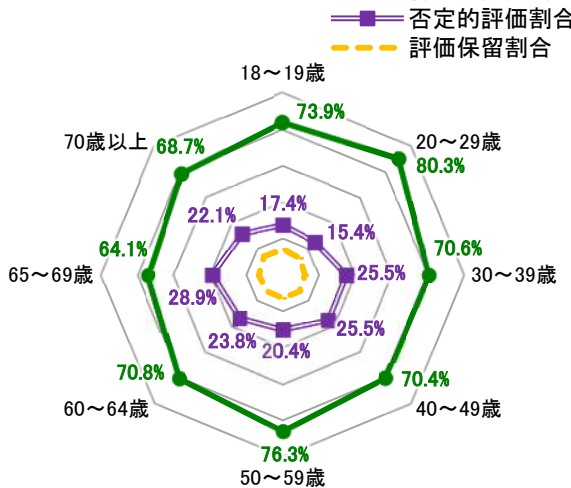
【区分】 【指標名】

● 空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている

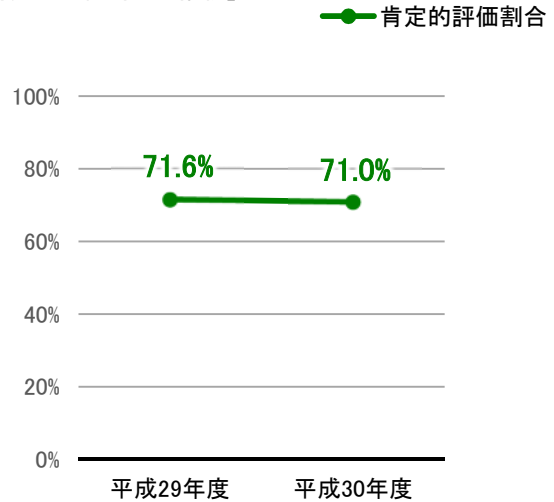
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	71.6%	71.0%
否定的評価割合	24.4%	23.3%
評価保留割合	1.7%	3.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	74.1%	➡
平均値(H29～30)		71.3%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓ゴミは余り落ちてない
✓空気と水はきれいだが、まちは美しくないところが多いように思われる

19歳以下

✓貯水池が手入れされてないのが気になる

✓ホテルが発生したり、ワサビが育ったりする
✓善光寺周辺はきれいに整備されている

20～29歳

✓空気が綺麗とは思えない

✓自然が多いところが自慢できるところ
✓公園が充実している

30～39歳

✓中心街から外れた国道は街路樹の手入れが行き届いているとは思えない
✓観光場所は、保たれていると思うが、町の混み合った場所では感じない
✓車の通りが多過ぎる。街中できれいな水が流れているところを知らない
✓たばこのポイ捨てが多すぎる

✓大都市と比べると圧倒的に空気がきれいだ
✓河川敷のごみなどが10年前より減っている
✓近所の川にはホテルが生息している
✓駅前がとてもきれいで良い

40～49歳

✓駅前など花壇の整備などは綺麗でよいと思ってるが、対照的に荒れた街路樹や植え込みを見かけることもある
✓車への依存度が高すぎる
✓ポイ捨てが多い

✓「歩きたばこ禁止」「ポイ捨て防止」条例は、県外からの観光客にとって長野市のきめ細やかなマナーをアピールするとてもいい政策だと思う
✓工場がないので空気がきれい。企業もゴミ拾いなどを実施し、町をきれいにしている
✓季節の変わり目を虫の音や鳥の声で感じることができる

50～59歳

✓空き店舗も目立ち、きれいとは言えない
✓川が汚い。車が多く排気ガスが臭い
✓都心部と郊外部では整備のされ方が異なる
✓美しくとまではいかない

✓名水がある。地域(学校やクラブなど)協力で花を植えたり、清掃活動をしている

60～64歳

✓喫煙場所が人通りの多い道路にあたりして嫌な気持ちになる

✓ゴミが道路に見当たらなくなっている
✓地域内では毎月一斉清掃が行われている

65～69歳

✓空気や水はきれいに保たれているがごみの不法投棄などが多い


✓空気が汚れていないし、河川の水がきれいである
✓観光地の意識が高い

70歳以上

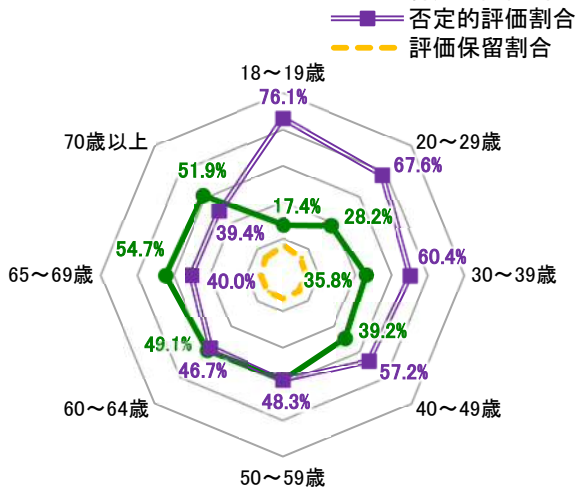
✓水道水に、水垢のようなものがあるように感じられる
✓空気や水はきれいだが、まちは汚い

【区分】 ○ 【指標名】 地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している

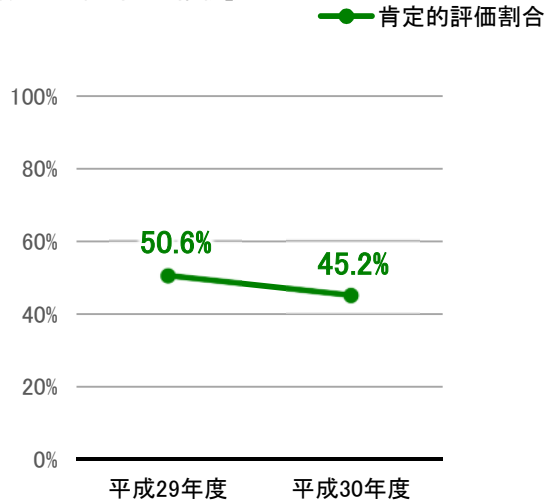
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	50.6%	45.2%
否定的評価割合	42.2%	49.5%
評価保留割合	4.9%	3.1%

現状値 (H28)	目標 (H33)	48.8%	
平均値 (H29～30)		47.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓地区の環境美化の役員でもあるので率先して取り組むようにしている
- ✓地域の清掃活動等に参加している
- ✓ゴミをためないように気をつけている
- ✓自治会の環境美化活動に参加している
- ✓まち並みを悪くしないよう庭の手入れをしている
- ✓ゴミのポイ捨てはしないようにしている
- ✓ゴミを見たら拾うようにしている
- ✓ゴミO等の活動には必ず参加している
- ✓自然保護を身近なところからしている
- ✓最低限の活動には参加している
- ✓地域清掃に参加している
- ✓ごみのポイ捨て不法投棄防止の活動をしている
- ✓区の行事には参加している
- ✓地域での取り組みには必ず参加する
- ✓今年度に入ってから、シルバー人材センターの活動を通して地域のゴミ拾いや、公道の植栽の剪定・除草等に積極的に参加している
- ✓自分の家を中心に環境美化に努めている
- ✓地域の環境整備作業や諸団体の公園草取り清掃など、積極的に参加している
- ✓自治会や住民自治協議会の活動としてやっている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓中学生の頃はよく参加していたが、今は時間を取ることができない
- ✓参加したことがない
- ✓積極的には行っていない
- ✓知る機会がない
- ✓地域に接点がほとんどない
- ✓仕事に追われている
- ✓関心は大いにあるが、参加することはない
- ✓職場の美化作業以外では特に美化作業に参加していない
- ✓スケジュールが合わず参加できない
- ✓必要に応じて参加するが、積極的に参加はしていない
- ✓何もしていない
- ✓機会が少ない
- ✓参加していない

【施策コード／施策名】
4-1-1 防災・減災対策の推進

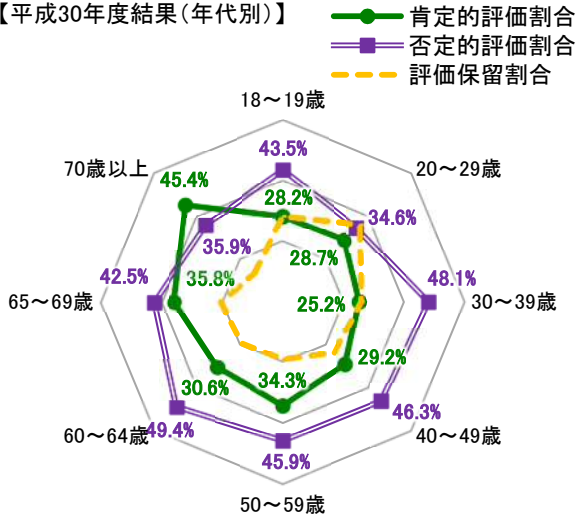
【担当部局】
総務部

【区分】 ● 【指標名】
災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている

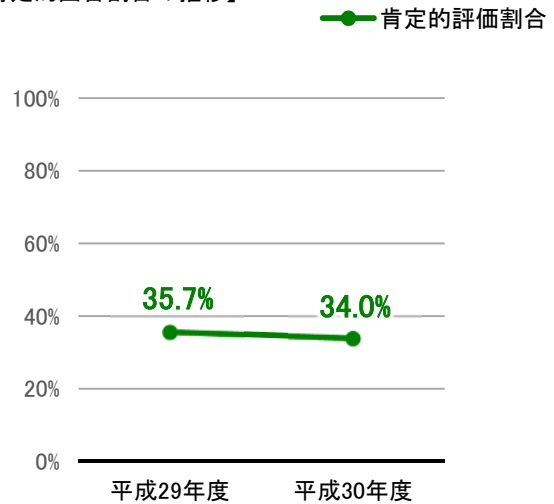
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	35.7%	34.0%
否定的評価割合	47.7%	42.5%
評価保留割合	14.7%	20.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	35.5%	↗
平均値(H29～30)		34.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓護岸整備、ハザードマップ作成などが行われている
- ✓避難場所など分かりやすい
- ✓避難所などの表示を目にする
- ✓防災無線が充実している
- ✓住宅目の前の一級河川が氾濫の危機だった時は、消防が来てくれたり、少々の避難勧告であっても小学校を開放してくれたりとても迅速だった
- ✓学校や幼稚園でも緊急メールがきちんと整備されていて、訓練もしている
- ✓防災対策ができています
- ✓地域の避難訓練がある
- ✓災害時の手引きやハザードマップが配布されている
- ✓避難場所の周知がされ、消防団も機能している
- ✓学校の耐震化が進んだ
- ✓防災無線やメールサービスがある
- ✓水路整備がされている
- ✓学校や公共施設に防災倉庫が設置してある
- ✓免震構造の建物が増えている
- ✓毎年防災訓練など実施している
- ✓ダムや河川修理が行われている
- ✓避難場所等を理解している
- ✓各区、各事業所での取組がよくできている
- ✓水害や土砂災害等の対策は進んでいると思う
- ✓区内の防災体制が整っている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓避難所とかをあまり知らない
- ✓地域の防災訓練は少ないと思う
- ✓道が狭い
- ✓避難場所が遠い
- ✓危機感が薄い、個人の意識はあまり高くない
- ✓古い市街地は住宅が密集しており、大規模火災の際は延焼が懸念される
- ✓空き家が増えてきており災害時における二次災害が心配である
- ✓避難態勢や備蓄等、地域住民に理解が徹底されていない
- ✓洪水時の備えが足りない
- ✓取組が不明である
- ✓調整池などもあるが、少し強めの雨が降るとあつという間にいっぱいになる
- ✓行政と現場の意識の違いはある
- ✓防災に十分ということはないので、更なる体制や準備の強化が必要である
- ✓自分を含め、このあたりは大丈夫という気がどこかにある
- ✓ハード的には整いつつあるが、ソフト面では一部のみに限られている
- ✓地域との連携が少ない
- ✓自主防災会があるが実質的に機能していない
- ✓住宅地での耐震対策が遅れている、また救急車両が入れない狭い道路がある


【施策コード／施策名】
4-1-1 防災・減災対策の推進

【担当部局】
総務部

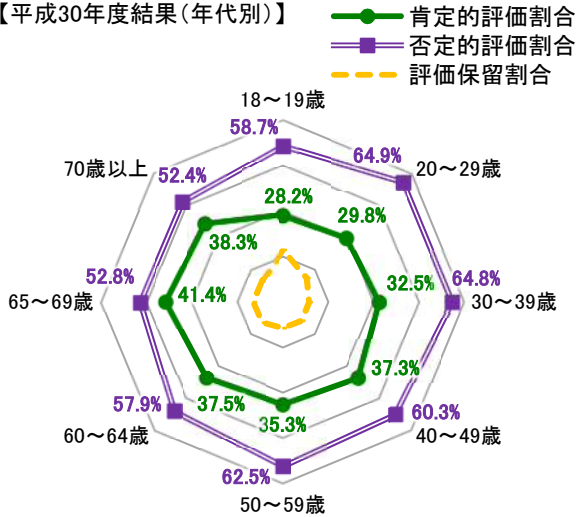
【区分】 【指標名】

○ 災害に備えて食料や飲料水などを備蓄している

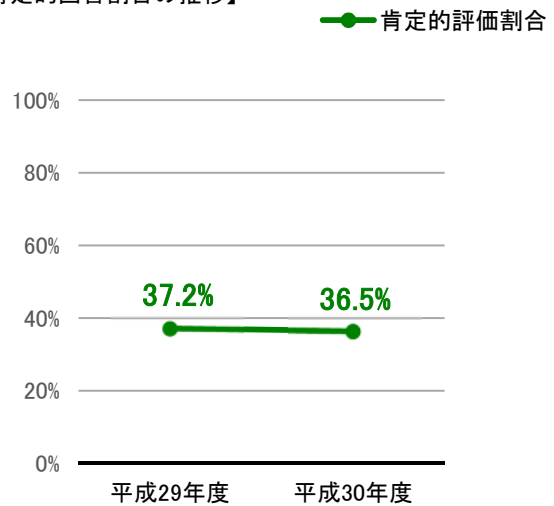
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	37.2%	36.5%
否定的評価割合	58.5%	58.2%
評価保留割合	2.1%	2.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	41.1%	
平均値 (H29～30)		36.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓防災対策はしっかりしている ✓多少は備蓄している 	<ul style="list-style-type: none"> 19歳以下 20～29歳 	<ul style="list-style-type: none"> ✓備蓄していなかった ✓備蓄場所がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓家族のため備えをしている 	<ul style="list-style-type: none"> 30～39歳 	<ul style="list-style-type: none"> ✓無駄になりそうで用意していない ✓交換が面倒で備蓄していない ✓余裕がない ✓意識が薄い
<ul style="list-style-type: none"> ✓玄関に防災グッズを用意してある ✓最低限は備蓄している ✓長期保存食料、飲料(トイレ用)紙おむつカセットコンロなど用意している ✓レトルト食品などを一定量確保している ✓最低3日分を備蓄している ✓自宅での備蓄に加え、集合住宅全体でも災害時の物資を準備している 	<ul style="list-style-type: none"> 40～49歳 	<ul style="list-style-type: none"> ✓災害用には備えていない ✓備蓄していない
<ul style="list-style-type: none"> ✓家族人数分プラス犬の食料なども直ぐに持ち出せる場所に置いてある 	<ul style="list-style-type: none"> 50～59歳 	<ul style="list-style-type: none"> ✓保管スペースが限られているので、十分ではない ✓まだ危機意識が不足している
<ul style="list-style-type: none"> ✓職場で斡旋されたものを購入した ✓飲料水は備蓄しているが食料は賞味期限もあるので準備できていない ✓マンションに備蓄があると聞いている 	<ul style="list-style-type: none"> 60～64歳 	<ul style="list-style-type: none"> ✓災害に備えての備蓄はない
<ul style="list-style-type: none"> ✓最低限のものを用意している 	<ul style="list-style-type: none"> 65～69歳 	<ul style="list-style-type: none"> ✓日常の延長で可能となるようにしている ✓備蓄していない
<ul style="list-style-type: none"> ✓不完全ではあるが部分的な備蓄にとどまっている、国内・海外の災害のニュースを目の当たりにした時には防災や家の安全について家族で話をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 70歳以上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓特別に備蓄などは行ってはいない ✓保存期間の管理が難しい ✓保管や入れ替えの労力が馬鹿にならない ✓備蓄の必要性を感じるも未実施である

【施策コード／施策名】
4-1-2 消防力の充実・強化及び火災予防

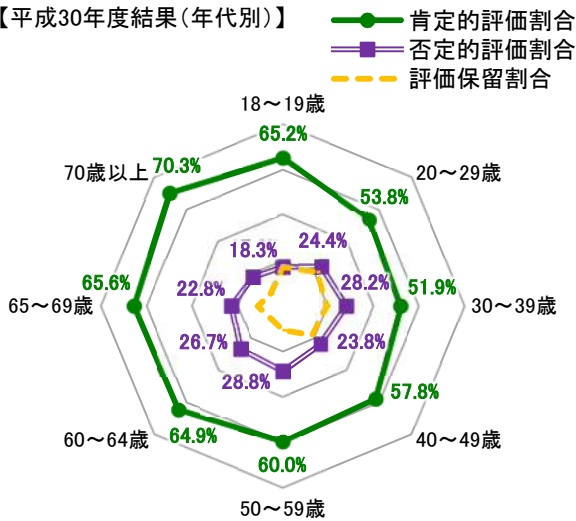
【担当部局】
消防局

【区分】 ● 【指標名】
消防や救急体制が十分に整っている

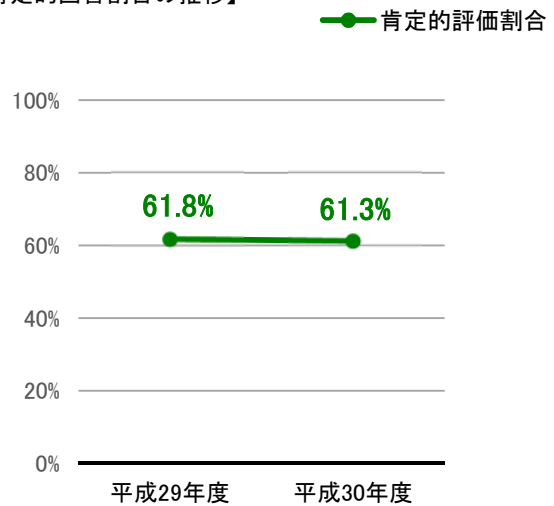
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	61.8%	61.3%
否定的評価割合	24.9%	23.6%
評価保留割合	11.6%	12.7%

現状値 (H28)	目標 (H33)	62.7%	↗
平均値(H29～30)		61.6%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓消防署などが近くにあり、体制は十分に整っていると思う
- ✓近くに病院や消防署がある
- ✓他市と比べて劣っているとは思わない
- ✓建物がさほど密集していないので動きやすいと思う
- ✓防災無線が充実している
- ✓近くに大きな消防施設がある
- ✓近くをよく消防車や救急車が通っている
- ✓各地域に消防署があり、消防団の活動も盛んだと思われる
- ✓長野市防災メールを見ているとよく活動していると思う
- ✓救急病院なども態勢が整っている
- ✓消防署も新しく移転し、より充実した施設になっていると思う。救急体制は市民病院と日赤が頼りである
- ✓火事や病気ですぐ来てもらえる
- ✓特に問題は感じていない
- ✓消防署、交番が近くにある
- ✓消防署の方々の日々努力は素晴らしい
- ✓消防、救急、救助体制が充実している
- ✓要請からの到着時間が短縮された
- ✓消防署が効率的に配置されている
- ✓日ごろから救急車の活動を目にしており、頼もしく感じている
- ✓緊急時の体制等については、十分である
- ✓近くに救急病院や消防署があり消防署の巡回も行われている
- ✓新たな中央消防署の開設により体制整備が進んだ

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓救急病院が少ない
- ✓消防団員が少ない
- ✓道が狭い
- ✓咯血して救急車を呼んだとき、こんな程度で呼んだのかと言われた
- ✓常態においては十分でも災害時は不足と思う
- ✓まだ必要である

【施策コード／施策名】
4-1-2 消防力の充実・強化及び火災予防

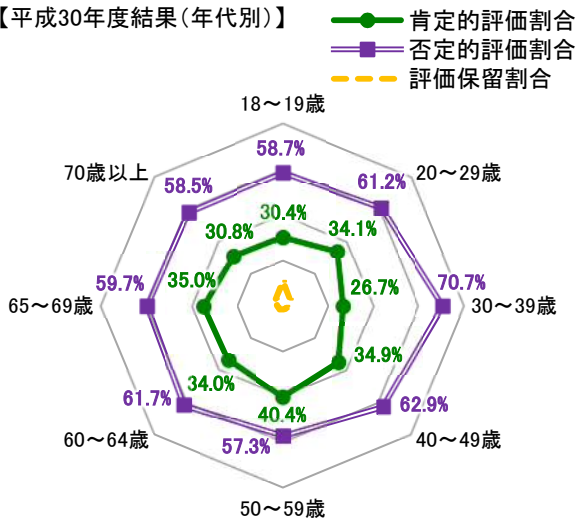
【担当部局】
消防局

【区分】 ○ 【指標名】
応急手当の仕方を講習会などにより勉強している

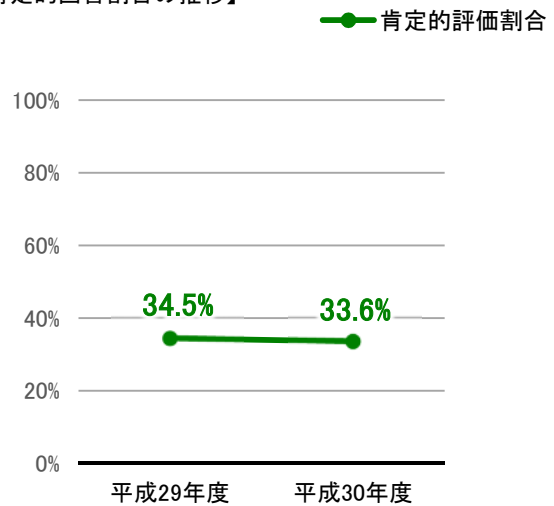
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	34.5%	33.6%
否定的評価割合	59.6%	60.9%
評価保留割合	3.5%	2.7%

現状値 (H28)	目標 (H33)	37.6%	
平均値 (H29～30)		34.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓学校の授業で勉強した
- ✓講習会を受けた
- ✓車の免許取得時に一度だけ習った
- ✓講習会は受けたが、実践できていない
- ✓心臓マッサージくらいしかわからない
- ✓会社にて受講した
- ✓簡単な処置であれば対応できる
- ✓小学校の救命法講習会に参加した
- ✓職場での講習会に参加した
- ✓日赤奉仕団に参加している
- ✓かなり前に講習を受けたが、定期的には参加できていない
- ✓自分が専門職なのである程度はできる
- ✓日赤救急法に参加した。緊急時の対応が大切と実感した
- ✓最近では機会がないので、もっと企画してほしい
- ✓職場での講習会に参加した
- ✓必要最低限のものは心得ている
- ✓地域の防災訓練などの機会に講習を受けた
- ✓AEDなどの講習会に参加した
- ✓防災訓練等で毎年講習を受けている
- ✓勉強し実際に行えるようになった
- ✓定期的に行われる講習会に参加している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓機会がない
- ✓もう忘れてしまった
- ✓自動車教習所での授業のみである
- ✓今年はまだ参加していない
- ✓AEDの使い方は分からない
- ✓勉強したいが机上ではなく実務的な講習をしたい
- ✓参加意欲はあるが実際にはまだ未参加である
- ✓昔にやったきりでここ最近ではしていない
- ✓講習会は受けていない
- ✓積極的には勉強していない
- ✓開催機会が少なく参加できない
- ✓年一度の地区の講習会に参加しているのみである
- ✓防災訓練で年に一回程度である
- ✓地域における自主防災訓練時ぐらいでしか勉強していない
- ✓勉強したことがない

【施策コード／施策名】

4-2-1 交通安全対策の推進

【担当部局】

地域・市民生活部

【区分】

【指標名】

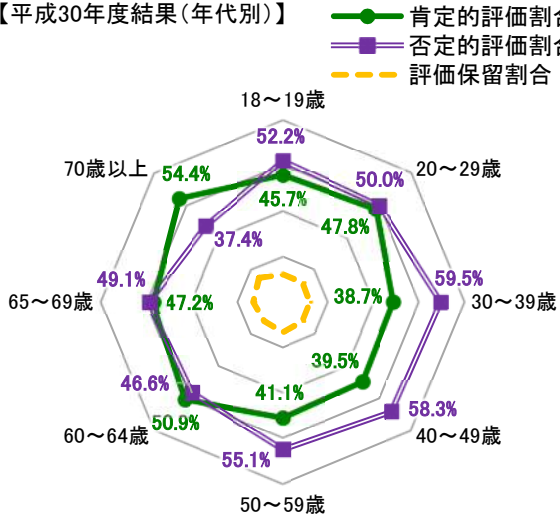


交通マナーが良い地域である

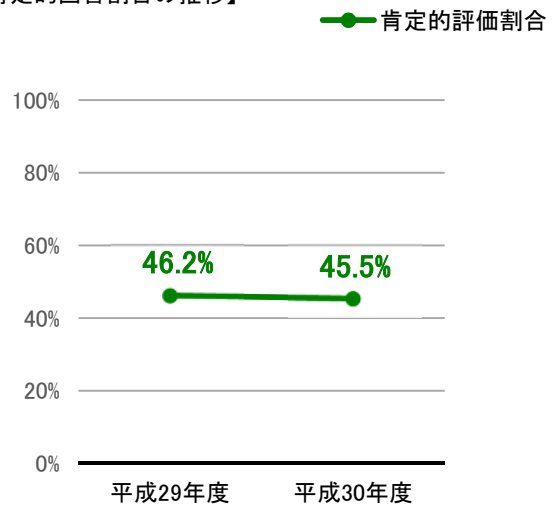
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	46.2%	45.5%
否定的評価割合	48.9%	49.4%
評価保留割合	3.2%	3.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	44.1%	
平均値(H29~30)		45.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓事故の話を聞かないから
- ✓余りマナー違反をする人を見ない
- ✓交通事故が少ない
- ✓危険な運転をする人をあまり見ない
- ✓都会に比べたら交通事故が少ない
- ✓他の都市に比べると良い方だと思う
- ✓運転しやすいと感じる
- ✓譲り合いや緊急車両優先などしっかり出来ていると実感している
- ✓横断歩道以外でも歩行者に道を譲っている
- ✓ゆずり合いができています
- ✓他県に比べたらよい
- ✓良い人が多いがダメな人もいる
- ✓傾向的にはマナーがいい市民である

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓高齢者ドライバーが多く交通ルールが守られていない時がある
- ✓違反している人をよく見る
- ✓朝など車も自転車も強引な時がある
- ✓中高生の自転車のマナーは悪い
- ✓ウインカーを出すタイミングが遅い車が多い
- ✓交差点で歩行者がいても車が止まらない
- ✓高齢ドライバーの危険な交通マナーをなんとかしてほしい
- ✓裏道を飛ばす車が多すぎて怖い
- ✓事故が多く、マナーが良いとは思えない
- ✓ウインカー出さない人がいたりする
- ✓中年以上の人のマナーが悪い
- ✓路上駐車が多すぎる
- ✓高齢者のドライバーが増え危険を感じるが増えた
- ✓特に対向車線の右折車に対して譲る人が少ないのには憤っている
- ✓横断歩道で止まらない車が多い
- ✓運転のマナーが悪い方がいる
- ✓細い道を車がスピードを出して走っていて危険である
- ✓ウインカーを出すのが遅い
- ✓早朝、深夜は悪い
- ✓歩行者の保護など基本的なルールが守られていない
- ✓右折優先に県外者が戸惑っている
- ✓中学生らしき自転車の並走や無灯火が目にする
- ✓高齢化に伴う運転技術の低下を危惧する一方で免許が手放せない地域環境にある
- ✓個人のマナーがよくないと感じることもある

【施策コード／施策名】

4-2-1 交通安全対策の推進

【担当部局】

地域・市民生活部

【区分】

【指標名】

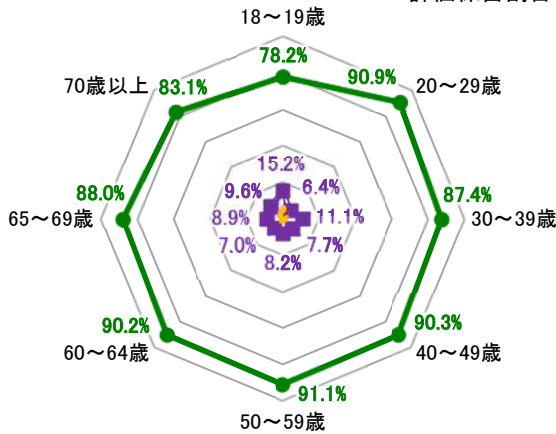
○ 自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	86.7%	87.8%
否定的評価割合	10.1%	8.7%
評価保留割合	1.2%	1.3%

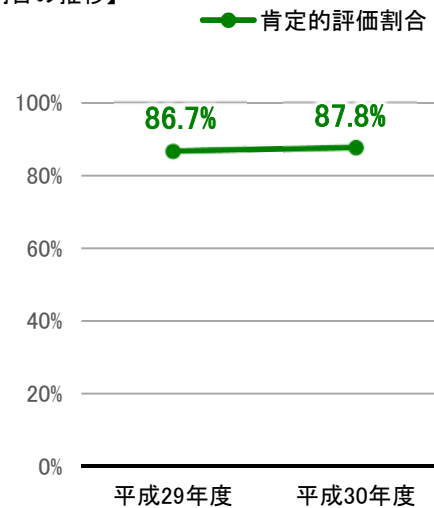
現状値 (H28)	目標 (H33)	90.4%	➡
平均値 (H29～30)		87.3%	

【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
--- 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓マナーは徹底している ✓事故が起きないように注意を払っている ✓時間に余裕をもって行動するようにしている 	19歳以下
<ul style="list-style-type: none"> ✓常に意識している ✓自動車は守るが、自転車は緩くなってしまう 	20～29歳
<ul style="list-style-type: none"> ✓子どもを連れているので常に意識している ✓自分が運転するときはマナーに気を付けている ✓「子どもたちが見ている」という意識がある ✓交通ルールを遵守している 	30～39歳
<ul style="list-style-type: none"> ✓自宅前は通学路のため特に気を付けている ✓ゆずりあいを中心掛けている ✓急発進、急加速はしない。スピードも出さないよう心掛けている ✓歩道を横切るときなど、必ず一時停止するなど、歩行者には特に気を付けている ✓自動車・自転車両方の立場でマナーを意識している 	40～49歳
<ul style="list-style-type: none"> ✓安全運転に心がけている ✓雨の日の運転は特に歩行者への配慮を心掛けている ✓交通マナーは常に意識しているが、自己中心的になってしまうこともある 	50～59歳
<ul style="list-style-type: none"> ✓交通規則を守っての運転を心掛けている ✓高齢者マークを見たら要注意と意識している 	60～64歳
<ul style="list-style-type: none"> ✓運転技術は低下していると思うので、無理しないことを心掛けている 	65～69歳
<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢者意識を持ち、安全運転に心がけている ✓常に交通マナーを守った運転(自転車)に心掛けている 	70歳以上

✓最低限しか意識していない	
✓意識していない	

【施策コード／施策名】
4-2-2 防犯対策の推進

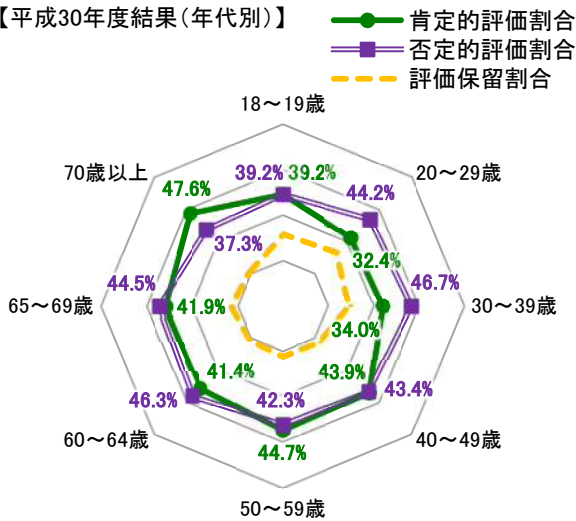
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ● 【指標名】
地域で防犯に向けた取組が行われている

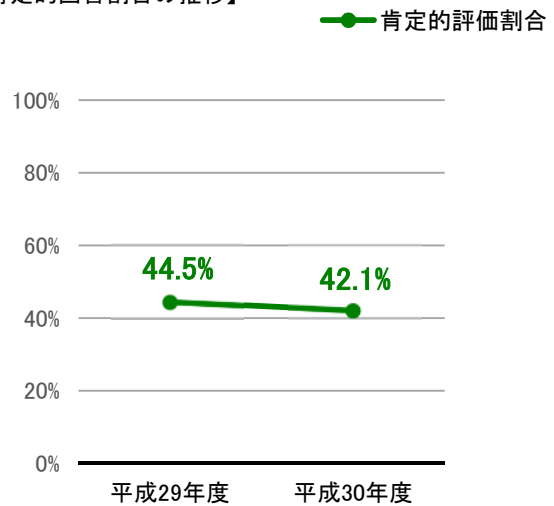
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	44.5%	42.1%
否定的評価割合	41.3%	41.9%
評価保留割合	12.3%	13.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	41.8%	↗
平均値 (H29～30)		43.3%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓町内放送や有線放送などで頻繁に呼びかけが行われている
- ✓防犯啓発活動が充実している
- ✓保護者パトロールがある
- ✓防災無線が充実している
- ✓回覧板でよく見る
- ✓小・中学校で、防犯訓練が行われている
- ✓役員の方々が熱心になっている
- ✓回覧板で交番からのお知らせがある
- ✓町内会で防犯灯などをきちんと管理している
- ✓戸締りをしっかりしている家が多い。もっと地域全体で挨拶をするなど声かけをすることで防犯に役立つと思う
- ✓居住地域は街灯が多く、夜間も歩きやすい
- ✓自治会役員等の担当の方を中心に仕組みができています
- ✓防犯協会の活動が活発である
- ✓見慣れない人がウロウロして居ると近所同士声を掛けたりしている
- ✓防犯パトロールが実施されている
- ✓注意喚起のチラシなど回覧している
- ✓地域で定期的にパトロールをしている
- ✓防犯役員を中心とした巡回活動が定期的実施されている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓防犯対策は少し弱いと感じる
- ✓防犯していると感じることはない
- ✓住んでいる地域で不審者が出た
- ✓日常的には行われていないように見える
- ✓地域で市民に向けた避難訓練や防災訓練がほとんどないと思う
- ✓不審者が出て、教育委員会から注意するようメール配信があったが、巡回するなどの見回りがなかった
- ✓防犯カメラも何もない
- ✓組織はあるが具体的に何をしているか分からない
- ✓地域で安全パトロールをやっているが、頻度が足りない
- ✓自転車を盗まれた
- ✓地域の取り組みはあるが、参加が少ない
- ✓何が行われているか知らない
- ✓活動を知らない
- ✓防犯のための訓練等は実施されていない
- ✓具体的取組は少ない

【施策コード／施策名】
4-2-2 防犯対策の推進

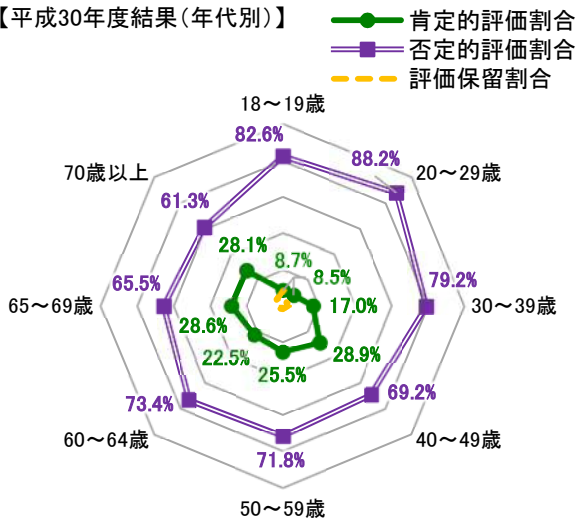
【担当部局】
地域・市民生活部

【区分】 ○ 【指標名】
犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している

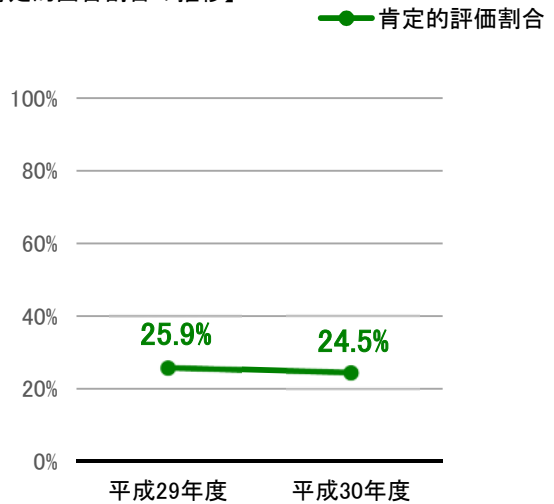
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	25.9%	24.5%
否定的評価割合	66.8%	70.1%
評価保留割合	4.8%	2.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	27.6%	
平均値(H29～30)		25.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓声はすぐできるように訓練している	19歳以下	✓活動に参加できなかった
✓育成会の見回り活動に参加している	20～29歳	✓参加していない
✓小学校の安全パトロールをしている	30～39歳	✓自分から声かけは行っていない
✓道路ですれ違った人にあいさつするようにしている	30～39歳	✓参加する機会がない
✓地域の子供達へ挨拶したりしている	30～39歳	✓自分自身は気をつけているが、活動があることは知らない
✓地域で行われる活動に参加している	30～39歳	✓余裕がない
✓日ごろからできる範囲でやっている	40～49歳	✓犬の散歩中に普段と違うことはないか意識しているが、活動に参加したことはない
✓知っているお年寄りとかには道で会ったりしたときに世間話をしている	40～49歳	✓地域にそういう活動がない
✓挨拶をしている	40～49歳	✓必要に応じて参加するが、積極的に参加はしていない
✓不審者、不審な車があれば警察に通報する	50～59歳	✓仕事をしていて、余裕がない
✓小中学校と連携して活動している	50～59歳	✓参加したことも要請されたこともない
✓パトロールをしている	50～59歳	✓自己防衛はしているが、他の参加はない
✓子どもの登下校時の見守り活動に参加している	60～64歳	✓年に1～2回の防犯当番のみである
✓地域の防犯活動には参加している	60～64歳	✓参加機会が少ない
	65～69歳	✓企画を知らない
	65～69歳	✓組織的活動がない
	70歳以上	

【施策コード／施策名】

4-2-3 安全な消費生活の確保

【担当部局】

地域・市民生活部

【区分】

【指標名】

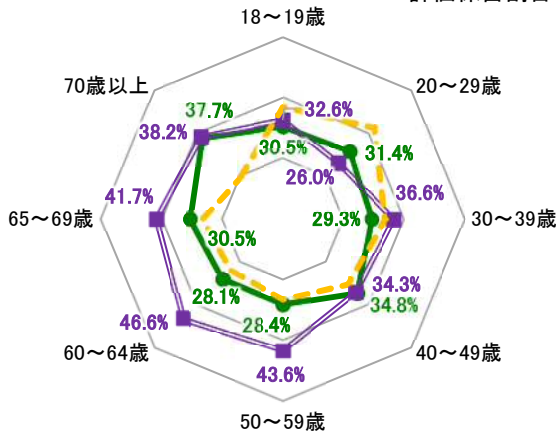
● 特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	32.8%	32.0%
否定的評価割合	41.2%	38.2%
評価保留割合	24.0%	27.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	31.0%	↗
平均値 (H29～30)		32.4%	

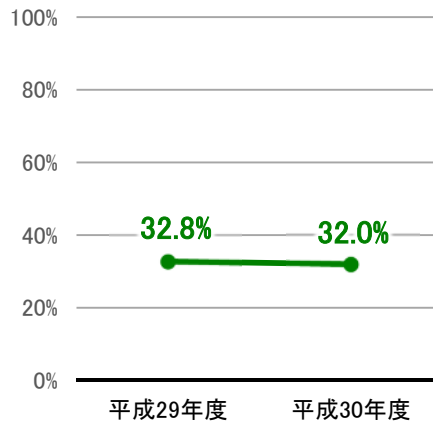
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓どこに相談したらよいか周知されつつあるように思える

19歳以下

✓ニュースでよく聞く
✓広報誌に相談先が載っているのを見た気がする

20～29歳

✓新聞などでも記事をよく目にする
✓防災無線でよく、警察署からの連絡がある
✓ポスターをよく見る
✓広報や回覧板等を見てそのように感じる

30～39歳

✓注意喚起は行われているが、相談窓口はわからない
✓ポスターで見かけるだけである
✓被害者が後を絶たない

✓ATMに詐欺予防のスピーカーがついたのは良い
✓体制は充実している

40～49歳

✓身近に感じられない
✓以前警察に相談した際、あまり相手にしてもらえなかった
✓取組自体が分からない
✓どこに相談したらよいか、すぐに浮かばない

✓銀行・信用金庫・郵便局で取り組んでいるように感じる

✓市報を見ると整っていると思う
✓地域の会話が相談体制のひとつになっている

✓ATMの振り込み詐欺注意ポスターは効果的だと思う
✓ポスターやテレビCMなど比較的好く見かける

✓相談窓口の案内がある
✓消費生活センター等の機関がある

50～59歳

✓自分は詐欺にあわないと思っている人が結構いると思う
✓実際、騙される人が多い
✓取組を知らない

✓相談体制、PR活動が整っている
✓注意喚起のチラシなど回覧している

60～64歳

✓広報で告知しているがなかなか高齢者1人の場合防ぐことが難しい

✓警察の啓発活動、相談窓口の周知など徐々に進められている

65～69歳

✓被害は減っていない

✓広報が盛んである
✓消費生活センターを中心に警察署などの相談体制が整ってきている

70歳以上

✓他人事だと思っている

【施策コード／施策名】

4-2-3 安全な消費生活の確保

【担当部局】

地域・市民生活部


【区分】

【指標名】

○

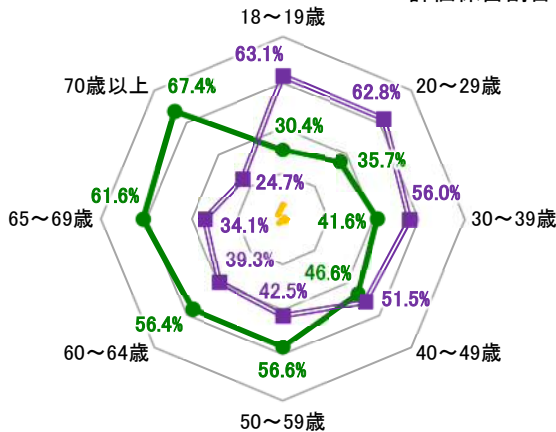
家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	55.7%	54.5%
否定的評価割合	66.8%	70.1%
評価保留割合	4.8%	2.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	60.9%	
平均値 (H29~30)		55.1%	

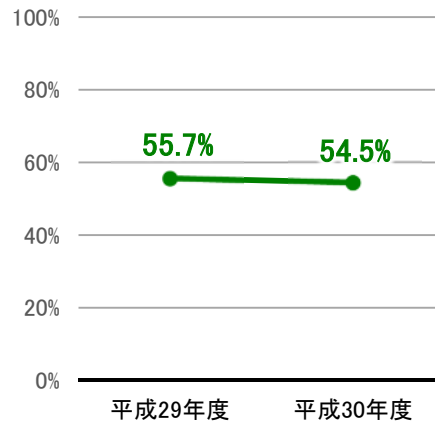
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

- ✓注意を促したりしている
- ✓町内放送などがあるたびに家族で話題に上がる
- ✓暗号を決めようとしている
- ✓ニュースなどでそのような話題が出た時には話をしようとしている
- ✓話し合いはする
- ✓離れて暮らす家族とも密に連絡を取るようになっている
- ✓両親には特に呼びかけている
- ✓親族にも話をしている
- ✓啓発チラシなどを見えるところに張り付けて気を付けている
- ✓心当たりのない着払い荷物など受け取らないよう話し合ったりしている
- ✓新聞などの情報を共有している
- ✓断る言葉を教えている
- ✓ニュースや新聞の記事を見て、具体的な事例を話すようになっている
- ✓騙されたふりをして、警察に連絡が合言葉である
- ✓会議等で聞いた事例を情報交換の場で話している
- ✓電話の応対について話をしている
- ✓着信は番号を調べ、迷惑設定している
- ✓固定電話は登録以外出ない、不審なメールは開かず削除している
- ✓家族でことあるごとに話し合っている

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上


- ✓話し合いはしていない
- ✓特に対策していない
- ✓話し合ったりはしない
- ✓身近な問題だとは思っていない
- ✓身近にそういった話題がない
- ✓注意はするが同居のため特に取り組んではいない
- ✓自分たちには関係がないと思い込んでいる
- ✓自分は大丈夫という気持ちがどこかにある
- ✓自分では気をつけているが家族とは話していない
- ✓他人事だと思っている

【施策コード／施策名】
5-1-1 乳幼児期から高等教育までの教育の充実

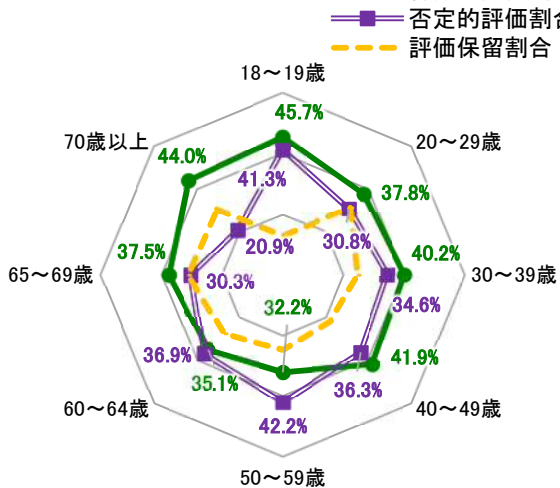
【担当部局】
教育委員会、こども未来部

【区分】 ● 【指標名】
子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている

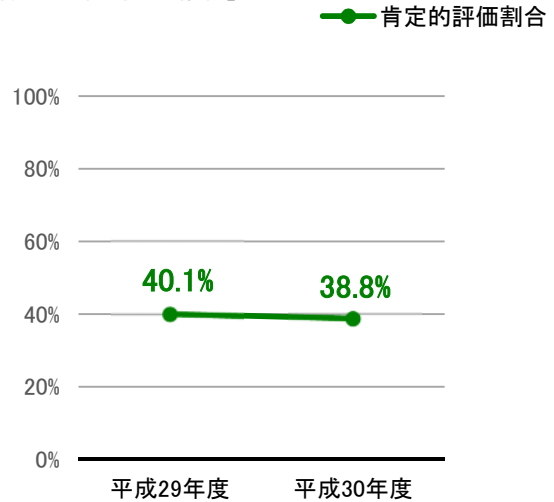
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	40.1%	38.8%
否定的評価割合	29.7%	32.0%
評価保留割合	28.3%	26.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	41.2%	
平均値 (H29～30)		39.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓しっかりとした教育体制が整っているように見える 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓公立学校は担任によって差がある ✓体力面では恩恵を感じない
	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓公園が少ない ✓学校での教育よりも塾に行くことが当たり前になってきている
<ul style="list-style-type: none"> ✓幼稚園や保育園でも体操教室がある ✓オリンピックの後施設での教室が充実している ✓運動している子供達をよく見る ✓教育指針は良いが、指導者の能力で差がある ✓子供が通う学校での状況からそのように感じる ✓学校生活をみていると悪いところは見当たらないが、地域差を感じることもある 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓そこまでスポーツに力を入れていないと感じる ✓宿題が少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓運動会や社会科見学など、通常の教育以外もきちんと行われている ✓小中学校の連携、中学校での体験学習に力が入っているのが分かる ✓地域に沿った教育はされている 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓学校教育には限界がある ✓図書館やもんぜんぶら座など教育に没頭できるスペースをもっと提供すべきである ✓他県にくらべお金が回ってない ✓授業日数が少ないので駆け足で進んでしまう ✓学校の教育だけでは不十分なので。学習塾や習い事は必要だ ✓挨拶を積極的にする子供が少ない ✓子供の体力は過去より下がっている印象がある ✓毎日登下校の子どもにあいさつ(声掛け)して見ているが、年々たくましさが減っている
<ul style="list-style-type: none"> ✓ゆとり世代を脱却して、今の子どもたちには長野市の教育大綱に沿って生きる力を根底に学力・体力をアップする教育を実践している ✓クラブ活動などが盛んである 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓勉強はそれなりにやっているかも知れないが、たくましく生きていく力がついていないかは疑問である ✓中学のクラブ活動の低調化傾向を懸念している ✓教育に対する親の理解や教育が不十分である
<ul style="list-style-type: none"> ✓少子化に伴い塾やスポーツクラブにかかる時間が増えた 	60～64歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓学校評議員をしているので努力は分かる ✓小学校長を中心に熱心に取り組んでいる 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓教員格差が生じている ✓受験のための教育になっている
<ul style="list-style-type: none"> ✓体力づくりを取り入れた教育をしている 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓学力が低い

【施策コード／施策名】

5-1-2 子どもに応じた支援の充実

【担当部局】

教育委員会、こども未来部

【区分】

【指標名】



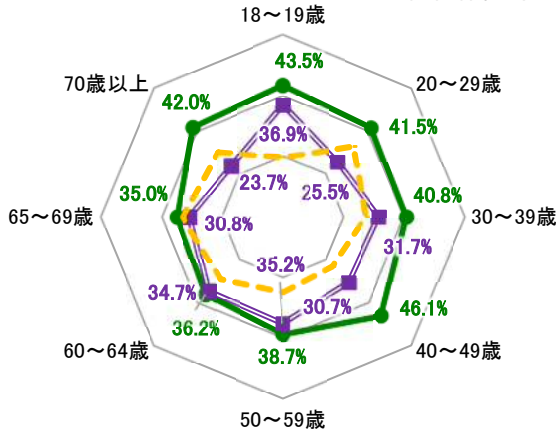
子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	40.9%	40.2%
否定的評価割合	28.4%	29.6%
評価保留割合	29.0%	27.6%

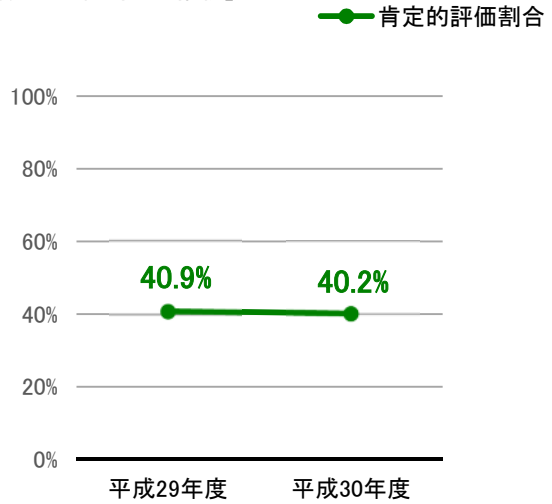
現状値 (H28)	目標 (H33)	41.0%	
平均値(H29～30)		40.6%	

【平成30年度結果(年代別)】

- 肯定的評価割合
- 否定的評価割合
- 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓支援学級ばかり優遇されている時がある
- ✓スクールカウンセラーが学校に来る
- ✓手厚い支援が必要な子供が増えているため体制も整ってきていると思う
- ✓就学前の子どもの様子について言えば整っていると感じる
- ✓特別支援学級が充実している
- ✓ボランティアの方の協力で、色々な授業が行われている
- ✓学校内で、児童の問題を担当、学年主任だけでなく教頭先生や校長先生、他学年の先生ときちんと情報共有・対策をしており、保護者とも連携している
- ✓少人数学級の取り組みがよい
- ✓スクールカウンセラーに相談しやすい
- ✓学校でも相談窓口が整っている
- ✓相談員、支援員の配置が見て取れる
- ✓高校でも相談室がある
- ✓学校は丁寧な取り組みをしている
- ✓複数担任制などが望ましい
- ✓学校でもスクールカウンセラーが配置されている
- ✓相談・支援体制は整っていると思うが、それを本当に必要な人が利用しているのかわからない
- ✓少子化に伴い、大人の目が行き届いている
- ✓子どもプラザ施設がある
- ✓教師が子供に寄り添い十分な対応してくれる
- ✓一昔前よりこまめな教育・相談体制が進み整ってきていると感じる

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓相談支援の体制がやや弱い。特に発達障害に関する体制が弱い
- ✓中学受験への対策が全くない
- ✓支援体制が十分とは思わない
- ✓相談にはのってくれても話を聞いてくれる程度に感じる
- ✓担任によって差がある
- ✓親の状況に関係なく(経済面等)、平等に教育を受けることのできる地域を目指してほしい(修学旅行、給食、制服等、無料)
- ✓私立の中学、高校に比べ、公立の教師の質は低い
- ✓学校評議員をしているが不十分である

【施策コード／施策名】

5-1-3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力の向上

【担当部局】

教育委員会、子ども未来部

【区分】

【指標名】

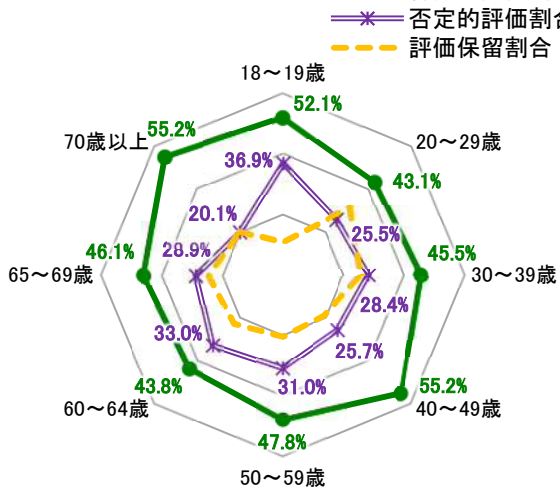


家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている

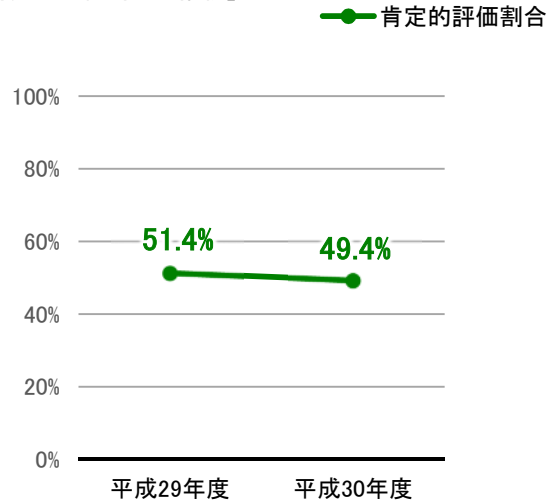
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	51.4%	49.4%
否定的評価割合	24.7%	26.4%
評価保留割合	21.8%	21.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	49.7%	
平均値(H29~30)		50.4%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


<ul style="list-style-type: none"> ✓地域の人たちの支えが多く見られる ✓学習ボランティアの活動がある ✓地域での見守り活動や、地域の人を講師として畑作業などの学習をする機会が多い 	19歳以下	
<ul style="list-style-type: none"> ✓地域での見守り活動がある 	20~29歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓支援センターが充実している ✓地域との交流の場も設けている ✓先生との連絡ノートがあったり、必要があれば電話がかかってくる 	30~39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓家庭訪問が玄関先で終わるのはどうかと思う ✓地域や小中学校、高校、大学等が連携して子どもを育てる仕組みが必要だと思う
<ul style="list-style-type: none"> ✓宿題を毎日親がチェックし、翌日担任が確認していて、親のチェックがないと宿題が増えるなど、連携がとれるように対策をしている ✓地域役員も学校行事に協力している ✓家庭からの声にしっかりと対応している ✓小学校のボランティアを募集しているのをよく見かける ✓職場体験を受け入れてくれる事業所がある ✓育成会活動や登下校時の見回りなど地域の関与は増えていると思う ✓家庭と地域の連携がとれている 	40~49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓具体例が浮かばない ✓地域住民として求められたことはない ✓地区の運動会などの行事はあるが、学びを支えるには学習塾に通わせるための資金がかなり必要である ✓あまり横の連携はないように思える ✓PTA、育成会、コミュニティースクール等、それぞれ活動しているが、連携は道半ばである ✓協力している人が一部の人のように思う
<ul style="list-style-type: none"> ✓信州型コミュニティの促進により、地域で支え育てていこうという機運が醸成されてきている ✓地域に学校を公開して意見を求めたりしている ✓資源回収の取り組みはとて素晴らしいことだと思う 	50~59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓学校の活動がわからない ✓いじめはある ✓様々な取り組みはされているが、三者が十分に連携しているとは思わない
<ul style="list-style-type: none"> ✓子どもが参加する行事が継続してある 	60~64歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓育成会として行事等に取り組んでいる 	65~69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓学校からの要請が見えない
<ul style="list-style-type: none"> ✓皆で子育ての意識が高まりつつある ✓地域での行事や祭りに参加しお互い協力している ✓放課後子どもプラザ、PTA活動、公民館活動など盛んであり地域で支援している 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓まだ考えることがある

【施策コード／施策名】
5-1-3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力の向上

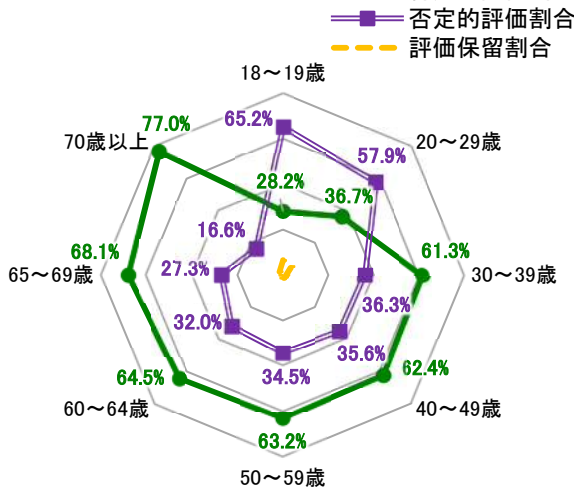
【担当部局】
教育委員会、子ども未来部

【区分】 ○ 【指標名】
地域の子どもにあいさつや声かけをしている

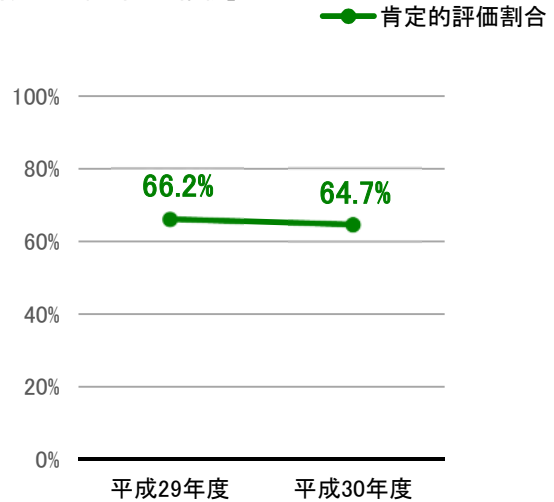
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	66.2%	64.7%
否定的評価割合	29.5%	31.2%
評価保留割合	2.5%	2.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	71.2%	
平均値 (H29～30)		65.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓会ったら挨拶をする
- ✓挨拶はしているが、声掛けは行っていない
- ✓積極的にやるようにしている
- ✓子どもから挨拶をしてくれることもあり、嬉しい
- ✓わが子にも挨拶がちゃんとできるように育てほしいので、大人が手本にならなければという思いもあり、意識している
- ✓挨拶だけはしている
- ✓できるだけ笑顔で声掛けするようにしている
- ✓自分からもするが、子どもからされることも多い
- ✓道路ですれ違った子どもにあいさつするようにしている
- ✓毎日朝夕の犬の散歩中に声掛けをしている
- ✓知り合いの子どもには挨拶している
- ✓子どもから挨拶されることが多い
- ✓顔見知りの子どもの挨拶や声掛けをしている
- ✓地区内ですれ違ったりしたら必ず声はかける
- ✓仲の良い子には声を掛ける
- ✓できるだけ挨拶するようにしている
- ✓挨拶運動を定期的に行っている
- ✓気持ちのよい子どもからの挨拶で、元気ももらっている
- ✓積極的に挨拶など声をかけている
- ✓防犯・交通安全パトロール実施時はもとより、それ以外の時でも声を掛けるようにしている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓地域の子供に会うことがほとんどない
- ✓下手に挨拶すると怪しい不審者だと思われる
- ✓挨拶されれば返すくらいである
- ✓最近是不審者とされる可能性がある
- ✓子どもに出会わない
- ✓以前に不審者扱いをされたという記事を見たので時と場合による
- ✓声をかけてかえって不審者に間違われると嫌なのでこちらからは挨拶をしないが、子どもが挨拶してくれた時は必ず返す
- ✓賃貸マンションなので近所付き合いがない
- ✓挨拶しても無視されるのではない
- ✓顔見知りでないと警戒される
- ✓できるだけ声掛けしようとしているが、完全にはできていない
- ✓会う機会が少ない

【施策コード／施策名】

5-2-1 生涯学習環境の充実

【担当部局】

教育委員会

【区分】

【指標名】

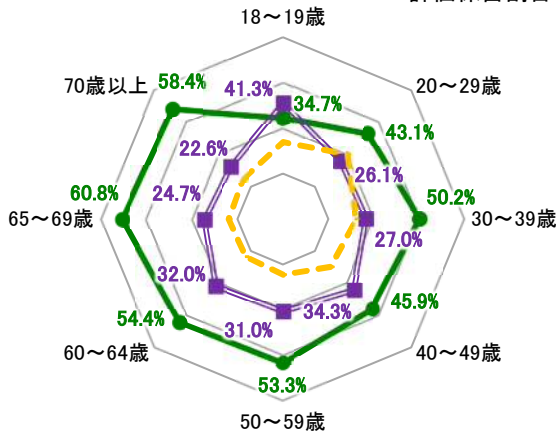
● 公民館などで、学びの機会が提供されている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	51.3%	52.4%
否定的評価割合	28.0%	28.0%
評価保留割合	18.7%	17.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	52.0%	↗
平均値(H29～30)		51.9%	

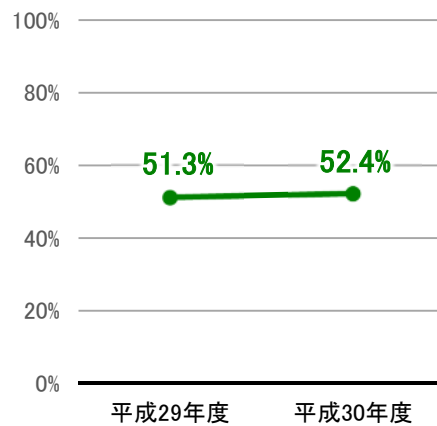
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓社会体育で利用している
✓子供向けの学びの活動が多く開催されている
✓学習会が定期的に開かれている

19歳以下

✓公民館を使うことが少ない

✓色々な催しが開かれている
✓公民館で習い事しているのを目にする
✓回覧板でそのような機会があることを知っている

20～29歳

✓提供されていない

✓公民館の講座が充実している
✓広報や回覧板等を見てそのように感じる

30～39歳

✓近所の公民館は使われていない場合が多い
✓時間的に参加は不可能である
✓そういった学びの機会があることは知っているが、内容はかなり偏りがあり開かれているという感じがしない

✓社会人に対しては提供されていると思う
✓特に高齢者向けの講習は充実していると思う
✓未就学児や高齢者が参加できるサークルなどが多い
✓市報や回覧板などで活動のお知らせを見かける

40～49歳

✓高齢者や若者の講座は多いが、主婦層が参加できる講座が少ないと感じる
✓子どもがほとんどいない
✓オリンピックの開催経験がある都市にしては国際的な学びの場が乏しい

✓公民館講座などが充実していると思う
✓市の広報を通して感じる
✓全国に誇る公民館の数の多さに比例して、多様な学びの場が市民に提供されている
✓学びの機会は提供されているが一部の人の利用に留まっているような気がする

50～59歳

✓地域により差はある

✓成人学校の講座が多い
✓地域公民館にて様々な行事を行っている

60～64歳

✓企業協力による食や健康維持の単発講座は増えたが、講座が少ない

✓広報等で多くの機会が提供されていることは知っている

65～69歳

✓育成会任せで連携がない
✓地域における各団体と連携して社会教育活動に取り組んでいるが、まだ工夫や努力の必要がある


✓区の行事として取組がある
✓機会が提供されているが、関心を持ってない

70歳以上

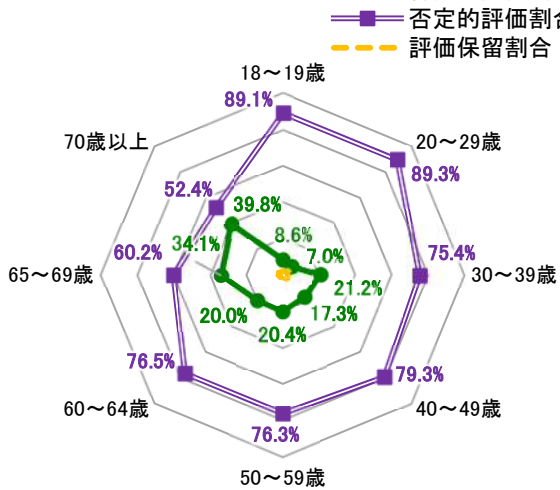
✓公民館活動は学びの場というよりお楽しみメニュー活動がほとんどで、マンネリ化傾向が強く、地域福祉活動の組織との関係を踏まえて今後の公民館活動の方向づけが必要と史料する

【区分】 ○ 【指標名】 公民館などで提供されている学びの場に参加している

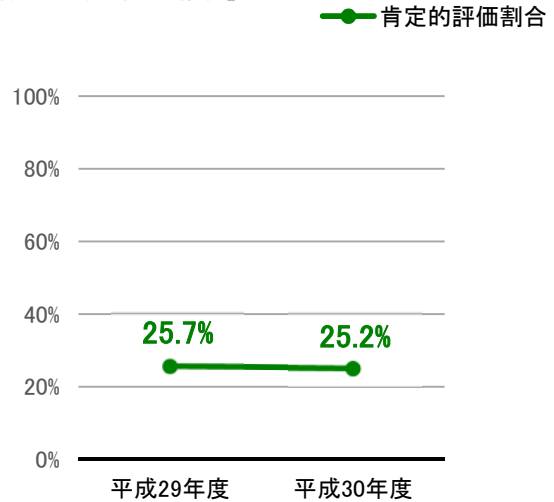
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	25.7%	25.2%
否定的評価割合	67.2%	69.9%
評価保留割合	4.7%	2.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	26.8%	
平均値 (H29～30)		25.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的に参加している ✓学びの場には参加していないが、子育て関連の行事には参加している 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓小学生の頃はよく行っていたが、最近は時間が取れないことが多く参加していない ✓機会がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的に参加している ✓興味のあるものには参加している 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓時間的に厳しい ✓参加する理由がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓講座を受講している ✓自分が講師として呼ばれるときには参加している ✓研修会は参加している ✓タイミングが合えば参加している 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓子育て世代のものがあまりない ✓講座が沢山あるが、年齢制限があつて残念である ✓時間がない ✓公民館での催しがあることを知らない ✓魅力的なものがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓参加している 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓興味のあるものがない ✓参加したい講座がなかったり、あつても年齢で引っかけってしまう ✓時間的に参加する余裕がない ✓参加したことがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的に参加している ✓月1回のサロン等に参加している ✓役員もしているので参加している 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的には参加していない ✓夜間に開講されるものが少ない ✓スケジュールが合わずできない ✓人間関係が面倒なので行かない ✓地区の役をやらない限り参加はほとんどしない ✓関心がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓参加している 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓興味のある講座が少ない ✓情報がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的に参加している ✓月1回のサロン等に参加している ✓役員もしているので参加している 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加機会が少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓市民講座など積極的に参加している 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓あまり参加していない ✓趣味が合わない


【施策コード／施策名】
5-2-2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進

【担当部局】
教育委員会

【区分】 【指標名】

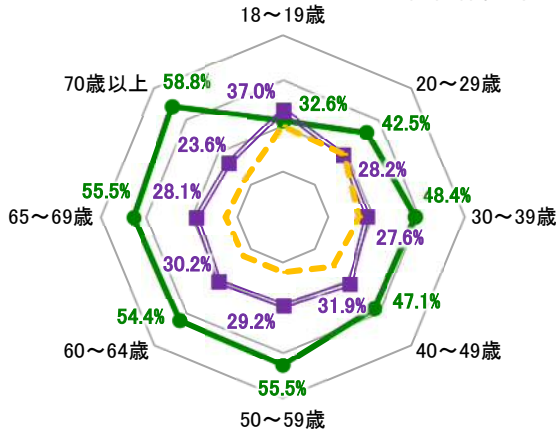
● 公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	52.0%	52.1%
否定的評価割合	27.9%	27.9%
評価保留割合	17.9%	17.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	50.8%	
平均値(H29～30)		52.1%	

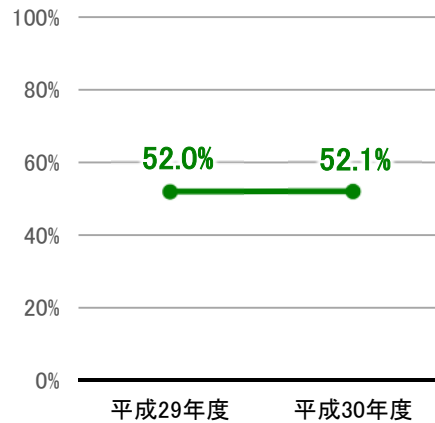
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公民館を使わない ✓ 地域づくりに活かされることを学んだ記憶がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行事があり、地域の子供たちはたくさん参加している ✓ 回覧板でそのような機会があることを知っている ✓ 公民館を多く利用している姿が見られる 	20～29歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公民館の講座が充実している ✓ 広報や回覧板等を見てそのように感じる 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ そのような学びの機会を聞いたことがない ✓ 地域での利用はあるが、それが学びのために利用されているかはわからない ✓ 公民館が気軽に利用できる場であるかという、そうではないように感じる。地域の伝統を若い世代に継承していくための機会がもっとあれば良いと思う
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 育成会、各種団体が積極的に活動している 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学びの機会という言葉が抽象的で何を指すのか疑問である ✓ そう言った取組を知らない ✓ 高齢者向け講座以外に見たことがない ✓ 地域づくりを学ぶ機会をあまり目にしたことがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公民館講座などが充実していると思う ✓ 単なるカルチャースクール的な学びだけでなく、まちづくりに目標をすえた社会貢献とボランティア活動に繋がる学びの機会が推進されつつある ✓ 大学の教授が講師となっている経済学などに興味がある ✓ 子どもが参加できるいくつかの行事がある 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 参加していないので、わからない ✓ 過去から行っていることを継続することが目的となっている
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域公民館にて様々な行事を行っている 	60～64歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 広報等で多くの機会が提供されている ✓ 区の行事としての取組がある 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コース選択等より自由に選べる方法にしてほしい ✓ 機会が提供されているが関心があるのが少ない ✓ 地域づくりという観点では残念ながらその様な機会は少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各種市民講座のメニューが多く学べる機会が多い 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公民館組織と地域福祉推進組織との連携体制が不十分で活動内容の見直しも必要と思料する

【施策コード／施策名】
5-2-2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進

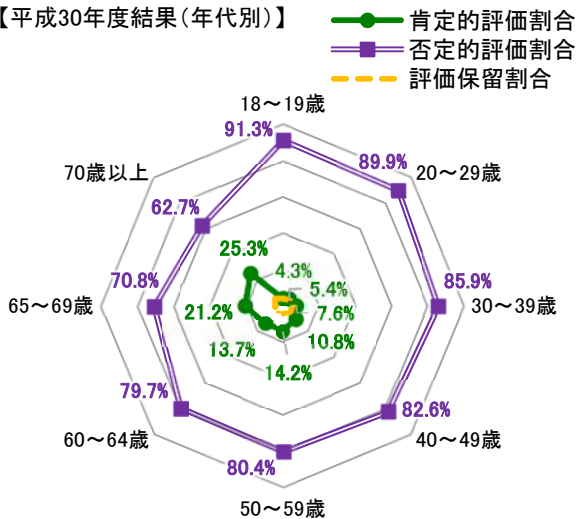
【担当部局】
教育委員会

【区分】 ○ 【指標名】
公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている

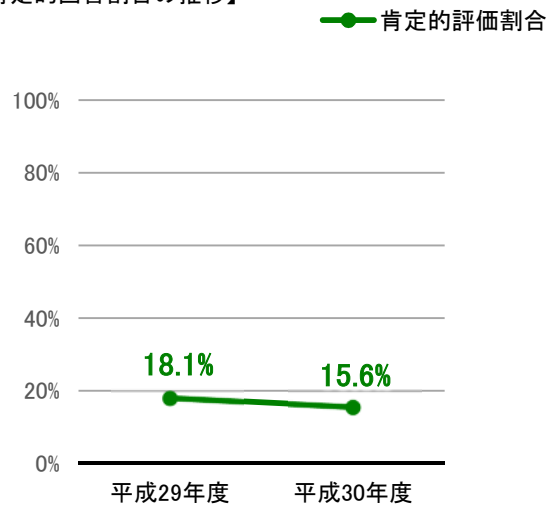
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	18.1%	15.6%
否定的評価割合	71.8%	76.7%
評価保留割合	7.4%	5.1%

現状値 (H28)	目標 (H33)	19.2%	↗
平均値 (H29～30)		16.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓公民館で地域づくりに生かせることを学んだ記憶がない ✓使う機会がない
	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓時間がない ✓参加していない
<ul style="list-style-type: none"> ✓実践するようにしている ✓防災訓練があった 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加したことがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的に地域活動に参加している ✓家庭で共有している 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓学んでいないのでわからない ✓地域づくりに活かせる講座を知らない
<ul style="list-style-type: none"> ✓できる範囲で活かしている ✓その場だけで終わらないよう周りの方にも意識を呼びかけている 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓どう活かせばいいのかわからない ✓地域づくりに活かしているとは言えない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ボランティアをしている ✓不参加の人に教え、作ったエコバック等は施設に届ける 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓時間がない ✓情報がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓地域活動には積極的に参加している 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓地域づくりに還元したことはない
<ul style="list-style-type: none"> ✓地域づくりのために参加しているといっても過言ではないほど公民館での学びを大切にしている ✓学んだことは文書化して役員に配布したり、いろんな集会に内容を披露している ✓友人や地域の人に参加するように呼びかけている 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓そういう場が少ない ✓公民館で学んでいないので生かさない

【施策コード／施策名】
5-3-1 多彩な文化芸術の創造と活動支援

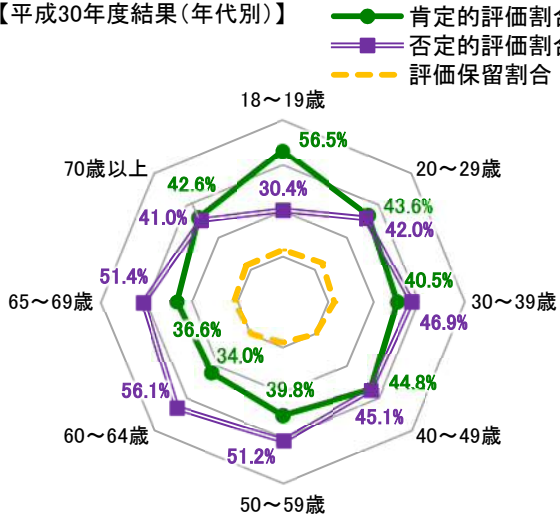
【担当部局】
文化スポーツ振興部

【区分】 ● 【指標名】
音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている

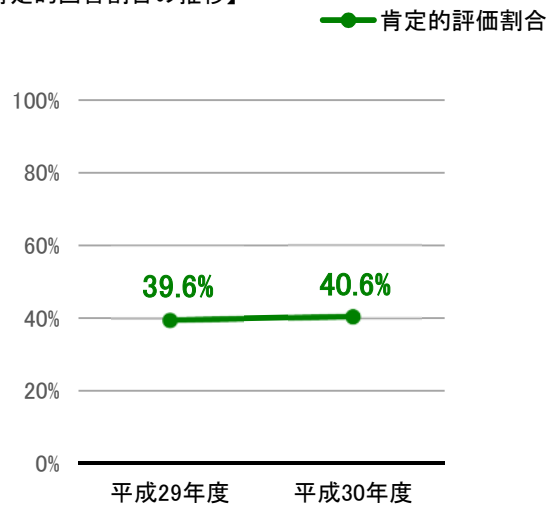
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	39.6%	40.6%
否定的評価割合	47.2%	46.1%
評価保留割合	10.9%	11.1%

現状値 (H28)	目標 (H33)	40.7%	
平均値(H29～30)		40.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

✓市民芸術館で多くのイベントが行われている
✓学校では、芸術鑑賞会が開かれ、コンサートなども定期的に行われている

✓長野市芸術館などがある

✓施設やイベント開催など充実している
✓長野市芸術館ができてそのような機会も増えたが、県立美術館が閉館してしまった
✓市民芸術館含めハード、ソフト両面で整っていると感じる

✓長野市芸術館をはじめ、楽しめる企画が多い
✓市民芸術館ができたことで高水準の音楽に触れる機会が増えた
✓回覧板で各種芸術関連の案内が届いている
✓美術館は多い

✓市民芸術館の活動が活発である
✓芸術館やホクト文化ホールでは、色々なジャンルの芸術が行われている
✓県都長野であるゆえに、建物は充実している。市民芸術館は未来を育む子どもたちが合唱団で学校を超えて組織化されたので、今後の発展が楽しみである
✓市民芸術館の幅広い活用を期待している
✓芸術館ができてコンサートが多くなった

✓環境はあるが関心は今一つである

✓芸術館をはじめ大きな文化施設で一流の芸術に触れ、地域の公民館などで身近な文化に触れることができる

【年齢区分】

19歳以下

20～29歳

30～39歳

40～49歳

50～59歳

60～64歳

65～69歳

70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

✓身近に感じない

✓美術館はあるが気軽に親しめるかはわからない
✓情報を得る機会が少ないから

✓文化施設が少ない
✓気軽ではない。特に長野駅周辺にアートがない
✓情報が少ない

✓料金が安い
✓信濃美術館が早くオープンしてほしい
✓もっと施設、情報発信が必要である
✓無料で気軽に参加できるような催しをしてほしい
✓公演回数が少ない、美術展などが少ない

✓全く不足している
✓コンサートが開かれる場所がない

✓長野市には美術、演劇が少ない

✓PRが足りない
✓この分野は松本市の方が良いと思う
✓芸術館中心の活動は地域で活動する芸術団体を巻き込んだ地域に根差したものにしていけるべきである


✓市民芸術館を中心に行われているが利用しにくく利用料金も高い

【施策コード／施策名】
5-3-1 多彩な文化芸術の創造と活動支援

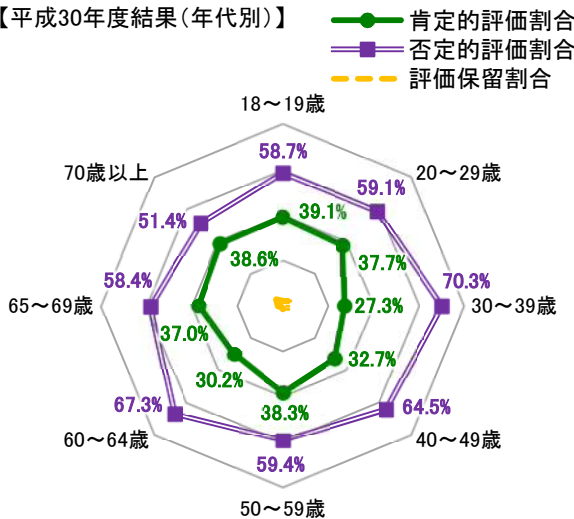
【担当部局】
文化スポーツ振興部

【区分】 ○ 【指標名】
音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる

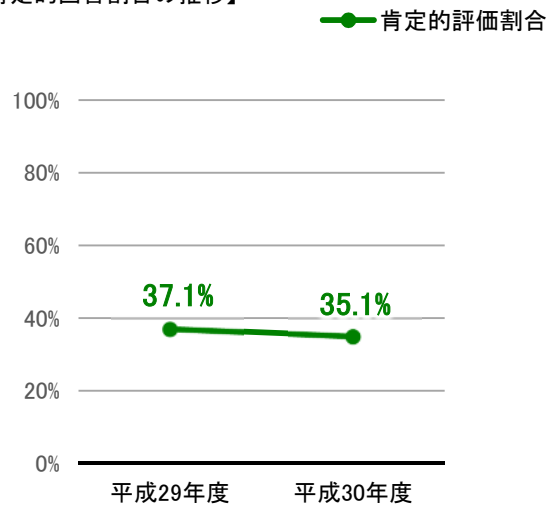
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	37.1%	35.1%
否定的評価割合	56.1%	60.1%
評価保留割合	4.4%	2.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	39.4%	
平均値 (H29～30)		36.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓音楽や演劇は興味があり、学校の芸術鑑賞で触れる機会も多い
- ✓美術はやっている
- ✓音楽に親しんでいる
- ✓興味のあるものには行くようにしている
- ✓落語を聞いている
- ✓市民ホールでのイベントはチェックしている
- ✓子どもの小学校のマーチング参加から、色々な音楽イベントに行くようになった
- ✓合唱や吹奏楽、また、街角で行われている催しを見に行く
- ✓積極的にコンサートなどへ足を運んでいる
- ✓好きなアーティストが来たら行く程度である
- ✓高校生の定期演奏会などを鑑賞することがある
- ✓美術館・コンサート・映画などは時々行く
- ✓関心があり楽しんでいる
- ✓定期演奏などには参加している
- ✓音楽や演劇・芸能など好きなジャンルで機会を見て楽しんでいる
- ✓クラシック音楽会や絵画展に参加し、また自分から写真展を開催している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓興味ある内容がない
- ✓あまり行く機会がない
- ✓興味がない
- ✓若者が楽しめるような現代美術の拠点が無いのが残念である
- ✓情報がない
- ✓余裕がない
- ✓行く時間があまりない
- ✓美術館には時々行くが他は全く行っていない
- ✓あまり親しんではいない
- ✓自身の趣味に没頭している
- ✓興味がない
- ✓なかなか時間がとれない
- ✓心の余裕がない
- ✓きっかけがない、時間もない
- ✓ほかのことで忙しい

【施策コード／施策名】
5-3-2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進

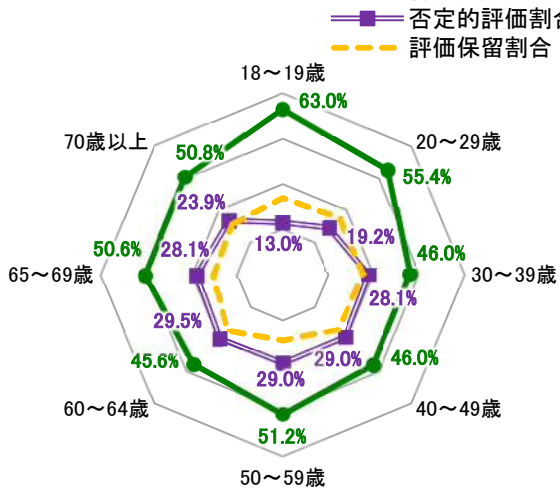
【担当部局】
教育委員会、文化スポーツ振興部

【区分】 ● 【指標名】
地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている

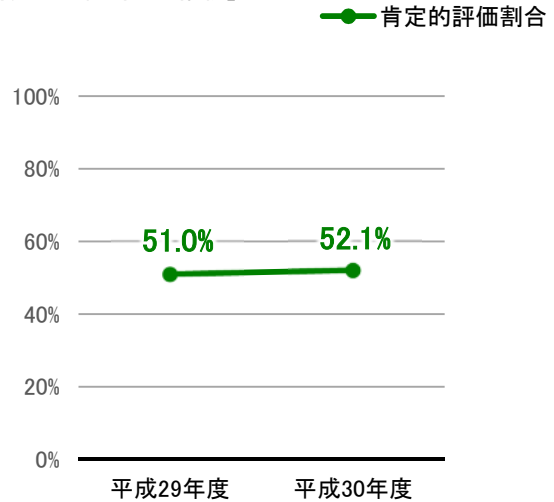
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	51.0%	48.8%
否定的評価割合	28.3%	26.4%
評価保留割合	18.7%	22.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	51.0%	↗
平均値 (H29～30)		49.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓近隣に多くの文化財が残されている
- ✓小学校で地域のことを学んだ
- ✓地元の文化財はしっかり保存され、観光などに活用されている
- ✓善光寺など保存されているところが多い
- ✓古い建物が大事にされている
- ✓浸透していると思う
- ✓獅子舞はこれからも継承して欲しい
- ✓善光寺周辺は綺麗に保たれていると思う
- ✓広報や回覧板等を見てそのように感じる
- ✓公民館などに大切に保管されている
- ✓古民家利用もその一つだと思う
- ✓古い寺社などが残っている
- ✓文化財の説明看板が増えてわかりやすくなっている
- ✓祭礼などは今のところ継承されている
- ✓石碑等を見かける
- ✓保管されているし、祭りも盛んな方である
- ✓もっと若者にも宣伝すべきである
- ✓春秋のお祭りが継承されている
- ✓甚句や地域の神楽・獅子舞いの保存会がある
- ✓神楽フェスティバル等は良い
- ✓公民館の各種講座などで色々の地域の文化財に触れることができる
- ✓最近地域の文化芸能を発掘、紹介する機会が多くなってきている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓活用されているかわからない
- ✓世代間ギャップがある
- ✓「活用」されているものは少ない。「継承」「活かす」ということをもっと具体的に考えて、ときに大胆にそれを行えば、もっと面白い街になると思う
- ✓文化財の消失もあったし、街並みや全体を守って、こうという取組はまだまだ遅れている
- ✓文化財があることを地域の大人も子どもも知らない
- ✓松代駅跡など、あまりよい展示方法ではない気がする
- ✓地域の文化財についての学習をもっとした方がよい
- ✓後継者が不足している
- ✓資金や人材難で保存・継承・活用が困難になっているものが多いと聞く
- ✓地域によっては継承者が居なく大変らしい
- ✓宣伝、告知が足りない
- ✓地域においては努力しているが、高齢化に伴い保存活動の担い手の減少が問題である

【施策コード／施策名】
5-3-2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進

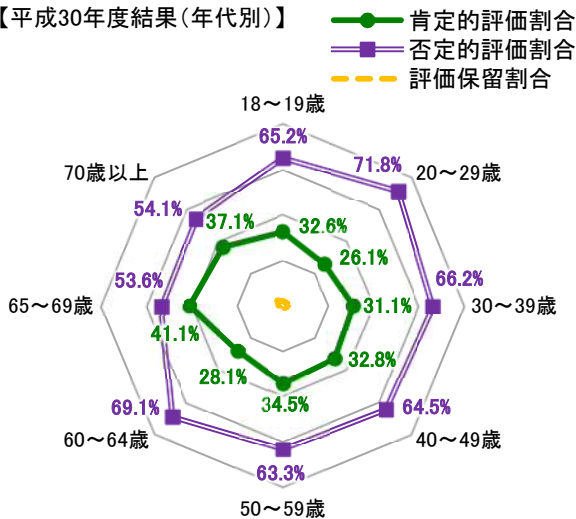
【担当部局】
教育委員会、文化スポーツ振興部

【区分】 ○ 【指標名】
地域の伝統的な行事に参加している

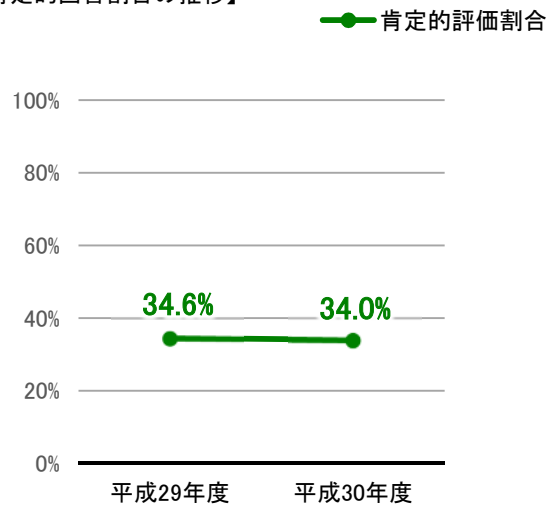
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	34.6%	34.0%
否定的評価割合	58.9%	61.5%
評価保留割合	3.9%	2.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	38.5%	
平均値 (H29～30)		34.3%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ 祇園祭などよく参加している
- ✓ 時間と興味があれば行く
- ✓ お祭りなどに参加している
- ✓ 地域のお祭りには必ず出向くようにしている
- ✓ お祭りを中心に積極的に参加している
- ✓ 保存会に参加している
- ✓ 興味がある行事に参加している
- ✓ 祭りに参加している
- ✓ タイミングが合えば参加している
- ✓ お祭りなどに参加している
- ✓ 地域の伝統行事には積極的に参加している
- ✓ 祭典や神楽保存会に参加している
- ✓ 地域のお祭りをささやかに支援している
- ✓ 神社仏閣・フェスティバル等のイベントには積極的に参加している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓ 学校の関係で時間が取れないことが多い
- ✓ 機会がない
- ✓ お祭りなどは混んでいるので行かない
- ✓ 地域の伝統的な行事を知らない
- ✓ 時間や日程が合わず参加していない
- ✓ 伝統的行事などはない
- ✓ 興味がない
- ✓ 参加したいがなかなか機会がない
- ✓ 時間的に参加する余裕がない
- ✓ 昔は学校活動で参加したが今はない
- ✓ 伝統的な行事がない
- ✓ 地区役員の時だけ参加している
- ✓ 保存会などには参加していない
- ✓ 伝統的な行事がない
- ✓ 魅力がない
- ✓ 参加する機会がない
- ✓ 地域においては伝統的な行事といえるようなものがない
- ✓ 関心はあるが機会がない
- ✓ 参加する場がない

【施策コード／施策名】
5-4-1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進

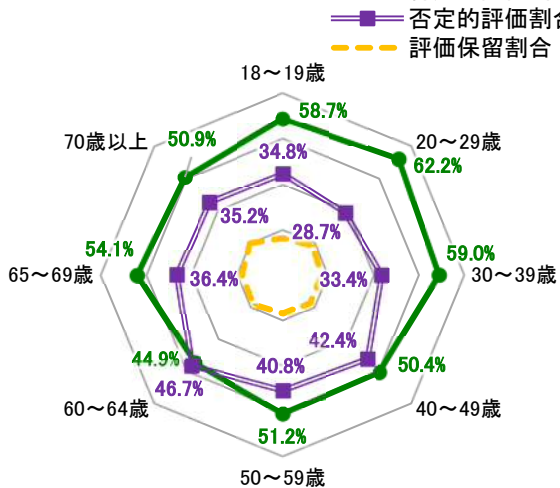
【担当部局】
文化スポーツ振興部

【区分】 ● 【指標名】
スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている

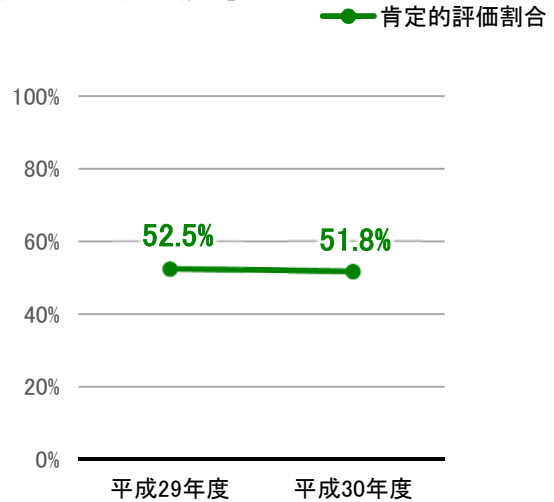
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	52.5%	51.8%
否定的評価割合	37.1%	37.6%
評価保留割合	8.3%	8.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	54.8%	
平均値 (H29～30)		52.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓学校体育館等の利用ができる
- ✓元オリンピック施設があり、環境は整っているように思える
- ✓運動公園が多い
- ✓公園が多い
- ✓スポーツ施設はたくさんある
- ✓オリンピック後の施設での教室が充実している
- ✓安く利用できる
- ✓マラソンにせよ水泳、ジムなど身近にできる環境が整っている
- ✓至るところに運動できる場所がある
- ✓施設は多いものの、予約がとれないことがある
- ✓テニスコートが充実していて、ネット予約ができる
- ✓地域でスポーツのサークルがたくさんある
- ✓体育施設など整備されている
- ✓公園、運動場等が多い
- ✓とにかくスポーツ大会が多い地域である
- ✓長野市で運営している施設のほか、スポーツジムも増えている
- ✓スポーツ施設を市のHPで予約し利用することができる
- ✓場所はあるし、気候も良い
- ✓体育館など、空いていたら予約無しで使えるようにしてほしい
- ✓運動場・公園・スポーツジムなどが増え利用者も多い
- ✓オリンピック以降、施設は充実している
- ✓近間に運動施設が設置整備された
- ✓運動公園など施設が充実している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓少ないと思う
- ✓室内練習場が少ない
- ✓運動場が近くにない
- ✓有料の施設は数に限りがあり、無料の場所はほとんどなくなった
- ✓スポーツ公園等が少ない
- ✓場所が少ない、休日は駐車場が満車、公共交通機関がない
- ✓体育館予約システムが使い勝手が悪い
- ✓施設の充実が感じられない
- ✓近くの体育館などはなかなか個人利用できない
- ✓夜間しか参加できない人には不十分である
- ✓施設は多いが気軽となるとそうでない
- ✓低価格で使用できる施設が少ない
- ✓指導者がいない
- ✓新しい競技場や運動場が整備されてきたが利用するための手続きが煩わしい
- ✓サッカー場は過剰投資である

【施策コード／施策名】

5-4-2 スポーツを通じた交流拡大の推進

【担当部局】


文化スポーツ振興部

【区分】

【指標名】

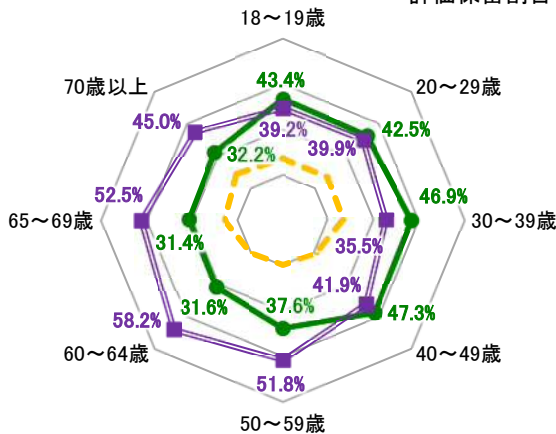
● プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	36.7%	37.7%
否定的評価割合	47.1%	45.7%
評価保留割合	14.5%	14.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	35.1%	
平均値(H29～30)		37.2%	

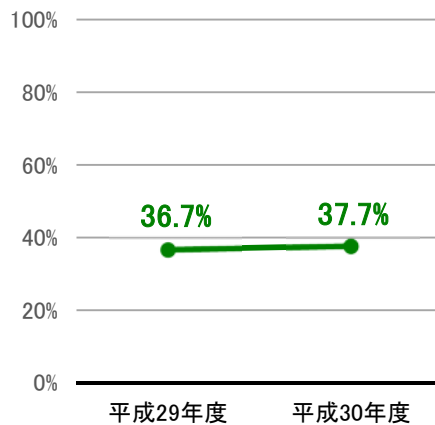
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓シーズン中は高い頻度で試合が行われている
- ✓野球もサッカーもチームがある
- ✓年に何度も様々な競技で観戦が行われている
- ✓サッカーやフィギュアスケートなどの国際的な大会も開催されている
- ✓ウィンタースポーツの開催数が増えたように思う
- ✓運動公園や各競技場など旧オリンピック施設を中心に、数が多い
- ✓学校からチラシをよく持ち帰ってくる
- ✓運動公園など環境が整備されている
- ✓運動公園が近く、週末はいつも賑わっている
- ✓冬季スポーツは十分、夏季が増えると良い
- ✓野球・サッカー・バスケットボールなど鑑賞する機会は増えている
- ✓大相撲の巡業やプロレスなども盛んである
- ✓サッカー競技場・野球場等は施設が充実している
- ✓プロスポーツが多い
- ✓オリンピックが開催された施設を生かして相撲やプロ野球が開催される
- ✓サッカーと野球が活躍している
- ✓オリンピック施設での活用が盛んに行われている
- ✓気軽に参加できるマラソン大会がある
- ✓長野スタジアムやオリンピックスタジアムなどの整備により一昔前よりはかなり盛んに行われていると思う
- ✓地元のプロスポーツが誕生しそれを応援する組織が構築されだしている。そんな中で国際競技などの誘致が未だできていないのが残念で今後の企画に期待したい

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓盛んに行われているとはいえない
- ✓一部の人気のあるスポーツ以外も誘致してほしい
- ✓プロスポーツはやや低調と感じる
- ✓ウィンタースポーツが不十分である
- ✓プロスポーツの取組を聞いたことがない
- ✓プロスポーツを見る機会が少ない
- ✓施設の割には少ないと思う
- ✓興味がない
- ✓限定されている
- ✓サッカー場など巨大施設でのイベントが少ない
- ✓スポーツに興味がない

【施策コード／施策名】
5-4-2 スポーツを通じた交流拡大の推進

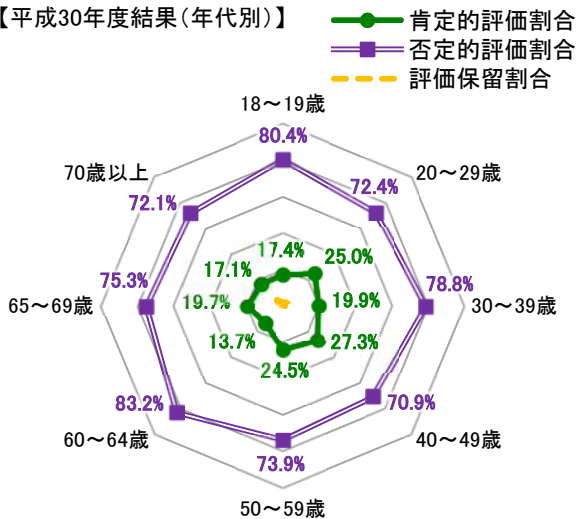
【担当部局】
文化スポーツ振興部

【区分】 ○ 【指標名】
市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している

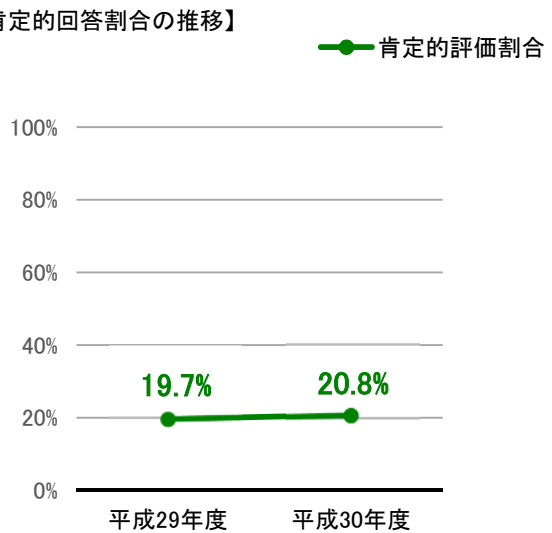
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	19.7%	20.8%
否定的評価割合	73.9%	74.4%
評価保留割合	3.7%	1.9%

現状値 (H28)	目標 (H33)	22.8%	↗
平均値(H29～30)		20.3%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓時間がない ✓興味がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓時間と興味があれば観戦している ✓ビッグハットでスケートを見た 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓テレビで十分である ✓観戦していない
<ul style="list-style-type: none"> ✓観戦している ✓イベントはチェックしている ✓機会があれば観戦したいと思うし、観戦にも行っている ✓サッカーが身近である 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓お金がかかるし、興味もない ✓競技者として参加はするが観戦はしない ✓観戦しに行く時間がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓興味あるものは観戦している ✓子どもの部活でしている ✓高校野球やBCリーグを観戦している ✓サッカー、フィギュアアイスショーに行った ✓子どもが陸上をやっているの大会などよく見に行く 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓時間がない ✓観戦するところまではしていない ✓アイスホッケーの試合を誘致してほしい ✓興味のある競技がやっていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓アイスホッケーがあれば観戦している ✓機会を捉えて行っている 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓見に行く機会がない ✓テレビ観戦が多い ✓興味がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓サッカー、野球を観戦している 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓魅力がない ✓興味がない
	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓スポーツにはあまり関心がない ✓イベントが少なく、施設が遠い
<ul style="list-style-type: none"> ✓良いものがあると行く 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓行きたいと思っているが、ほとんど行かない ✓関心がない

【施策コード／施策名】
5-5-1 国際交流活動の推進

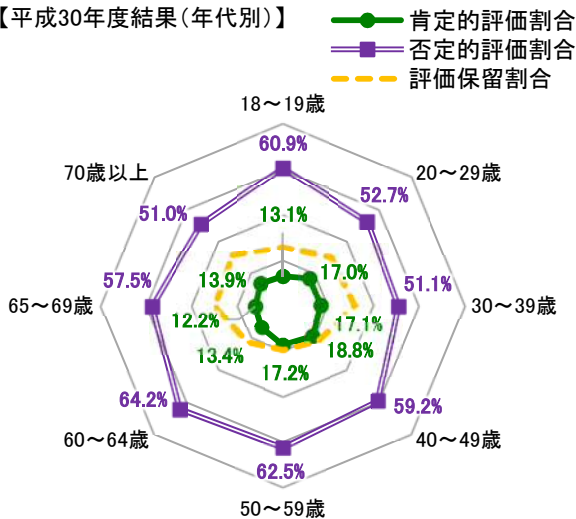
【担当部局】
企画政策部、教育委員会

【区分】 ● 【指標名】
国際交流が盛んに行われている

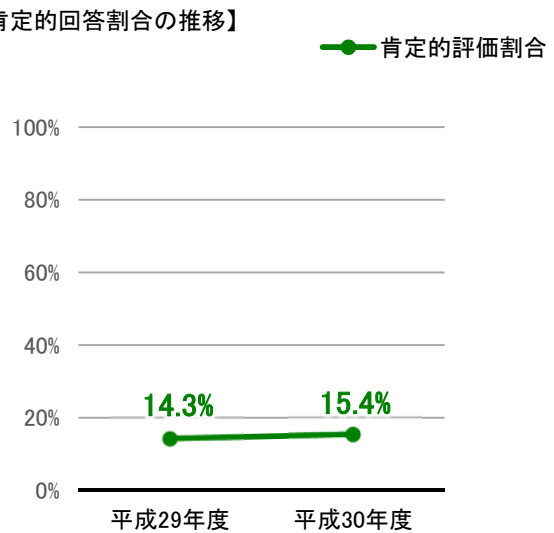
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	14.3%	15.4%
否定的評価割合	58.0%	56.1%
評価保留割合	25.9%	26.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	12.6%	
平均値 (H29～30)		14.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


✓交換留学や訪問活動などが盛んに行われている	19歳以下	✓外国人をあまり見ない ✓国際交流のイベントを見たことがない
✓外国人を多く見かける	20～29歳	✓交流している場面はあまり見ない ✓盛んに行われているとはいえない ✓国際交流の話題は聞いたことがない
✓職場に外国人もいる	30～39歳	✓姉妹都市がどこか知らない ✓在日外国人は多いが交流の場が少ないように感じる
✓毎月ALTの先生が学校に来ってくれる ✓小学校で国際交流している ✓外国人観光客がとても増えている ✓子どもの通う小学校に、中国から修学旅行生が来た ✓小・中学校でも取り組んでいることをニュースで知った ✓スポーツや観光を通しての国際交流も多い	40～49歳	✓外国の観光客は来ているが、交流とまではいかない ✓善光寺などヘインパウンドでもっと呼び込めば、自然に国際交流が広がるのではないかと ✓外国人を接する機会がない人が圧倒的に多いと思う ✓身近に感じられない
✓交流活動が広報されている ✓外国人が多くなっている ✓一校一國運動を継承するとともに、小学校での英語の取組も行われ、今後も楽しみである	50～59歳	✓長野オリンピックの頃は盛んだった
✓とにかく外国人が多くなった ✓姉妹都市、友好都市の交流がある	60～64歳	✓アンテナを張っているがあまり情報がない ✓交流イベントが少ない ✓一部のみに限られる
	65～69歳	✓日常的な交流意識はまだ希薄である ✓機会がない
	70歳以上	✓機会が少ない

【施策コード／施策名】
5-5-1 国際交流活動の推進

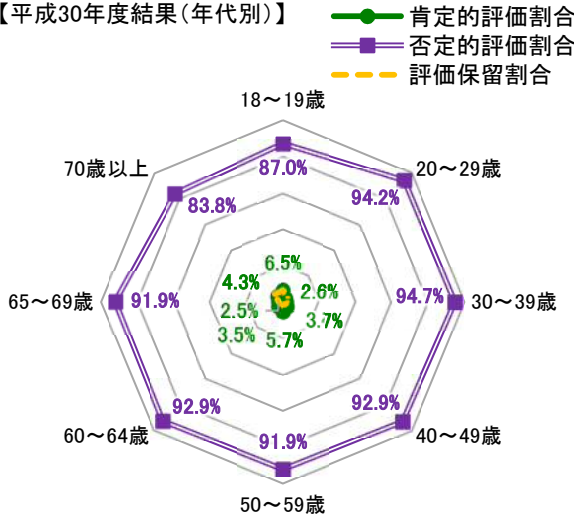
【担当部局】
企画政策部、教育委員会

【区分】 ○ 【指標名】
国際交流イベントに参加している

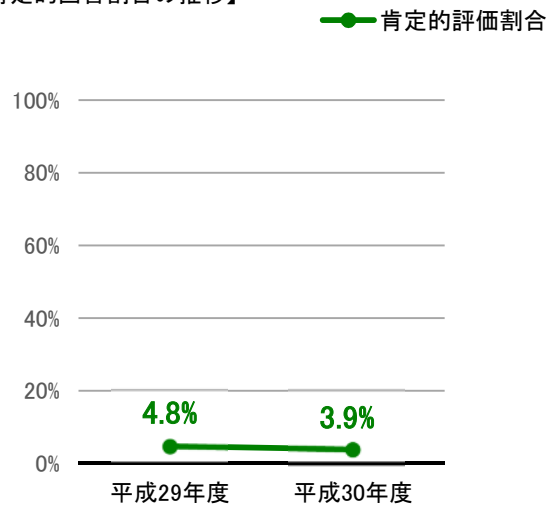
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	4.8%	3.9%
否定的評価割合	86.4%	90.4%
評価保留割合	6.2%	3.2%

現状値 (H28)	目標 (H33)	5.2%	
平均値 (H29～30)		4.4%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


✓仕事柄、参加している	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓国際交流イベントが近くで行われることが少ない ✓機会がない
	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓時間がない ✓興味がない
	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓機会がない ✓イベントに参加する時間がない ✓魅力を感じるものを知らない
	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓機会がない ✓関心はあるが、参加できていない ✓いつイベントがあるのかわからない
✓定期的に交流している ✓職場である	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓イベントを知らない ✓興味がない
✓機会があればなるべく参加している	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓外国の知らない人が苦手である ✓情報がない ✓語学が得意でない
	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓参加していない ✓イベントの情報が入らない ✓特別なイベント参加はしていないが身近な人との交流を行っている
	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓機会がない ✓大事だと思っているが、あまり行こうという気が出てこない

【施策コード／施策名】
5-5-2 多文化共生の推進

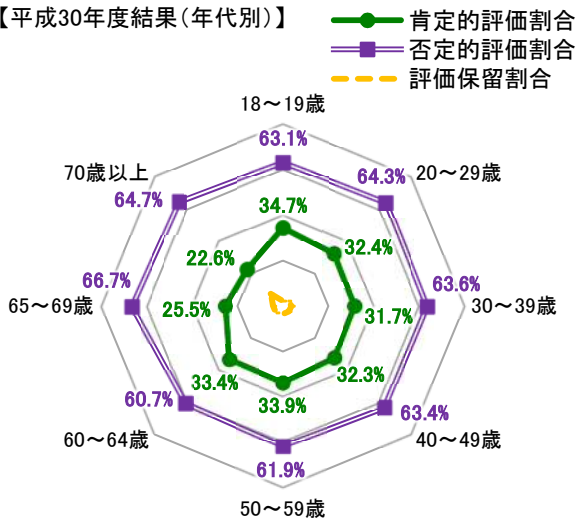
【担当部局】
企画政策部、教育委員会

【区分】 ○ 【指標名】
外国の文化や習慣を理解しようと努めている

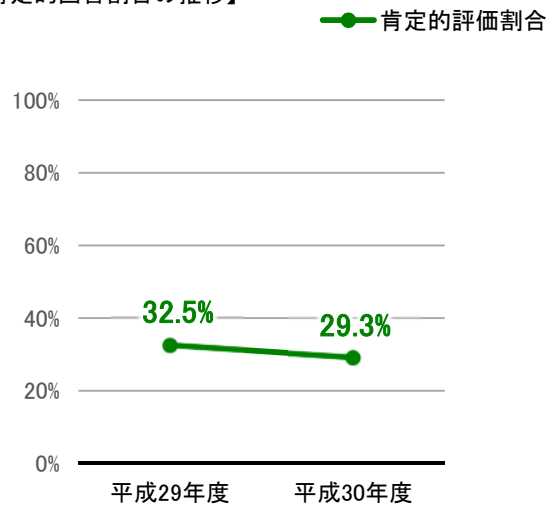
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	32.5%	29.3%
否定的評価割合	58.6%	63.6%
評価保留割合	6.4%	4.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	31.0%	
平均値 (H29～30)		30.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓外国の文化、習慣に関心があり、積極的に知りたいと思うことが多い
- ✓学校の授業で触れる
- ✓テレビなどで学んでいる
- ✓仕事柄している
- ✓知り合いの外国人や外国料理店の店員と積極的に交流して理解を深めている
- ✓海外をテーマにしたテレビ番組は好んで見る
- ✓完全にという訳ではないが、理解するように行動しているつもりである
- ✓外国人の友達と個人的に交流している
- ✓ラジオの基礎英語を聞いている
- ✓興味はある
- ✓最近では外国人も多いため、他の国の習慣も少しは慣れてきた
- ✓週1回は英会話教室に参加して、外国の文化や考え方なども学べて楽しい
- ✓インターネットや、テレビで情報は得ている
- ✓英語を教えているので、文化も教える
- ✓異文化交流に興味がある
- ✓興味のある国について調べている
- ✓外国の方に接するボランティアをしている
- ✓英国人から英会話を習っている
- ✓特別なイベント参加はしていないが身近な人との交流を行っている
- ✓読書、NHKを通じ理解している
- ✓市民講座等で外国の文化や歴史・芸術などについて座学ではあるが受講した程度である

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓積極的に理解しようとしていない
- ✓テレビなどで見聞きする程度である
- ✓理解したいが仕事以外に機会がない
- ✓余裕がない
- ✓興味はあるが行動には出していない
- ✓積極的にしてはしていない
- ✓意識して取り組んだことがない
- ✓理解しようと努めていない
- ✓情報として知ることにはあるが、実践の場はない
- ✓興味がない
- ✓見聞きしたことには興味がわく程度である
- ✓機会がない
- ✓あまり問題意識がなく、その機会もない

【施策コード／施策名】
 6-1-1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進
 6-1-2 インバウンドの推進

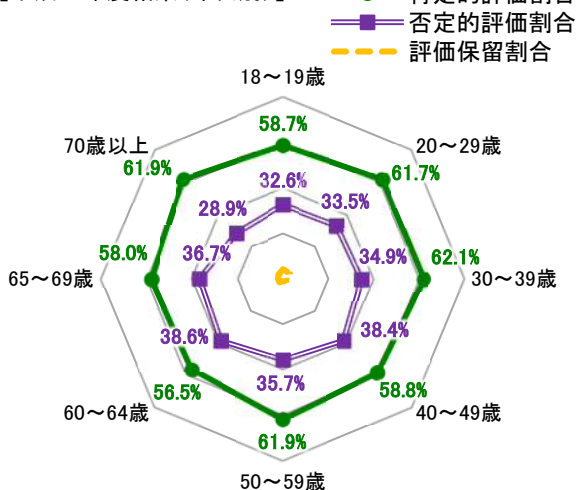
【担当部局】
 商工観光部

【区分】 ● 【指標名】
 長野市は、魅力的な観光都市である

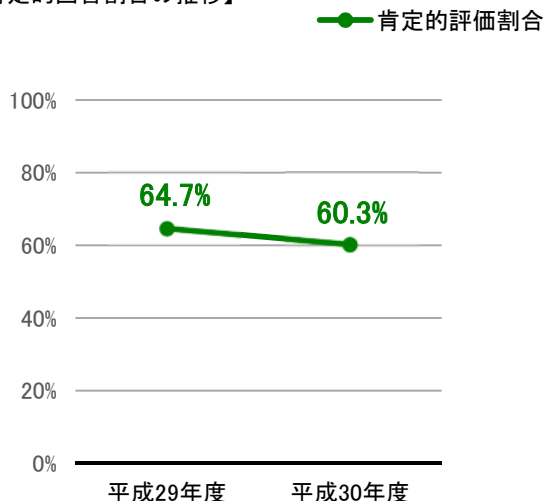
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	64.7%	60.3%
否定的評価割合	31.5%	34.6%
評価保留割合	2.2%	2.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	66.4%	
平均値(H29～30)		62.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓意外と歴史が多く残っている
- ✓観光スポットが多い
- ✓交通アクセスも良く、程よく街で自然がある
- ✓善光寺をはじめ戸隠・鬼無里があり食べ物も美味しい
- ✓文化・芸術・観光面での資源・財産がある
- ✓善光寺を核として集客力はあると思うが、回遊性を高める仕組みが必要だと感じる
- ✓善光寺御開帳の時のみである
- ✓外国人の観光客が増えたのを実感する
- ✓善光寺がある
- ✓自然に囲まれ、食べ物が美味しく、ゆったりと過ごせる
- ✓善光寺、戸隠などの観光資源を持ち、新幹線が通っている
- ✓自然環境も守る姿勢、もっとヨーロッパのような基準を設けた方が良い
- ✓伝統的建造物が多い、食文化はやや特色が乏しい気がする
- ✓自然豊かで、山並みは自然から贈られた借景である
- ✓観光都市ではあるが、おもてなしの心が少ない
- ✓案内所の充実が必要である。松代などももっと宣伝すべきだ
- ✓四季を通して魅力がある
- ✓外国人観光客を多く見る
- ✓善光寺・戸隠等がある
- ✓善光寺、松代、戸隠はあるが、その他の地域は少ないのが残念である

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓軽井沢や上高地と比べると弱い
- ✓長野駅は魅力的ではない
- ✓もっと都会的になってほしい
- ✓住んでいるとわからない
- ✓素晴らしいものはあるはずなのにアピールが弱い
- ✓善光寺以外に見るべき場所がない
- ✓川などで遊べるような大々的な何かがあるとよい
- ✓善光寺以外にもスキー場や温泉などの観光資源があるが、スキー場が衰退していると思う
- ✓歴史ある街なのに活かしていない
- ✓観光地が少ない、善光寺門前は魅力がない
- ✓正直、松本の方が魅力的な街づくりや宣伝が上手である
- ✓善光寺や松代・戸隠など目玉はあるが、トータルではアピール力が弱い
- ✓善光寺くらいしか観光地として思いつかない
- ✓観光地はいくつかあるが、それぞれの場所が離れているので、観光客は移動するのに不便を感じていると思う
- ✓滞在型でない
- ✓松本等南信方面がよくがんばっている
- ✓大型ショッピングモールが少ない
- ✓善光寺以外案内すべきところが少ない
- ✓長野市は魅力がなく善光寺だけに頼りきっている
- ✓善光寺に偏り観光地としての奥行きが狭い
- ✓外国の観光客は増えていると思うが地域住民にとっては周辺の市町村に比べると、魅力的な目玉がないと思う

【施策コード／施策名】
6-1-1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進

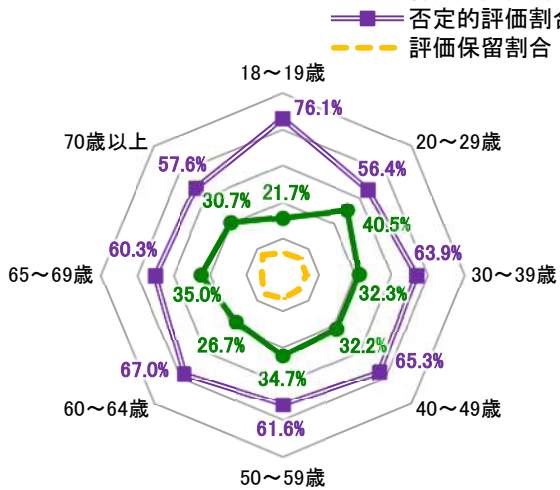
【担当部局】
商工観光部

【区分】 ○ 【指標名】
知人や友人などに地域の魅力を伝えている

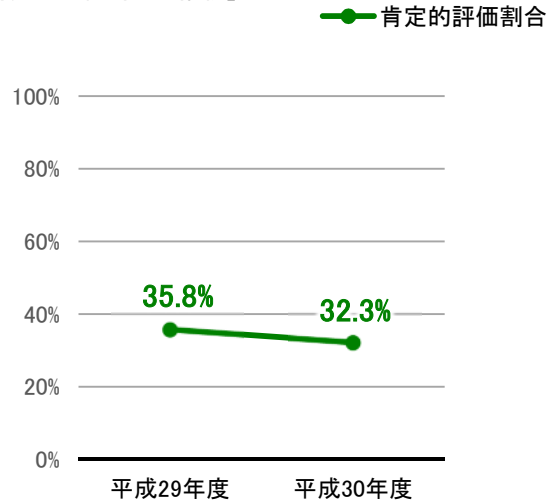
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	35.8%	32.3%
否定的評価割合	56.7%	61.7%
評価保留割合	4.9%	3.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	36.4%	
平均値 (H29～30)		34.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓少しはしている
- ✓県外の人、市外の人に住みやすいという話をする
- ✓SNSに投稿することもある
- ✓冬などにウィンタースポーツに誘っている
- ✓長野市外の方には良さを伝えるようにしている
- ✓キャンプ場など、おすすめな場所を県外の親戚に勧めている
- ✓自分の住んでいる町はとて素晴らしい環境なので自慢している
- ✓長野のよさをアピールしている
- ✓長野へ遊びに来るように誘っている
- ✓聞かれれば伝えている
- ✓災害が少なく、食べ物がおいしいことはアピールしている
- ✓善光寺以外にも長野市はいろいろあるよとPRしている
- ✓関西に住む子どもや親せきに特産品などを送っている
- ✓信州に誇りを持っている
- ✓三才駅の三歳児キャンペーンなどは紹介する
- ✓SNSなどで発信している
- ✓学会で紹介している
- ✓ボランティアガイドをしている
- ✓住民自治協議会を通じて情報発信をしている
- ✓自分で学んだことは語るようにしている
- ✓県外に住む子供や知人には機会があれば紹介している
- ✓遠方の同級生や親族などに対し、地域の魅力はできる限り伝えるようにしている
- ✓信州の自然を、写真を通じて紹介している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓機会がない
- ✓伝える意思がない
- ✓伝える相手がいない
- ✓県外出身の友人と話す機会が少ない
- ✓地域の魅力をあまり感じていない
- ✓特に何もしていない
- ✓地域の魅力がいまいち分からない
- ✓伝えたいが長野市は魅力がなくて困る
- ✓県外の知人にあまり連絡していない
- ✓伝え方がよく分からない
- ✓伝える魅力がない
- ✓積極的に魅力を伝えたことはない
- ✓伝える人がいない
- ✓魅力を伝えるものがない
- ✓交流の場が少ない
- ✓何が魅力なのか考えていない
- ✓そのような会話をしたことがない
- ✓機会が少ない

【施策コード／施策名】
6-1-2 インバウンドの推進

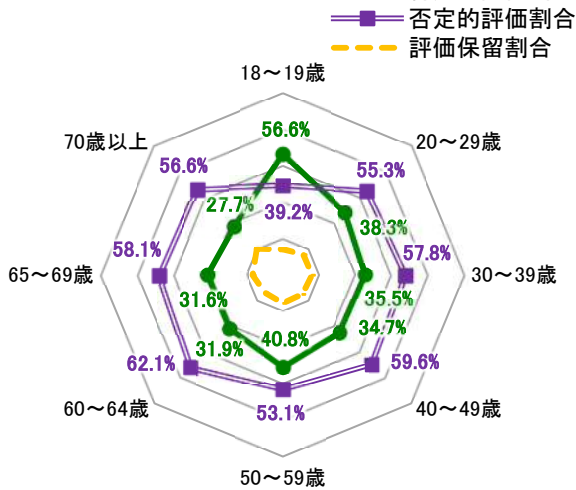
【担当部局】
商工観光部

【区分】 ○ 【指標名】 困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている

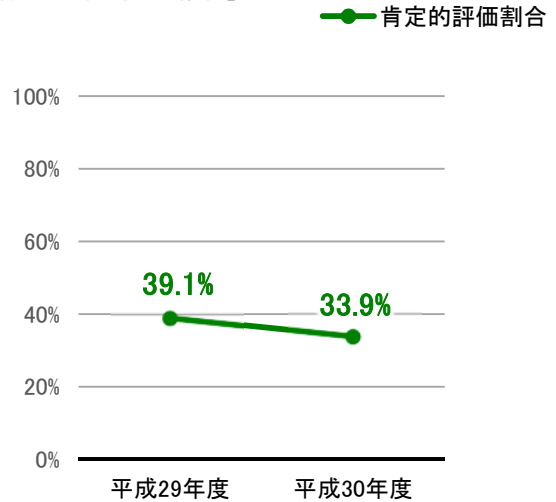
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	39.1%	33.9%
否定的評価割合	48.9%	57.0%
評価保留割合	9.5%	6.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	34.2%	
平均値 (H29～30)		36.5%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓心がけている
- ✓努力している
- ✓機会はないが、心がけてはいる
- ✓英語は得意ではないが、聞かれたら誠意をもって答えている
- ✓駅前で困っている外国人を助けることがある
- ✓可能な範囲で手助けをしたいと考えている
- ✓声掛けをしている
- ✓気持ちはあるが機会がない
- ✓見かけたら声をかけようと思っている
- ✓言葉がわからないが、できるだけ声をかけている
- ✓道案内をした
- ✓ボランティアガイドとして行っている
- ✓経験は少ないが声をかけた
- ✓機会が少ないが心がけている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓機会がない
- ✓手助けしたいと思うが話しかけられない
- ✓助けたいが英語に自信がない
- ✓英語に自信がないので関わらない
- ✓助けてあげたいが語学に自信はあまりない
- ✓手助けが必要かわからない
- ✓困っている外国人を見たことがない
- ✓心がけているが困っている場面に合ったことがない
- ✓気持ちはあるが実際そうならたできるかわからない
- ✓英語が話せないので困ってしまう
- ✓機会がない
- ✓外国人が日本語を話せるなら手助けするが、それ以外は極力避ける
- ✓文化の違いと語学がわからない
- ✓積極的には行動しない
- ✓機会がない
- ✓あまり機会がない
- ✓気持ちはあるが言葉の障害があり尻込みしている

【施策コード／施策名】

6-1-3 コンベンションの誘致促進

【担当部局】

商工観光部

【区分】

【指標名】



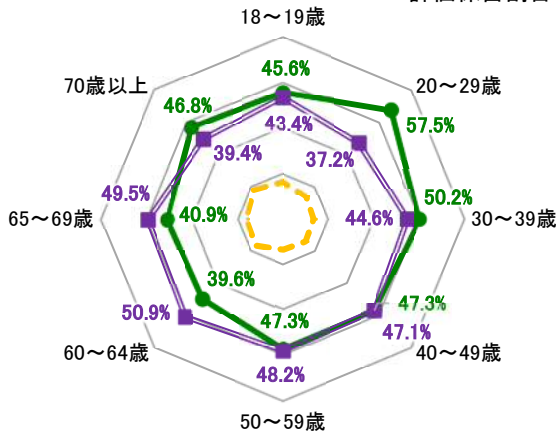
コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	45.2%	46.4%
否定的評価割合	46.0%	45.1%
評価保留割合	7.1%	5.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	52.6%	
平均値(H29～30)		45.8%	

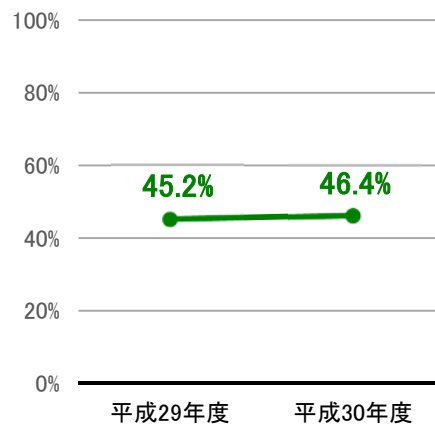
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
--- 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

- ✓コンサートなどはよく行われている
- ✓大会やイベントの度にシャトルバスが運行され、にぎわっているのを見る
- ✓イベントが多い

19歳以下

- ✓あまりない
- ✓情報やPRがない

- ✓イベントのあるときは賑やかになる
- ✓びんずる、えびす講などがある
- ✓長野マラソンなどがある
- ✓最近有名人が長野に来ている
- ✓テレビのCMで宣伝しているのを見る

20～29歳

- ✓イベントが少ない
- ✓にぎわっていない

- ✓本当にサッカーのにぎわいがすごい
- ✓催し物やコンサートに行くと活気を感じる
- ✓以前よりイベントが増えて観光客が増えた
- ✓スポーツ大会は冬期を中心に多く開催されているように感じる

30～39歳

- ✓そもそも長野の人の地域性で「にぎわう」ことは苦手である
- ✓施設はあるのに、有名人がライブするのが少ない
- ✓サッカー以外は、ほぼない
- ✓長野に人気のあるものはこない

- ✓コンサートには実際に鑑賞して楽しんでいる
- ✓イベントがある時は駅前のホテルが満室になっていると聞いている
- ✓テレビでの案内も充実している
- ✓ビッグハットやエムウェブ、オリンピックスタジアムなど積極的に活用されている
- ✓交通の流れや、観光でお金を落としてもらうルート作りをもっと研究すべきである

40～49歳

- ✓長野マラソンの時に県外参加者を受け入れられない程度の宿泊キャパシティでは人は集まらない
- ✓コンサートでは感じない
- ✓イベントの賑わいは生まれるが、一過性のものではない
- ✓ウィンタースポーツが不十分である

- ✓オリンピック会場の有効活用がされている
- ✓スケートの大会などで全国から人が集まる
- ✓競技場が揃い、大会開催等の機会は増えた
- ✓開催されるときは活気づくのもっとやってほしい

50～59歳

- ✓もっと大小問わず、イベントを開催した方が良いと思う
- ✓イベントを市民の交流に生かしていない
- ✓情報がない

- ✓善光寺花回廊では活気があった
- ✓高齢者の見に行けるようなコンサートの企画をしてほしい

60～64歳

- ✓PRが足りない
- ✓イベントは少なく、情報が入らない

- ✓国内の大きなイベントや国際大会等が徐々に増えているようにも見えるが、更に増やすには宿泊施設や交通機関などの更なる整備が必要である

65～69歳

70歳以上

- ✓まだまだ少ない

【施策コード／施策名】
6-2-1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進

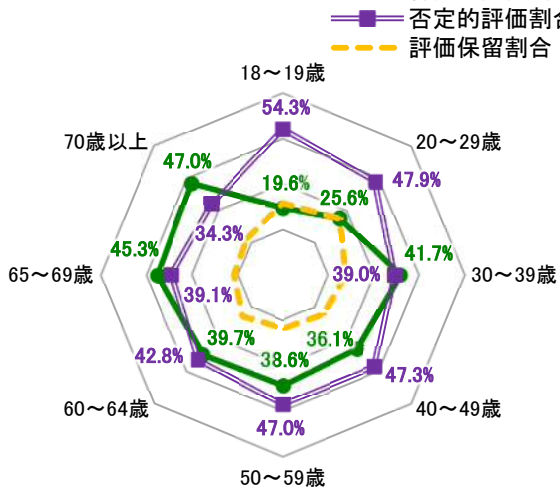
【担当部局】
農林部

【区分】 ● 【指標名】
野菜や果物づくりをしている人が増えている

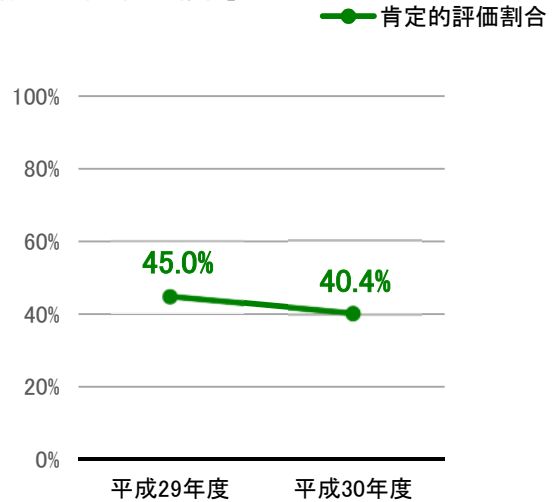
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	45.0%	40.4%
否定的評価割合	39.1%	41.8%
評価保留割合	14.2%	14.9%

現状値 (H28)	目標 (H33)	47.5%	↗
平均値 (H29～30)		42.7%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓作っている人は多いが、増えているようには見えない ✓畑が住宅地に変っているから、減っているのではないかと思う
	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢者が多い気がする ✓まわりでは聞かない
<ul style="list-style-type: none"> ✓直売所が増えている ✓野菜をもらうことが多い ✓家庭菜園など小規模では増えている ✓ベランダ菜園や夏はグリーンカーテンでゴーヤを育てる方々が周りにたくさんいる 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢化により減っている気がする ✓増えている実感はない ✓田畑は減っている ✓特に山間地の山等は荒れている
<ul style="list-style-type: none"> ✓今年から家庭菜園を始めたという友人が何人かいる ✓土地を借りて農業をしている人も多い ✓近隣でよく見かける ✓空き地を利用しての菜園が増えている ✓もともと野菜や果物の消費量も多く、生産者消費者ともに意識が高い ✓サラダパークが人気で抽選と聞いた 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓農家は高齢者のイメージは変わらない ✓休耕地が多い ✓歳を取り過ぎるとできない ✓農家も家庭菜園も衰退している気がする ✓田畑が減っている ✓以前から多いため、増加している印象はない
<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢者の方に限らず、若い方も家庭菜園をやっているのを見掛ける ✓身近にいる 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢化で減っている ✓旧市内の農地は減っていると思う ✓家庭菜園は増えているが農家は減っている ✓市民農園の紹介が少ない ✓高齢化が進み継続するのが難しい
<ul style="list-style-type: none"> ✓親の代からの畑を受け継いでいる ✓市民農園が増加している 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓家庭菜園は横ばいだが、農業人口は減少している
<ul style="list-style-type: none"> ✓NPO法人が菜園の企画募集に参加している ✓家庭菜園などに取り組んでいる方が周りにいる 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓家庭菜園等は増えているが、中山間地農地の担い手は高齢化が目立ち四苦八苦の状況である
<ul style="list-style-type: none"> ✓家庭菜園が普及している ✓遊休畑を借りて野菜などを作る市民菜園の人が増えている 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓休耕地もあるがあまり利用されていない

【施策コード／施策名】
6-2-1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進

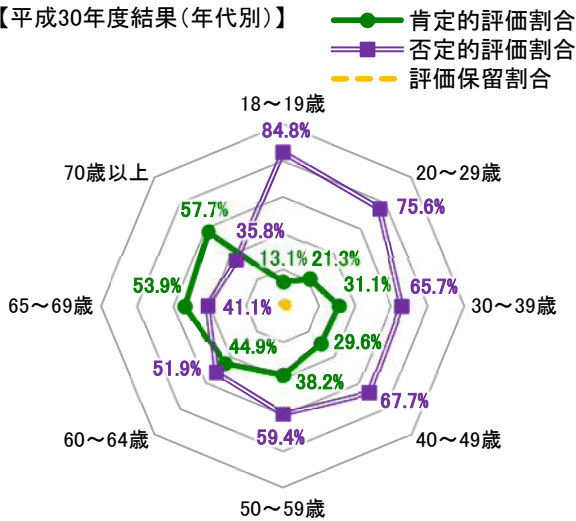
【担当部局】
農林部

【区分】 ○ 【指標名】
野菜や果物づくりなどを楽しんでいる

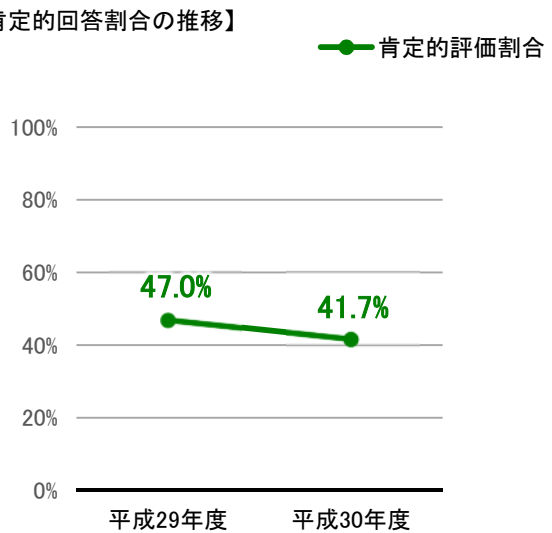
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	47.0%	41.7%
否定的評価割合	48.5%	54.1%
評価保留割合	2.5%	1.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	44.0%	↗
平均値 (H29～30)		44.4%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

✓兼業農家のため、栽培量が多く大変な事も多い
✓パセリやバジルの育成をしている

✓野菜や果物でなく植物を育てている

✓仕事の一環でやっている
✓実家が農家である
✓庭で育てられる範囲でやっている
✓庭でブルーベリーやいちご、野菜はプランターで作っている

✓今年から家庭菜園を頑張っている

✓家庭菜園で楽しんでいる
✓梅、ブルーベリー、季節の野菜をつくっている

✓庭の一部に野菜や花を植えている
✓りんごを栽培している

✓空き畑で楽しんでいる

✓畑、水田の仕事に追われている

【年齢区分】

19歳以下

20～29歳

30～39歳

40～49歳

50～59歳

60～64歳

65～69歳

70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

✓機会がない
✓家に畑がない

✓難しいのであきらめた
✓作る時間がない
✓虫が苦手である
✓土地がない

✓ベランダでプランター菜園をしたかったが、なかなか時間に追われ今年はチャンス逃してしまった
✓興味があるが作っていない
✓ベランダでやっている
✓畑がない
✓余裕がない
✓作っていない

✓機会があまりない
✓今年は間に合わなかった
✓仕事が忙しく家庭菜園は止めたがベリーやハーブ、プチトマトは育てている
✓時間がない
✓楽しいと思えない

✓機会がない
✓ノウハウがない
✓買ったほうが安い

✓虫が嫌いである

✓ベランダ菜園程度である
✓実践の場がない

✓時間がない
✓農作業の心得がない

【施策コード／施策名】

6-2-2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進

【担当部局】

農林部

【区分】

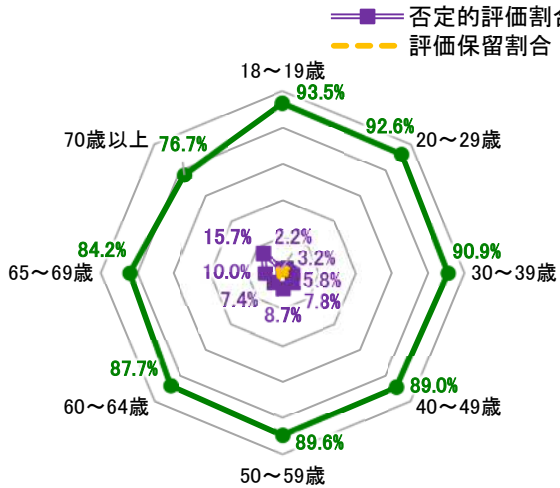
【指標名】

● りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である

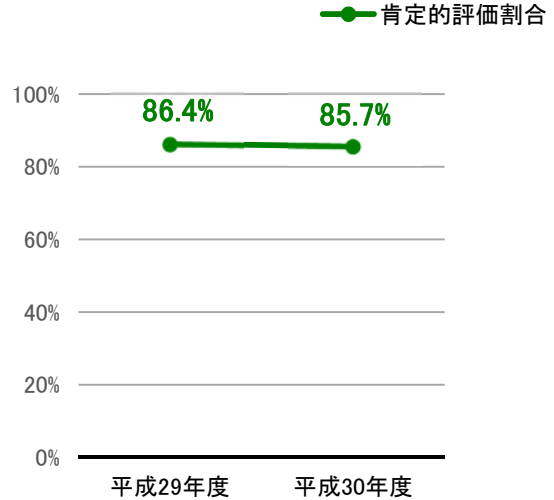
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	86.4%	85.7%
否定的評価割合	9.5%	9.5%
評価保留割合	2.6%	2.1%

現状値 (H28)	目標 (H33)	87.8%	➡
平均値 (H29～30)		86.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓とても美味しいものが多い ✓りんごや桃などを栽培している所が多く、味も良い 	19歳以下	
<ul style="list-style-type: none"> ✓おいしい農産物が安く、気軽に食べられる ✓りんごを県外の人に送ったらものすごく喜ばれた ✓胸を張って美味しいといえる 	20～29歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓自信をもって紹介したいと思える ✓名産といえば農作物のイメージがある。実際に都会で食べても、長野の味には遠いと思った ✓新鮮な農産物が手に入りやすい地域である ✓桃もりんごもとても美味しい ✓生産者が頑張っている 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓川中島や篠ノ井などの一部だけが盛んだと思う ✓長野市に果樹のイメージがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓長野は一年中おいしい農産物に恵まれている ✓長野の果物は美味しいと思う ✓毎年他県の方から送ってほしいと依頼がある ✓シーズンには生産地がにぎわっている ✓新鮮な果物や野菜を食べられることが長野の魅力だと思う ✓多様な旬の果物や野菜が手軽に買うことができとてもうれしい 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓少し離れた市町村の方が盛んである
<ul style="list-style-type: none"> ✓他県の知人に贈って喜ばれている ✓スーパーなどの地場産コーナーが充実しているように思う ✓果物はどの地域にも負けない品質のものが生産されていると感じる ✓地域名産が増えている 	50～59歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓新たな品種も改良されおいしいものが多く生産されている 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓お店で見かけるが特別安いわけでもない
<ul style="list-style-type: none"> ✓県全体では有数の果実・野菜の産地である ✓道の駅に新鮮なものが出ている 	65～69歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓おいしい果物が生産されていて大変良い ✓おいしい農産物生産地として自慢できる 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ブランド力が必要である

【施策コード／施策名】

6-2-2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進

【担当部局】

農林部

【区分】

【指標名】

○

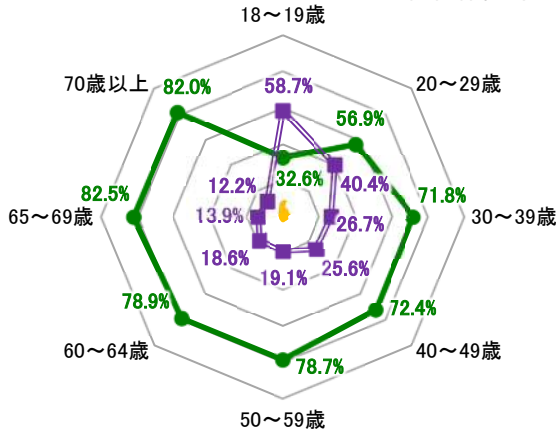
地元産の農産物を意識的に買うように心がけている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	77.3%	75.9%
否定的評価割合	19.5%	20.8%
評価保留割合	1.5%	1.3%

現状値 (H28)	目標 (H33)	80.9%	➡
平均値(H29～30)		76.6%	

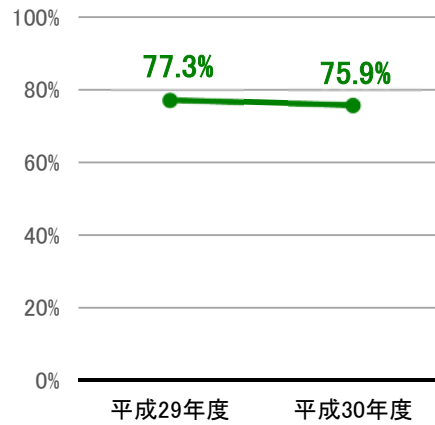
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
○ 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

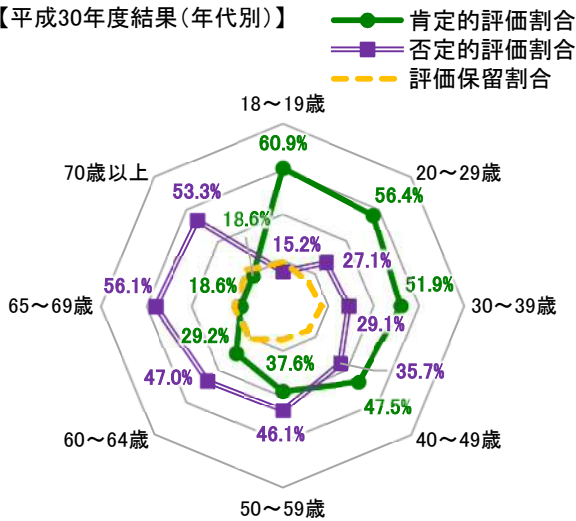
<ul style="list-style-type: none"> ✓地元産の方が、鮮度がよく味も良い ✓地元のを多く食べている 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓心掛けていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓その方が安い ✓安心する ✓なるべく地元産の物を買うようにしている 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓値段の安いものを買ってしまう
<ul style="list-style-type: none"> ✓安心、安全、地産地消を目指したい ✓直売所にいたり、スーパーでは地元産コーナーをのぞくようにしている ✓新鮮で美味しい ✓地元産があれば高くても購入するようにしている 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓コンビニでの買い物が多い ✓地元のは高過ぎて買えない
<ul style="list-style-type: none"> ✓地元産を積極的に買っている ✓地元産の売り場からまず回るようにしている ✓地元にお金を落としたい ✓農協や直売所をよく利用する ✓美味しく新鮮で安い ✓JAの直販に行く 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓値段をみて安い物を購入している ✓意識していない
<ul style="list-style-type: none"> ✓安全・安心を考えると、断然地元産である ✓スーパーの地元産コーナーなどをよく使う ✓新鮮で美味しいものが手に入る ✓地場産の道の駅などよくいく 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓手にとりやすいものを買っている
<ul style="list-style-type: none"> ✓生産者の顔がみえるので安心・安全性が高い ✓直売所を積極的に利用している 	60～64歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓地元産を意識する ✓直売所へ行く 	65～69歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓季節毎の旬の農作物を採り立てにこだわって買っている ✓直売所を利用している ✓スーパーなどで地元の野菜果物を優先的に購入している 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓我が家で生産しているので、買うことは少ない ✓良いものならば地元産に限らない

【区分】 ● 【指標名】
森林が整備されている地域である

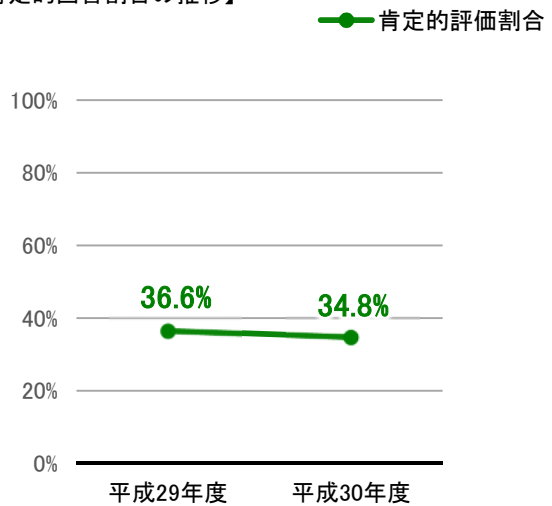
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	36.6%	34.8%
否定的評価割合	41.4%	43.8%
評価保留割合	20.2%	18.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	41.1%	➡
平均値(H29～30)		35.7%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ 奇麗に整備されている山が多いように見える
- ✓ 木がたくさんある
- ✓ 道ばたの草もよく整備されている
- ✓ 荒地が少なく整っていると思う
- ✓ あまり森林には行かないが、お出かけマップなどで見るとやはり森林のスポットが多いと思う
- ✓ 山が身近にあり、森林整備されている
- ✓ 松枯れ病は、自分の地域ではまだ少ないと思う
- ✓ ニュースでも地元の小学生が手入れをしているのを見かけることがある
- ✓ 緑は多い
- ✓ 実際に確認することはないが整備されている印象がある
- ✓ 緑がとても綺麗である
- ✓ 里山整備は進行しているイメージがある
- ✓ 鬼無里や戸隠は整備されている
- ✓ 植林活動も盛んである
- ✓ 観光地の道路周辺は綺麗で森林浴が楽しめる
- ✓ 観光地の森林の整備が進んできている
- ✓ 民有林はよくないが、国有林等公の森林はともいい

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓ 森林は少ない
- ✓ 森林が多いが、整備については聞かない
- ✓ 整備されていない山が多いように感じる
- ✓ 倒木が目立つ
- ✓ 山は荒れ放題だと感じている
- ✓ 人手が足りないと思う
- ✓ 森林資源が多いのに利用の範囲が限定的だと思う。建設材料などの価値のある利用が増えて欲しい
- ✓ 枯れた松の木がここ数年でさらに増えている
- ✓ 里山は荒れている。松くい虫の影響か、枯れた木が目立つ
- ✓ 森林はもちろん多いが、整備されている印象はない
- ✓ 手が入らない森林が多い
- ✓ 個人所有の森林は人の手が入っておらず、荒れている状態である
- ✓ 松食い虫の被害が増えた
- ✓ 放置されている地域が多い
- ✓ イノシシ、鹿、たぬき、クマが増えている
- ✓ 荒地が多い
- ✓ 荒れた森林、手があまり入っていない森林を見るとそうは思えない
- ✓ 私有林は、ほったらかしだ

【施策コード／施策名】

6-3-1 商工業の強化と環境整備の促進
6-3-2 地域の特性が光る商工業の推進

【担当部局】

商工観光部

【区分】 【指標名】

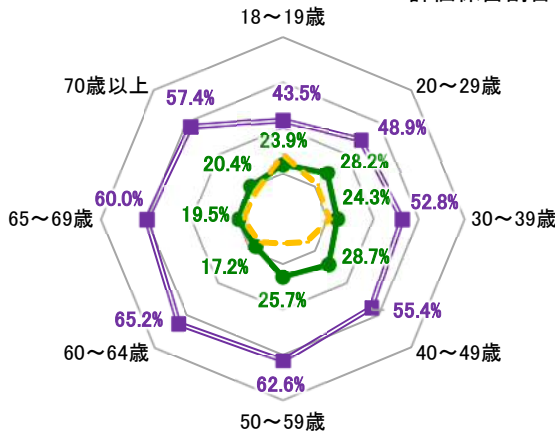
● 活力のある企業が多い地域である

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	21.7%	23.5%
否定的評価割合	59.4%	57.6%
評価保留割合	17.0%	16.3%

現状値 (H28)	目標 (H33)	22.8%	↗
平均値(H29~30)		22.6%	

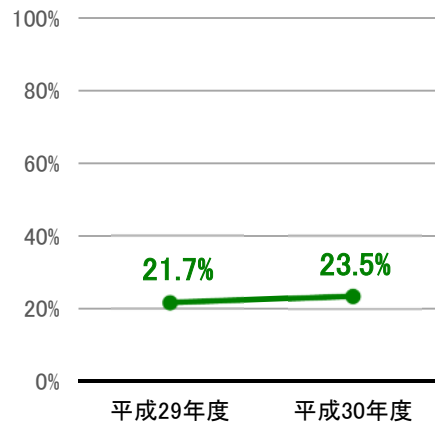
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓企業の多くが生き生きしていると思う	19歳以下	✓一見して活力がないように見える企業も見かける ✓会社が減ってしまったと思う
✓中小企業も元気である	20~29歳	✓オリンピックがピークだったと思うところがある ✓活力のある企業はほんの一部だと思う
✓企業提供のイベントが充実している ✓企業の数が多い ✓求人が増えた ✓自身の仕事を通じてそのように感じる	30~39歳	✓日本を代表する企業が少ない ✓景気が良く見えない ✓明暗がはっきりと分かれている ✓具体的な企業が出てこない ✓大きな仕事をしている企業が少ない
✓ホクト、マルコメなど活躍していると思う ✓アイデアのある中小企業が増えてきている ✓全国規模の会社も多い ✓学校行事に協賛として協力的な企業がある ✓イベントなどスポンサーになる企業が多い	40~49歳	✓有力企業もあるが全体的な活力までは感じない ✓アピールできる企業は少ないと思う
✓大企業が多い ✓日本無線は綺麗な建物になり、活力があるように見える ✓製造業は元気がある ✓女性が働ける場、結婚後も子どもを育てながら働ける企業が増えてきた	50~59歳	✓全国的に名前の知られた企業は少ないように感じる ✓若者の都会流出は止まらない ✓県都なので普通だと思う ✓活力のある企業はあるが、決して多くはない ✓企業の誘致が少ない
✓優秀な企業がある。規模は小さくても世界に誇れる技術をもつ企業がある ✓信毎などの報道で感じる	60~64歳	✓全体としてわからない
✓設備投資が多い ✓製造業を中心に頑張っていると思う	65~69歳	✓企業自体の活力が感じられない ✓全国的知名度のある企業が少ない ✓就職先が都会に流れている
✓長野の企業規模は中小企業が大半であり、小さいなりに特殊技術で生き延びている元気な企業もある。大手企業を誘致できれば運送費などの削減ができコスト競争にも有利となると思うが行政の誘致活動が望まれる	70歳以上	✓独自性を持った企業が少ない ✓下請けばかりだ ✓若者が勤めたい企業が少ない

【施策コード／施策名】

6-3-1 商工業の強化と環境整備の促進
6-3-2 地域の特性が光る商工業の推進

【担当部局】

商工観光部

【区分】

【指標名】

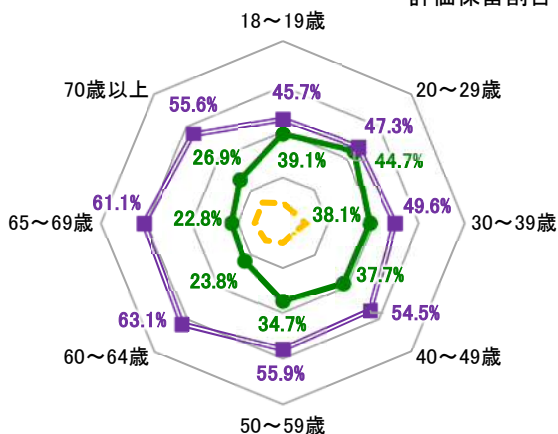
● 市内に個性的で魅力的なお店が増えている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	30.7%	31.7%
否定的評価割合	57.1%	55.6%
評価保留割合	10.7%	10.0%

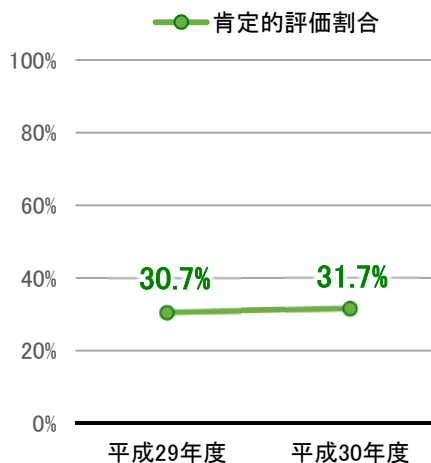
現状値 (H28)	目標 (H33)	30.7%	↗
平均値(H29~30)		31.2%	

【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

✓街を歩いていると個性的なお店が増えたと感じる	19歳以下	✓特にな ✓他市町村の方が魅力を感じる
✓カフェが増えてきた ✓リノベーションが盛んになってきた ✓食べ物屋さんには個性的なお店が増えている	20~29歳	✓チェーン店が多い
✓若い人がやっているお店が増えていると思う ✓善光寺周辺で古民家等を活用したリノベーションされた個店が増えてきている ✓地域の食材を使ったお店が増えてきているように思う	30~39歳	✓大型イオンモールくらいはほしい ✓同じようなカフェばかり増えている ✓松本に負けている ✓市街地に活気を感じない ✓長続きしない
✓新たに発見する店が多くどれも魅力的に感じる ✓駅前、善光寺界隈に増えた ✓カフェや凝った素敵な店を見かけることが多くなった ✓最近オシャレなお店が増えている気がする ✓古民家利用もいい感じである ✓駅周辺だけでなく素敵なお店が増えている	40~49歳	✓結局大きな会社のお店が増えているだけで、観光客にも地元にも楽しめるとなると程遠い ✓松本と比べると見劣りする ✓駅前はチェーン店ばかりでありあまり特色がない ✓個性的なお店はあるが、魅力的なお店は増えていない ✓フランチャイズチェーンが多い
✓雑貨屋やカフェなど増えている ✓善光寺の町並みを生かした若者による個性的なお店ができていく ✓駅ビル等が増えた ✓県外のお店による市内出店が増えてきた	50~59歳	✓チェーン店や県外資本の店が多い ✓大型店がない
✓空き家や古民家を再利用した店や地産地消やジビエ料理など創作料理店が増えた	60~64歳	✓お店が定着しない感じがする ✓松本上田へと大型店に流れているので店舗数も少ないと思う
✓門前には若者が新しく動き始めている ✓市の中心部に増えている	65~69歳	
✓その様なお店は確かに増えたと思うが、特に若い男性向けのお店が少ないと思う ✓若者を引き付ける店舗が増えてきた	70歳以上	✓新たに開店してもお客が少ないため閉店することが多い ✓スーパー、コンビニの進出により長野市の顔らしい店舗は少なくなった

【施策コード／施策名】

6-3-1 商工業の強化と環境整備の促進
6-3-2 地域の特性が光る商工業の推進

【担当部局】

商工観光部

【区分】

【指標名】

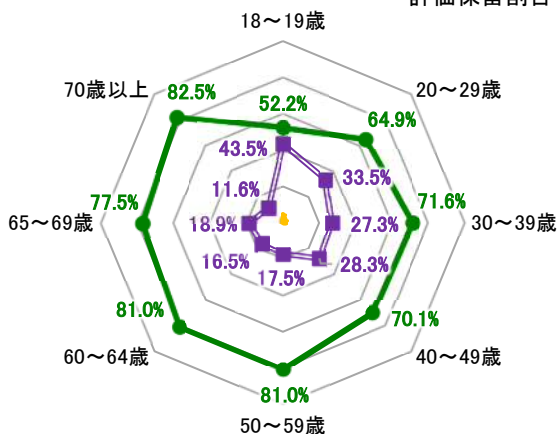
○ 地元のお店で買い物をするように心がけている

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	77.7%	76.3%
否定的評価割合	19.1%	20.7%
評価保留割合	1.3%	1.0%

現状値 (H28)	目標 (H33)	79.6%	➡
平均値(H29~30)		77.0%	

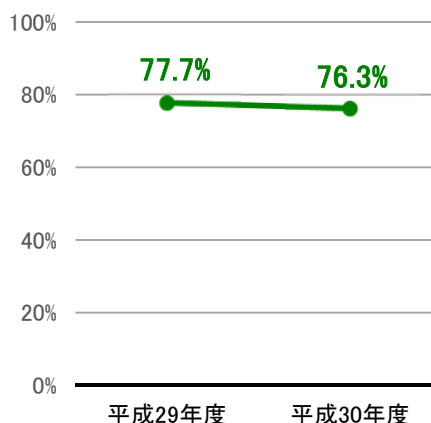
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
○ 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 近くのお店で買う 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓ チェーンのスーパーやホームセンターなどの方が便利だと感じる
<ul style="list-style-type: none"> ✓ できるだけ近い地域にあるお店を使うよう心掛けている ✓ 長野で購入できるものは、地元にお金を落とすようにしている ✓ 地産地消を心がけている 	20~29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 心掛けていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必ず地域のお店で買い物をする ✓ 農協や直売所をよく利用する ✓ 特別なことがない限り地元で買う 	30~39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スーパーでの買い物が多い ✓ 大型店で買い物することが多い ✓ ほとんどの買い物がインターネットである ✓ 地元到店はない ✓ 価格の安いお店に行ってしまう ✓ 特に意識していない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 通販等の利用はあまりない ✓ なるべく地元で買っている 	40~49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利便性のためインターネットで済ますことも多い ✓ 地元のお店では値段が高いのであまり行かない ✓ 安価なお店を利用する ✓ 郊外のスーパーに行くことの方が多い
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域のお店が充実している 	50~59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 特に心がけてはいない ✓ 品揃えが豊富な大型店舗に行くことが多い
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大半は大型スーパーで済ませるが、機会があるときは積極的に利用する 	60~64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地元に限らずいいものを買いたいと思う
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人商店を利用するときがある 	65~69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大型店などに頼らざるを得ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自宅に近いお店で買うことが多い ✓ 地元で金を落としたい 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スーパーでまとめ買いしてしまう ✓ 近くにあれば利用したい

【施策コード／施策名】
6-3-3 新たな活力につながる産業の創出

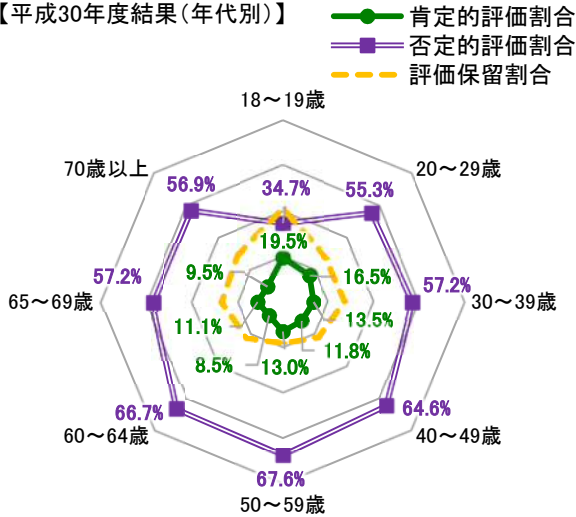
【担当部局】
商工観光部

【区分】 ● 【指標名】
新たな雇用が生まれている

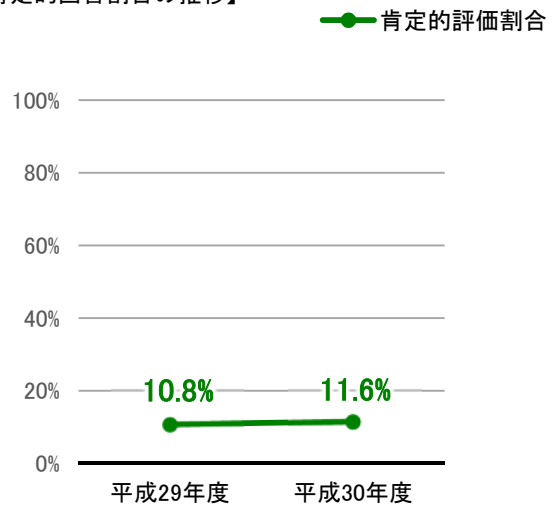
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	10.8%	11.6%
否定的評価割合	62.3%	60.6%
評価保留割合	25.1%	24.9%

現状値 (H28)	目標 (H33)	9.4%	
平均値 (H29～30)		11.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓有効求人倍率が上がっている
- ✓人材を求める企業が増えている
- ✓人材不足と聞く
- ✓次第に求人が増えてきている
- ✓採用担当なので、多様な形態や多様な働き方があると感じる
- ✓どの店もバイト募集している
- ✓県外からの企業誘致や移住が増えている
- ✓求人広告が増えていると思う
- ✓高卒の求人率が安定してきた
- ✓景気はいいと思う
- ✓就職には困らないと思う
- ✓高齢化ビジネスで雇用がある
- ✓求人広告が増えていると思う
- ✓これからの時代は福祉・医療関係などの分野での雇用が進むのではないかと
- ✓企業統計からそう思う

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】


- ✓減っていると思う
- ✓働き口は減っている
- ✓ハローワークを見る限り、同じ企業がずっと募集をかけているだけである
- ✓子育て世代のママは再就職に苦労していると聞く
- ✓長野に戻りたいと考えている友人もいるが、雇用がないと話している
- ✓求人票はわりとチェックするが、特に変わった様子は無い
- ✓大きな発展もないので、雇用も変わらない
- ✓あまり実感できない
- ✓個人経営が多く、雇用とまではいっていない
- ✓雇用増につながるほど経済活動が拡大しているとは感じない
- ✓業種によって差が大きい
- ✓新しい雇用は実感がない
- ✓魅力的な会社がない
- ✓新しい企業が少ない
- ✓仕事を通して感じる
- ✓新たな雇用が生まれるような新たな業態や職種が増えているとは思えない
- ✓企業誘致が必要である
- ✓魅力ある企業が少ない
- ✓企業側のPRが不足している
- ✓アベノミクスの経済効果は大企業でのみ利益が出ているようであるが、信州の企業の大半を占める中小企業には効果が得られていないのが実態である
- ✓求人情報は大変多いが、新たな企業創出にはつながっていないと思われる

【施策コード／施策名】
6-4-1 就労の促進と多様な働き方の支援

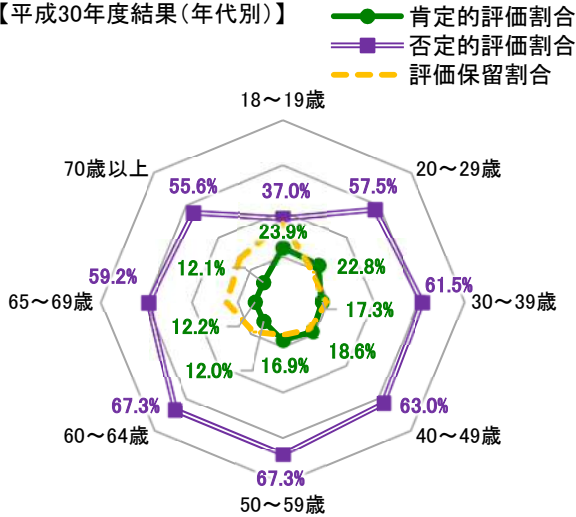
【担当部局】
商工観光部

【区分】 ● 【指標名】
仕事をを見つけやすい環境が整っている

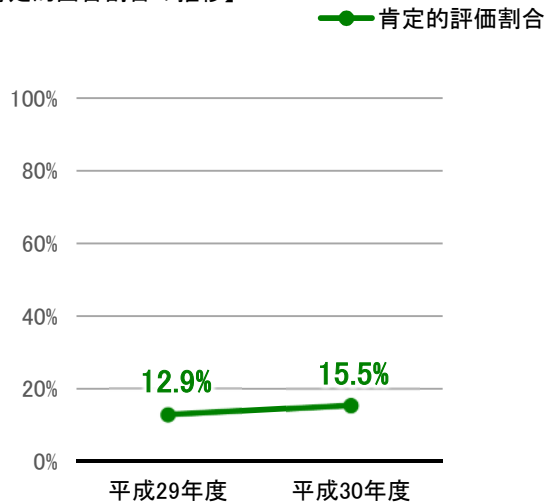
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	12.9%	15.5%
否定的評価割合	63.2%	61.0%
評価保留割合	22.2%	20.7%

現状値 (H28)	目標 (H33)	13.2%	
平均値 (H29～30)		14.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓有効求人倍率が上がっている
- ✓中心部以外にも就労相談できる場所がほしい
- ✓フリーペーパーが身近にある
- ✓折り込みで毎週見る
- ✓情報は得やすい
- ✓ハローワークや求人情報など情報を入手しやすい
- ✓求人情報をよく目にする
- ✓就職雑誌や求人広告を見かける
- ✓近隣地域と比較すれば仕事は見つけやすい印象である
- ✓人手不足である
- ✓ハローワークは、しっかり機能していると思う
- ✓スマートフォンのアプリが増えている
- ✓インターネットなどで検索できる
- ✓ハローワーク、人材紹介会社、インターネット等求人情報は得やすい
- ✓口コミや就職サイトが豊富である
- ✓仕事情報誌やネットによる求人情報など手軽さは前よりは一段と整ってきている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓仕事が少ないと思う
- ✓ハローワークしかない
- ✓ハローワークの人が親身でない
- ✓市内で見つけることは非常に枠が狭い。そのためネットやアプリを使って求人を探している人が多いと感じている
- ✓子育て中にできる仕事は少ない
- ✓地元には働き口は少ないような気がする
- ✓業界によると思う
- ✓見つけるまでに時間がかかっているから
- ✓選択肢も正社員としての募集も少ない
- ✓ハローワーク以外ない
- ✓求人情報の提供が少ない
- ✓ハローワークしか思い当たらない
- ✓希望する仕事となかなか合わない
- ✓仕事は見つけにくい環境である
- ✓実感がない
- ✓求人広告以外どうやって見つけるか知らない
- ✓年齢で採否を決める企業が多い
- ✓専門分野、国家資格がないと高齢者は雇用先が限られずやめてしまうと思う
- ✓情報が少ない
- ✓高齢者には厳しい雇用環境である
- ✓企業が少ない
- ✓仕事先がない

【施策コード／施策名】
6-4-2 勤労者福祉の推進

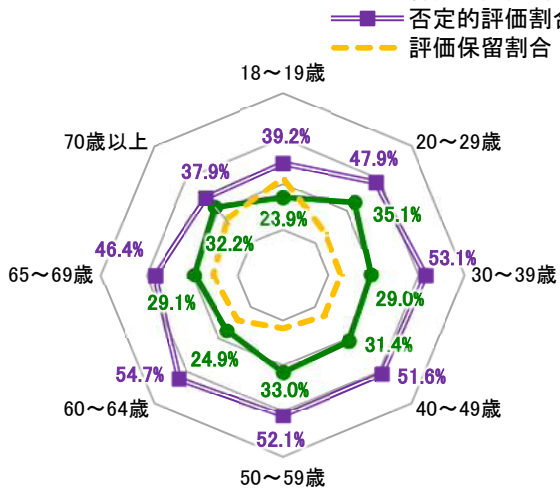
【担当部局】
商工観光部

【区分】 ● 【指標名】
市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている

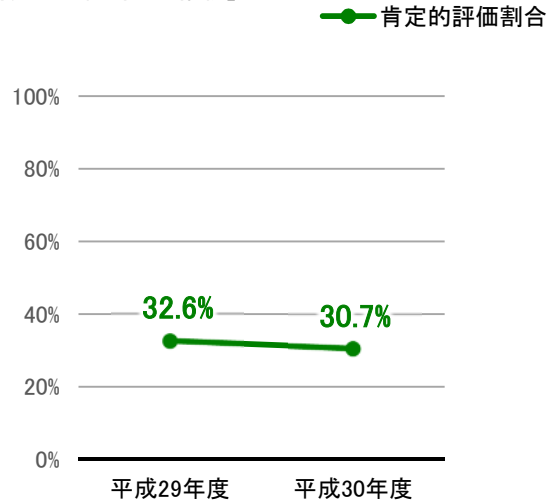
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	32.6%	30.7%
否定的評価割合	47.3%	47.9%
評価保留割合	18.5%	18.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	34.4%	↗
平均値(H29~30)		31.7%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓活力がある
- ✓元気そうである
- ✓働いている人はいきいきしている
- ✓やりがいを感じてやっている人もいるが、多くはない
- ✓明るく元気な顔をしている人が多くなってきているようだ
- ✓楽しんで働いていると思う
- ✓仕事にプライドを持っている人が多いと思う
- ✓ストレスはあまりないようだ
- ✓一生懸命働いている
- ✓少なくとも不平不満は聞かない
- ✓自分を含め周りの者に活気があり元気である
- ✓課題はあるがそれなりに働いている
- ✓仕事に就いている人は皆いきいきと働いている
- ✓セクハラ行為や上下関係の改善がみられる
- ✓都会に比べてのんびりしていて良いと思う
- ✓毎日元気に通勤している

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓いきいき働いている人はほんの一部である
- ✓給与、福利厚生について不満や不安がある中で、次にもっと良い会社に出会えるかわからないということから辞める勇気がなくしかたなしに働いている人ばかりだと実感している
- ✓就職先の環境(仕事内容、人間関係など)に左右されるとの実感がある
- ✓バラつきがあり、良いところは良いが悪いところは悪いと感じる
- ✓通勤、サービス残業が大変そうに見える
- ✓賃金が安く、仕事量が多い
- ✓疲れている人が多い
- ✓会社でのストレスを抱えている人が多い
- ✓心に余裕がない人が多い
- ✓みんな不満を抱えているが、他に仕事がないので諦めている
- ✓給料が減ったとは聞くが増えたとは聞かない
- ✓知人も正規雇用ではないので、更新時期になると心配している
- ✓心身症の友達がいる
- ✓ストレスがたまっている
- ✓まだまだ非正規社員が多い
- ✓労働環境が激しい
- ✓実感がない
- ✓結構疲れている人が多い

【施策コード／施策名】
7-1-1 地域の特性に応じた都市機能の維持


【担当部局】
都市整備部

【区分】

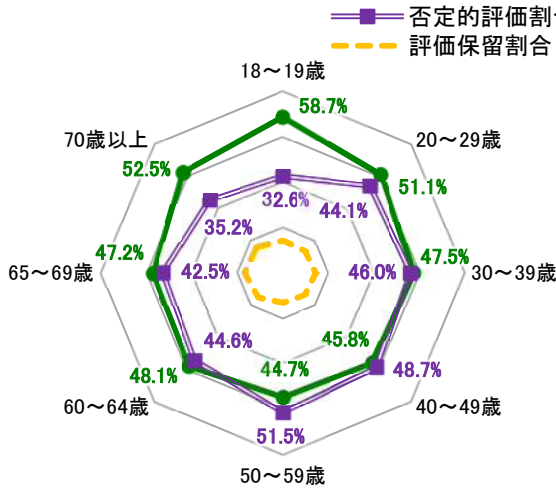
【指標名】

● 中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である

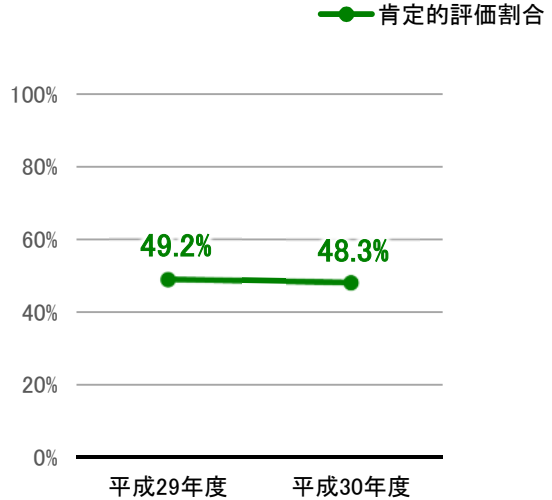
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	49.2%	48.3%
否定的評価割合	43.7%	43.8%
評価保留割合	5.5%	4.9%

現状値 (H28)	目標 (H33)	49.4%	
平均値 (H29～30)		48.8%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

【年齢区分】

【モニターの主な否定的意見】


<ul style="list-style-type: none"> ✓松代は施設がそろっていて便利だと思う ✓松代駅周辺の土地をもっと有効活用してほしい ✓市街地や多少大きな駅周辺は利便性が高い 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓場所による ✓買い物が不便である
<ul style="list-style-type: none"> ✓長野駅周辺のみそう思う 	20~29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓利便性が高いのは主要駅の周辺のみである ✓買い物するところがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓特に若里は利便性が高いと思う ✓施設は充実しているが、アクセスが少し悪い ✓駅によって大きな差はあるが、総合的にみれば利便性が高いと感じる 	30~39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓各施設がなかなか離れており、移動が大変である ✓車で行けるとの方が便利である ✓利便性が高い、とまでは言えない
<ul style="list-style-type: none"> ✓駅から歩いても行けるし公共交通機関がある ✓公共的な施設は概ね揃っていると思う ✓だいぶ計画的に開発されるようになった ✓施設の数多くないものの、一通りのものは揃っている 	40~49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓駅前には駐車場がなかったり、有料だったりするので使い勝手が悪い ✓お店がかたまっていないので、買い物づらい ✓電車、バスの本数が少なすぎる ✓自家用車の利用者が圧倒的に多いので、郊外の方が利便性は高い ✓大型店舗ができないのが不満である
<ul style="list-style-type: none"> ✓中心部は整っている ✓松代は街歩き散策に良いところだが、自家用車がないと自由に動けないので、長野駅や篠ノ井駅から周遊バスなどあればいい ✓鉄道駅すべてがそうとは限らないが、ある程度施設が集積している 	50~59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓撤退等も多く、中心地だから便利ともいえない ✓郊外の施設が多い ✓交通の便が悪い場所が多い ✓車中心の移動が多いが、駐車場が足りない ✓医療機関が少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓長野駅前が整備された 	60~64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓駅周辺は地価が高いので医療機関が少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓医療機関が充実している ✓相対的には良いと思う 	65~69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓中心市街の規模が小さい ✓駐車場不足、公共交通が不便である ✓長野駅周辺に偏っている
<ul style="list-style-type: none"> ✓篠ノ井駅から10分以内に各種機関があり利便性が高い ✓近隣住民の利便性は高いと思うが、少し離れた高齢者には恩恵がほとんど及ばない 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓不便を感じる人が多い ✓長野市内のJR及び私鉄沿線の各駅周辺の街づくりは都市計画のもと整備されたとは思えない。各施設が効率的に配備されていない。特に、高齢者には交通手段(移動)が不便と思う。もっと郊外を活用した街づくりにすべき

【施策コード／施策名】
7-1-2 暮らしを支える生活機能の維持

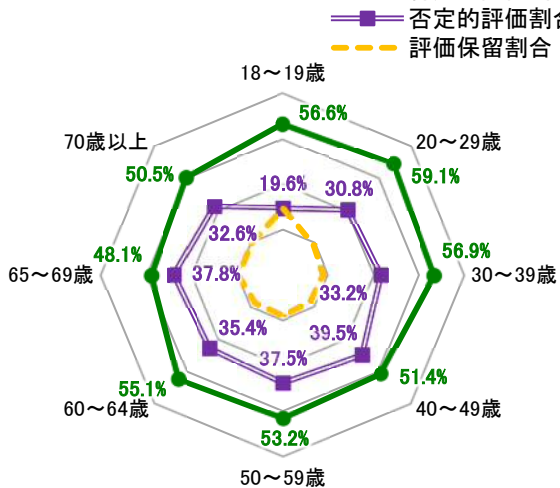
【担当部局】
建設部、上下水道局

【区分】 ● 【指標名】
日常生活に必要なインフラが整備されている

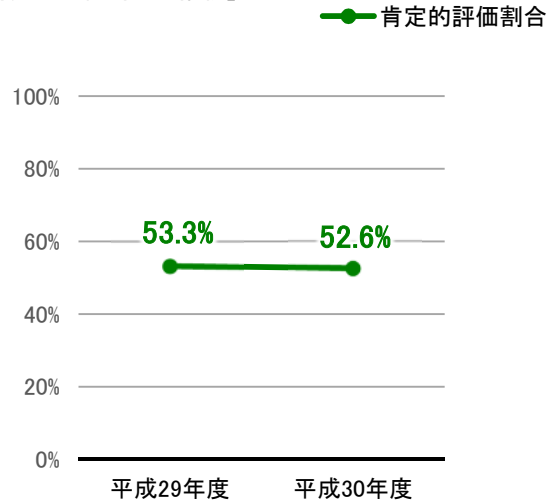
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	53.3%	52.6%
否定的評価割合	34.4%	35.4%
評価保留割合	9.8%	8.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	51.7%	
平均値(H29～30)		53.0%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓日常生活を送るのに不自由していない
- ✓利便性が高い
- ✓インフラ設備は充実していると感じる
- ✓不便は感じていない
- ✓整備されているが、バスの本数が少ない地域がある
- ✓ぐるりん号がある
- ✓インフラに関して不便を感じたことがない
- ✓相応の各種施設がある
- ✓ライフラインはしっかりしていると思う
- ✓とりあえず整っている
- ✓台風や地震などの後も全く不便さを感じない
- ✓公共交通機関以外は不便を感じない
- ✓安定した電気 ガスの供給や質の良い水資源がある
- ✓下水が普及した
- ✓不便を感じることはない
- ✓問題なし
- ✓近隣に病院、警察、消防署、学校などがある

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓交通の便が悪い
- ✓バスと鉄道の連携があまり取れていない
- ✓バス路線が少ない
- ✓不便を感じる地域も多い
- ✓必要なインフラはあるが、都市部と比較すればまだまだと感じる
- ✓高齢者にはまだ不便のように感じる
- ✓実感できていない
- ✓公共交通がやや弱い
- ✓車を所有していないと厳しい
- ✓公衆Wi-Fiが少ない
- ✓公共交通機関は不便に感じる
- ✓交通の便はよくない
- ✓公共交通機関が少ない
- ✓中心部は比較的整っているが郊外との格差が大きい
- ✓中山間地対策が課題である
- ✓バスが少なく、タクシー料金は高い
- ✓独居老人には足の問題が一番問題である

【施策コード／施策名】

7-1-3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進

【担当部局】


建設部、都市整備部

【区分】

【指標名】

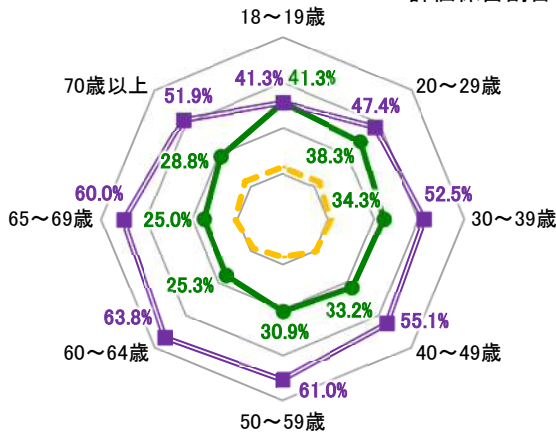
● 市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	30.8%	30.4%
否定的評価割合	56.5%	55.8%
評価保留割合	10.9%	10.6%

現状値 (H28)	目標 (H33)	30.3%	
平均値(H29~30)		30.6%	

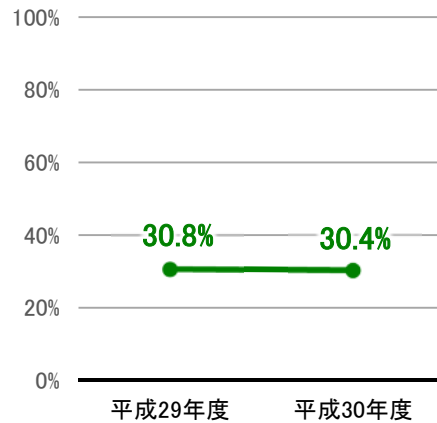
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
- - 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓バリアフリー化した建物や道路が多い
- ✓スロープやエレベーターが増えた
- ✓新しい建物はほとんど導入されている
- ✓長野駅前にはバリアフリー化が進んでいる
- ✓エレベーターなどもしっかりしている
- ✓ベビーカーが押しやすくなった
- ✓バリアフリーが当然のようになってきている
- ✓公共施設では実感できる
- ✓バリアフリーのお店は多い
- ✓エレベーターを備えた施設が増えたと思う
- ✓利用して感じる
- ✓目立つところ以外はそうでもない
- ✓バリアフリーに配慮したものが多くなっている
- ✓少しずつ変化して良くなりつつあるが、道路に関しては、市外はまだまだである

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~64歳
- 65~69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓身近に感じない
- ✓新しい建物は気にしているが、昔からあるところは特に変わっていない
- ✓整備されているのは市役所の周りだけである
- ✓道が凸凹のところが目立つ
- ✓長野駅構内はあまりバリアフリーを感じない
- ✓点字ブロックが少ない、聴覚障害の対応の信号機も少ない
- ✓ベビーカーでの移動が辛い
- ✓お店側ももう少し意識してほしい
- ✓道の凸凹が酷い。ベビーカーや自転車ではとても不便である
- ✓施設自体の老朽化が目立ち遅れている
- ✓特に感じない
- ✓歩道の段差が思った以上に気になる
- ✓道路状況が良くない
- ✓格差が大きい
- ✓長野駅周辺は、少し整備されているが、少し市外に出ると全く進んでいない
- ✓段差のある道路がまだたくさんある。エレベーターもない
- ✓道路がガタガタし過ぎている
- ✓新設部分はいいが、古いと全く整っていない
- ✓進んでいるのは、市の中心地だけである
- ✓道路は段差や穴が多い
- ✓バリアフリー化ができていないのは市街地の一部だけでまだまだ不足している
- ✓道路事情は危険箇所もあり安全とは言い難い
- ✓車椅子が通れない歩道が長年平気で存在する

【施策コード／施策名】
7-1-4 地域の特色を活かした景観の形成

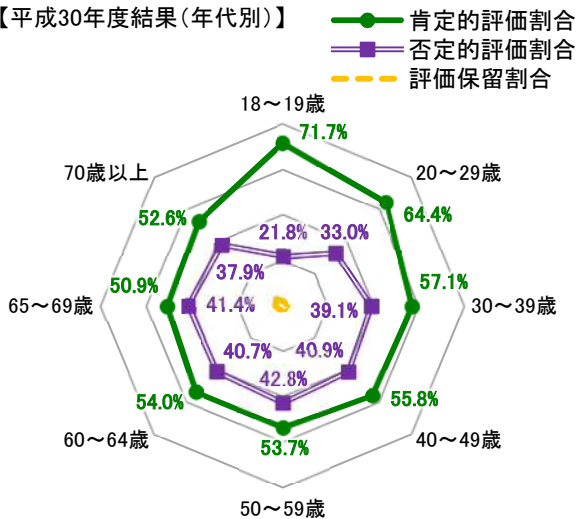
【担当部局】
都市整備部

【区分】 ● 【指標名】
景観やまちなみが美しい地域である

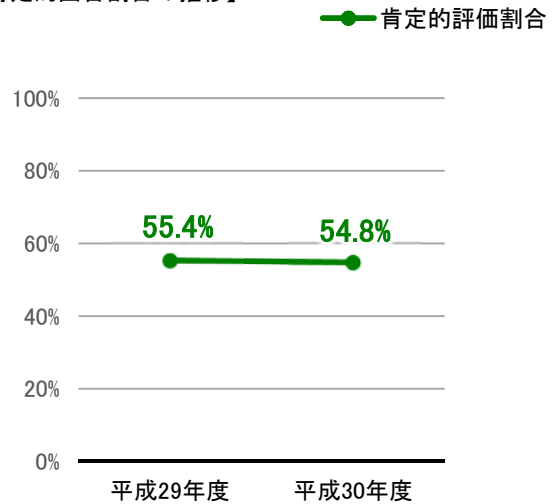
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	55.4%	54.8%
否定的評価割合	39.5%	39.5%
評価保留割合	3.3%	2.8%

現状値 (H28)	目標 (H33)	57.2%	➡
平均値(H29～30)		55.1%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓善光寺周辺は整備されていると思う
- ✓緑がある
- ✓きれいな町並みで整えられていると感じる
- ✓電柱がないのはいい
- ✓長野駅から善光寺にかけての限定的な箇所に限るが美しいと感じる
- ✓都会に比べたら美しい
- ✓どこにいても山がきれいである
- ✓無電柱化をもっとすすめてほしい
- ✓街路樹や花壇などが整備されている
- ✓歴史的建物周辺などは町並みが美しく景観を大事にしていると思う
- ✓他の地域と比べて、特段に美しいとは思わないが、普通に美しいと思うことがある
- ✓善光寺周辺の色合いが統一されていてよい
- ✓門前町などはきれいに整備されていると思う
- ✓看板など目立ちすぎず全体にまとまりがある
- ✓高い山々は美しい
- ✓四季を感じられる
- ✓高層ビルもなく、山並みが綺麗に見える
- ✓善光寺周辺、松代周辺は良いと思う
- ✓緑化運動が盛んな地域である
- ✓一部ではなく長野市全体の景観や街並みを美しくする取組が必要である
- ✓道路脇に花が多く植えられている
- ✓きれいな建物が目につく
- ✓景観が良くなってはきたが、その街にふさわしい住宅ができていない。近代的すぎる

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓整備されている所はきれいだが、一步脇に入るとさびれていたりする所がほとんどである
- ✓まちなみに統一感がない
- ✓まちなみに統一感がない
- ✓市街地の歩道をもう少し整備したらよいと思う
- ✓街灯や標識などに統一感がない
- ✓善光寺界隈はそう感じるがそれ以外ではあまり思わない
- ✓地域差がある
- ✓電線や古くなった家屋、荒れ放題の庭の空き家など目に付くことが多くなった
- ✓ポイ捨てが多い
- ✓ゴミが道路のわきに落ちている
- ✓景色は美しいが、まちなみは一部を除いて統一感がない(一般的な)都市である
- ✓公衆トイレが汚い
- ✓郊外や住宅密集地ではそうとも言えない
- ✓無電柱化が進んでない
- ✓無駄な看板が多い
- ✓統一性に欠ける
- ✓善光寺門前や松代の一部は美しいと感じるが、全体として無秩序で、特に幟旗や看板が景観を壊している
- ✓長野市の方向性が見えない
- ✓電線や電柱が乱立、住宅地の統一性が皆無である

【施策コード／施策名】
7-1-4 地域の特色を活かした景観の形成

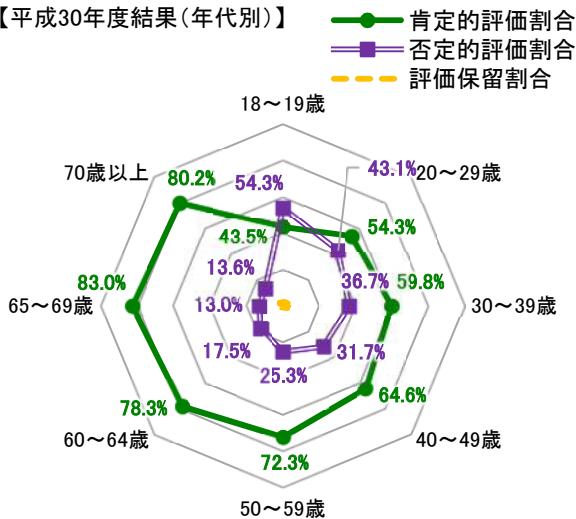
【担当部局】
都市整備部

【区分】 ○ 【指標名】
家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている

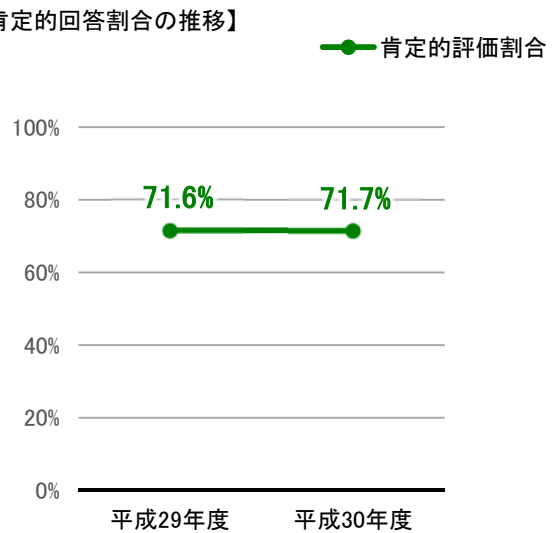
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	71.6%	71.7%
否定的評価割合	24.3%	24.2%
評価保留割合	2.2%	2.1%

現状値 (H28)	目標 (H33)	73.9%	➡
平均値 (H29～30)		71.7%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓ 周りの家の人たちなどが不快な思いをしないようにしている
- ✓ 植物を育てている
- ✓ 掃除をしている
- ✓ できるだけ雑草を生やさないように気を付けている
- ✓ 草木を植えている
- ✓ 家の周りに投げ捨てられた缶やペットボトルは拾うようにしている
- ✓ 樹木や花を植えている
- ✓ ゴミ拾いや枝葉の剪定を行う
- ✓ 清掃に積極的に参加している
- ✓ 地域の美化には参加している
- ✓ 緑に関心があり、家や職場で育てている
- ✓ 駐車場の草刈りを定期的に行っている
- ✓ できるだけ緑を大切にしている
- ✓ 植物を植えている
- ✓ ゴミ拾いしている
- ✓ 常識的な清掃はしている
- ✓ 道路の草取りをしている
- ✓ 庭づくりをしている
- ✓ 定期的に家周りの草取りを行っている
- ✓ 植栽は常に意識してやっている
- ✓ 周辺環境整備には意識して取り組んでいる
- ✓ 家の周りを花で飾っている
- ✓ 区の清掃に参加している
- ✓ 草取り・ゴミ拾いはしている
- ✓ 除草などに心掛けている
- ✓ 緑の植物を植え、美化および緑化に努めている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上


【モニターの主な否定的意見】

- ✓ 特に考えてはいない
- ✓ 特に意識してはいない
- ✓ 特に意識しているわけではない
- ✓ 目立つゴミなどがあれば捨てる程度である
- ✓ あまり意識していない
- ✓ ゴミが落ちていたら拾う程度である
- ✓ 手間がかかる
- ✓ やる場所がない
- ✓ 特に心がけていない
- ✓ 関心あるものをしていない
- ✓ 努力が足りない

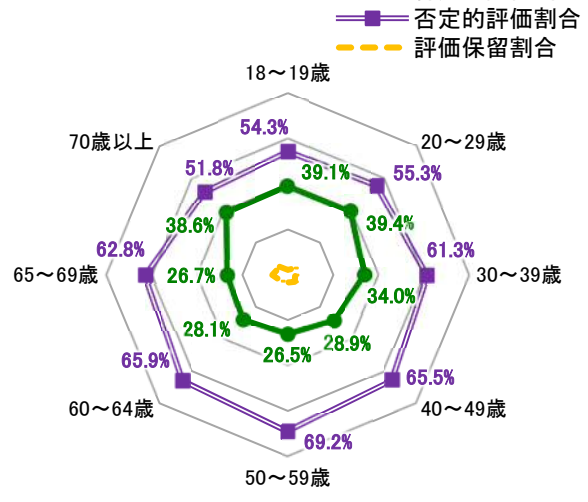
【施策コード／施策名】 7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築 7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備	【担当部局】 都市整備部
--	-----------------

【区分】	【指標名】
●	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている

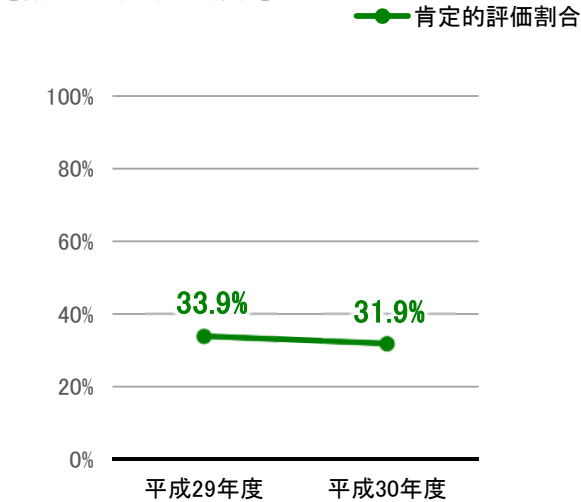
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	33.9%	31.9%
否定的評価割合	59.8%	61.2%
評価保留割合	4.4%	4.4%

現状値 (H28)	目標 (H33)	35.7%	
平均値(H29~30)		32.9%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
✓バスとタクシーは潤っている	19歳以下	✓便数が少なく料金が高い ✓電車やバスが少ない ✓主要な所には移動できるが、通っていない所が多く、気軽に利用できるようには思えない
✓車がなくても基本的には移動手段は整っていると感じる ✓長電のバスとぐるりん号が同じところで止まるのはもったいない	20～29歳	✓電車の本数が少ない
✓ぐるりん号は利用しやすいコミュニティバスをもっと増やしてもよいと思う	30～39歳	✓ぐるりん号があちこちに走っていたらもっと便利である ✓自動車なしでは生活できない ✓バス停、駅も距離があるし、時間も多くないし、市内のみならず市外へのアクセスも大事だと思う ✓市民でもバスはどこをどう通っているのか分かりにくし、長野駅前のバスターミナルも素人には全く意味不明である。案内所もない、案内してくれる人もいない
✓地域と中心市街地とは結ばれている	40～49歳	✓公共交通は利用可能時間帯についてやや弱い ✓バスは圧倒的に少なくタクシーも少ない ✓身近な地域では公共交通が無くなってきている
✓利便性を常に検証することが重要である	50～59歳	✓高齢者、障がい者からは不便さを訴えられる ✓必ず長野駅を経由しないと目的地に行けないのが不便である
	60～64歳	✓車社会なのでバス利用者が少ないため、年々本数が少なくなっているのが利用づらい ✓中心地に出るまでの交通の便(バスしかない)が悪い
	65～69歳	✓中山間地の公共交通体制の維持が不安である ✓このままで行くと市街地と郊外を結ぶバス路線が維持できないのではないかと危惧する ✓中心市街地への利便はある程度良いが、横の連絡が悪い
	70歳以上	✓駅やバス停近くの方は良いが、他はマイカーに頼らざるを得ない ✓地域公共交通は、大都市とは異なり採算性の面から市民の利便性実現は無理と思料する

【施策コード／施策名】

7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築
7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備

【担当部局】

都市整備部


【区分】

【指標名】

○

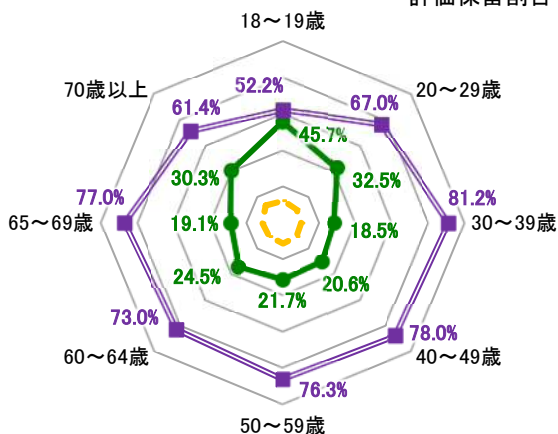
通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している

	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	27.2%	24.2%
否定的評価割合	67.3%	72.3%
評価保留割合	3.2%	1.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	26.4%	
平均値(H29~30)		25.7%	

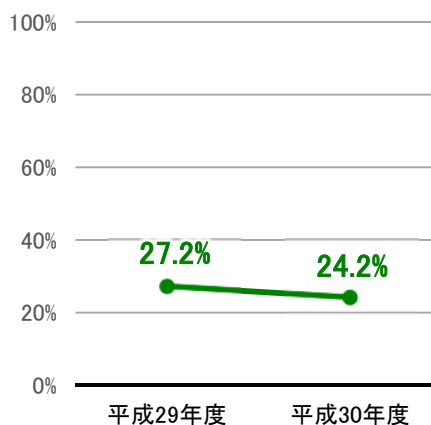
【平成30年度結果(年代別)】

● 肯定的評価割合
■ 否定的評価割合
○ 評価保留割合



【肯定的回答割合の推移】

● 肯定的評価割合



【モニターの主な肯定的意見】

✓雨の日や冬季の通学に路線バスや電車を利用している

✓電車で行けるところは使用する

✓自転車や鉄道を利用するよう心掛けている

【年齢区分】

19歳以下

20~29歳

30~39歳

40~49歳

50~59歳

60~64歳

65~69歳

70歳以上

✓自動車運転はやめ、ほとんどバスを使用(免許返納済みにつき)している

✓自転車でいけないところ以外はすべて公共交通機関を利用している

【モニターの主な否定的意見】

✓アクセスが悪いので自家用車で通勤している

✓日常的には利用していないが、飲酒時等は利用している

✓家の近くに駅もバス停も無いので移動に不便である

✓車がないと本当に無理であるため、高齢ドライバーが免許返納しないのも仕方ない部分があると思う

✓公共交通機関が不便で使えない

✓車が便利である

✓交通機関がとても不便なため

✓電車、バスでは通勤できない場所にある

✓やむを得ず自動車通勤をしている

✓市内での通勤は鉄道を使う時間が合わない

✓利便性を優先しているので自家用車が多い

✓公共交通機関を日常的には利用していない

✓公共交通機関が不便である

✓自家用車、自転車が中心である

✓交通機関が不便なため自家用車を利用している

✓利便性が悪い

✓長野の公共交通は日常的に利用するほど利便性は良くないため、マイカー利用が主である。車を運転できなくなった人でもタクシーを利用しており公共交通機関の使い辛さが露見していると思う。今後、車の運転ができなくなったことを考えると今の公共交通手段では心配である

【施策コード／施策名】
 7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築
 7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備

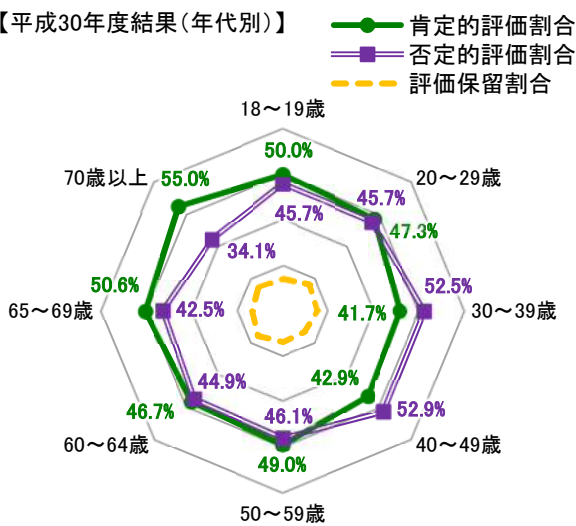
【担当部局】
 都市整備部

【区分】 ○ 【指標名】 公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている

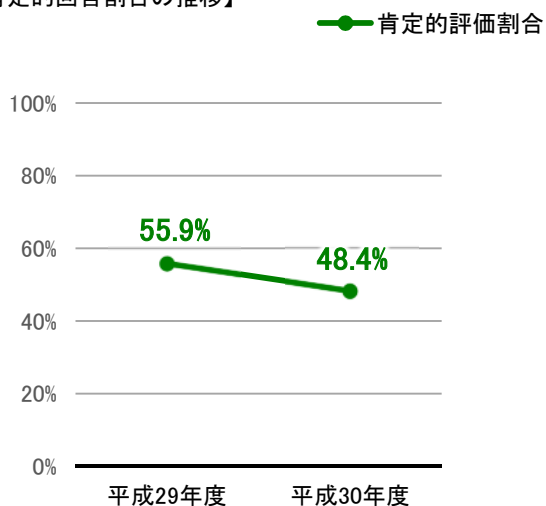
	平成29年度	平成30年度
肯定的評価割合	55.9%	48.4%
否定的評価割合	36.3%	44.4%
評価保留割合	5.6%	4.5%

現状値 (H28)	目標 (H33)	50.4%	↗
平均値 (H29～30)		52.2%	

【平成30年度結果(年代別)】



【肯定的回答割合の推移】



【モニターの主な肯定的意見】

- ✓高齢者にとって公共交通機関は必要不可欠である
- ✓機会があるときはなるべくバスに乗るようにしている
- ✓いざというとき、電車、バスがないと困る
- ✓維持費を税金で負担しても良いと思っている
- ✓公共交通を皆が意識して大いに利用すればより充実させられると思う
- ✓便利であれば利用する
- ✓理解はあるが用を足しに行く場所へ行くための公共交通が無いことの方が多い
- ✓公共交通機関がないと車の運転ができなくなったときに不便である
- ✓特に中山間地においては公共交通手段が重要なインフラである
- ✓公共交通機関の維持のため、できる限りの利用に努めている

【年齢区分】

- 19歳以下
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70歳以上

【モニターの主な否定的意見】

- ✓公共交通機関が少ない
- ✓本数も少ないし、利便性が悪い
- ✓車の方が楽だから必要なものであるとは理解しているが、支えて行こうと積極的な行動はしていない
- ✓理解はしているが、健康増進のために自転車を使用している
- ✓理解はしているが行動に移していない
- ✓交通機関が便利に変われば支えたい気持ちはあるが、現状ではない
- ✓支えたいと思っても、現実の時間管理の中で公共交通機関を利用するだけでは、物理的に時間がかかる。また、公共交通が充実していない
- ✓行政が先頭に立った方が成功すると思う
- ✓公共交通しか移動の手段がない人もいるので必要性は認めるものの、どう行動するのかかわからない
- ✓理解しているが支える力はない
- ✓必要なものとは思っているが、支えはしていない
- ✓公共交通機関の一元化が必要である
- ✓公共交通機関の必要性は理解できるが、利用する側の対象者別(年齢・健康状態・家族構成)や用途別(買い物・通院・趣味娯楽他)と地域の住環境等を考慮し住民の利用者ファーストにたった利便性を追求してほしい

第7 傾向と詳細分析

I 市民満足度の傾向

各施策に対する市民の満足度の傾向を相対的に把握できるよう、平成30年度の実績値について、環境や体制に関する評価、回答者自身の実践状況ごとに上位順でまとめたものです。

市民満足度まとめ（再掲）

- ✓環境や体制に関する評価を示す指標の「りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である」、「空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている」、「豊かな自然環境が保たれている」が高値を示していることから、豊かな恵みをもたらす本市の自然の魅力等に対する満足度が高くなっています。
- ✓環境や体制に関する評価を示す指標の「市民の声が市政に反映されている」、「不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている」が低値を示していることから、全部局において気軽に相談できる体制づくりや、市民の声の反映状況をわかりやすく伝達していく配慮が必要であると考えられます。
- ✓回答者の実践状況を示す指標の「ごみの分別を徹底している」、「食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している」や、「地元のお店で買い物をするように心がけている」、「地元産の農作物を意識的に買うように心がけている」が高値を示していることから、環境保全や地産地消に対する意識に関連する指標が高くなっています。
- ✓回答者の実践状況を示す指標の「住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している」、「市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している」などの下位5項目については、社会参加の機会が少なくなっていることを示していると考えられます。今後、高齢者の割合が上昇していく中で、高齢者の社会参加の機会を増やしていくことが、将来的なフレイル予防にもつながっていくものと期待できます。

▼環境や体制に関する評価（実績値の上位順）

順位	実績値 (H30)	現状値 (H28)	目標	施策コード	指標名
1	85.7	87.8	➡	6-2-2	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である
2	71.0	74.1	➡	3-2-2	空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている
3	69.1	73.6	➡	3-2-1	豊かな自然環境が保たれている
4	61.3	62.7	↗	4-1-2	消防や救急体制が十分に整っている
5	60.3	62.9	↗	2-4-3	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている
5	60.3	66.4	↗	6-1-1 6-1-2	長野市は、魅力的な観光都市である
7	54.8	63.9	↗	2-1-1	子どもを産み育てやすい地域である
7	54.8	57.2	➡	7-1-4	景観やまちなみが美しい地域である
9	52.6	51.7	↗	7-1-2	日常生活に必要なインフラが整備されている
10	52.4	52.0	↗	5-2-1	公民館などで、学びの機会が提供されている
11	52.1	57.4	↗	2-1-2	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育が充実している
11	52.1	50.8	↗	5-2-2	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている
13	51.8	54.8	↗	5-4-1	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている
14	49.4	49.7	↗	5-1-3	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている
15	48.8	51.0	↗	5-3-2	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている
16	48.3	49.4	↗	7-1-1	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である
17	47.3	50.0	↗	3-1-2	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている
17	46.4	52.6	↗	6-1-3	コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている
19	46.0	49.7	↗	2-3-2	ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている
20	45.5	44.1	↗	4-2-1	交通マナーが良い地域である
21	44.7	45.2	↗	1-2-2	市の職員に好感が持てる
22	43.3	49.5	↗	2-4-1	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている
23	42.1	41.8	↗	4-2-2	地域で防犯に向けた取組が行われている
24	40.6	40.7	↗	5-3-1	音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている
25	40.4	47.5	↗	6-2-1	野菜や果物づくりをしている人が増えている
26	40.2	41.0	↗	5-1-2	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている
27	39.5	45.0	↗	2-2-1	高齢者がボランティアや学習活動など、社会と関わる活動をしやすい環境が整っている
28	38.8	41.2	↗	5-1-1	子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている
29	38.5	49.0	↗	2-2-2	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている
30	37.7	35.1	↗	5-4-2	プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている
31	36.1	36.3	↗	1-1-2	住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている
32	34.8	41.1	➡	6-2-3	森林が整備されている地域である
33	34.2	40.7	↗	2-5-1	互いの個性や立場を尊重し合える地域である
34	34.0	35.5	↗	4-1-1	災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている
35	32.0	31.0	↗	4-2-3	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている
36	31.9	35.7	↗	7-2-1 7-2-2	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている
37	31.7	30.7	↗	6-3-1 6-3-2	市内に個性的で魅力的なお店が増えている

順位	実績値 (H30)	現状値 (H28)	目標	施策コード	指標名
38	30.7	34.4		6-4-2	市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている
39	30.4	30.3		7-1-3	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる
40	28.0	32.5		2-1-3	子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている
41	27.4	27.4		3-1-1	身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている
42	27.1	30.9		1-2-3	長野市は近隣市町村と連携し、広域的に、発展に向けて取り組んでいる
43	24.1	29.0		2-5-2	性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である
44	23.5	22.8		6-3-1 6-3-2	活力のある企業が多い地域である
45	22.4	26.7		2-3-1	障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている
46	21.7	27.3		2-3-3	生活に困った時に相談できる体制が整っている
47	19.5	20.2		1-2-2	市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている
48	18.6	20.4		1-2-1	効果的で効率的な行政運営が行われている
49	18.4	19.2		1-1-1	市民の声が市政に反映されている
50	17.4	21.7		2-4-2	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている
51	15.5	13.2		6-4-1	仕事を見つけやすい環境が整っている
52	15.4	12.6		5-5-1	国際交流が盛んに行われている
53	11.6	9.4		6-3-3	新たな雇用が生まれている

▼回答者自身の実践状況（実績値の上位順）

順位	実績値 (H30)	現状値 (H28)	目標	施策コード	指標名
1	92.5	93.3	➡	3-1-2	ごみの分別を徹底している
2	87.8	90.4	➡	4-2-1	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している
3	82.9	81.7	➡	3-1-2	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している
4	76.3	79.6	➡	6-3-1 6-3-2	地元のお店で買い物をするように心がけている
5	75.9	80.9	➡	6-2-2	地元産の農作物を意識的に買うように心がけている
6	74.3	75.4	➡	2-4-3	かかりつけ医がいる
7	71.7	73.9	➡	7-1-4	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている
8	69.0	64.8	↗	2-4-2	不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている
9	64.7	71.2	↗	5-1-3	地域の子どもにあいさつや声かけをしている
10	63.4	62.6	↗	3-1-2	使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる
11	63.3	65.2	↗	2-3-1	障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようにしている
12	60.1	56.8	↗	2-4-1	健康づくりに継続的に取り組んでいる
13	57.9	55.6	↗	2-3-2	ご近所同士で交流をし、困った時にお互いに助け合える関係を築こうとしている
14	54.5	60.9	↗	4-2-3	家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている
15	54.1	52.4	↗	2-5-1	人権問題について理解を深めようとしている
16	49.7	52.5	↗	2-2-2	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている
17	49.5	50.2	↗	3-2-1	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている
18	48.6	47.3	↗	2-5-2	男女共同参画について理解を深めようとしている
19	48.4	50.4	↗	7-2-1 7-2-2	公共交通を自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている
20	45.2	48.8	↗	3-2-2	地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している
21	42.5	45.3	↗	2-1-1 2-1-2	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている
22	41.7	44.0	↗	6-2-1	野菜や果物づくりなどを楽しんでいる
23	40.9	43.3	↗	3-1-1	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている
24	36.5	41.1	↗	4-1-1	災害に備えて食料や飲料水などを備蓄している
25	35.1	39.4	↗	5-3-1	音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる
26	34.0	38.5	↗	5-3-2	地域の伝統的な行事に参加している
27	33.9	34.2	↗	6-1-2	困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている
28	33.6	37.6	↗	4-1-2	応急手当の仕方を講習会などにより勉強している
29	32.3	36.4	↗	6-1-1	知人や友人などに地域の魅力を伝えている
30	29.3	31.0	↗	5-5-2	外国の文化や習慣を理解しようと努めている
31	25.2	26.8	↗	5-2-1	公民館などで提供されている学びの場に参加している
32	24.5	27.6	↗	4-2-2	犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している
33	24.2	26.4	↗	7-2-1 7-2-2	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している
34	23.6	23.2	↗	1-1-2	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している
35	20.8	22.8	↗	5-4-2	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している
36	15.6	19.2	↗	5-2-2	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている
37	10.0	9.8	↗	1-1-1	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている
38	3.9	5.2	↗	5-5-1	国際交流イベントに参加している

II 市民意識の変化

市民意識の変化を即座に捉えられるよう、環境や体制に関する評価、回答者自身の実践状況ごとに、前年度との比較による実績値の変動を上位順でまとめたものです。

なお、前年度の肯定的回答割合の実績値と比較して5ポイント以上低下した8指標(★印)については、肯定的回答割合を高めるための足掛かりとなるよう、より詳細な分析結果(レポート)を作成しています。

市民意識の変化まとめ(再掲)

- ✓環境や体制に関する評価を示す指標の「身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている」は、前年度より大きく低下していますが、前ページ表中の回答者自身の実践状況を示す指標の「ごみの分別を徹底している」などが高値を示していることから、環境に対する関心が非常に高く、自らはごみの分別等を徹底している市民が多いために、身のまわりの取組が不十分であると感じているものと思われます。今後は、ごみの分別や減量化の更なる徹底を進めていく必要があると考えられます。
- ✓回答者の実践状況を示す指標の「野菜や果物づくりなどを楽しんでいる」が低下していることから、これまで野菜や果物づくりなどを楽しんでいた市民が高齢化に伴いやめてしまうことにより、結果的に指標が減少する転換期に差しかかっていると考えられます。今後は、前ページ表中の環境や体制に関する評価が最も高い指標の「りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である」を将来にわたって維持していくため、若い世代へ今まで以上に野菜や果物づくりに身近に触れ合う機会として、農業研修センターや市民農園の更なる利活用を進めていく必要があると考えられます。
- ✓回答者の実践状況を示す指標の「地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している」、「子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている」、「ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている」が低下していることから、地域での支え合いや思いやりの意識が弱くなってきていることを表していると考えられます。今後、少子・高齢化が進行する中で、共助につながる教育・啓発を重点的に取り組んでいくことで、精神的な豊かさや思いやりの醸成を図っていく必要があると考えられます。

▼環境や体制に関する評価（前年度との比較による実績値変動の上位順）

順位	増減(a-b)	H30(a)	H29(b)	施策コード	指標名
1	2.6	15.5	12.9	6-4-1	仕事を見つけやすい環境が整っている
2	1.9	54.8	52.9	2-1-1	子どもを産み育てやすい地域である
2	1.9	60.3	58.4	2-4-3	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている
4	1.8	23.5	21.7	6-3-1 6-3-2	活力のある企業が多い地域である
5	1.3	44.7	43.4	1-2-2	市の職員に好感が持てる
6	1.2	46.4	45.2	6-1-3	コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている
7	1.1	52.4	51.3	5-2-1	公民館などで、学びの機会が提供されている
7	1.1	15.4	14.3	5-5-1	国際交流が盛んに行われている
9	1.0	46.0	45.0	2-3-2	ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている
9	1.0	40.6	39.6	5-3-1	音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている
9	1.0	37.7	36.7	5-4-2	プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている
9	1.0	31.7	30.7	6-3-1 6-3-2	市内に個性的で魅力的なお店が増えている
13	0.8	11.6	10.8	6-3-3	新たな雇用が生まれている
14	0.6	52.1	51.5	2-1-2	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育が充実している
15	0.3	19.5	19.2	1-2-2	市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている
16	0.2	28.0	27.8	2-1-3	子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている
17	0.1	52.1	52.0	5-2-2	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている
18	-0.3	34.2	34.5	2-5-1	互いの個性や立場を尊重し合える地域である
19	-0.4	17.4	17.8	2-4-2	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている
19	-0.4	30.4	30.8	7-1-3	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる
21	-0.5	61.3	61.8	4-1-2	消防や救急体制が十分に整っている
22	-0.6	71.0	71.6	3-2-2	空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている
22	-0.6	18.4	19.0	1-1-1	市民の声が市政に反映されている
22	-0.6	43.3	43.9	2-4-1	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている
22	-0.6	54.8	55.4	7-1-4	景観やまちなみが美しい地域である
26	-0.7	40.2	40.9	5-1-2	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている
26	-0.7	52.6	53.3	7-1-2	日常生活に必要なインフラが整備されている
26	-0.7	45.5	46.2	4-2-1	交通マナーが良い地域である
26	-0.7	51.8	52.5	5-4-1	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている
26	-0.7	85.7	86.4	6-2-2	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である
31	-0.8	32.0	32.8	4-2-3	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている
32	-0.9	18.6	19.5	1-2-1	効果的で効率的な行政運営が行われている
32	-0.9	48.3	49.2	7-1-1	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である
34	-1.0	39.5	40.5	2-2-1	高齢者がボランティアや学習活動など、社会と関わる活動をしやすい環境が整っている
34	-1.0	22.4	23.4	2-3-1	障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている
36	-1.3	38.8	40.1	5-1-1	子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている
37	-1.4	24.1	25.5	2-5-2	性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である

順位	増減(a-b)	H30(a)	H29(b)	施策コード	指標名
38	-1.7	27.1	28.8	1-2-3	長野市は近隣市町村と連携し、広域的に、発展に向けて取り組んでいる
38	-1.7	34.0	35.7	4-1-1	災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている
40	-1.8	21.7	23.5	2-3-3	生活に困った時に相談できる体制が整っている
40	-1.8	34.8	36.6	6-2-3	森林が整備されている地域である
42	-1.9	36.1	38.0	1-1-2	住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている
42	-1.9	30.7	32.6	6-4-2	市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている
44	-2.0	49.4	51.4	5-1-3	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている
44	-2.0	31.9	33.9	7-2-1 7-2-2	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている
46	-2.2	48.8	51.0	5-3-2	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている
47	-2.4	42.1	44.5	4-2-2	地域で防犯に向けた取組が行われている
48	-2.5	69.1	71.6	3-2-1	豊かな自然環境が保たれている
49	-3.9	38.5	42.4	2-2-2	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている
50	-4.4	60.3	64.7	6-1-1 6-1-2	長野市は、魅力的な観光都市である
51	-4.6	40.4	45.0	6-2-1	野菜や果物づくりをしている人が増えている
52	-9.6	27.4	37.0	3-1-1	★身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている
53	-11.3	47.3	58.6	3-1-2	★身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている

▼回答者自身の実践状況（前年度との比較による実績値変動の上位順）

順位	増減(a-b)	H30(a)	H29(b)	施策コード	指標名
1	2.6	63.4	60.8	3-1-2	使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる
1	2.6	49.5	46.9	3-2-1	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている
3	1.9	82.9	81.0	3-1-2	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している
4	1.1	20.8	19.7	5-4-2	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している
4	1.1	87.8	86.7	4-2-1	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している
6	1.0	92.5	91.5	3-1-2	ごみの分別を徹底している
7	0.6	10.0	9.4	1-1-1	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている
7	0.6	74.3	73.7	2-4-3	かかりつけ医がいる
9	0.1	71.7	71.6	7-1-4	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている
9	0.1	23.6	23.5	1-1-2	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している
11	-0.2	69.0	69.2	2-4-2	不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている
12	-0.5	25.2	25.7	5-2-1	公民館などで提供されている学びの場に参加している
13	-0.6	34.0	34.6	5-3-2	地域の伝統的な行事に参加している
14	-0.7	36.5	37.2	4-1-1	災害に備えて食料や飲料水などを備蓄している
15	-0.9	33.6	34.5	4-1-2	応急手当の仕方を講習会などにより勉強している
15	-0.9	3.9	4.8	5-5-1	国際交流イベントに参加している
17	-1.2	54.5	55.7	4-2-3	家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている
18	-1.4	75.9	77.3	6-2-2	地元産の農作物を意識的に買うように心がけている
18	-1.4	24.5	25.9	4-2-2	犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している
18	-1.4	76.3	77.7	6-3-1 6-3-2	地元のお店で買い物をするように心がけている
21	-1.5	64.7	66.2	5-1-3	地域の子どもたちにあいさつや声かけをしている
22	-1.7	48.6	50.3	2-5-2	男女共同参画について理解を深めようとしている
23	-1.8	54.1	55.9	2-5-1	人権問題について理解を深めようとしている
24	-2.0	35.1	37.1	5-3-1	音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる
25	-2.5	15.6	18.1	5-2-2	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている
26	-2.7	60.1	62.8	2-4-1	健康づくりに継続的に取り組んでいる
27	-3.0	24.2	27.2	7-2-1 7-2-2	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している
28	-3.1	40.9	44.0	3-1-1	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている
29	-3.2	29.3	32.5	5-5-2	外国の文化や習慣を理解しようと努めている
30	-3.4	57.9	61.3	2-3-2	ご近所同士で交流をし、困った時にお互いに助け合える関係を築こうとしている
31	-3.5	32.3	35.8	6-1-1	知人や友人などに地域の魅力を伝えている
32	-4.6	63.3	67.9	2-3-1	障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようにしている
33	-5.2	33.9	39.1	6-1-2	★ 困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている
34	-5.3	41.7	47.0	6-2-1	★ 野菜や果物づくりなどを楽しんでいる
35	-5.4	45.2	50.6	3-2-2	★ 地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している
35	-5.4	42.5	47.9	2-1-1 2-1-2	★ 子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている
37	-6.9	49.7	56.6	2-2-2	★ ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている
38	-7.5	48.4	55.9	7-2-1 7-2-2	★ 公共交通を自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている

Ⅲ 市民意識の変化に対する詳細分析

詳細分析 施策2-1-1、2-1-2（回答者自身の実践状況）

子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている

こども未来部、保健福祉部

1 回答区分別比較（回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票）

	完全肯定 (当てはまる)	一部肯定 (やや当てはまる)	一部否定 (あまり当てはまらない)	完全否定 (当てはまらない)	評価保留 (分からない)
平成29年度	14.3%	33.6%	22.9%	17.2%	9.2%
平成30年度	11.2%	31.3%	26.3%	21.7%	6.7%
(ポイント差)	(▲3.1)	(▲2.3)	(+3.4)	(+4.5)	(▲2.5)
	(▲5.4)		(+7.9)		

✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定及び評価保留の回答の低下分が、一部否定及び完全否定の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	33.3%	40.4%	54.0%	51.5%	42.5%	47.3%	50.2%
平成30年度	17.3%	42.5%	56.9%	46.4%	40.0%	36.4%	41.1%
(ポイント差)	(▲16.0)	(+2.1)	(+2.9)	(▲5.1)	(▲2.5)	(▲10.9)	(▲9.1)

✓子育て経験が少ないと思われる世代（19歳以下）及び子育てが終了したと思われる世代（特に60代以降）は、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著
 ✓子育ての中心世代である20代及び30代は、平成30年度に肯定的回答割合が上昇

3 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	31.3%	47.7%	50.6%	53.1%
平成30年度	30.0%	41.8%	43.6%	50.1%
(ポイント差)	(▲1.3)	(▲5.9)	(▲7.0)	(▲3.0)

✓夫婦のみ及び親子（二世帯）の家族構成は、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著

4 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の子どもの有無別比較

	子ども有	子ども無
平成29年度	52.7%	34.3%
平成30年度	46.8%	29.4%
(ポイント差)	(▲5.9)	(▲4.9)

✓両年度とも、子ども「有」の方が、肯定的回答割合が18ポイントほど高い
 ✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、子どもの有無の違いによる大きな差異は見られない

5 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の子どもの状況別比較

	就園前	就園中	小学生	中学生	高校生等	社会人
平成29年度	69.8%	68.6%	68.0%	56.0%	52.3%	48.9%
平成30年度	71.3%	64.3%	63.7%	56.0%	45.6%	41.0%
(ポイント差)	(+1.5)	(▲4.3)	(▲4.3)	(0)	(▲6.7)	(▲7.9)

- ✓両年度とも、子どもが成長するにつれて肯定的回答割合が低くなる傾向にある
- ✓子育てが終了する高校生等以降の子どもを持つ家庭は、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著

6 幸せ実感モニターの意見内容比較（P26 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
✓小さい子と遊んだりする	19歳以下	✓関わる機会が少ない ✓手助けが必要な場面に遭遇したことがない
✓バスや電車で席を譲っている ✓必要な時には手助けしようとは思っている	20～29歳	✓機会がない
✓自分も子育てしているためお互いさまだと思っている ✓機会があれば手助けをしている ✓自分自身子育て中なので、助けてもらうこともあるし困っていれば手助けすることもある	30～39歳	✓地区行事からしても高齢者用ばかりで、子供に還元されるものは本当に少ない ✓核家族に対する支援が少ないし、相談場所も広報不足に感じる
✓同世代の子供達をお互いに助け合って情報交換等もしている ✓子どもの送り迎えをはじめ、家事等を手伝うようにしている ✓PTA、育成会活動に積極的に参加している	40～49歳	✓核家族であり近所との深い付き合いがない ✓関心がない ✓仕事をしているせいか若いお母さんたちとの交流が少ない
✓ご近所の小さいお子さんがいるお宅には、積極的に声をかける ✓子育てサロンを通して、地域の子育て中のお母さんと交流を持っている ✓自分のできる範囲で子育ての協力をしている	50～59歳	✓どう手助けをすればいいかわからない ✓機会がない ✓見守りはするが、手助けを必要とする事はない
✓保育園の孫を毎日守りしている	60～64歳	✓身近にいない
✓子育て中の職員の働きやすい職場環境に留意している	65～69歳	✓見守りはしているつもりだが、手助けなどの程度には難しさもある
✓子育て世代に対し手助けや見守りなどできることはやっている ✓孫の面倒を見る ✓毎月開催の子育て広場に参加したり、近所の保育園の子どもたちに声掛けをしている ✓地域でのボランティア団体の活動に参加している	70歳以上	✓対象が身近に存在しないので不明である

ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けをしている

保健福祉部

1 回答区分別比較 (回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票)

	完全肯定 (当てはまる)	一部肯定 (やや当てはまる)	一部否定 (あまり当てはまらない)	完全否定 (当てはまらない)	評価保留 (分からない)
平成29年度	17.9%	38.7%	22.1%	12.8%	6.0%
平成30年度	12.8%	36.9%	25.4%	16.9%	5.5%
(ポイント差)	(▲5.1)	(▲1.8)	(+3.3)	(+4.1)	(▲0.5)
	(▲6.9)		(+7.4)		

✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定及び評価保留の回答の低下分が、一部否定及び完全否定の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	61.5%	47.1%	50.3%	49.3%	54.1%	62.9%	63.6%
平成30年度	41.3%	49.4%	48.0%	44.6%	49.2%	49.8%	55.4%
(ポイント差)	(▲20.2)	(+2.3)	(▲2.3)	(▲4.7)	(▲4.9)	(▲13.1)	(▲8.2)

✓20代～40代の肯定的回答割合について、平成29年度は他の年代等に比べて相対的に低いが、平成30年度は19歳以下及び70歳以上を除き、年代の違いによる大きな差異は見られない

✓19歳以下、回答者自身が高齢者となる60代及び70歳以上は、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著

3 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	44.9%	60.9%	55.2%	62.3%
平成30年度	40.9%	52.9%	49.1%	54.4%
(ポイント差)	(▲4.0)	(▲8.0)	(▲6.1)	(▲7.9)

✓両年度とも、ひとり暮らし (単身) の肯定的回答割合が他の家族構成に比べ相対的に低い

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、家族構成の違いによる大きな差異は見られない

4 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	55.2%	58.3%	57.4%	56.4%	63.6%
平成30年度	47.9%	47.1%	51.7%	48.7%	66.3%
(ポイント差)	(▲7.3)	(▲11.2)	(▲5.7)	(▲7.7)	(+2.7)

✓両年度とも、中山間地域の肯定的回答割合が他の地域に比べて相対的に高い

✓中山間地域のみ、平成30年度の肯定的回答割合が上昇

5 幸せ実感モニターの意見内容比較（P31 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
<ul style="list-style-type: none"> ✓必要な時には手助けするよう努めている ✓先日電車の席を譲った 	19歳以下	
<ul style="list-style-type: none"> ✓必要な時には手助けするよう努めている 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓該当者がいない
<ul style="list-style-type: none"> ✓自分の家族も含め必要な時には手助けしている ✓雪かきなどは協力している ✓将来、自分も助けてもらうことになる 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓触れ合う機会がない ✓近所に高齢者がいるかわからない
<ul style="list-style-type: none"> ✓一人暮らしの高齢者の方にはできるだけ声掛けしたりしている ✓声をかけられたときは手助けをしている ✓隣組や地域の人と、できる限りコミュニケーションをとっている ✓一人暮らしの老人に対して新聞や部屋の明かりを確認したり、進んで声を掛けたりしている 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓対象者がいない ✓声がかかれば手助けしたい ✓自分の親のことで精いっぱいである ✓そもそも顔も名前も知らない
<ul style="list-style-type: none"> ✓近所の高齢者への支援は当たり前のこととしている ✓近所付き合いが少ない ✓福祉活動において心掛けている 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓賃貸マンションなので近所付き合いがない ✓見守りはするが、手助けを必要とすることはない
<ul style="list-style-type: none"> ✓声掛けやあいさつ、ゴミ出し等組で協力している ✓福祉の役員をしている 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓アパートなのでそこまでの付き合いがない ✓頼まれたり、お願いされたりすれば協力はするが、自分から積極的に行動はしない
<ul style="list-style-type: none"> ✓民生委員としていつも心がけている ✓デイサービスでドライバー兼介護の仕事をしているので気になる 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓受け入れてくれる方はしやすいが、拒否する方は困難である
<ul style="list-style-type: none"> ✓見守り・支え合いを地域に広げる活動に取り組んでいる。またそのために高齢者に対する手助けは当然行っているつもりである ✓サロン事業などで話したり聴いたりとか、道でお会いしたら必ず声掛けしている ✓お助け隊(ウルトラ隊)を結成して手助けしている 	70歳以上	

詳細分析

施策3-1-1（環境や体制に関する評価）

身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている

環境部

1 回答区分別比較（回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票）

	完全肯定 (そう思う)	一部肯定 (ややそう思う)	一部否定 (あまりそう思わない)	完全否定 (そう思わない)	評価保留 (分からない)
平成29年度	9.2%	27.8%	37.1%	15.7%	5.9%
平成30年度	4.6%	22.8%	34.1%	20.8%	14.9%
(ポイント差)	(▲4.6)	(▲5.0)	(▲3.0)	(+5.1)	(+9.0)
	(▲9.6)		(＋2.1)		

✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定及び一部否定の回答の低下分が、完全否定及び評価保留の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	43.6%	28.9%	27.9%	37.1%	37.5%	39.6%	41.5%
平成30年度	23.9%	35.2%	26.7%	30.2%	26.6%	24.3%	26.7%
(ポイント差)	(▲19.7)	(+6.3)	(▲1.2)	(▲6.9)	(▲10.9)	(▲15.3)	(▲14.8)

✓20代～30代の肯定的回答割合について、平成29年度は他の年代等に比べて相対的に低いが、平成30年度は20代を除き、年代の違いによる大きな差異は見られない
 ✓19歳以下、40代～70歳以上は、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著

3 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	26.8%	38.9%	38.6%	36.6%
平成30年度	26.1%	26.4%	27.0%	31.0%
(ポイント差)	(▲0.7)	(▲12.5)	(▲11.6)	(▲5.6)

✓ひとり暮らし（単身）以外の家族構成は、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著

4 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	33.2%	40.0%	39.6%	39.9%	35.1%
平成30年度	23.3%	29.8%	31.5%	26.1%	21.4%
(ポイント差)	(▲9.9)	(▲10.2)	(▲8.1)	(▲13.8)	(▲13.7)

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、地域の違いによる大きな差異は見られない

5 幸せ実感モニターの意見内容比較（P47 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
<ul style="list-style-type: none"> ✓太陽光パネル設置工事がすすみ、節電の呼びかけなども行われている 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓短い距離でも車で行く人がいる
<ul style="list-style-type: none"> ✓バス専用レーンを設けるなど、公共交通機関の推進をしている 	20～29歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓自動車がないと暮らしていけない ✓バスや電車の利用者数が少ないと感じている
<ul style="list-style-type: none"> ✓太陽光発電がある家が多い ✓節電については普段の生活のなかで意識しているが、それ以外の取り組みは特に意識していない 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓自動車がないと生活できない ✓公共交通機関が少ない ✓設備投資にお金がかかり、進まない
<ul style="list-style-type: none"> ✓太陽光パネルが増加している ✓夏場は意識も周知も薄れる傾向にあるが、夏場は努力していると思う 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓介護施設も年中、エアコンを使っており自然エネルギー導入には程遠い ✓つつい自家用車を使ってしまい、なかなか公共交通機関を利用しない
<ul style="list-style-type: none"> ✓太陽光発電やハイブリッド車が増えている ✓ペットボトルや、新聞などのリサイクルは盛んである 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓太陽光利用のみをよく目にする ✓節約としては各自行っているが、温暖化対策としての意識があるかは疑問である
<ul style="list-style-type: none"> ✓太陽光発電利用、車の暖気運転をしない人が増えた 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓自動車を利用しないと移動が難しい
<ul style="list-style-type: none"> ✓新築、改築宅には太陽光発電を備える家庭が多い ✓意識的に行動しようとしている 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓交通（公共バス等）の利便性がいまひとつである ✓自動車での市内乗り込みが多くみられる
<ul style="list-style-type: none"> ✓公民館などの公共の場所で行われている 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓官公庁はじめ各企業では定量的な削減計画のもと組織的な取り組みをしているが、個人レベルでは意識に差があり取り組みにも個人差がある ✓太陽光発電の導入が少ない、マイカーを複数台所有している家庭が多い ✓太陽光発電は、少しずつ増加しているが、その他は改善が見られない ✓環境に関する住民意識が高いとは思えないしあまり話題にもならない ✓地域は高齢世帯が多く、再投資が難しい。自動車利用については環境が整わない

詳細分析

施策3-1-2（環境や体制に関する評価）

身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている

環境部

1 回答区分別比較（回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票）

	完全肯定 (そう思う)	一部肯定 (ややそう思う)	一部否定 (あまりそう思わない)	完全否定 (そう思わない)	評価保留 (分からない)
平成29年度	19.4%	39.2%	27.3%	9.7%	3.2%
平成30年度	10.3%	37.0%	29.4%	11.6%	9.2%
(ポイント差)	(▲9.1)	(▲2.2)	(+2.1)	(+1.9)	(+6.0)
	(▲11.3)		(+4.0)		

✓平成30年度には、完全肯定及び一部肯定の回答の低下分が、一部否定、完全否定及び評価保留の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	56.4%	42.8%	44.4%	47.2%	57.7%	63.2%	75.0%
平成30年度	34.8%	33.5%	39.3%	39.9%	45.9%	50.4%	59.3%
(ポイント差)	(▲21.6)	(▲9.3)	(▲5.1)	(▲7.3)	(▲11.8)	(▲12.8)	(▲15.7)

✓両年度とも、19歳以下を除き、年代が上がるにつれて肯定的回答割合が高まる傾向にある

✓平成30年度には、全年代で肯定的回答割合が低下しているが、特に19歳以下、50代～70歳以上の低下が顕著

3 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	54.8%	65.0%	55.2%	60.6%
平成30年度	54.6%	53.3%	45.1%	47.5%
(ポイント差)	(▲0.2)	(▲11.7)	(▲10.1)	(▲13.1)

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、ひとり暮らし（単身）を除き、家族構成の違いによる大きな差異は見られない

4 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	57.6%	60.0%	58.9%	56.8%	67.9%
平成30年度	44.7%	49.3%	49.0%	43.3%	54.6%
(ポイント差)	(▲12.9)	(▲10.7)	(▲9.9)	(▲13.5)	(▲13.3)

✓両年度とも、中山間地域は、他の地域に比べて肯定的回答割合が相対的に高い

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、地域の違いによる大きな差異は見られない

5 幸せ実感モニターの意見内容（P 49 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
<ul style="list-style-type: none"> ✓家で生ごみ処理機を使っている ✓資源回収や分別の呼びかけなどが行われている 	19 歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓取組があまり見られない
<ul style="list-style-type: none"> ✓使えるものは限界まで使っている 	20～29 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓過剰包装などはまだ多い ✓ゴミ捨てのマナーを守れない人がいる ✓減らすようにはしているが、市が主体となつての活動は知らない
<ul style="list-style-type: none"> ✓お店などでリサイクルボックスが設置されている ✓過剰包装を控え、分別のしやすいものに変わってきた ✓フリマアプリなどが注目され再利用されているが、フリーマーケットが少なく、身近に誰でも参加できるイベントなどを増やしたらもっとゴミは減ると思う ✓会社で環境活動(ごみの分別含め)に取り組んでいる 	30～39 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓少子高齢化の人手不足で、廃品回収の頻度が少なくなった ✓給食の残飯が多い ✓ゴミは増える一方で、分別のマナーも悪くなった
<ul style="list-style-type: none"> ✓生ごみは畑の肥料にしている ✓サンデーリサイクルなどのリサイクル活動が行われている ✓フードバンクなどのニュースをよく見かける ✓ゴミステーションの当番があり、地域で見守ったりリサイクル活動に積極的である ✓近所の畑でコンポストを設置しているのを見かける 	40～49 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ペットボトルなど環境問題につながる素材が減っているとは思えない ✓使う側よりも企業(売る側)の努力が必要だと考える ✓ゴミステーションはいつもいっぱいである ✓食品がまるごと捨てられているのを見かける
<ul style="list-style-type: none"> ✓地域の資源回収に積極的に参加している ✓ゴミの分別がルールに沿って自治会ごとに実施されている 	50～59 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ごみの量が多い ✓啓蒙活動すら行われていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓資源回収が進んでいる ✓無駄に大量に買うことをしない 	60～64 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓食品のパッケージなど無駄が多い ✓食べ残しが多い
<ul style="list-style-type: none"> ✓ゴミステーションの管理分別はよく出来ているが、収集の委託業者のマナーは良くない ✓スーパーでの資源回収が行われている 	65～69 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓3010 運動など叫ばれているが定着していない ✓可燃ゴミの量は減っていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓行政のPRや啓発が効果を上げている 	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ごみ0の掛け声はよく聞くところであるが、住民の意識はどうかかわからない

地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している

環境部

1 回答区分別比較 (回答数：平成29年度2,941票/平成30年度3,042票)

	完全肯定 (当てはまる)	一部肯定 (やや当てはまる)	一部否定 (あまり当てはまらない)	完全否定 (当てはまらない)	評価保留 (分らない)
平成29年度	17.7%	32.9%	25.2%	17.0%	4.9%
平成30年度	15.2%	30.0%	25.0%	24.5%	3.1%
(ポイント差)	(▲2.5)	(▲2.9)	(▲0.2)	(+7.5)	(▲1.8)
	(▲5.4)		(+7.3)		

✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定、一部否定及び評価保留の回答の低下分が、完全否定の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	41.0%	23.6%	35.1%	45.8%	56.5%	58.0%	59.3%
平成30年度	17.4%	28.2%	35.8%	39.2%	48.1%	52.2%	51.9%
(ポイント差)	(▲23.6)	(+4.6)	(+0.7)	(▲6.6)	(▲8.4)	(▲5.8)	(▲7.4)

✓両年度とも、年代が上がるにつれて肯定的回答割合が高まる傾向にある
 ✓平成30年度には、20代~30代を除き、肯定的回答割合が低下しているが、特に19歳以下の低下が顕著

3 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	36.1%	56.5%	49.2%	54.2%
平成30年度	37.0%	49.5%	44.9%	58.5%
(ポイント差)	(+0.9)	(▲7.0)	(▲4.3)	(+4.3)

✓ひとり暮らし (単身) 及び親と子と孫 (三世帯) を除き、平成30年度の肯定的回答割合の低下が顕著

4 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	47.8%	49.4%	55.9%	50.2%	52.5%
平成30年度	42.6%	44.3%	47.4%	44.5%	58.5%
(ポイント差)	(▲5.2)	(▲5.1)	(▲8.5)	(▲5.7)	(+6.0)

✓両年度とも、中山間地域は、他の地域に比べて肯定的回答割合が相対的に高い
 ✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、地域の違いによる大きな差異は見られない

5 幸せ実感モニターの意見内容比較（P56 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
	19歳以下	✓中学生の頃はよく参加していたが、今は時間を取ることができない
	20～29歳	✓参加したことがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓地区の環境美化の役員でもあるので率先して取り組むようにしている ✓地域の清掃活動等に参加しているため。 ✓ゴミをためないように気をつけている 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓積極的には行っていない ✓知る機会がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓自治会の環境美化活動に参加している ✓まち並みを悪くしないよう庭の手入れをしている ✓ゴミのポイ捨てはしないようにしている ✓ゴミを見たら拾うようにしている 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓地域に接点がほとんどない。 ✓仕事に追われている ✓関心は大いにあるが、参加することはない ✓職場の美化作業以外では特に美化作業に参加していない。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ゴミO等の活動には必ず参加している ✓自然保護を身近なところからしている ✓最低限の活動には参加している 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓スケジュールが合わず参加できない ✓必要に応じて参加するが、積極的に参加はしていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓地域清掃に参加している ✓ごみのポイ捨て不法投棄防止の活動をしている 	60～64歳	✓何もしていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓区の行事には参加している ✓地域での取り組みには必ず参加する 	65～69歳	✓機会が少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓今年度に入ってから、シルバー人材センターの活動を通して地域のゴミ拾いや、公道の植栽の剪定・除草等に積極的に参加している ✓自分の家を中心に環境美化に努めている ✓地域の環境整備作業や諸団体の公園草取り清掃など、積極的に参加している ✓自治会や住民自治協議会の活動としてやっている 	70歳以上	✓参加していない

詳細分析

施策6-1-2（回答者自身の実践状況）

困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている

商工観光部

1 回答区分別比較（回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票）

	完全肯定 (当てはまる)	一部肯定 (やや当てはまる)	一部否定 (あまり当てはまらない)	完全否定 (当てはまらない)	評価保留 (分らない)
平成29年度	10.0%	29.1%	28.6%	20.3%	9.5%
平成30年度	8.1%	25.8%	28.5%	28.5%	6.6%
(ポイント差)	(▲1.9)	(▲3.3)	(▲0.1)	(+8.2)	(▲2.9)
	(▲5.2)		(＋8.1)		

✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定、一部否定及び評価保留の回答の低下分が、完全否定の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	51.3%	45.2%	36.3%	34.1%	41.3%	42.1%	37.1%
平成30年度	56.6%	38.3%	35.5%	34.7%	40.8%	31.8%	27.7%
(ポイント差)	(+5.3)	(▲6.9)	(▲0.8)	(+0.6)	(▲0.5)	(▲10.3)	(▲9.4)

✓平成30年度には、19歳以下及び40代を除き、肯定的回答割合が低下しているが、特に20代、60代～70歳以上の低下が顕著

3 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	43.0%	42.9%	36.8%	35.1%
平成30年度	37.6%	36.1%	32.3%	34.4%
(ポイント差)	(▲5.4)	(▲6.8)	(▲4.5)	(▲0.7)

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、家族構成の違いによる大きな差異は見られない

4 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	43.4%	38.9%	36.0%	36.7%	35.8%
平成30年度	36.0%	31.2%	34.1%	32.4%	32.4%
(ポイント差)	(▲7.4)	(▲7.7)	(▲1.9)	(▲4.3)	(▲3.4)

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、地域の違いによる大きな差異は見られない

5 幸せ実感モニターの意見内容比較（P87 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
<ul style="list-style-type: none"> ✓心がけている ✓努力している 	19 歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓機会がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓機会はないが、心がけてはいる 	20～29 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓手助けしたいと思うが話しかけられない ✓助けたいが英語に自信がない ✓英語に自信がないので関わらない
<ul style="list-style-type: none"> ✓英語は得意ではないが、聞かれたら誠意をもって答えている ✓駅前で困っている外国人を助けることがある ✓可能な範囲で手助けをしたいと考えている 	30～39 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓助けてあげたいが語学に自信はあまりない ✓手助けが必要かわからない ✓困っている外国人を見たことがない
<ul style="list-style-type: none"> ✓声掛けをしている ✓気持ちはあるが機会がない ✓見かけたら声をかけようと思っている 	40～49 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓心がけているが困っている場面に合ったことがない ✓気持ちはあるが実際そうになったらできるかわからない ✓英語が話せないので困ってしまう
<ul style="list-style-type: none"> ✓言葉がわからないが、できるだけ声をかけている ✓道案内をした 	50～59 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓機会がない ✓外国人が日本語を話せるなら手助けするが、それ以外は極力避ける
<ul style="list-style-type: none"> ✓ボランティアガイドとして行っている 	60～64 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓文化の違いと語学がわからない ✓積極的には行動しない ✓機会がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓経験は少ないが声をかけた 	65～69 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓あまり機会がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓機会は少ないが心がけている 	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓気持ちはあるが言葉の障害があり尻込みしている

1 回答区分別比較 (回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票)

	完全肯定 (当てはまる)	一部肯定 (やや当てはまる)	一部否定 (あまり当てはまらない)	完全否定 (当てはまらない)	評価保留 (分からない)
平成29年度	24.5%	22.5%	16.7%	31.8%	2.5%
平成30年度	20.2%	21.5%	15.6%	38.5%	1.8%
(ポイント差)	(▲4.3)	(▲1.0)	(▲1.1)	(+6.7)	(▲0.7)
	(▲5.3)		(+5.6)		

- ✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定、一部否定及び評価保留の回答の低下分が、完全否定の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	30.8%	23.5%	32.6%	34.8%	38.6%	60.9%	63.4%
平成30年度	13.1%	21.3%	31.1%	29.6%	38.2%	49.9%	57.7%
(ポイント差)	(▲17.7)	(▲2.2)	(▲1.5)	(▲5.2)	(▲0.4)	(▲11.0)	(▲5.7)

- ✓年代が上がるにつれて肯定的回答割合が高まる傾向にある
- ✓平成30年度には、全年代で肯定的回答割合が低下しているが、特に19歳以下及び60代の低下が顕著

3 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世帯)	親と子と孫 (三世帯)
平成29年度	32.4%	54.1%	43.9%	53.9%
平成30年度	29.1%	51.2%	37.5%	48.2%
(ポイント差)	(▲3.3)	(▲1.9)	(▲6.4)	(▲5.7)

- ✓両年度とも、ひとり暮らし (単身) は、他の家族構成に比べて肯定的回答割合が相対的に低い
- ✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、家族構成の違いによる大きな差異は見られない

4 肯定的回答割合 (完全肯定・一部肯定) の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	37.6%	51.0%	51.6%	51.8%	61.1%
平成30年度	34.4%	43.1%	43.0%	53.8%	61.7%
(ポイント差)	(▲3.2)	(▲7.9)	(▲8.6)	(+2.0)	(+0.6)

- ✓両年度とも、市街地地域は、他地域に比べて肯定的割合が相対的に低く、中山間地域は、他地域に比べて同割合が相対的に高い
- ✓松代・若穂地域及び中山間地域以外の地域は、平成30年度の肯定的回答割合が低下している

5 幸せ実感モニターの意見内容比較（P90 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 兼業農家のため、栽培量が多く大変な事も多い ✓ パセリやバジルの育成をしている 	19 歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 機会がない ✓ 家に畑がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 野菜や果物でなく植物を育てている 	20～29 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 難しいのであきらめた ✓ 作る時間がない ✓ 虫が苦手である ✓ 土地がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 仕事の一環でやっている ✓ 実家が農家である ✓ 庭で育てられる範囲でやっている ✓ 庭でブルーベリーやいちご、野菜はプランターで作っている 	30～39 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ベランダでプランター菜園をしたかったが、なかなか時間に追われ今年はチャンスを逃してしまった ✓ 興味があるが作っていない ✓ ベランダでやっている ✓ 畑がない ✓ 余裕がない ✓ 作っていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今年から家庭菜園を頑張っている 	40～49 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 機会があまりない ✓ 今年は間に合わなかった ✓ 仕事が忙しく家庭菜園は止めたがベリーやハーブ、プチトマトは育てている ✓ 時間がない ✓ 楽しいと思えない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 家庭菜園で楽しんでいる ✓ 梅、ブルーベリー、季節の野菜をつくっている 	50～59 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 機会がない ✓ ノウハウがない ✓ 買ったほうが安い
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 庭の一部に野菜や花を植えている ✓ りんごを栽培している 	60～64 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 虫が嫌いである
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 空き畑で楽しんでいる 	65～69 歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ベランダ菜園程度である ✓ 実践の場がない
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 畑、水田の仕事に追われている 	70 歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 時間がない ✓ 農作業の心得がない

詳細分析

施策7-2-1、7-2-2（回答者自身の実践状況）

公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている

都市整備部

1 回答区分別比較（回答数：平成29年度2,941票／平成30年度3,042票）

	完全肯定 (当てはまる)	一部肯定 (やや当てはまる)	一部否定 (あまり当てはまらない)	完全否定 (当てはまらない)	評価保留 (分らない)
平成29年度	21.2%	34.7%	22.7%	13.6%	5.6%
平成30年度	17.8%	30.6%	26.4%	18.0%	4.5%
(ポイント差)	(▲3.4)	(▲4.1)	(+3.7)	(+4.4)	(▲1.1)
	(▲7.5)		(＋8.1)		

✓平成30年度には、完全肯定、一部肯定及び評価保留の回答の低下分が、一部否定及び完全否定の回答の上昇分に移行

2 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の年齢別比較

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
平成29年度	66.7%	50.0%	43.3%	50.9%	56.9%	68.3%	62.8%
平成30年度	50.0%	47.3%	41.7%	42.9%	49.0%	48.8%	55.0%
(ポイント差)	(▲16.7)	(▲2.7)	(▲1.6)	(▲8.0)	(▲7.9)	(▲19.5)	(▲7.8)

✓平成30年度には、全年代で肯定的回答割合が低下しているが、特に19歳以下及び60代の低下が顕著

3 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の家族構成別比較

	ひとり暮らし (単身)	夫婦のみ	親子 (二世世代)	親と子と孫 (三世世代)
平成29年度	58.1%	58.3%	54.4%	55.2%
平成30年度	53.2%	53.1%	46.3%	43.7%
(ポイント差)	(▲4.9)	(▲5.2)	(▲8.1)	(▲11.5)

✓平成30年度には、全ての家族構成で肯定的回答割合が低下しているが、親子（二世世代）及び親と子と孫（三世世代）の家族構成の低下が顕著

4 肯定的回答割合（完全肯定・一部肯定）の地域区分別比較

	市街地地域	市街地周辺地域	犀南地域	松代・若穂地域	中山間地域
平成29年度	56.2%	58.9%	56.0%	47.7%	51.9%
平成30年度	50.2%	51.2%	47.8%	36.6%	48.7%
(ポイント差)	(▲6.0)	(▲7.7)	(▲8.2)	(▲11.1)	(▲3.2)

✓平成30年度の肯定的回答割合の低下について、地域の違いによる大きな差異は見られない

5 幸せ実感モニターの意見内容比較（P107 抜粋／再掲）

【モニターの主な肯定的意見】	【年齢区分】	【モニターの主な否定的意見】
<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢者にとって公共交通機関は必要不可欠である 	19歳以下	<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通機関が少ない
<ul style="list-style-type: none"> ✓機会があるときはなるべくバスに乗るようにしている ✓いざというとき、電車、バスがないと困る 	20～29歳	
<ul style="list-style-type: none"> ✓維持費を税金で負担しても良いと思っている 	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓本数も少ないし、利便性が悪い ✓車の方が楽だから必要なものであるとは理解しているが、支えて行こうと積極的な行動はしていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通を皆が意識して大いに利用すればより充実させられると思う 	40～49歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓理解はしているが、健康増進のために自転車を使用している ✓理解はしているが行動に移していない ✓交通機関が便利に変われば支えたい気持ちはあるが、現状ではない
<ul style="list-style-type: none"> ✓便利であれば利用する ✓理解はあるが用を足しに行く場所へ行くための公共交通が無いことの方が多い 	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓支えたいと思っても、現実の時間管理の中で公共交通機関を利用するだけでは、物理的に時間がかかる。また、公共交通が充実していない ✓行政が先頭に立った方が成功すると思う
<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通機関がないと車の運転ができなくなったときに不便である 	60～64歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通しか移動の手段がない人もいるので必要性は認めるものの、どう行動するのかわからない ✓理解しているが支える力はない
<ul style="list-style-type: none"> ✓特に中山間地においては公共交通手段が最重要なインフラである 	65～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ✓必要なものとは思っているが、支えはしていない
<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通機関の維持のため、できる限りの利用に努めている 	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通機関の一元化が必要である ✓公共交通機関の必要性は理解できるが、利用する側の対象者別（年齢・健康状態・家族構成）や用途別（買い物・通院・趣味娯楽他）と地域の住環境等を考慮し住民の利用者ファーストにたった利便性を追求してほしい

